

隔板ノ形狀及寸法ハ第五圖乃至第七圖ニ依ル

第九十八條 甲種舷燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ杵棒ヲ取附クベシ

第四節 白 燈

第九十九條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

第一百條 電球ハ甲種白燈ニ在リテハ四〇ワット、乙種白燈ニ在リテハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第一百一條 白燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ杵棒ヲ取附クベシ

第五節 紅 燈

第一百二條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ紅色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第一百三條 紅色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ

紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ杵ヲ取附クベシ

紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下ノ金屬杵ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得

紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬杵ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要ス

第一百四條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第一百五條 紅燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製ノ杵棒ヲ取附クベシ

第六節 三色 燈

第一百六條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置シ其ノ内面ニ接シ左舷側ニ紅色圓筒形硝子ヲ、右舷側ニ綠色圓筒形硝子ヲ挿入スベシ

第一百七條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該縁及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト一・二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

第一百八條 燈窓ノ前面ニハ燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ミ船燈ノ對稱面ト左右各二・五度ノ角度ヲ爲ス平面内ニ中心面ヲ有スル隔障ヲ設クベシ

隔障ハ燈籠前面ニ鈹附ト爲スベシ

第一百九條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿入スル虞ナキ構造ト爲スベシ

著色挿入硝子ニハ金屬製ノ杵ヲ取附クベシ

著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬杵ノ幅ハ七ミリメートルヲ超ユルコトヲ得ズ

著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬杵及挿入裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル

船燈種類	光達距離	射 光 角 度	型 種	燈 窓	
				種 類	横載内 面角度
甲種橋燈	5海里以上	225°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	230° 230°
乙種橋燈	3海里以上	225°	—	無色圓筒形硝子	230°
甲種舷燈	2海里以上	112.5°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	125° 125°
乙種舷燈	1海里以上	112.5°	—	著色圓筒形硝子	125°
甲種兩色燈	1海里以上	左右舷 112.5°	—	著色圓筒形硝子	115°
乙種兩色燈	1海里以上	—	—	著 色 透 鏡	—
甲種白燈	3海里以上	360°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無色圓筒形硝子	360° 360°
乙種白燈	2海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°
丙種白燈	1海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°
丁種白燈	—	360°	—	無色球形硝子	360°
紅 燈	2海里以上	360°	—	無 色 透 鏡	360°
三色 燈	2海里以上	左右舷90° 中央 45°	第一種 第二種	無 色 透 鏡 無 色 透 鏡	230° 230°
船尾燈	2海里以上	135°	—	無色圓筒形硝子	140°
操舵目標燈	—	180°	—	無色圓筒形硝子	185°
信號燈	—	45°	—	無 色 透 鏡	50°
安全燈	—	360°	—	無色圓筒形硝子	360°



第一表  
油船燈寸法表

光達距離	射光 角度	型種	燈 窓 硝 子						著色挿 入硝子 ノ厚サ (耗)	燈 洞 寸 法							火 口 寸 法				
			種 類	横載内 面角度	透鏡又ハ 硝子ノ横 載内面 (耗)	無色硝 子ノ外 徑(耗)	高サ (留金部 ヲ含ム) (耗)	厚サ (除ク) (耗)		端 面 ノ幅 (耗)	側 面 ノ幅 (耗)	上部燈 洞ノ徑 (耗)	下部燈 洞ノ徑 (耗)	高 サ (耗)	板ノ厚サ (耗)	捲込針 金ノ徑 (耗)	扉板ノ 厚 サ (耗)	石 油 用		種 油 用	
																		内 幅 (燈心ノ 幅) (耗)	板ノ厚サ (耗)	内 幅 (燈心ノ 幅) (耗)	板ノ厚サ (耗)
5海里以上	225°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	230° 230°	115 95	— —	180 165	— —	— —	300 230	300 230	— —	— —	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	— —	— —
3海里以上	225°	—	無色圓筒形硝子	230°	95	—	130	6	—	230	230	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—
2海里以上	112.5°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	125° 125°	125 105	— —	180 165	— —	3 3	260 210	260 210	— —	— —	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	— —	— —
1海里以上	112.5°	—	著色圓筒形硝子	125°	100	—	130	5	—	200	200	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—
1海里以上	左右舷 112.5°	—	著色圓筒形硝子	115°	100	—	130	5	—	220	220	—	—	280	0.45	2.60	0.45	25	0.45	—	—
1海里以上	—	—	著色透鏡	—	—	—	122	—	—	160	160	—	—	190	0.40	2.00	0.40	15	0.35	—	—
3海里以上	360°	第一種 第二種	無色透鏡 無色圓筒形硝子	360° 360°	95 95	— —	165 165	— 6	— —	— —	— —	260 260	260 260	320 320	0.60 0.60	3.20 3.20	— —	25 32	0.45 0.45	— —	— —
2海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°	—	220	260	4	—	—	—	120	140	440	0.45	2.60	—	25	0.45	—	—
1海里以上	360°	—	無色棗形硝子	360°	—	220	260	4	—	—	—	120	140	440	0.45	2.60	—	15	0.45	—	—
—	360°	—	無色球形硝子	360°	—	200	160	4	—	—	—	80	110	260	0.40	2.00	—	15	0.35	25	0.40
2海里以上	360°	—	無色透鏡	360°	95	—	165	—	3	—	—	260	260	320	0.60	3.20	—	32	0.45	—	—
2海里以上	左右舷90° 中央 45°	第一種 第二種	無色透鏡 無色透鏡	230° 230°	115 95	— —	180 165	— —	3 3	300 230	300 230	— —	— —	340 330	0.60 0.60	3.20 3.20	0.90 0.60	32 32	0.45 0.45	— —	— —
2海里以上	135°	—	無色圓筒形硝子	140°	85	—	130	5	—	220	220	—	—	280	0.45	2.60	—	25	0.45	—	—
—	180°	—	無色圓筒形硝子	185°	65	—	100	3	—	160	160	—	—	190	0.40	2.00	—	15	0.35	25	0.40
—	45°	—	無色透鏡	50°	95	—	165	—	—	230	230	—	—	280	0.45	2.60	—	15	0.35	—	—
—	360°	—	無色圓筒形硝子	360°	25	—	69	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	徑 6	0.45	—	—

ニ止マル虞ナキ構造ト爲スベシ  
紅色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ  
紅色挿入硝子ハ二箇以上ノ硝子ヲ幅七ミリメートル以下  
ノ金屬枠ヲ以テ堅ニ接合シタル構造ト爲スコトヲ得  
紅色挿入硝子ノ上縁及下縁ニ於ケル金屬枠ハ燈火ノ各點  
ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザルモノナルコトヲ要  
ス

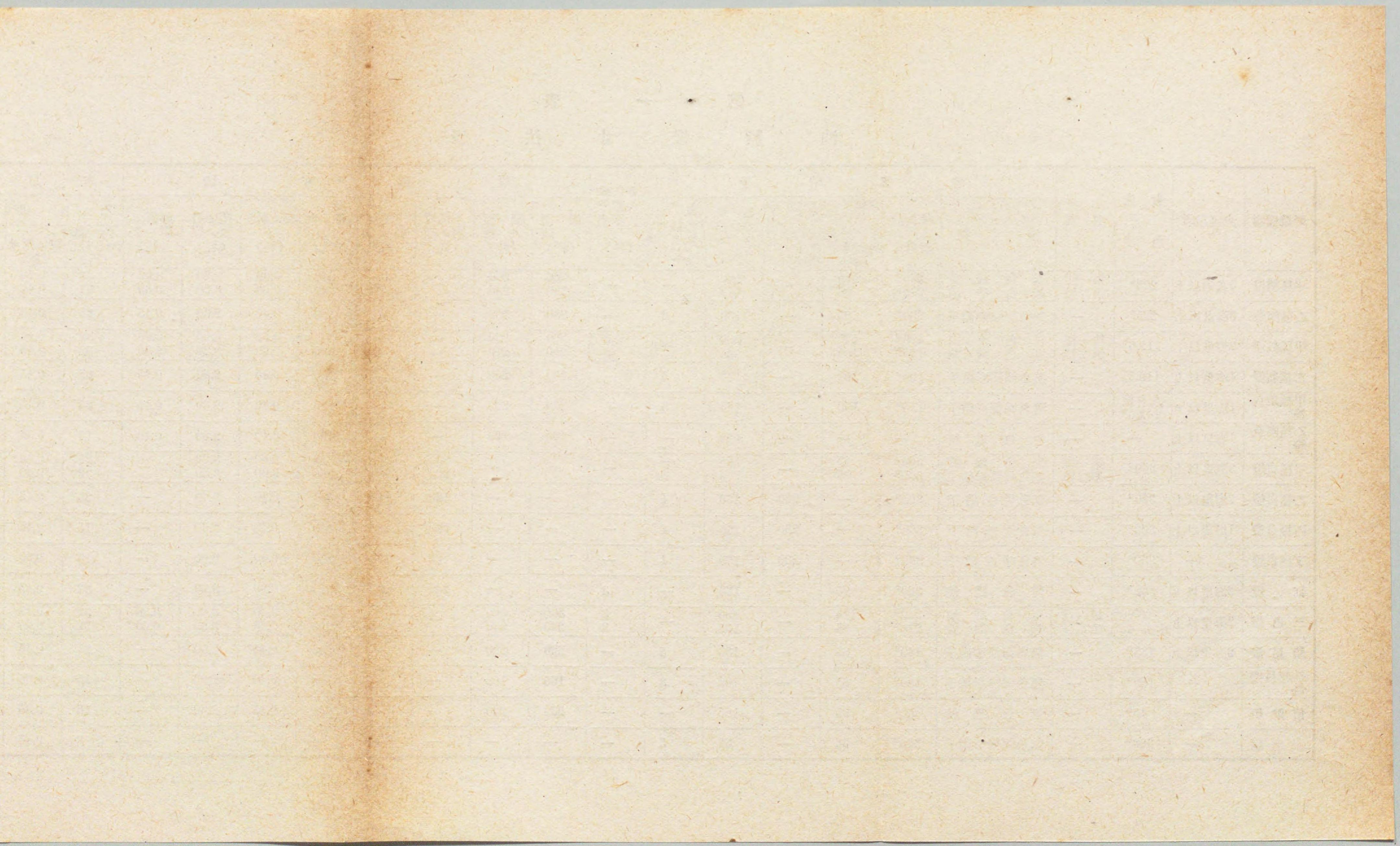
第九條 著色挿入硝子ノ挿入裝置ハ硝子ガ正規ノ位置外  
ニ止マル虞ナク且紅色硝子ト綠色硝子トヲ挿連スル虞ナ  
キ構造ト爲スベシ  
著色挿入硝子ニハ金屬製ノ枠ヲ取附クベシ  
著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬枠ノ幅ハ七ミリメー  
ルヲ超ユルコトヲ得ズ  
著色挿入硝子ノ上縁、下縁及後縁ニ於ケル金屬枠及挿入  
裝置ハ燈火ノ各點ヨリ燈窓ニ向フ直射光線ヲ遮斷セザル

第四百條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス











型 種	込針 ノ徑 耗)
第一種	3.20
第二種	3.20
—	2.60
第一種	3.20
第二種	3.20
—	2.60
—	3.20
—	3.20
—	3.20
第一種	3.20
第二種	3.20
—	2.60
—	—







モノナルコトヲ要ス

**條百十條** 著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬棒ノ幅ノ中心線ハ該線及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

**條百十一條** 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

**條百十二條** 三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ梓棒ヲ取附クベシ

ヲ要ス

**條百二十條** 安全燈ハ鍵又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

**條百二十一條** 安全燈ニハ損傷又ハ故障ニ依リ漏火セザル樣適當ナル「フューズ」其ノ他ノ安全裝置ヲ設クベシ

**條百二十二條** 安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナル



モノナルコトヲ要ス

條百十條 著色挿入硝子ノ前縁ニ於ケル金屬棒ノ幅ノ中心線ハ該線及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト二・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

條百十一條 電球ハ四〇ワットノモノナルコトヲ要ス

條百十二條 三色燈ニハ燈窓外面ニ於テ燈胴上部ト燈胴下部トノ間ニ金屬製ノ杵棒ヲ取附クベシ

第七節 船尾燈

條百十三條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

條百十四條 燈窓硝子ノ各側部ニ於ケル留金ノ縁ハ該線及燈窓硝子ノ垂直軸ヲ含ム平面ガ船燈ノ對稱面ト六七・五度ノ角度ヲ爲ス位置ニ在ルコトヲ要ス

條百十五條 電球ハ二〇ワットノモノナルコトヲ要ス

第八節 安全燈

條百十六條 燈窓ニハ無色圓筒形硝子ヲ裝置スベシ

條百十七條 蓄電池ヲ使用スル安全燈ニ在リテハ顛倒シタル場合電液ノ流出セザルモノナルコトヲ要ス

條百十八條 電池ノ容量ハ五時間以上有效ニ點燈シ得ルモノナルコトヲ要ス

條百十九條 開閉器其ノ他電氣的接續部ハ防焰密閉室ニ在ルコトヲ要シ開閉器ハ外部ヨリ操作シ得ルモノナルコト

船燈試驗規程

ヲ要ス

條百二十條 安全燈ハ繼又ハ特殊ノ方法ニ依ラザレバ開放シ得ザル構造ト爲シ且結合部ノ自然的弛緩ヲ防止シ得ル適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

條百二十一條 安全燈ニハ損傷又ハ故障ニ依リ漏火セザル様適當ナル「フューズ」其ノ他ノ安全裝置ヲ設クベシ

條百二十二條 安全燈ハ之ヲ高サ一・五メートルノ箇所ヨリ木床上ニ連續三回墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

墜落試驗ノ際ニハ電池ヲ等型等重ノ他ノモノト交換スルモ妨ナシ

條百二十三條 安全燈ハ可燃性混氣中ニテ點滅ノ際漏火セザルモノナルコトヲ要ス

條百二十四條 電球ハ五ワット以上ノモノナルコトヲ要ス

條百二十五條 安全燈ニハ燈窓外面ニ於テ上部燈胴ト下部燈胴トノ間ニ金屬製杵棒ヲ取附クベシ  
前項ノ杵棒ハ相隣レル杵棒ノ外側ヲ連ネタル直線ガ燈窓硝子ニ接觸セザル構造ト爲スコトヲ要ス

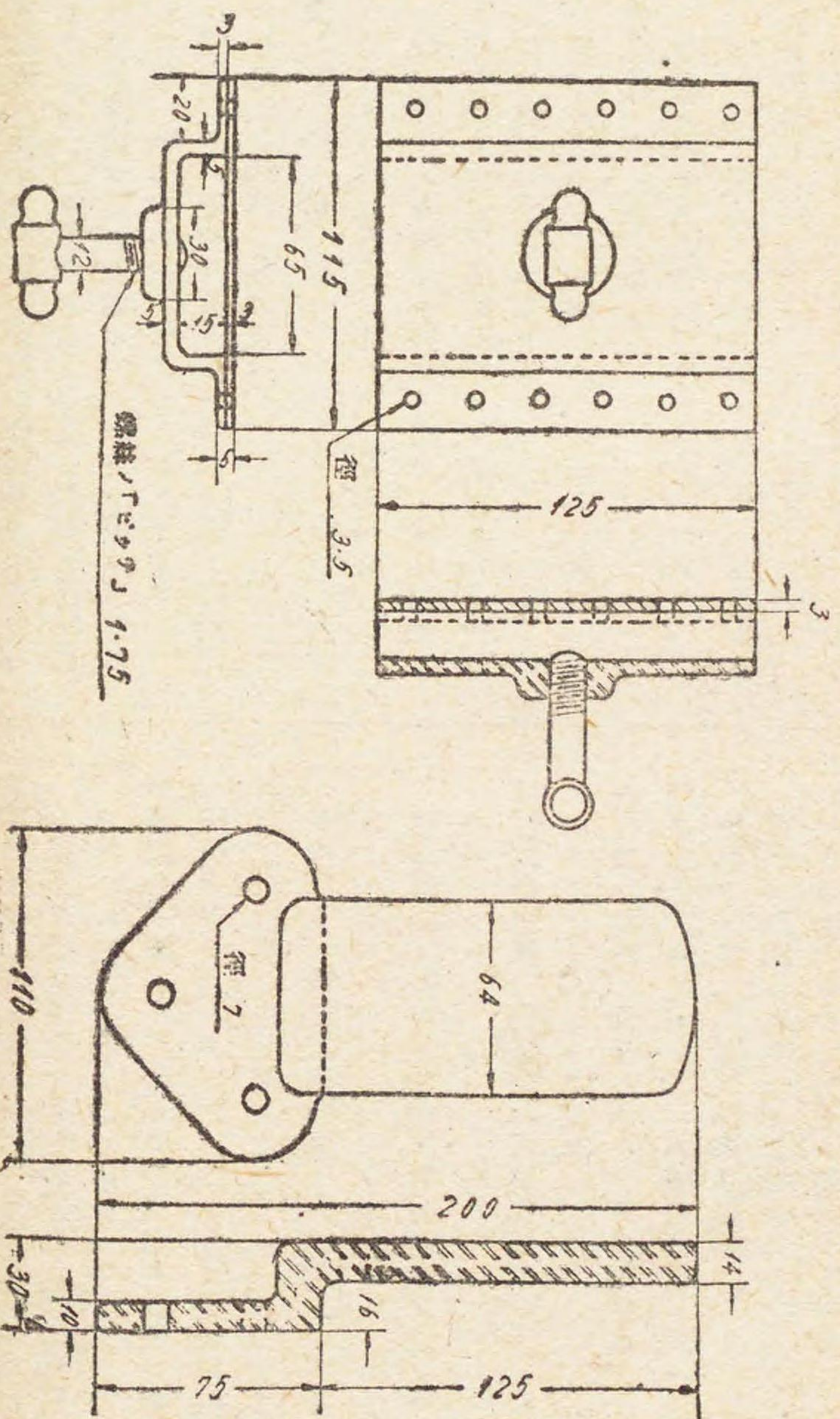
附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

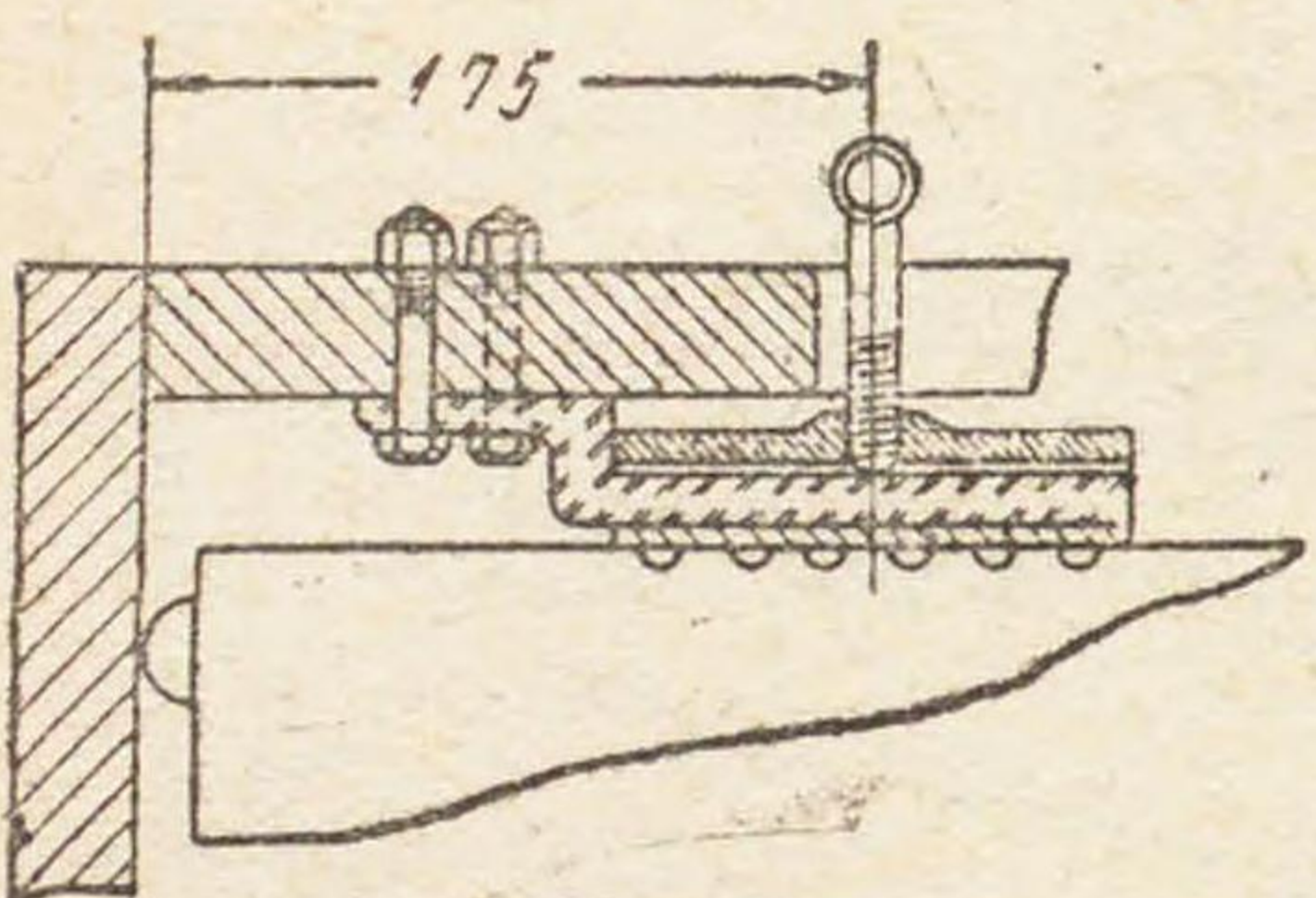
昭和四年六月遞信省令第十九號船燈試驗規程ハ之ヲ廢止ス



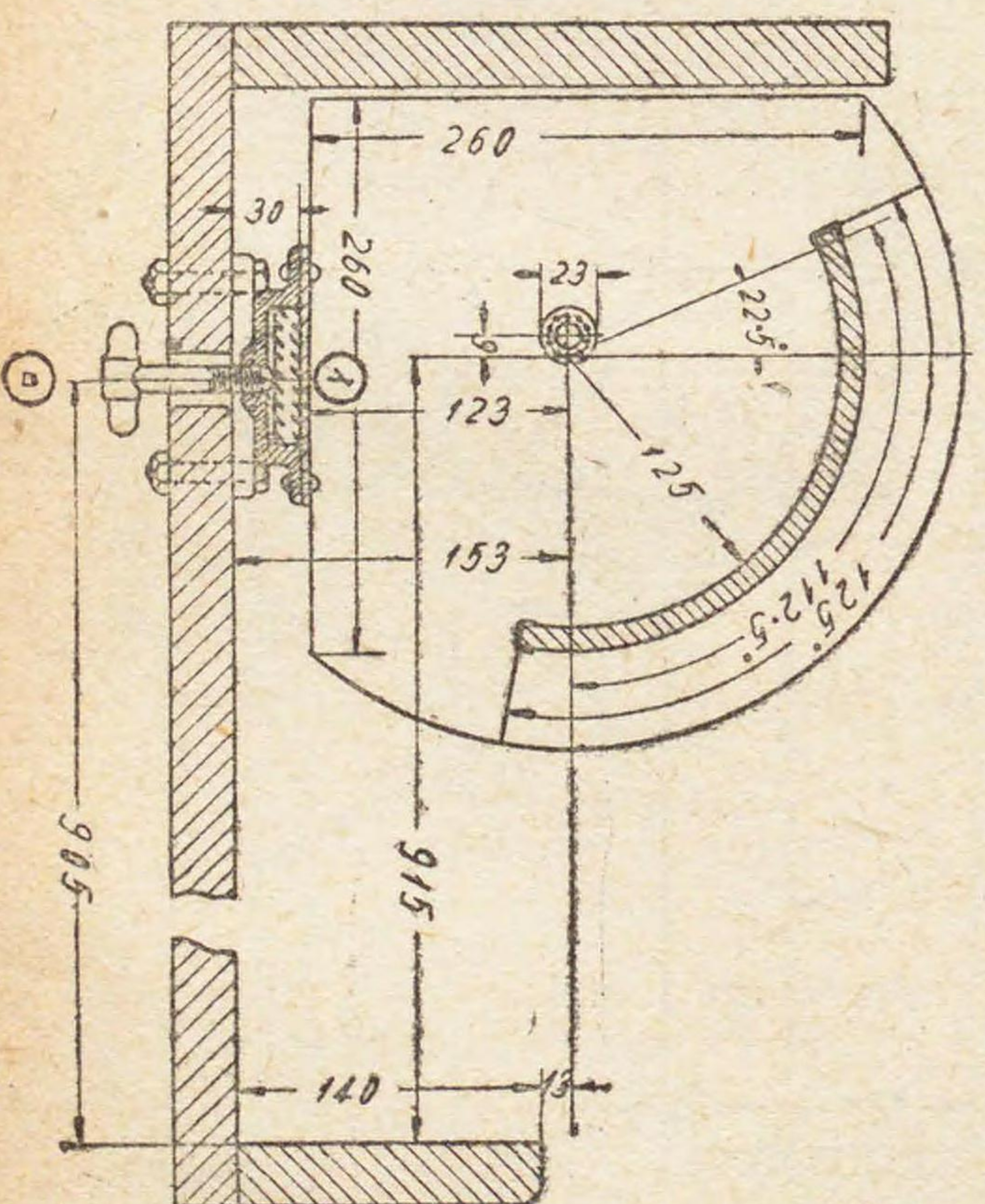
第一圖  
掛具及隔板 = 取附クル突起金具  
單位 mm



第二圖  
斷面圖

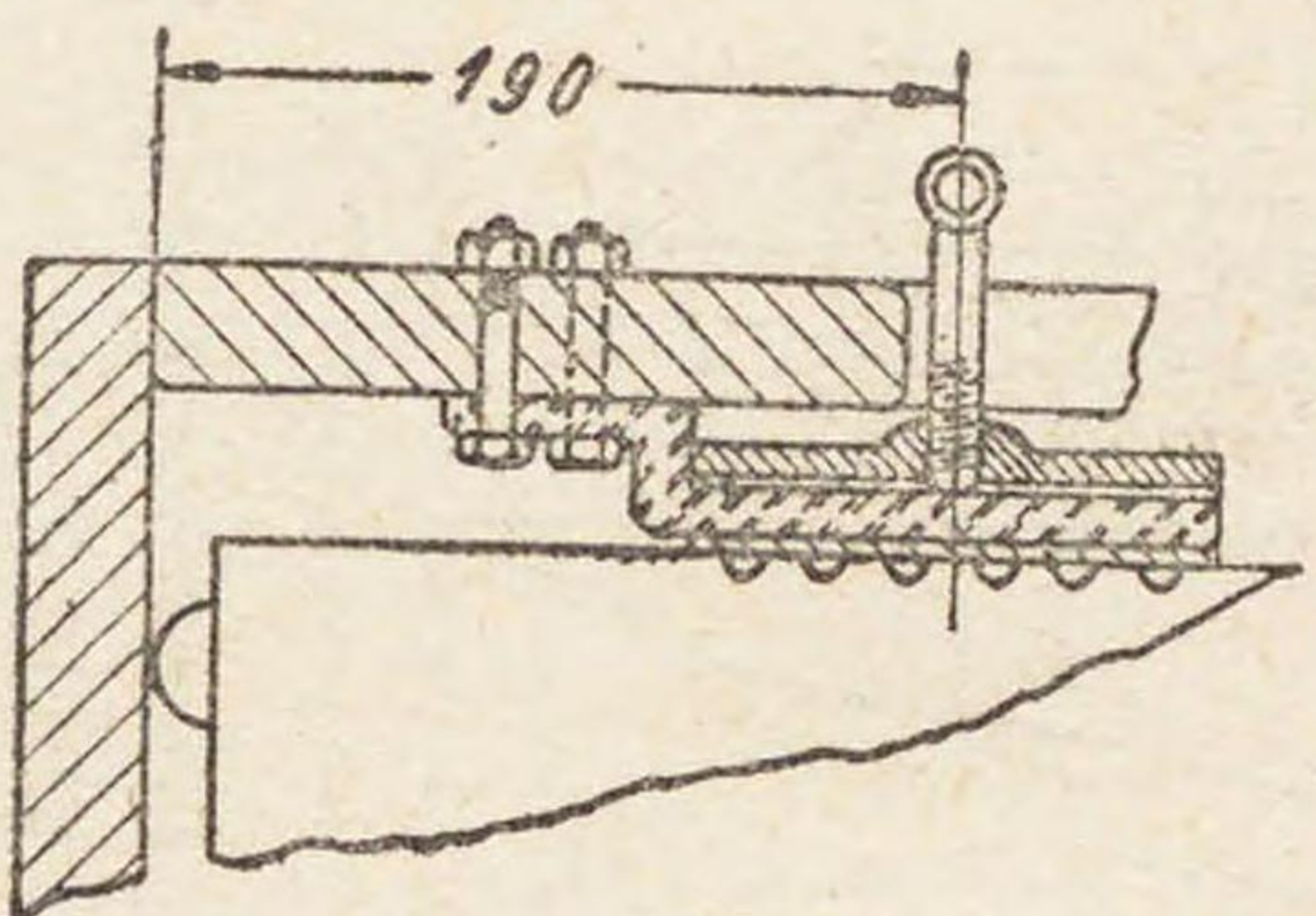


第三圖  
甲種舷燈第一種用隔板 (油船燈用)  
單位 mm

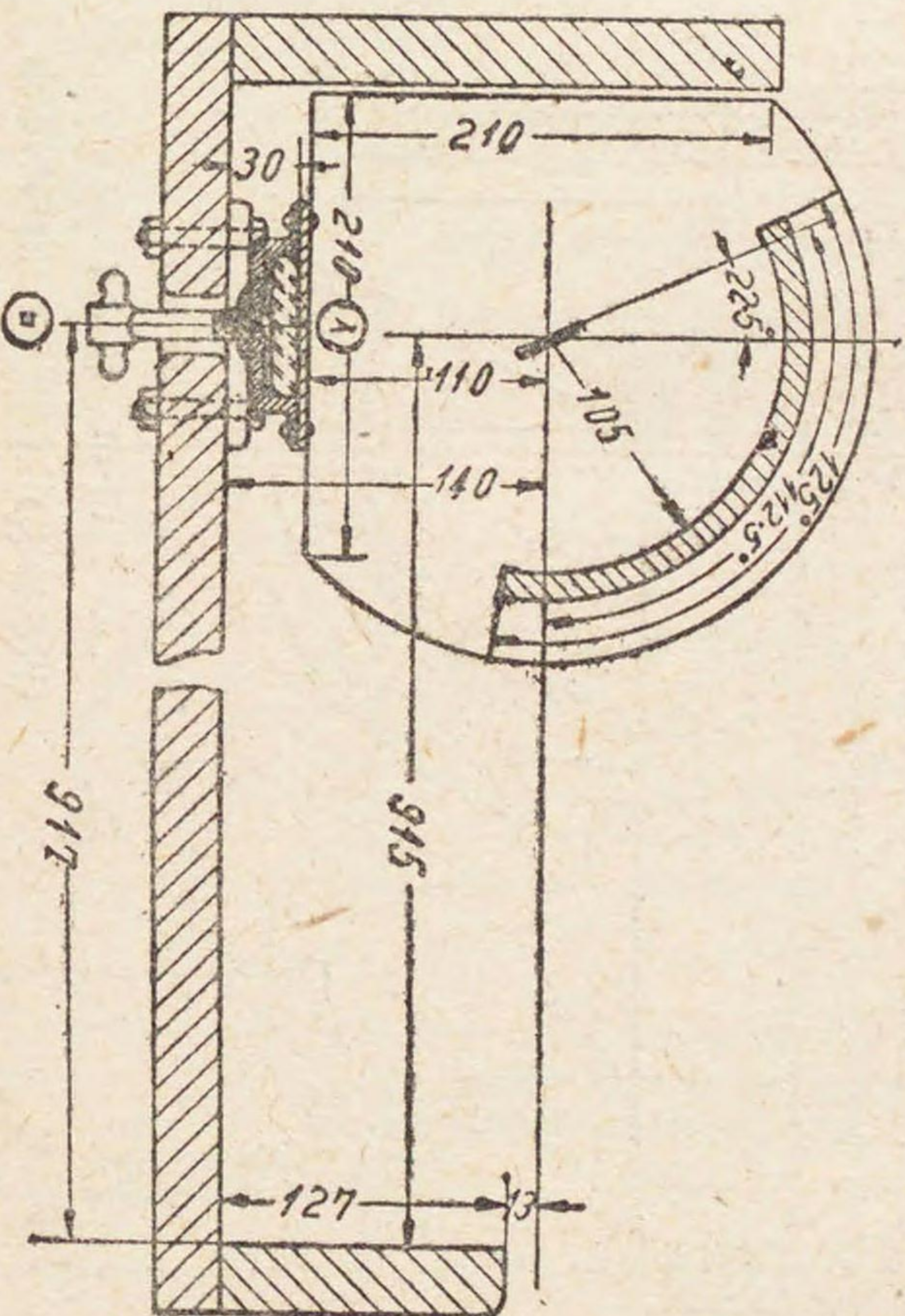




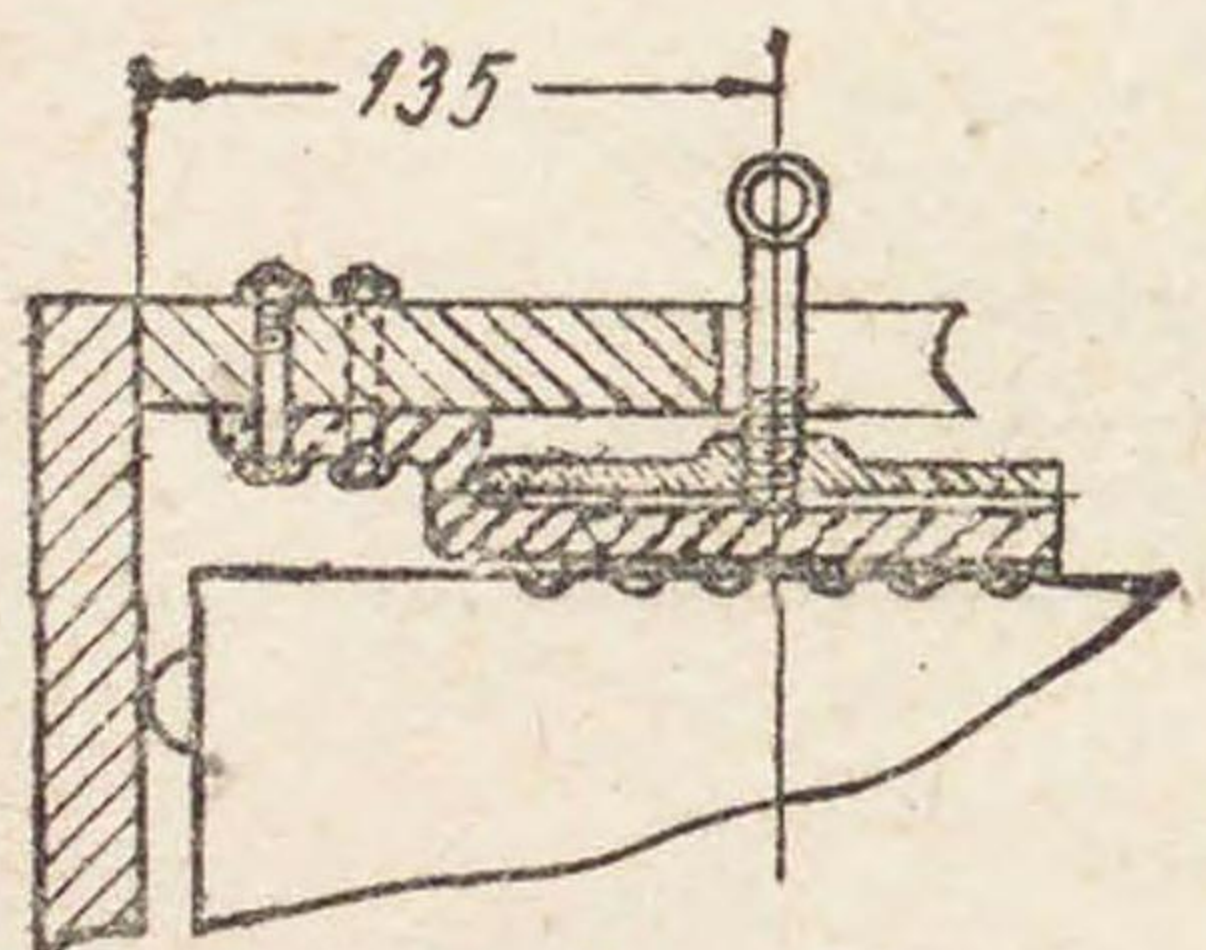
㊦—㊧ 斷面圖



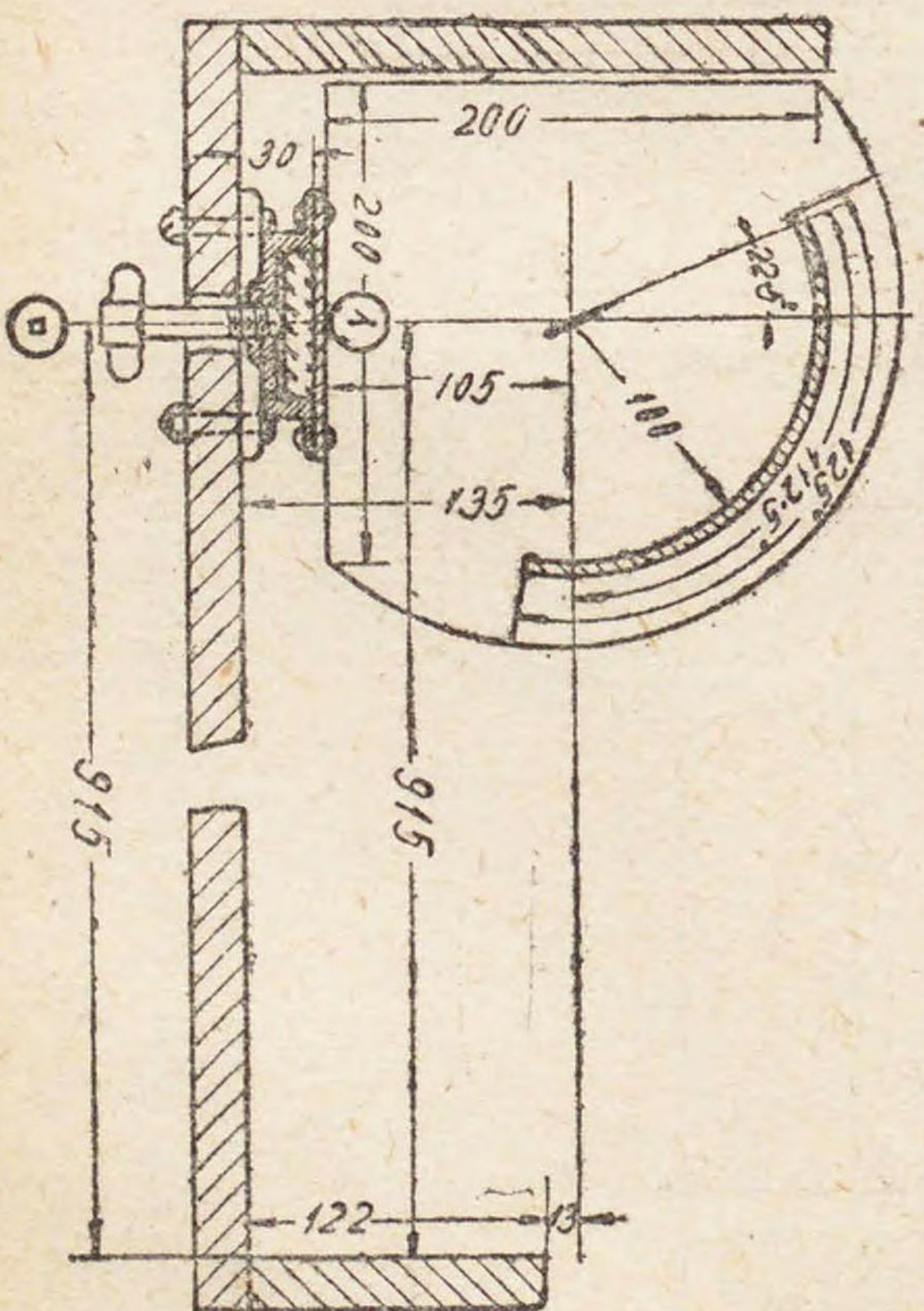
第三圖  
甲種燈第二種用隔板 (電氣船燈用)  
單位 m m  
平面圖



㊦—㊧ 斷面圖

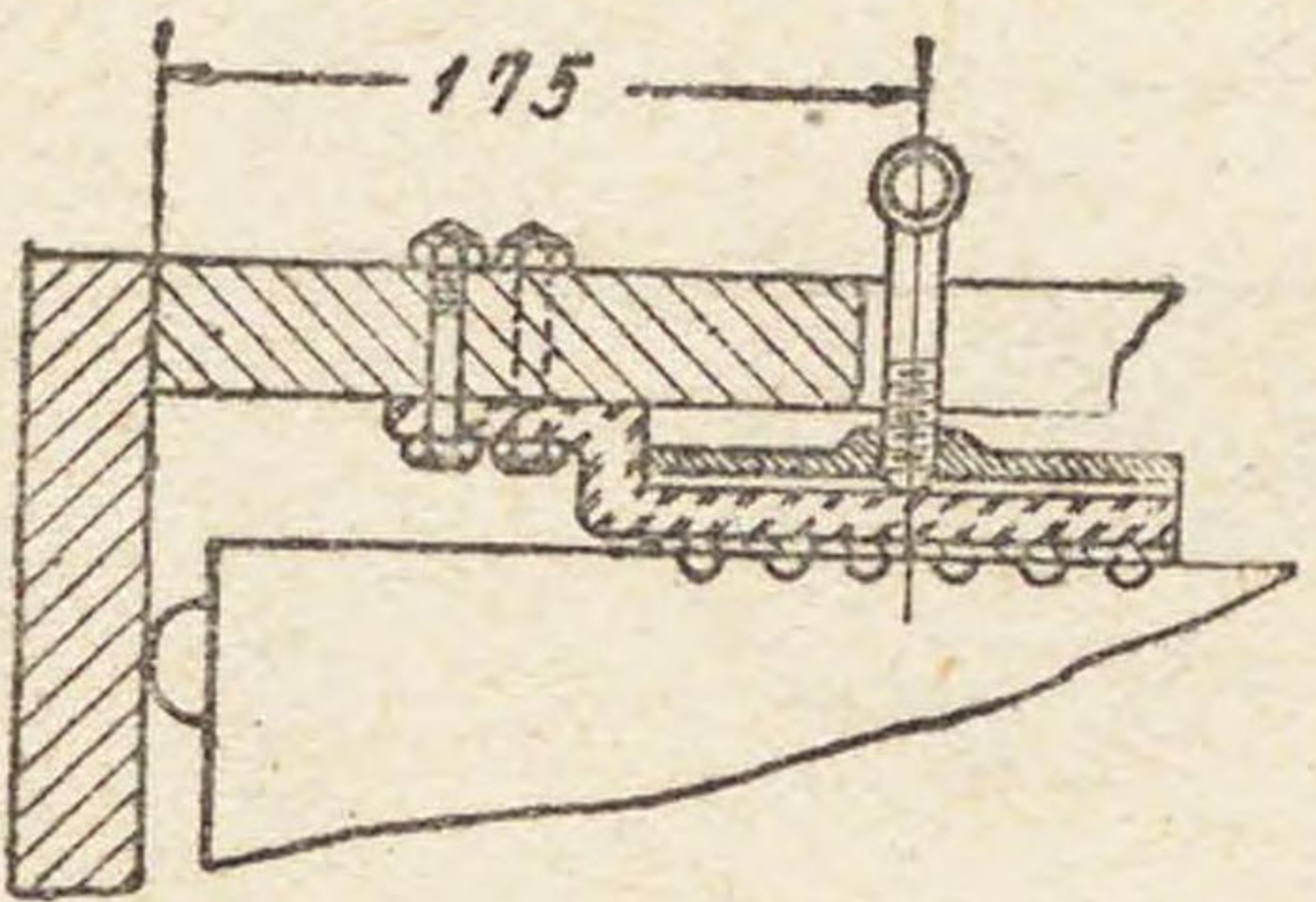


第四種  
乙種燈用隔板 (油船燈用)  
單位 m m  
平面圖

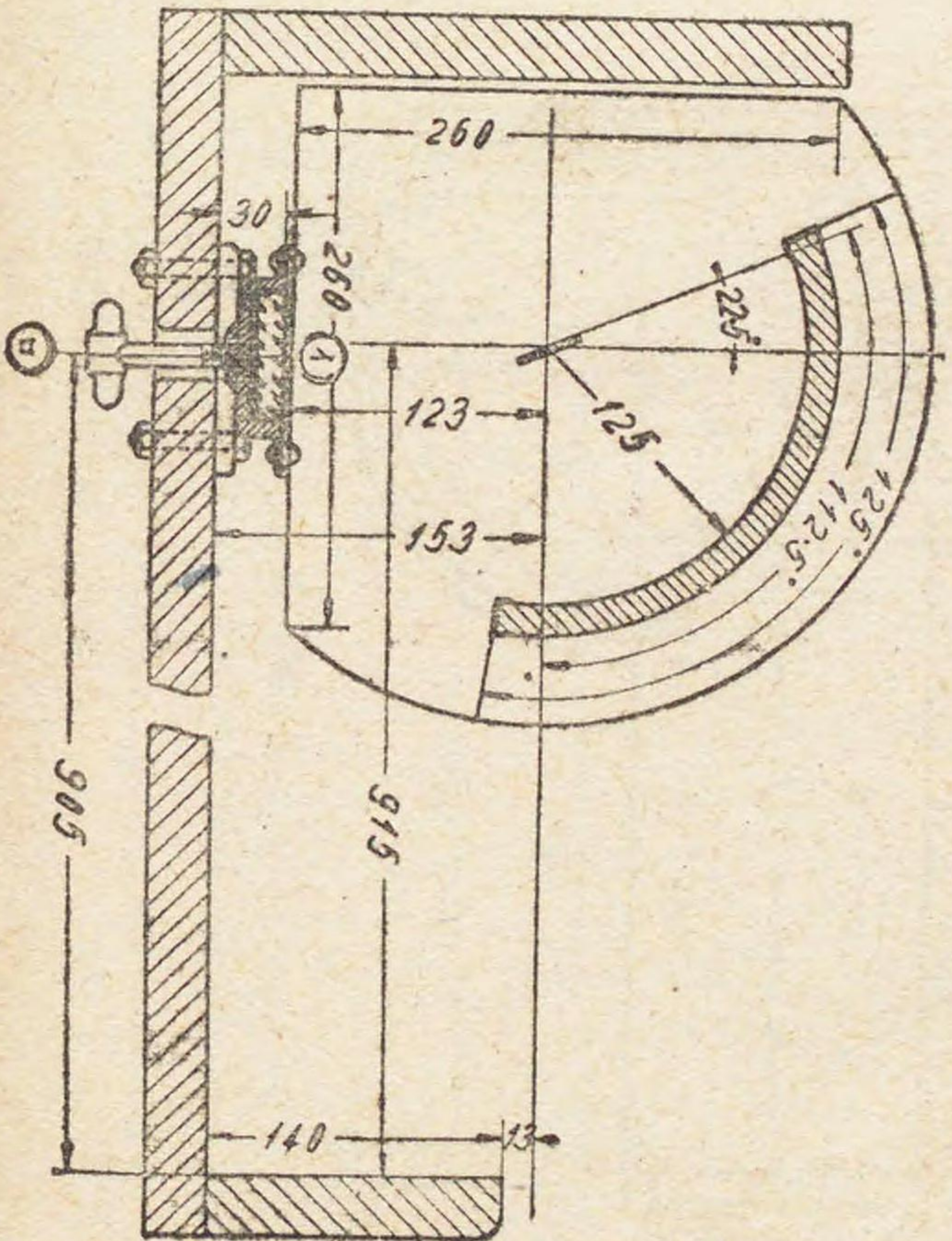




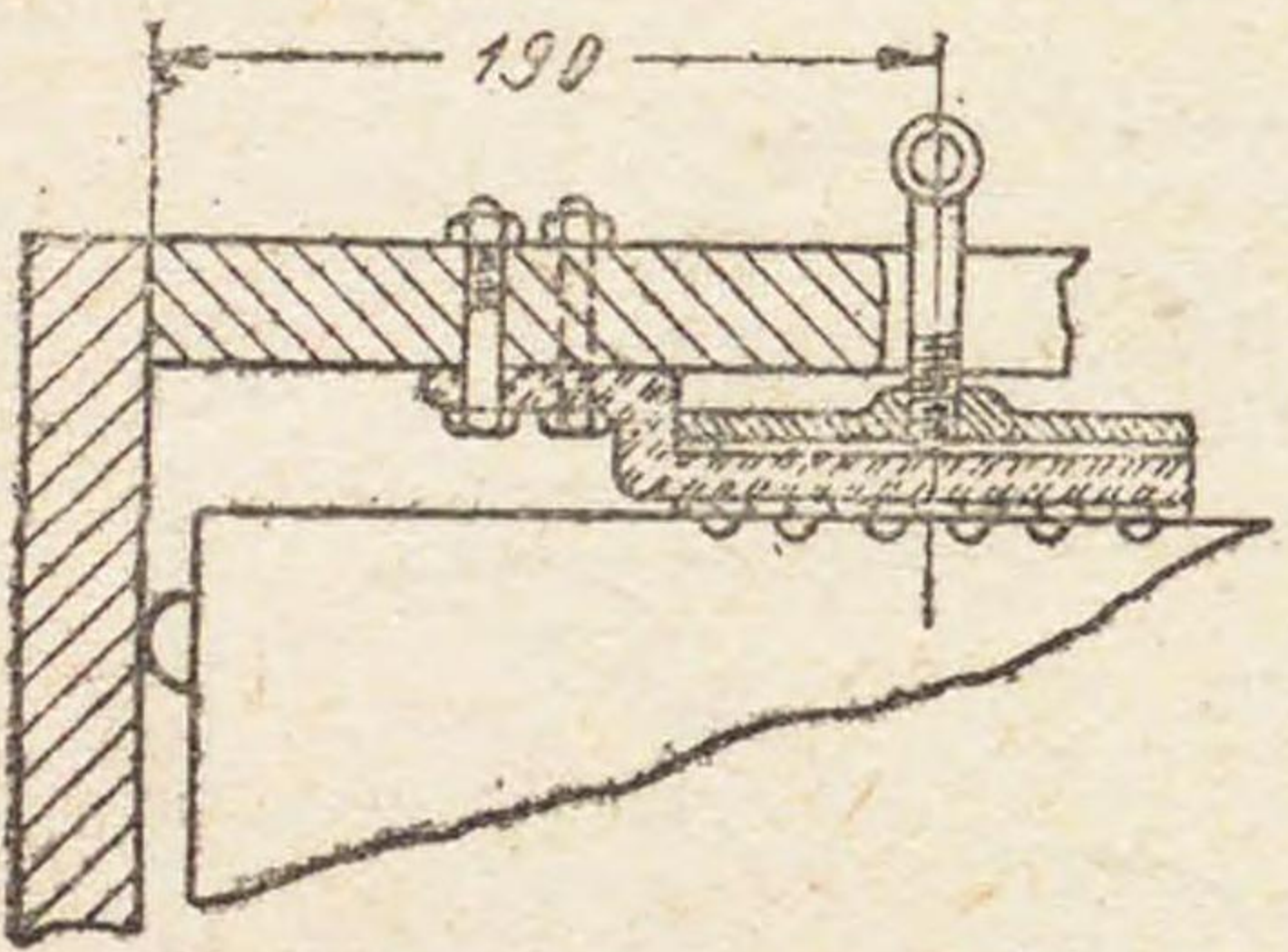
㊦—㊧ 断面圖



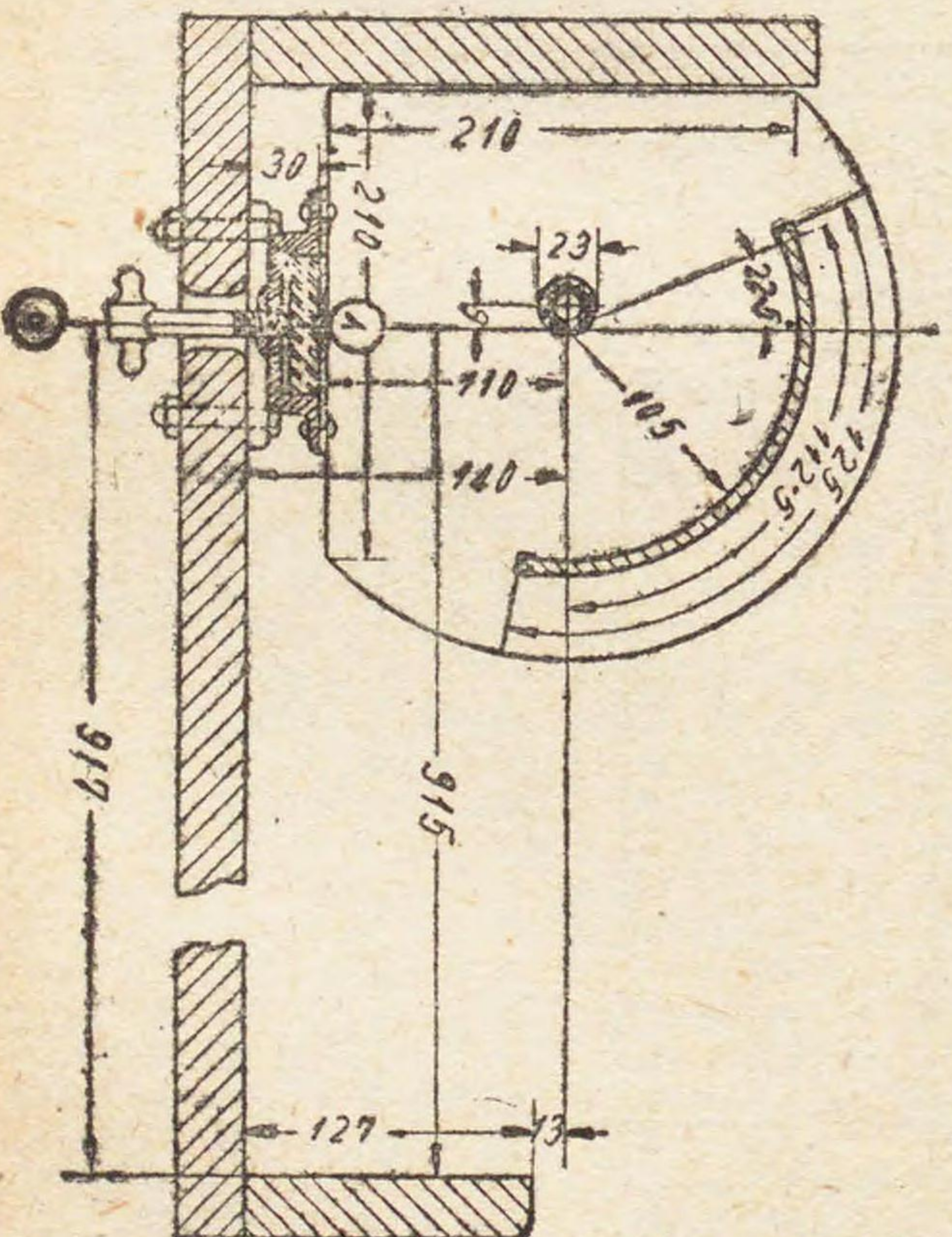
第五圖  
甲種舷燈第一種用隔板 (電氣船燈用)  
單位 mm  
平面圖



㊦—㊧ 断面圖

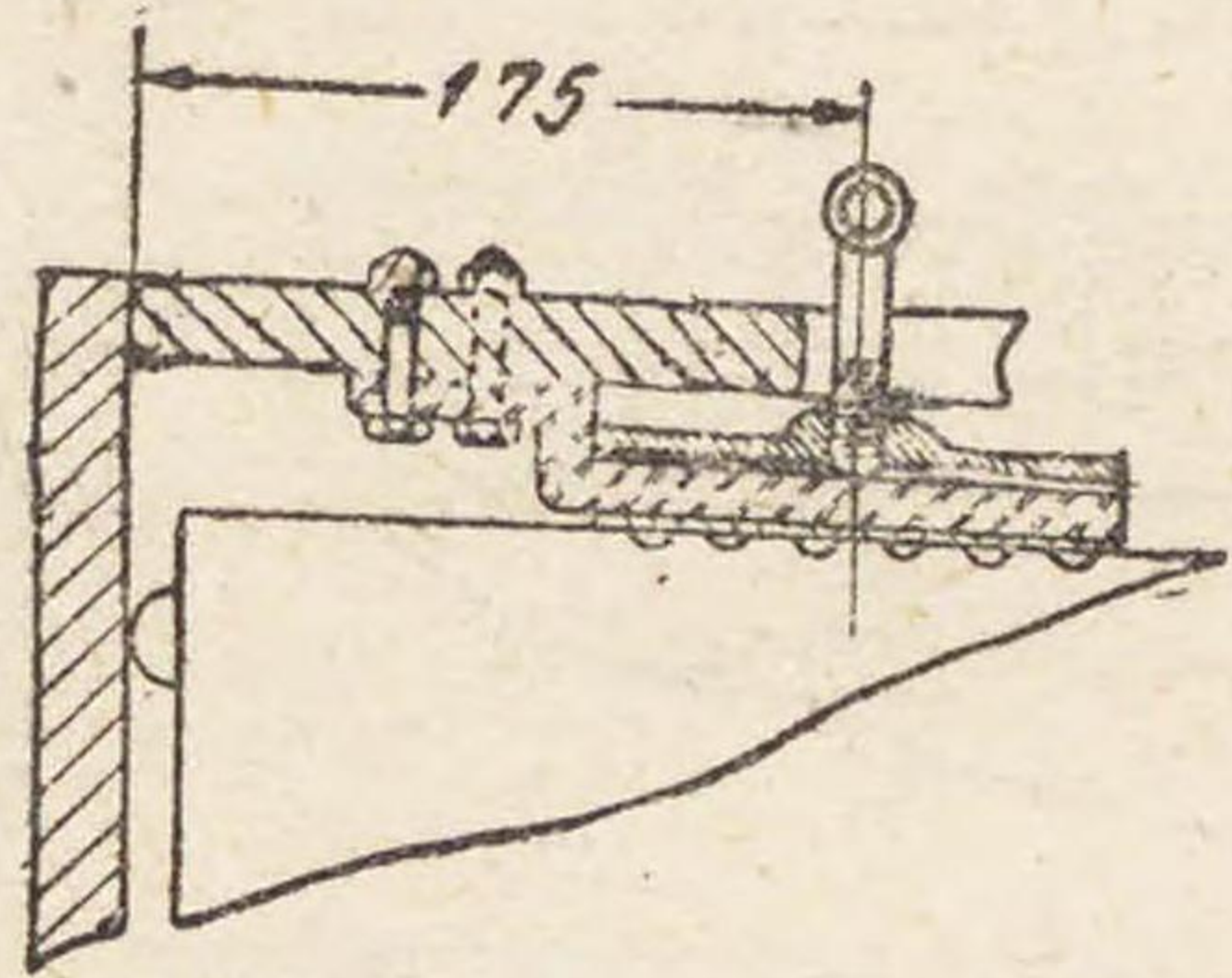


第六圖  
甲種舷燈第二種用隔板 (油船燈用)  
單位 mm  
平面圖

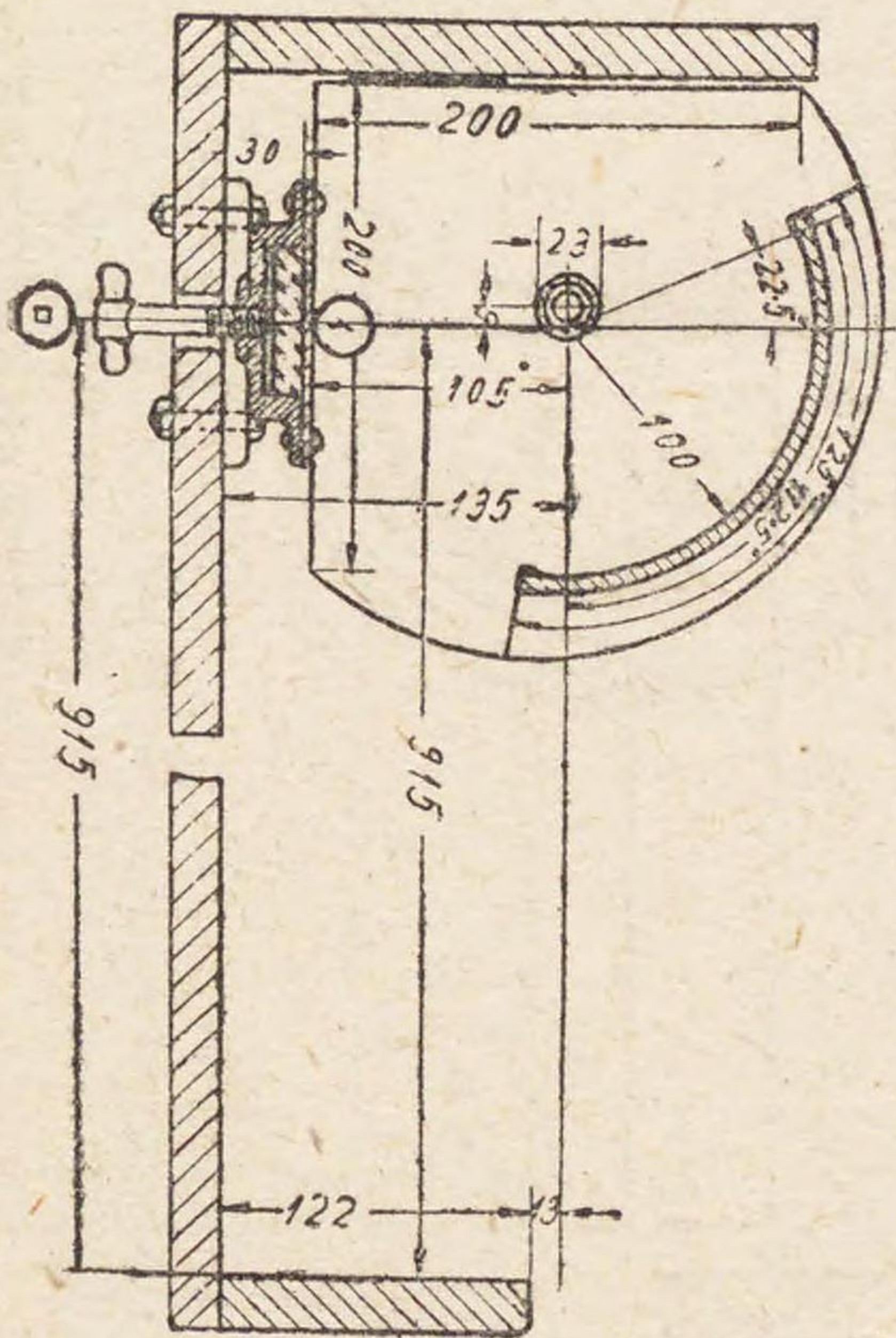




①-② 断面圖



第七圖 乙種發燈用隔板(電氣船燈用) 單位mm 平面圖



### 信號器試驗規程

(昭和九年二月 遞信省令第二十號)

#### 第一章 總 則

第一條 信號器ヲ分チテ左ノ五種トス

- 霧中號角
- 榴 彈
- 火 箭
- 信號青焰
- 信號紅焰

第二條 本令ノ規定ニ該當セザル信號器ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

#### 第二章 霧中號角

第三條 霧中號角ハ手動ヲ以テ一海里以上ノ距離ニ達スル音響ヲ六秒時以上連續發聲シ得ルモノナルコトヲ要ス

第四條 霧中號角ノ構造及寸法ハ本章各條ノ規定ニ依ルノ外當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第五條 風室ハ良質ノ革及無節堅實ノ木材ヲ以テ製造シ革

#### 信號器試驗規程

ト板トハ銅板ニテ固著スベシ

第六條 歌口ハ真鍮其ノ他適當ノ材料ヲ以テ製造シ之ヲ風室ニ固著スベシ

第七條 喇叭管ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛板ヲ以テ製造シ之ニ真鍮製螺込口ヲ附スベシ  
喇叭管ノ縦ノ接合ハ折曲抱合ト爲スベシ

#### 第三章 榴 彈

第八條 榴彈ハ昇高一五〇メートル以上ノ箇所ニ於テ爆發シ星火ヲ發スルモノナルコトヲ要ス

第九條 榴彈ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第十條 榴彈ニハ取附位置ヲ異ニセル自發點火裝置及豫備點火裝置ヲ納メ置クベシ

自發點火裝置ハ雷管式ニシテ之ニ長サ二メートル以上ノ強靱ナル引索ヲ附スベシ

豫備點火裝置ハ之ニ點火シタル後榴彈ガ昇騰ヲ開始スル迄ニ三秒時以上ノ餘裕アルモノナルコトヲ要ス

第十一條 榴彈ノ打揚筒ハ破裂セザル構造ノモノナルコトヲ要ス

第十二條 榴彈ノ底部ニハ之ヲ打揚臺ニ挿込ム爲徑三〇ミ



リメートル長サ四〇ミリメートルノ突起ヲ設クルコトヲ要ス

打揚臺ハ眞鍮ヲ以テ製造シタル内徑三一ミリメートル、深サ四〇ミリメートル以上厚サ五ミリメートルノ圓筒ニシテ木甲板又ハ手摺ニ之ヲ取附クル爲ノ鏝ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第十三條 榴彈ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謄ニテ密封スベシ

第四章 火 箭

第十四條 火箭ハ箭竿ト共ニ昇騰シ高サ一五〇メートル以上ノ箇所ニ於テ爆發シ星火ヲ發スルモノナルコトヲ要ス

第十五條 火箭ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第十六條 火箭ニハ荒天ニ於テモ點火シ得ル適當ナル點火裝置ヲ納メ置クベシ

第十七條 内筒ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シ其ノ縦接合ハ折曲抱合鑲附ト爲スベシ

第十八條 箭竿ノ材料及寸法ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

救命器具試験規程

(昭和九年二月 遞信省令第二十一號)

第一章 總 則

第一條 救命器具ヲ分チテ左ノ七種トス

- 一 救命艇
- 二 救命筏
- 三 救命浮器
- 四 救命浮環
- 五 救命胴衣
- 六 救命焰
- 七 救救索發射器

第二條 本令ノ規程ニ該當セザル救命器具ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規程ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第二章 救 命 艇

第一節 通 則

第三條 救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス

- 一 第一級甲型救命艇 内部浮體ノミヲ有シ固定舷側ヲ

救命器具試験規程

箭竿挿ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シ適當ナル銅線ヲ以テ筒ニ縛着シ置クベシ

第十九條 火箭ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謄ニテ密封スベシ

第五章 信號青焰及信號紅焰

第二十條 信號青焰ハ一二〇燭光以上ヲ有スル青色ノ焰ヲ、信號紅焰ハ一二〇燭光以上ヲ有スル紅色ノ焰ヲ三分時以上連續發焰シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十一條 信號青焰及信號紅焰ハ保存ニ堪ヘ點火ニ危險ナク且不時ニ發火セザル品質ノモノナルコトヲ要ス

第二十二條 信號青焰及信號紅焰ニハ自發點火裝置及豫備點火裝置ヲ納メ置クベシ

第二十三條 信號青焰及信號紅焰ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ施シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビヤ」護謄ニテ密封スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月遞信省令第二十號信號器試驗規程ハ之ヲ廢止ス

有スル無甲板救命艇

二 第一級乙型救命艇 内部浮體及外部浮體ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇

三 第二級甲型救命艇 内部浮體及外部浮體ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇

四 第二級乙型救命艇 固定水密舷牆又ハ疊込ミ得ル水密舷牆ヲ有スル有甲板救命艇

五 發動機附救命艇 第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ

第四條 救命艇ハ其ノ構造適當ニシテ海上ニ於テ十分ナル復原性ヲ有シ且人及艙裝品ヲ滿載シタルトキ十分ノ乾舷ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

救命艇ハ人及艙裝品ヲ滿載シテ之ヲ安全ニ水面ニ卸シ得ルニ十分ナル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五條 救命艇ノ浮力ハ其ノ使用ニ先チ艇體ノ主要部分ニ付特別ノ操作ヲ要セズシテ得ラルルモノナルコトヲ要ス

第六條 救命艇ノ重量ハ人及艙裝品ヲ滿載シタル場合ニ〇・三〇〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ

第七條 救命艇ノ容積ハ三・五立方メートル未満ナルコト



ヲ得ズ

第八條 第六節ノ規定ニ依リ算出シタル定員ガ一〇〇人以

上トナルベキ救命艇ハ發動機附救命艇ト爲スコトヲ要ス

第九條 救命艇ノ内部浮體ニハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル

金屬製水密空氣箱ヲ使用スベシ

一 空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板、黃銅板又ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト(亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ)

二 空氣箱ノ長サハ一二〇センチメートルヲ超エザルコト

三 空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サ一〇〇センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補強ノ爲空氣箱内部ニ仕切板ヲ設クルコト

四 空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ二重折曲抱合ト爲シ良ク植打シ且繼附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五 空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂痕ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分撓鈍スルコト

ヲ備フル場合ト同等トナル様之ヲ定ムルコト

五 外部浮體ハ救命艇ヲ卸ストキ船側ニ接スルモ裂損ヲ生ズルコトナキ形狀ト爲シ其ノ下緣ガ救命艇ノ滿載吃水線ヨリ稍高キ位置ニ在ル様之ヲ艇體ニ取附クルコト

六 外部浮體ハ各舷三箇ヲ連續シタルモノト爲シ必要ニ應ジ艇體ヨリ取外シ得ルモノナルコト

第二節 第一級救命艇

第十一條 第一級救命艇ノ船首材及船尾材ニ於テ測リタル舷弧ノ高サノ平均ハ艇ノ長サノ四%以上ナルコトヲ要シ水密空氣箱ノ配置ハ荒天ノ際滿載狀態ニテ艇ノ復原性ヲ確保シ得ルナルコトヲ要ス

第十二條 第一級甲型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ艇ノ容積ノ一〇%以上ナルコトヲ要ス

第十三條 第一級乙型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ艇ノ容積ノ七・五%以上、「コルク」製外部浮體ノ容積ハ艇ノ容積ノ三・三%以上ナルコトヲ要ス

第十四條 第一級金屬製救命艇ニ在リテハ其ノ浮力ガ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依ル第一級木製救命艇ト同等トナル様浮體ノ容積ヲ定ムベシ

救命器具試驗規程

六 空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト

七 空氣箱ハ每平方センチメートル〇・七キログラム

ノ空氣壓ヲ以テ試験シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八 空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト

九 空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第十條 救命艇ノ外部浮體ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 外部浮體ハ「コルク」又ハ之ト同等ノ效力ヲ有スル材料ヲ以テ構成スルコト(蘭、「コルク」層若ハ散粒狀材料ヲ使用スルコトヲ得ズ)

二 外部浮體ヲ構成スル「コルク」ハ之ヲ良質ノ防水帆布ヲ以テ包ミタル上適當ノ塗料ヲ塗布スルコト

三 外部浮體ハ空氣ニ依リ膨脹セシメラレタルモノナラザルコト

第三節 第二級救命艇

第十五條 第二級甲型救命艇ノ疊込舷側ハ水密ナルコトヲ要ス

第十六條 第二級甲型救命艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル固定艇體ノ上面ヨリ測リタル乾舷ハ滿載狀態ニ於テ淡水中ニテ左表ニ掲グルモノヨリ小ナラザルコトヲ要ス

救命艇ノ長サ(米)	最小乾舷(耗)
七・九〇	二〇〇
八・五〇	二二五
九・一五	二五〇

備考

救命艇ノ長サガ表ニ掲グルモノニ該當セザルトキハ挿間法ニ依リ最小乾舷ヲ求ムベシ

第十七條 第二級甲型木製救命艇ノ水密空氣箱ノ容積ハ定員一人ニ付四三立方デシメートル以上、「コルク」製外部浮體ノ容積ハ定員一人ニ付六立方デシメートル以上ナルコトヲ要ス

第十八條 第二級甲型金屬製救命艇ニ在リテハ其ノ浮力ガ



前條ノ規定ニ依ル第二級甲型木製救命艇ト同等トナル様  
浮體ノ容積ヲ定ムベシ

第十九條

第二級乙型救命艇ハ栓孔ヲ有セザルモノニシテ  
甲板上ヨリ水ヲ排除スルニ有效ナル裝置ヲ備フルモノナ  
ルコトヲ要シ且甲板ノ形狀ニ應ジ左ノ各號ノ一ニ適合ス  
ルモノナルコトヲ要ス

一 四甲板救命艇ニ在リテハ四甲板ノ面積ハ甲板全面積  
ノ三〇%以上ト爲シ四甲板ノ水面上ノ高さハ其ノ最低  
箇所ニ於テ艇ノ長サノ〇・五%以上、其ノ兩端ニ於テ  
艇ノ長サノ一・五%以上ト爲シ且乾舷ハ三五%以上ノ  
豫備浮力ヲ供スルモノト爲スコト

二 平甲板救命艇ニ在リテハ艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於  
ケル甲板ノ上面ヨリ測リタル乾舷ハ滿載狀態ニ於テ淡  
水中ニテ左表ニ掲グルモノヨリ小ナラザルコト

救命艇ノ深サ(耗)	最小乾舷(耗)
三一〇	七〇
四六〇	九五
六一〇	一三〇

上ナルコト

五 一〇〇人以上ノ定員ヲ有スル發動機附救命艇ニ在リ  
テハ浮體ノ容積ヲ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ從ヒ増  
加スルコト

第五節 救命艇ノ容積及面積

第二十一條

第一級救命艇ノ容積ニテ 立方メートル ハ左ノ算式  
ニ依リ算定スベシ

$$\text{容積} = \frac{1}{12} (4A + 2B + 4C)$$

一 ハ船首材ニ於ケル外板ノ内面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナ  
ルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ内面迄、方形ナルト  
キハ船尾横板ノ内面迄測リタル救命艇ノ長サニテ

A、B、Cハ一ノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ  
一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル艇體ノ横截面面積ニテ

第二十二條

前條ノ横截面面積ニテ 平方メートル A、B及Cハ夫  
々左ノ算式ニ依リ算定スベシ

$$\text{面積} = \frac{h}{12} (a + 4b + 2c + 4d + e)$$

hハ外板ノ内面ニ於テ龍骨ヨリ舷端迄測リタル當該横

救命器具試験規程

備考

一 救命艇ノ深サハ長サノ中央ニ於テ龍骨翼板ノ下  
面ヨリ舷側ニ於ケル甲板ノ上面迄ノ垂直距離トス  
二 救命艇ノ深サガ表ニ掲グルモノニ該當セザルト  
キハ挿間法ニ依リ最小乾舷ヲ求ムベシ  
三 船首材及船尾材ニ於テ測リタル舷弧ノ高さノ平  
均ガ艇ノ長サノ三%ヨリ小ナルトキハ最小乾舷ハ  
表ニ掲グルモノニ艇ノ長サノ三%ト該平均トノ差  
ノ一四・三%ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

第四節 發動機附救命艇

第二十條

發動機附救命艇ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモ  
ノナルコトヲ要ス

- 一 第一級救命艇ニ關スル規定ニ適合シ且發動機、探照  
燈及無線電信設備並ニ其ノ附屬物ノ重量ト此等ヲ除キ  
タルトキ艇ニ追加收容シ得ベキ人員ノ重量トノ差ヲ補  
フニ足ル様十分ニ浮體ノ容積ヲ増加スルコト
- 二 發動機及其ノ附屬物ハ荒天狀態ニ於テモ確實ニ操作  
シ得ル様適當ニ之ヲ蔽圍スルコト
- 三 後退ノ爲メノ裝置ヲ備フルコト
- 四 速力ハ滿載狀態ニテ平水ニ於テ一時間ニ付六海里以

截面ノ深サニテ

a及eハhノ兩端ニ於ケル外板ノ内面ヨリ内面迄ノ幅  
メートル

b、c及dハhノ一端ヨリ順次其ノ四分ノ一、二分ノ  
一及四分ノ三ノ箇所ニ於ケル外板ノ内面ヨリ内面迄  
ノ幅メートル

前項ノ算式ニ依リ横截面ヲ算定スルニ當リテハ左ノ規定  
ニ依ルベシ

一 横截面面積A又ハCノ算定ニ於テ當該横截面ニ於ケル  
舷弧ノ高サガ艇ノ長サノ一%ヲ超ユルトキハ超過部分  
ニ相當スル面積ハ之ヲ横截面面積ニ算入スベカラズ

二 中央横截面面積Bノ算定ニ於テ當該横截面ニ於ケル舷  
端迄ノ深サガ最大内法幅ノ四五%ヲ超ユルトキハ超過  
部分ニ相當スル面積ハ之ヲ横截面面積ニ算入スベカラ  
ズ

三 前號ノ場合横截面面積A又ハCノ算定ニ於テ當該横截  
面ニ於ケル舷端迄ノ深サガ中央横截面ノ最大内法幅ノ  
四五%ニ艇ノ長サノ一%ヲ加ヘタルモノヲ超ユルトキ  
ハ超過部分ニ相當スル面積ハ之ヲ横截面面積ニ算入スベ  
カラズ



第二十三條 發動機附救命艇ノ容積ハ第二十一條ノ規定ニ

依ル容積ヨリ發動機、探照燈及無線電信設備並ニ其ノ附

屬物ノ占ムル容積ヲ控除シタルモノトス

第二十四條 第二級甲型救命艇ノ固定舷側内ノ面積<sup>平方メ</sup>ニテ

面積 =  $\frac{1}{12}(2a+1.5b+4c+1.5d+2e)$

ハ 一トル又ハ第二級乙型救命艇ノ甲板面積<sup>平方メートル</sup>ハ

左ノ算式ニ依リ算定スベシ

一、四分ノ一、二分ノ一、四分ノ三及八分ノ七ノ箇所ニ於テ舷端又ハ甲板上面ニテ測リタル外板ノ外面ヨリ外面迄ノ幅<sup>メートル</sup>ニテ

第二十五條 第一救命艇ノ容積<sup>立方</sup>ニテ

於テ差支ナシト認ムルトキハ第二十一條ノ規定ニ依ラズ左ノ算式ニ依リ算定スルコトヲ得

容積 =  $L \times B \times D \times 0.6$

Lハ船首材ニ於ケル外板ノ外面ヨリ船尾ノ形狀尖形ナルトキハ船尾材ニ於ケル外板ノ外面迄、方形ナルトキハ

船尾横板ノ外面迄測リタル救命艇ノ長<sup>メートル</sup>ニテ

Bハ艇體最廣部ニ於ケル外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル救命艇ノ幅<sup>メートル</sup>ニテ

Dハ艇ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ニ於ケル外板ノ内面ヨリ舷端迄測リタル救命艇ノ深サ<sup>メートル</sup>ニテ

前項ノ算式ニ依リ容積ヲ算定スルニ當リテハDガBノ四五%ヲ超ユルトキハDノ値ハBノ四五%ニ止ム

第六節 定員

第二十六條 第一級救命艇ノ定員ハ其ノ容積<sup>立方</sup>ニテ

ヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シ、第二級救命艇ノ定員ハ固定舷側内又ハ甲板ノ面積<sup>平方メートル</sup>ヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シ之ヲ定ムベシ

救命艇ノ種類	單位容積又ハ單位面積
第一級甲型救命艇	〇・二八三立方メートル
第一級乙型救命艇	〇・二五五立方メートル
第二級救命艇	〇・三二五平方メートル

第二十七條 有甲板救命艇ニ在リテハ座席設備ニ相當スル

人員ガ前條ノ定員ヨリ大ナルトキハ當該官吏ハ實地試験ノ上其ノ定員ヲ増加スルコトヲ得但シ甲板面積平方メートル數ヲ〇・二八〇ニテ除シテ得タル數ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ試験ニ於テ甲板救命艇ノ側部ニ於ケル甲板ノ高マリタル部分ハ之ヲ座席ニ充ツルコトヲ得

第二十八條 救命艇ノ定員ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ必要ニ

應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ制限スベシ

一 前二條ノ規定ニ依ル定員ガ座席設備ニ相當スル人員ヨリ多キトキハ定員ヲ座席設備ニ相當スル人員ニ止ムベシ此ノ場合座席設備ニ相當スル人員ハ總員着席シタルトキ權ノ使用ヲ妨ゲザル様之ヲ決定スベシ

二 第二級救命艇ニ在リテハ滿載狀態ニ於ケル乾舷ガ第十六條又ハ第十九條ノ規定スル乾舷ヨリ小ナルトキハ該規定ニ適合スル迄定員ヲ減少スベシ

三 深サ一二二センチメートルヲ超ユル第一級救命艇ニ在リテハ第二十六條ニ依ル定員ニ一二二センチメートルト艇ノ實際ノ深サトノ比ヲ乗ジテ得タル人員迄定員ヲ減少スベシ但シ實地試験ノ上減少ノ程度ヲ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムル限度ニ止ムルコトヲ得

救命器具試験規程

第二十九條 鋭尖ナル兩端ヲ有スル救命艇又ハ形狀著ク肥滿セル救命艇ノ定員ノ算定ハ當該官吏ノ適當ト認ムル方法ニ依ル

第三十條 救命艇ノ實地試験ハ救命胴衣ヲ着用シタル大人ヲ搭載シテ之ヲ行フベシ

有甲板救命艇ノ乾舷ノ検査ハ定員一人ニ付七五キログラムノ重量ヲ積載シテ之ヲ行フベシ

第七節 雜則

第三十一條 救命艇ニハ其ノ舷側ノ外周ニ沿ヒ長サ六一センチメートル毎ニ一箇ノ把握部ヲ有スル把索ヲ取附クベシ

前項ノ把握部ノ中央ハ救命艇ノ滿載吃水線ニ近キコトヲ要ス

第三十二條 救命艇ニハ明瞭且耐久ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

- 一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)
- 二 製造番號
- 三 寸法(第二十五條第一項ニ示スL、B及D)
- 四 定員
- 五 重量(滿載狀態ノ重量)



六 製造年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第三章 救命筏

第三十三條

救命筏ノ定員ハ該救命筏ノ甲板面積平方メートル數ヲ〇・三七二ニテ除シタル數及浮體ノ全容積立方デシメートル數ヲ八五ニテ除シタル數ノ中何レカ小ナルモノヲ超ユルコトヲ得ズ

第三十四條

救命筏ハ上下何レノ面ヲ上ニシテ浮ベタル場合ニ於テモ有效ニシテ定員一人ニ付七五キログラムノ割合ノ鐵片ヲ其ノ重心ガ筏ノ甲板面ヨリ〇・六メートルノ位置ニ在ル様ニ搭載シ且屬具ヲ搭載シタル場合相當ノ復原性及乾舷ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス

第三十五條

救命筏ハ之ヲ使用スルニ先チ特別ノ操作ヲ要セズ且容易迅速ニ取扱ヒ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十六條

救命筏ハ構造堅牢ニシテ船舶ノ甲板ヨリ之ヲ投下スルモノニ在リテハ救命筏搭載甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ等シキ高サヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要シ機械的裝置ニ依リ進水セシムルモノニ在リテハ其ノ強力ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第三十七條

救命筏ノ重量ハ七五〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ但シ機械的裝置ニ依リ進水セシムル救命筏ニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條

救命筏ノ浮體ハ水密ナル空氣箱又ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムル浮力材料ヨリ成ルコトヲ要シ浮體ノ浮力ガ空氣ニ依ルモノナル場合ニハ膨脹セシムル必要ナキモノナルコトヲ要ス

第三十九條

浮體ハ出來得ル限り救命筏ノ側部ニ近ク之ヲ配置スルコトヲ要ス

第四十條

金屬製空氣箱ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板又ハ黃銅板若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト(亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼板ヲ使用スルコトヲ得ズ)
- 二 空氣箱ノ長サハ一二〇センチメートルヲ超エザルコト
- 三 空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サガ七五センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補強ノ爲空氣箱内部ニ仕切板又ハ支肘ヲ設クルコト

四 空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且繼附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト

五 空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂疵ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分ニ燒鈍スルコト

六 空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板又ハ支肘ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト

七 空氣箱ハ每平方センチメートル〇・一〇キログラムノ空氣壓ヲ以テ試験シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト

八 空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト

九 空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第四十一條 浮體ハ包箱又ハ包枠ヲ以テ之ヲ防護シ動力ザル様取附クルコトヲ要ス

第四十二條 救命筏ノ主枠組ニ使用スル木材ハ堅材ナルコトヲ要ス

浮體ヲ防護スル爲ノ包箱、包枠又ハ甲板ニ使用スル木材ハ柔材ナルモ妨ナシ

第四十三條 救命筏ハ其ノ兩面ニ木材、帆布其ノ他適當ナル材料ニテ造リタル固定又ハ疊込ノ舷牆ヲ備フルコトヲ要ス

第四十四條 救命筏ニハ當該官吏ノ適當ト認ムル位置ニ五箇以上ノ權架孔ヲ設クルコトヲ要ス

第四十五條 救命筏ニハ其ノ周邊ニ沿ヒ周邊ノ長サ三〇・五センチメートル毎ニ一箇ノ把握部ヲ有スル二列ノ把握部ヲ其ノ一ハ浮體ノ頂面ヨリ稍下部ニ、他ハ浮體ノ底面ヨリ稍上部ニ取附クルコトヲ要ス

前項ノ把握部ハ良質ノ「マニラ」索ニシテ徑一二ミリメートル以上ノモノナルコトヲ要シ把握部ニハ外徑四センチメートル長サ一〇センチメートルノ木製浮子ヲ附スルコトヲ要ス

第四十六條 救命筏ニハ左ノ各號ノ條件ニ從ヒ繫索ヲ備フルコトヲ要ス

一 繫索ノ長サハ救命筏ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ二メートルヲ加ヘタルモノ以上ナルコト但シ一八メートルヨリ長キコトヲ要セザル



コト

- 二 繫索ハ良質ノ「マニラ」索トシ其ノ大サハ救命筏ノ重量五〇〇キログラム以下ノモノニ在リテハ徑二四ミリメートル以上、五〇〇キログラムヲ超ユルモノニ在リテハ徑三〇ミリメートル以上ナルコト
- 三 繫索ヲ救命筏ニ取附クルニハ救命筏ニ堅牢ニ取附ケタル亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ鑲附螺釘及母螺其ノ他適當ノ方法ニ依ルコト
- 四 前號ノ鑲附螺釘ノ鑲材ノ徑ハ徑二四ミリメートルノ繫索ニ對シテハ一一ミリメートル、徑三〇ミリメートルノ繫索ニ對シテハ一六ミリメートルナルコト
- 第四十七條 救命筏ニハ明瞭且耐久ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ
  - 一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)
  - 二 製造番號
  - 三 定員
  - 四 重量
  - 五 墜落試験ノ高サ
  - 六 製造年月
  - 七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第四章 救命浮器

- 第四十八條 救命浮器ノ定員ハ該救命浮器ノ全浮力キログラム數チ一四・五ニテ除シタル數及周邊ノ長サセンチメートル數チ三〇・五ニテ除シタル數ノ中何レカ小ナルモノヲ超ユルコトヲ得ズ
- 第四十九條 救命浮器ハ上下何レノ面チ上ニシテ浮ベタル場合ニ於テモ有效ニシテ任意ノ邊ニ長サ三〇・五センチメートルニ付七・五キログラムノ割合ノ鐵片ヲ把索ニ吊シタルトキ相當ノ復原性及乾舷ヲ保持スルモノナルコトヲ要ス
- 第五十條 救命浮器ハ之ヲ使用スルニ先チ特別ノ操作ヲ要セズ且機械的裝置ナクシテ容易迅速ニ取扱ヒ得ルモノニシテ必要ニ應ジ之ヲ搭載セル甲板ヨリ水面ニ投下シ得ルモノナルコトヲ要ス
- 第五十一條 救命浮器ノ幅ハ一〇五センチメートル以上ナルニトヲ要ス
- 第五十二條 救命浮器ハ構造堅牢ニシテ之ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ最低航海吃水線迄ノ高サニ等シキ高サヨリ水面ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス
- 第五十三條 救命浮器ノ重量ハ一八〇キログラムヲ超ユルコトヲ得ズ

コトヲ得ズ

重量一三五キログラムヲ超ユル救命浮器ニ在リテハ之ガ取扱ヲ容易ナラシムル爲適當ナル把手又ハ棧木ヲ取附ケ置クコトヲ要ス

前項ノ把手又ハ棧木ハ船舶ノ手摺ヲ越エテ救命浮器ヲ迂リ落サシムルニ支隔ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第五十四條 救命浮器ヲ淡水ニ浮ベタルトキ之ニ吊シ得ル鐵片ノ重量キログラムヲ以テ救命浮器ノ全浮力トス

第五十五條 救命浮器ノ浮體ハ水密ナル空氣箱又ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムル浮力材料ヨリ成ルコトヲ要シ浮體ノ浮力ガ空氣ニ依ルモノナル場合ニハ救命浮器ノ使用ニ先チ膨脹セシムル必要ナキモノナルコトヲ要ス

第五十六條 浮體ハ出條得ル限り救命浮器ノ側部ニ近ク之ヲ配置スルコトヲ要ス

第五十七條 金屬製空氣箱ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 空氣箱ハ厚サ〇・六〇ミリメートル以上ノ良質ノ銅板又ハ黃銅板若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル耐久材料ニテ構成スルコト(亞鉛板、亞鉛鍍鐵鋼板又ハ銅鍍鐵鋼

救命器具試験規程

板ヲ使用スルコトヲ得ズ)

- 二 空氣箱ノ長サハ一一二〇センチメートルヲ超エザルコト
- 三 空氣箱ニハ波形ノ金屬板ニテ構成スルモノヲ除キ其ノ長サガ七五センチメートルヲ超ユルモノナルトキハ補強ノ爲空氣箱内部ニ仕切板又ハ支肘ヲ設クルコト
- 四 空氣箱ヲ構成スル金屬板ノ繼目ハ幅一〇ミリメートル以上ノ折曲抱合ト爲シ良ク槌打シ且鑲附スルコト但シ端部ノ繼目ハ折曲ト爲スモ妨ナキコト
- 五 空氣箱ヲ波形ノ金屬板ニテ構成スル場合ニハ繼目ニ於ケル波形ノ部分ニ裂疵ノ發生スルコトヲ防止スル爲空氣箱ヲ構成スルニ先チ板ヲ十分ニ燒鈍スルコト
- 六 空氣箱ニハ之ニ木製ノ仕切板又ハ支肘ヲ取附クル等ノ爲穿孔セザルコト
- 七 空氣箱ハ每平方センチメートル〇・一〇キログラムノ空氣壓チ以テ試験シ空氣ノ漏洩セザルモノナルコト
- 八 空氣箱ノ表面ニハ煮沸セル亞麻仁油又ハ良質ノ「ワニス」若ハ當該官吏ノ適當ト認ムル塗料ヲ塗布スルコト



九 空氣箱ヲ取附クルニハ之ヲ鐵鋼部ニ接觸セシメザルコト

第五十八條 浮體ハ包箱又ハ包枠ヲ以テ之ヲ防護シ動カザル様取附クルコトヲ要ス

第五十九條 救命浮器ノ主枠組ニ使用スル木材ハ堅材ナルコトヲ要ス但シ當該官吏ニ於テ差支ヘナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

浮體ヲ防護スル爲ノ包箱又ハ包枠ニ使用スル木材ハ柔材ナルモ妨ナシ

第六十條 救命浮器ニハ其ノ周邊ニ沿ヒ該普命浮器ノ定員

ト同數ノ把握部ヲ有スル把索ヲ取附クルコトヲ要ス

前項ノ各把握部ニハ外形四センチメートル長サ一〇センチメートルノ木製浮子ヲ附スルコトヲ要ス

把握部ノ弛ミノ深サハ把索ガ濡レタルトキ一五センチメートル以上二〇センチメートル以下ナルコトヲ要ス

把索ハ深サ三〇センチメートル以下ノ救命浮器ニ在リテ

ハ之ヲ深サノ中央線ニ沿ヒ一列ニ取附クルコトヲ要シ深サ三〇センチメートルヲ超ユル救命浮器ニ在リテハ之ヲ

二列トシ其ノ一ハ浮體ノ頂面ヨリ稍下部ニ、他ハ浮體ノ底面ヨリ稍上部ニ取附クルコトヲ要ス

第六十二條 救命浮器ノ側部ハ旅客ノ注意ヲ喚起スル爲紅

白交互ノ條線ニ塗裝スベシ

第六十三條 救命浮器ニハ明瞭且耐久的ノ文字ヲ以テ左ノ

各號ノ標示ヲ爲スベシ

一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)

二 製造番號

三 定員

四 重量

五 墜落試験ノ高サ

六 製造年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第五章 救命浮環

第六十四條 救命浮環ハ一四・五キログラムノ鐵片ヲ附シ

淡水ニ於テ二四時間以上浮ビ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十五條 救命浮環ハ高サ一八メートルノ箇所ヨリ水面

ニ墜落セシメ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第六十六條 救命浮環ノ内徑ハ四二〇ミリメートルト爲シ

外徑ハ七五〇ミリメートル以上、厚サハ一〇〇ミリメー

トル以上、横截面ノ周ハ四五〇ミリメートル以上ト爲スベシ

救命器具試験規程

把索ハ良質ノ「マニラ」索ニシテ徑一二ミリメートル以上ノモノナルコトヲ要ス

把索ヲ救命浮器ニ取附クルニハ亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ環附螺釘及母螺ヲ使用スルカ又ハ救命浮器ノ外周ヲ形成スル枠材ニ孔ヲ穿テ之ニ直接把索ヲ通ズベシ

第六十一條 救命浮器ニハ左ノ各號ノ條件ニ從ヒ繫索ヲ備フルコトヲ要ス

一 繫索ノ長サハ救命浮器ヲ搭載スル甲板ヨリ該船舶ノ

最低航海吃水線迄ノ高サニ二メートルヲ加ヘタルモノ以上ナルコト但シ一八メートルヨリ長キコトヲ要セザルコト

二 繫索ハ良質ノ「マニラ」索トシ其ノ大サハ救命浮器ノ重量一三五キログラム以下ノモノニ在リテハ徑一六

ミリメートル以上、一三五キログラムヲ超ユルモノニ在リテハ徑二〇ミリメートル以上ナルコト

三 繫索ヲ救命浮器ニ取附クルニハ救命浮器ニ堅牢ニ取附ケタル亞鉛鍍セル鍊鐵製又ハ鋼製ノ環附螺釘及母螺

其ノ他適當ノ方法ニ依ルコト

四 前號ノ環附螺釘ノ環材ノ徑ハ一一ミリメートルナルコト

第六十七條 救命浮環ノ浮力材料ハ一八箇以內ノ「コルク」塊又ハ「バルサ」塊ヲ木釘ヲ以テ固著シタルモノト爲スベシ

「コルク」ハ黒肌其ノ他ノ瑕疵ヲ有セザル天然「コルク」ニシテ其ノ重量一〇〇立方センチメートルニ付二二・五

グラム以下ノモノナルコトヲ要ス

「バルサ」ハ樹皮其ノ他ノ瑕疵ヲ有セズ且十分ニ蒸氣乾燥ヲ施シタル良質ノモノナルコトヲ要ス

第六十八條 救命浮環ハ帆布ヲ以テ外裝シ之ニ酸化亞鉛ヲ

主成分トスル防水塗料ヲ三回以上塗布スベシ

帆布ハ一平方メートルニ付三四五グラム以上ノ重量ヲ有

シ且幅三〇ミリメートルノ試験片ニ付長サ一〇〇ミリメ

ートルニテ試験シ經緯共四〇キログラム以上ノ強力ヲ有

スルモノナルコトヲ要ス

第六十九條 救命浮環ニハ四箇ノ縛帶ヲ縫著シ其ノ一箇ニ

ハ檢印捺用ノ孔ヲ設ケ其ノ周縁ハ飾縫ト爲シ且孔蓋ヲ

縫著スベシ

縛帶ハ幅六〇ミリメートル以上ト爲シ外裝布ト同一ノ帆

布ヲ二重合縫ト爲シタルモノナルコトヲ要ス



第七十條

救命浮環ニハ其ノ周圍ニ把索ヲ附スベシ

把索ハ良質ノ「マニラ」索トシ徑一〇ミリメートル以上、總長三メートル以上ニシテ接合部ニ於テモ三〇〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十一條

「ミシン」縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試験シニキログラム以上ノ強力ヲ有スル亞麻絲又ハ綿絲ヲ使用スベシ

手縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試験シ二三キログラム以上ノ強力ヲ有スル亞麻絲ヲ使用スベシ

第七十二條

「ミシン」縫部ハ二五ミリメートルニ付約八針ノ割合ニテ、手縫部ハ二五ミリメートルニ付約三針ノ割合ニテ縫着スベシ

第六章 救命胴衣

第七十三條

救命胴衣ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 大人及小兒ノ兼用ニ適シ著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ルコト

二 水中ニ於テ身體ヲ略垂直ノ位置ニ保チ頭部ヲ十分露出セシメ得ルコト

第七十四條

救命胴衣ハ淡水ニ於テ七・五キログラムノ鐵片ヲ附シ二四時間浮ビタル後更ニ六・五キログラムノ鐵片ヲ附加シテ浮ビ得ルモノナルコトヲ要ス

第七十五條

救命胴衣ノ浮力材料ニハ「カボック」、  
「コルク」又ハ「バルサ」ヲ使用スベシ

「カボック」ハ良質ノ乳白色「カボック」コシテ種子其ノ他ノ夾雜物ヲ含有セズ且打綿ヲ施シタルモノナルコトヲ要ス

「コルク」ハ黒肌其ノ他ノ瑕疵ヲ有セザル天然「コルク」ニシテ其ノ重量一〇〇立方センチメートルニ付二二・五グラム以下ノモノナルコトヲ要ス

「バルサ」ハ樹皮其ノ他ノ瑕疵ヲ有セス且十分ニ蒸氣乾燥ヲ施シタル良質ノモノナルコトヲ要ス

「コルク」塊及「バルサ」塊ハ特殊ノ箇所ニ使用スルモノヲ除クノ外七五〇立方センチメートル以上ノ容積ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十六條 救命胴衣ノ前部浮袋及後部浮袋ニハ等量ノ浮力材料ヲ使用スルコトヲ要シ「カボック」「ラ使用スルモノニ在リテハ各五〇〇グラム以上ナルコトヲ要ス

第七十七條 救命胴衣ノ仕上寸法ハ左表ニ依ル

浮力材料	前後各浮袋ノ寸法(浮力材料充填後)		首穴ノ寸法(耗)	前後ノ徑	左右ノ徑	肩襷ノ幅(耗)
	幅(中央ニテ)	高さ(中央ニテ)				
カボック	四〇〇	一九〇	一四〇			
コルク	四〇〇	一九〇	二〇〇			
バルサ	四〇〇	一九〇	一一〇			六〇

第七十八條

覆布、肩襷等ノ材料ハ糊附、防水其ノ他ノ粧裝ヲ施サザル綿布又ハ亞麻布ニシテ一平方メートルニ付二四五グラム以上ノ重量ヲ有シ幅三〇ミリメートルノ試験片ニ付長サ一〇〇ミリメートルニテ試験シ經緯共四〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第七十九條

胴帶ハ亞麻織、綿織又ハ亞麻及綿混織ノ平紐ニシテ幅三〇ミリメートル以上ヲ有シ且長サ一〇〇ミリメートルニテ試験シ九〇キログラム以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第八十條

「ミシン」縫ニハ長サ二〇〇ミリメートルニテ試験シ一・五キログラム以上ノ強力ヲ有スル亞麻絲又ハ綿絲ヲ使用スベシ

手縫ニハ前項ノ縫絲ヲ二重ト爲シタルモノ又ハ特ニ太キ

救命器具試験規程

縫絲ヲ使用スベシ

第八十一條

「ミシン」縫部ハ二五ミリメートルニ付約一〇針ノ割合ニテ、手縫部ハ二五ミリメートルニ付約六針ノ割合ニテ縫着スベシ

浮袋兩面ノ覆布ノ縫著部ハ各布縁ヲ内側ニ折合セ縫著スベシ

肩襷、布環等ハ浮袋ノ外部ニ五〇ミリメートル以上重ネテ縫著シ、長方形及對角線縫留ヲ爲シ必要ニ應ジ各隅ニ門留ヲ施スベシ

第七章 救命 炤

第八十二條

救命炤ハ之ヲ閉孔シテ水上ニ投ジタルトキ一分時以内ニ自然ニ發火シ風浪中ニ於テモ正シキ位置ヲ保チ一五〇燭光以上ノ炤ヲ三〇分時以上連續發炤シ得ルモ



ノナルコトヲ要ス

第八十三條 罐ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造スベシ

罐ノ縱接合ハ折曲抱合ト爲シ且鐵附スベシ  
外罐ハ筒形ト爲シ其ノ兩端ニ突出セル皿形端板ヲ附スベシ

外罐ノ筒形部下端板トハ累接ノ上鐵附スベシ

外罐ニハ救命焰ト救命浮環トノ連結ニ使用スル適當ナル通索環ヲ附シ置クベシ

外罐ニハ防腐塗料ヲ塗布スベシ

第八十四條 外罐ノ發焰孔及發焰用浸水孔ハ亞鉛板等ヲ以テ塞ギ其ノ上部ニ引剝用環ヲ附スベシ

引剝用環ハ徑四ミリメートルノ眞鍮針金製ニテ内徑二五ミリメートルナルコトヲ要ス

亞鉛板等ヲ引剝クニ要スル荷重ハ救命焰ノ重量ヨリ小ナラズ且七キログラムヨリ大ナラザルコトヲ要ス

第八十五條 救命焰ニハ風化セザル發焰用炭灰石灰七〇〇グラム以上及點火用燐化石灰七五グラム以上ヲ納メ置クベシ

第八章 救命索發射器

キ行クモノ

第八十八條 普通型救命索發射器ハ發射臺一箇、救竿附「ロケット」四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

短銃型救命索發射器ハ短銃一箇、箭竿「ロケット」四箇、藥莢四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

銃砲型救命索發射器ハ銃砲一箇、箭竿附彈丸四箇、藥莢四箇及救命索二條ヲ以テ一組トス

第八十九條 救命索發射器ハ特殊ノ習練ヲ經ザル者ニテモ之ヲ使用シ得ル程度ニ使用方法簡易ニシテ且使用者ニ危険ヲ及ボサザルモノナルコトヲ要ス

第九十條 救命索ハ良質ノ麻索、線絲索其ノ他嫻カナルモノニシテ其ノ徑、長サ及抗張力ノ標準ハ救命索發射器ノ種類ニ應ジ左表ニ依ル但シ第一號救命索發射器ニシテ標準到達距離著シク大ナルモノニ在リテハ救命索ノ徑、長サ及抗張力ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

種類	救命索		
	徑 (耗)	長 (米)	抗張力 (斤)
第一號	六・〇〇	六〇〇	二五〇
第二號	五・〇〇	五〇〇	一八五

救命器具試驗規程

第八十六條 救命索發射器ヲ分テ左ノ五種トス

一 第一號救命索發射器 標準到達距離三〇〇メートル以上ノモノ

二 第二號救命索發射器 標準到達距離三〇〇メートル未滿二五〇メートル以上ノモノ

三 第三號救命索發射器 標準到達距離二五〇メートル未滿二〇〇メートル以上ノモノ

四 第四號救命索發射器 標準到達距離二〇〇メートル未滿一五〇メートル以上ノモノ

五 第五號救命索發射器 標準到達距離一五〇メートル未滿一〇〇メートル以上ノモノ

標準到達距離ト稱スルハ晴天無風ノ際ニ箭竿又ハ彈丸ガ救命索ヲ引キテ到達スル水平距離ヲ謂フ

第八十七條 救命索發射器ノ型ヲ分テ左ノ三種トス

一 普通型「ロケット」ニ點火シ「ロケット」作用ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ

二 短銃型 短銃ニ依リ「ロケット」ヲ發射スルト共ニ之ニ點火シ「ロケット」作用ニ依リ救命索ヲ引キ行クモノ

三 銃砲型 銃砲ニテ彈丸ヲ發射シ之ニ依リ救命索ヲ引

第三號	第四號	第五號
四・〇〇	三・〇〇	二・五〇
四〇〇	三〇〇	二四〇
一三〇	八五	六五

救命索ハ水分ヲ吸收スル虞ナキ様水密ニ包裝シ使用ノ際容易ニ開裝シ得ルモノナルコトヲ要ス

第九十一條 「ロケット」ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 爆音ヲ發スル火藥ヲ含マズ且火星ヲ發セザルモノナルコト

二 内筒ハ厚サ〇・四ミリメートル以上ノ亞鉛鍍鐵鋼板ヲ以テ製造シタルモノナルコト

三 「ロケット」ハ一箇毎ニ防濕塗料ヲ塗布シ且硫酸紙ヲ以テ包裝シ「アラビア」護膜ニテ密封スルコト

第九十二條 普通型救命索發射器ニ使用スル「ロケット」ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルノ外荒天ニ於テモ點火シ得ル適當ナル點火裝置ヲ備ヘ且該「ロケット」ニ點火シタル後「ロケット」作用ヲ開始スル迄三秒時以上ノ餘裕アルコトヲ要ス

第九十三條 短銃型救命索發射器ニ使用スル「ロケット」ニ在リテハ第九十一條ノ規定ニ依ルノ外之ヲ短銃ニ依リ

九七九



發射シタル際點火スル爲ノ點火裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第九十四條 箭竿ハ其ノ材料及寸法適當ニシテ使用ノ際

「ロケット」又ハ彈丸ニ取附クルコトヲ要スルモノニ在

リテハ適當ナル取附裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第九十五條 銃砲ハ移動シ得ルモノニシテ且其ノ仰角ハ六

〇度以上ナルコトヲ要ス

第九十六條 標準到達距離ハ救命索發射試驗ヲ四回以上行

ヒ風其ノ他天候ノ影響ヲ除キタル平均到達距離ヲ以テ之

ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月遞信省令第二十一號救命具試驗規程ハ之ヲ廢

消火器試驗規程

(昭和九年二月 遞信省令第二十二號)

第一條 本令ニ於テ消火器ト稱スルハ船内ニ於ケル火災ノ

場合ニ使用スル持運式(攜帶用)及移動式ノ消火器ヲ謂

フ

第二條 消火器ヲ分チテ左ノ二種トス

一 液體消火器 消火液ヲ放射スル持運式消火器

二 泡消火器 消火氣泡ヲ放射スル持運式消火器及移動

式消火器

第三條 本令ノ規定ニ該當セザル消火器ハ當該官吏ニ於テ

本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムル

モノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第四條 消火器ハ起動容易ナルモノナルコトヲ要ス

消火器ハ人爲的ナラザル振動、顛倒其ノ他ニ依リ起動セ

ザルモノナルコトヲ要ス

第五條 消火器ノ重量ハ一人ノ力ヲ以テ之ヲ有效ニ取扱ヒ

得ル程度ニシテ且移動式泡消火器ヲ除キ一七キログラム

ヲ超エザルコトヲ要ス

消火器ノ容量ハ水準線迄測リ五リツトル以上ナルコトヲ

要ス

水準線以上ノ空氣部ハ容器ノ全容積ノ五%ヨリ小ナルハ

カラズ

第六條 消火液及消火氣泡發生液ノ容器ノ形狀ハ圓筒形又

ハ圓錐形ト爲シ圓筒形ナルトキハ兩端板ヲ、圓錐形ナル

トキハ大ナル徑ヲ有スル端板ヲ外方ニ突出シタル皿形ト

爲スベシ

端板ノ皿ノ内半徑ハ容器ノ端部ノ内徑ヲ超エザルコトヲ

要ス

第七條 容器ノ胴板及端板ニハ銅板又ハ銅板ヲ使用シ其ノ

内面ニハ十分ニ錫引若ハ鉛引ヲ施スベシ

第八條 持運式消火器ノ容器ノ構造及寸法ハ左ノ各號ノ條

件ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

容器ノ外徑	銅板		銅板	
	厚	サ(耗)	厚	サ(耗)
一五センチメートル以下	一・二	一・二	一・〇	四・〇
一五センチメートルヲ超エ 二〇センチメートル以下	一・二	一・二	一・二	四・〇

移動式消火器ノ容器ノ構造及寸法ハ當該官吏ノ適當ト認

ムル所ニル

第九條 裝填口ハ徑七・五センチメートルヨリ小ナラザル

モノト爲シ之ニ螺紙部ノ長サ約二センチメートルヲ有ス

消火器具試驗規程

一 接合部ハ累接銲締ト爲シ且鐵附ト爲ス

二 銲孔ハ錐揉シ縱接合ニ於テハ心距ヲ二センチメートル

ル乃至二・五センチメートルト爲スコト

三 端板ノ周縁ハ折返ト爲サザルコト

四 垂直ニ据置ク消火器ニハ下部端板ト胴板トノ接合部

ヲ庇護スル金屬製受臺ヲ附スルコト

五 胴板及端板(皿形ニ爲シタル後)ノ厚サ及銲孔徑ハ

容器ノ外徑及使用材料ニ應ジ左表ニ依ルコト

ル砲金製螺込蓋ヲ取附クベシ

蓋又ハ裝填口ノ螺絲部ニハ消火器ヲ起動セシメタル後

消火液又ハ消火氣泡ノ放射孔閉塞ノ場合ニ殘留スル瓦斯

ノ壓力ヲ蓋蓋螺戻シ中徐々ニ降下セシムル爲小ナル安全



孔若干ヲ穿ツベシ

螺絲部ノ螺絲ハ連續セルモノト爲スベシ

裝填口頂部ノ氣密ヲ保ツニハ油ヲ浸潤セシメタル良質ノ

革、耐酸性護膜其ノ他適當ノ材料ヲ使用スルコトヲ要シ

其厚サハ三ミリメートル以下ト爲スベシ

第十條 藥液壘受籠ハ容器ノ掃除及検査ノ爲容易ニ取出シ

得ルモノト爲スベシ

第十一條 消火器ニハ其ノ水壓試驗ヲ行フトキ及起動ノ際

器内ニ生ズル壓力ヲ確メントスルトキ壓力計ヲ取附クル

爲標準螺絲ヲ有スル壓力計取附口ヲ附シ置クベシ

第十二條 放射孔又ハ放射管ニハ適當ナル濾過裝置ヲ取附

クベシ

内部放射管ヲ取附クル場合ニハ該管ハ容器ヲ略空虚ト爲

スコトヲ得ル長サノモノト爲スベシ

第十三條 内部放射管ヲ備フル消火器ニ在リテハ溫度ノ變

化ニ依リ消火液ガ放射孔ノ方ニ押出サレ取附物ヲ腐蝕シ

又ハ放射孔ヲ填塞スルコトヲ防グ爲適當ノ膨脹室ヲ設ク

ルカ又ハ其ノ他適當ナル裝置ヲ施スベシ

第十四條 蛇管ヲ使用スル消火器ニ在リテハ蛇管ハ耐久性

ノモノナルコトヲ要ス

平方センチメートル一四キログラム以下ニ調節シタルモ  
ノナルコトヲ要ス

第十九條 容器ハ每平方センチメートル二五キログラムノ

壓力ヲ五分時持續スル水壓試驗ニ堪フルモノナルコトヲ

要ス

前項ノ壓力ハ前條ニ揚グル調節セラレタル壓力ノ二倍ニ

止ムルモ妨ナシ

第二十條 消火器ニハ左ノ事項ヲ標示スベシ

一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)

二 消火器ノ種類

三 製造番號

四 容量

五 重量

六 製造年月

七 製造者ノ氏名又ハ名稱

第二十一條 消火器ニハ裝填物ニ關スル明細書ヲ添附スベ

シ

封緘シタル裝填物ニハ一箇毎ニ説明書ヲ添附スベシ

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

消火器具試験規程・火災警報裝置試驗規程

第十五條 放射口金ノ孔ノ大サハ徑四ミリメートル以上ト

爲シ消火液又ハ消火氣泡ノ放射ハ六〇秒時以上連續的ニ

シテ消火液又ハ消火氣泡ノ到達スル水平距離ハ放射ノ初

期ニ於テ九メートル以上、六〇秒時ニ於テ六メートル以

上ナルコトヲ要ス

放射口金端ニハ薄護膜其ノ他適當ノ塵埃除ヲ附スベシ

第十六條 持運式消火器ニハ其ノ持運及取扱ニ便ナル様適

當ノ固定把手ヲ設クルコトヲ要シ移動式消火器ニハ移動

及取扱ニ便ナル様適當ノ裝置ヲ設クルコトヲ要ス

第十七條 消火器ノ裝填物ハ左ニ掲グルモノ其ノ他當該官

吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

液體消火器

一 重炭酸曹達又ハ炭酸加里ノ溶液及壘ニ容レタル硫

酸又ハ鹽酸

二 清水及壓縮炭酸瓦斯

泡消火器

重炭酸曹達ト氣泡劑トノ混合液及壘ニ容レタル硫酸

「アルミニウム」溶液

第十八條 裝填物及空氣部ハ液體ノ溫度三八度ノトキ一切

ノ口孔ヲ閉塞シテ起動セシメタル場合ニ生ズル壓力ヲ每

### 火災警報裝置試驗規程

(昭和九年二月  
逓信省令第二十三號)

#### 第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ火災警報裝置ト稱スルハ船内ニ於ケル

火災ヲ自動的ニ警報スル裝置ヲ謂フ

第二條 火災警報裝置ヲ分チテ左ノ三種トス

一 電氣「サーモスタット」式火災警報裝置

二 空氣管式火災警報裝置

三 煙管式火災警報裝置

第三條 本令ノ規定ニ該當セザル火災警報裝置ハ當該官吏

ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト

認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第四條 警報器又ハ探知器ハ火災ノ存在又ハ徵候ヲ船員ガ

最速ニ認メ得ベキ場所又ハ消防詰所ニ之ヲ設置セラルル

モノナルコトヲ要ス

第五條 一警報區域ニ含マル室數ハ五〇ヲ超ユルコトヲ得

ズ又一警報區域ノ船首尾方向ノ長サハ四〇メートルヲ超

ユルコトヲ得ズ



第六條 水密隔壁又ハ防火隔壁ニテ仕切ラレタル場所ハ之ヲ同一警報區域ニ含マシムルコトヲ得ズ但シ倉庫ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

法規ニ依リ設クベキ支水隔壁ガ暴露甲板ニ到達セザル船舶ニ在リテハ甲板間ノ場所ハ該隔壁ガ暴露甲板ニ到達セザルモノト看做ス

同一甲板上ニ在ラザル場所ハ之ヲ同一警報區域ニ含マシムルコトヲ得ズ但シ船首尾狹部其ノ他ノ場所ニシテ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 火災警報装置ハ一警報區域關係ノ装置ガ動作不能トナリタル場合ニ於テモ他ノ警報區域關係ノ装置ヲ動作不能トナラシメザルモノナルコトヲ要ス

火災警報装置ハ一箇若ハ同時ニ數箇ノ火災警報信號ヲ爲シ得ルモノナルコトヲ要ス

第八條 火災警報装置ハ火災警報以外ノ信號ノ傳達ニ流用シ得ザルモノナルコトヲ要ス

第九條 火災警報装置ノ電路ハ電氣的接地ヲ有セザルコトヲ要ス

第十條 火災警報装置ニ使用スル電導體ノ構造、大サ、鉛被、鍍裝、防護、支持其ノ他詳細ハ當該官吏ノ適當ト認

ムル所ニ依ル但シ電線ハ電線式ノ電氣「サーモスタット」ノ電線ヲ除クノ外鉛被ヲ爲シ尙損傷ヲ受クル虞アルモノニ在リテハ鍍裝スルコトヲ要ス

第十一條 火災警報装置ハ其ノ全裝置ニ付耐久試驗ヲ行ヒ故障ナキモノナルコトヲ要ス

第十二條 火災警報装置ニハ一組毎ニ其ノ操作、維持及試驗ニ關スル詳細並ニ豫備品ノ品目及數量ヲ記載シタル揭示用圖表ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ圖表ニハ試驗ノ執行年月日記入ノ爲並ニ試驗ニ立會フ當該船舶職員ノ署名ノ爲餘白欄ヲ存セシメ試驗ノ程度之ガ記入ニ便ナラシムベシ

第二章 電氣「サーモスタット」式

火災警報装置

第十三條 電氣「サーモスタット」式裝置ノ警報器ハ各警報區域ニ付一箇ノ警燈又ハ表示器ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ警報器ハ火災ノ發生シタル警報區域ヲ明ニ表示シ且特ニ人爲的ニ之ヲ復セシメザル限り指示又ハ動作ヲ繼續スルモノナルコトヲ要ス

第十四條 警報器ニハ警報中自動的ニ警報音信號ヲ連續鳴

響スル警鐘一箇ヲ附屬セシムルコトヲ要ス

第十五條 長サ一〇メートル以上ノ船舶ニハ機關室ニ補助警音裝置ヲ設置スルコトヲ要ス

第十六條 電氣「サーモスタット」ハ之ヲ各警戒區畫室ノ天井ニ取附クベシ但シ貨物艙以外ノ場所ニ設クル電線式ノ電氣「サーモスタット」ニ在リテハ之ヲ仕切壁若ハ隔壁ニ於テ天井ヨリ三〇センチメートル以内ノ位置ニ架スルコトヲ得

第十七條 平面天井ニ在リテハ電氣「サーモスタット」相互間ノ距離ハ四・五メートルヲ超エザルコトヲ要ス

一箇ノ電氣「サーモスタット」ニ依ル警戒面積ハ一八・五平方メートルヲ超エズ又天井ノ何レノ部分モ電氣「サーモスタット」ヨリノ距離三メートルヲ超エザルコトヲ要ス

電線式ノ電氣「サーモスタット」ニ在リテハ各電路ハ三〇メートルヲ超エザル電線ヨリ成ルコトヲ要シ之ヲ各警戒區畫室ニ配線シ天井ノ何レノ部分モ電線ヨリノ距離三メートルヲ超エザルコトヲ要ス

第十八條 天井ガ深サ二五センチメートル以下ノ梁ニ依リ格子又ハ小間ニ區分セラレタルモノナルトキハ之ヲ平面

天井トシテ取扱フベシ

梁ノ深サ二五センチメートルヲ超ユルトキハ梁ニ依リテ仕切ラレタル各區畫ヲ別箇ノ天井トシテ取扱フベシ

第十九條 梁ノ構造ガ特殊ノ爲前二條ノ規定ニ依リ難キ場合ニハ電氣「サーモスタット」ノ配置ハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十條 貨物搭載場所ニ在ル電氣「サーモスタット」及損傷ヲ受クル虞アル電氣「サーモスタット」ハ適當ニ之ヲ防護スベシ

第二十一條 電源及電路ニハ第二十三條ニ規定スル場合ヲ除クノ外故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス

故障音信號裝置ハ電源又ハ電路ニ故障ヲ生ジタル場合該故障ヲ修復シ終ル迄明確ナル音信號ヲ自動的ニ連續鳴響スルモノナルコトヲ要ス

故障音信號ヲ停止スル爲開閉器ヲ設クルモノニ在リテハ別ニ故障燈ヲ備ヘ音信號ヲ停止セシムルト同時ニ自動的ニ故障燈ニ點燈セシメ得ルコトヲ要ス

第二十二條 警鐘ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス但シ數箇ノ警鐘ヲ使用スルトキハ其ノ一個ニ限り之ヲ備フルモ妨ナシ



第二十三條 故障音信號裝置ニ使用スル電路及之ニ對スル電源並ニ受信盤上ノ常時開放二次電路ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要セズ多數連結シタル「サーモスタツト」ニ付亦同シ

第二十四條 火災警報裝置ニ使用スル電源ハ封緘シタル專用ノ蓄電池ニシテ照明系統ノ幹線ヨリ自動的ニ充電セララルモノナルコトヲ要ス

第二十五條 火災警報裝置ニ使用スル電壓ハ二〇ヴォルト以上六〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス  
火災警報裝置ハ其ノ標準電壓ノ八〇%ニテ動作スルモノナルコトヲ要ス

第二十六條 火災警報裝置ニ使用スル蓄電池ハ充電ヲ更新スルコトナクシテ四八時間以上電流ヲ供給シ得ルモノニシテ其ノ容量ハ一〇アンペア時以上ナルコトヲ要ス

第二十七條 火災警報裝置ニハ容量三アムペア以上六アムペア以下ノ「フューズ」ヲ充電用電流ヲ供給スル幹線又ハ其ノ附近ニ於テ蓄電池主放電路中ノ充電盤上ニ裝置スルコトヲ要ス

第二十八條 受信盤及其ノ附屬裝置ハ振動ニ依リ影響ヲ受ケズ又四五度傾キタル場合ニ於テモ動作スルモノナルコトヲ要ス

第三十四條 空氣管ハ之ヲ各警戒區畫室ノ天井ニ取附クベシ但シ貨物艙以外ノ場所ニ設クル空氣管ニ在リテハ之ヲ仕切壁若ハ隔壁ニ於テ天井ヨリ三〇センチメートル以内ノ位置ニ取附クルコトヲ得

第三十五條 各蔽圍場所又ハ各室ニハ空氣管回路ノ全長ノ少クトモ五%ヲ露出セシムルコトヲ要シ且露出部ノ長サハ如何ナル場合ニ於テモ八メートルヨリ少ナカラザルコトヲ要ス

第三十六條 平面天井ニ在リテハ天井ノ何レノ部分モ空氣管ヨリノ距離三・五メートルヲ超エザルコトヲ要ス

第三十七條 天井ガ深サ二五センチメートル以下ノ梁ニ依リ格子又ハ小間ニ區分セラレタルモノナルトキハ之ヲ平面天井トシテ取扱フベシ  
梁ノ深サ二五センチメートルヲ超ユルトキハ梁ニ依リテ仕切ラレタル各區畫ニ少クトモ一條ノ空氣管ヲ配置スルコトヲ要ス

第三十八條 梁ノ構造ガ特殊ノ爲前二條ノ規定ニ依リ難キ場合ニハ空氣管ノ配置ハ當該官吏ノ適當ト認ムル所ニ依ル  
第三十九條 貨物搭載場所ニ在ル空氣管及損傷ヲ受クル虞

トヲ要ス

第二十九條 警報音信號ハ鐘ノ徑一五センチメートルヨリ小ナラザル蔽圍型警鐘ニ依リ發スルモノナルコトヲ要ス前項ノ音信號ハ適當ノ裝置ニ依リ之ヲ停止シ得ルコトヲ要ス

第三章 空氣管式火災警報裝置  
第三十條 空氣管式裝置ノ警報器ハ各警報區域ニ付一箇ノ警燈又ハ表示器ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ警報器ハ火災ノ發生シタル警報區域ヲ明カニ表示シ且特ニ人爲的ニ之ヲ復セシメザル限リ指示又ハ動作ヲ繼續スルモノナルコトヲ要ス

第三十一條 警報器ニハ警報中自動的ニ警報音信號ヲ連續鳴響スル警鐘一箇ヲ附屬セシムルコトヲ要ス

第三十二條 長サ一〇メートル以上ノ船舶ニハ機關室ニ補助警音裝置ヲ設置スルコトヲ要ス

第三十三條 空氣管式裝置ニ於ケル各空氣管回路ハ長サ三〇メートルヲ超エザルコトヲ要シ且管ハ岐路ヲ有セズ其ノ兩端ヲ一箇ノ檢出器ニ連結スルコトヲ要ス  
前項ノ檢出器ハ電線ニ依リ警報器ニ連結スルモノナルコトヲ要ス

アル空氣管ハ適當ニ之ヲ防護スベシ  
區畫室其ノ他ノ場所ニシテ其ノ用途ノ性質上相當高溫トナルコトアルベキ箇所ニ在ル空氣管ニハ必要ニ應ジ適當ニ防熱裝置ヲ施スベシ

第四十條 電源及電路ニハ第四十二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス  
故障音信號裝置ハ電源又ハ電路ニ故障ヲ生ジタル場合該故障ヲ修復シ終ル迄明確ナル音信號ヲ自動的ニ連續鳴響スルモノナルコトヲ要ス

故障音信號ヲ停止スル爲開閉器ヲ設クルモノニ在リテハ別ニ故障燈ヲ備ヘ音信號ヲ停止セシムルト同時ニ自動的ニ故障燈ニ點燈セシメ得ルコトヲ要ス

第四十一條 警鐘ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス但シ數箇ノ警鐘ヲ使用スルトキハ其ノ一箇ニ限り之ヲ備フルモ妨ナシ

第四十二條 故障音信號裝置ニ使用スル電路及之ニ對スル電源並ニ受信盤上ノ常時開放二次電路ニハ故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要セズ  
第四十三條 火災警報裝置ニ使用スル電源ハ封緘シタル專用ノ蓄電池ニシテ照明系統ノ幹線ヨリ自動的ニ充電セラ



ルモノナルコトヲ要ス

第四十四條 火災警報装置ニ使用スル電壓ハ二〇ヴォルト以上六〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

火災警報装置ハ其ノ標準電壓ノ八〇%ニテ動作スルモノナルコトヲ要ス

第四十五條 火災警報装置ニ使用スル蓄電池ハ充電ヲ更新スルコトナクシテ四八時間以上電流ヲ供給シ得ルモノニシテ其ノ容量ハ一〇アマペア時以上ナルコトヲ要ス

第四十六條 火災警報装置ニハ容量三アマペア以上六アマペア以下ノ「フューズ」ヲ充電用電流ヲ供給スル幹線又ハ其ノ附近ニ於テ蓄電池主放電路中ノ充電盤上ニ装置スルコトヲ要ス

第四十七條 受信盤及其ノ附屬装置ハ振動ニ依リ影響ヲ受ケズ又四五度傾キタル場合ニ於テモ動作スルモノナルコトヲ要ス

第四十八條 警報音信號ハ鐘ノ徑一五センチメートルヨリ小ナラザル蔽圍型警鐘ニ依リ發スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ音信號ハ適當ノ装置ニ依リ之ヲ停止シ得ルコトヲ要ス

第四章 煙管式火災警報装置

第四十九條 火災探知器ハ各警戒區畫室ヨリ之ニ導キタル煙管ニ依リ火災ニ伴フ細微稀薄ナル煙ヲ容易ニ判別シ得ルモノナルコトヲ要シ之ニ附隨スル照明装置ハ夜間航海ニ支障ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第五十條 各警戒區畫室ニハ火災探知器ニ通ズル煙管一箇以上ヲ備フルコトヲ要ス但シ相隣接セル小區畫室ニシテ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ在リテハ此等區畫室ヨリノ煙管ハ之ヲ連絡シ一煙管トシテ火災探知器ニ導クモ妨ナシ

煙管ハ内徑二〇ミリメートルヨリ小ナラザルモノナルコトヲ要ス

一警戒區畫室ニ數箇ノ煙管集器ヲ備フル場合ニハ二箇ヨリ多クノ煙管集器ヲ同一煙管ニ連結セザル構造ト爲スコトヲ要ス

煙管集器ハ各警戒區畫室ノ天井ニ裝置シ天井ノ何レノ部分モ煙管集器ヨリノ距離一二メートルヲ超エザルコトヲ要ス

煙管集器ハ通風器ノ開口縁ヨリ開口徑ノ三倍以內ノ箇所ニ取附クベカラズ

第五十一條 排氣ハ嗅覺ニ依リ火災ノ存在又ハ徵候ヲ認メ得ル様之ヲ火災探知器ヲ備フル室内ニ排出スルコトヲ要ス

排氣ガ嫌忌スベキ臭氣ヲ有スルトキ之ヲ室外ニ誘出シ得ル様適當ナル装置ヲ設ケ其ノ瓣ハ明瞭ナル標示ヲ有シ取扱容易ナル構造ノモノナルコトヲ要ス

第五十二條 吸氣扇ハ二重ニ設ケ何レモ非常點燈用電源ニ依リ動作シ得ル様開閉器ヲ設ケベシ

非常點燈用電源ノ電壓ガ常用ノ點燈用電源ノ電壓ヨリ低キモノナルトキハ吸氣扇ノ中一箇ニ限り非常點燈用電源ニ依リ動作シ得ザルモ妨ナシ

第五十三條 火災探知器ニハ吸氣扇ガ運轉ヲ停止シタルトキ、吸氣作用ガ停止シタルトキ又ハ煙分照映燈ガ減シタルトキ直ニ之ヲ標示スル故障音信號裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第五十四條 貨物搭載場所其ノ他之ニ準ズル場所ニ在ル煙管集器及煙管ニシテ損傷ヲ受クル虞アルモノハ適當ニ之ヲ防護スベシ

第五十五條 煙管ハ適當ノ傾斜ニ之ヲ架設シ其ノ低點ニ當該官吏ノ適當ト認ムル排水口ヲ備フルコトヲ要ス

火災警報装置試験規程・防毒面試験規程

煙管ノ屈曲部ハ其ノ彎曲度ヲ成ル可ク緩ニスルコトヲ要ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防毒面試験規程

(昭和九年二月) 逓信省令第二十四號

第一條 本令ニ於テ防毒面ト稱スルハ呼氣瓣及吸氣瓣ヲ備フル覆面、連結管及吸收罐ヨリ成リ船内ニ於ケル火災ノ場合ニ使用スル防毒面ヲ謂フ

第二條 本令ノ規定ニ該當セザル防毒面ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條 防毒面ハ火災ニ伴フ煙、一酸化炭素其ノ他ノ有害物ヲ含ム空氣中ニ於テ呼吸ヲ安全ナラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第四條 防毒面ハ其ノ構造成ル可ク簡易ニシテ裝著、吸收罐取換等取扱容易ナルモノナルコトヲ要ス



**第五條** 防毒面ハ其ノ構造堅牢ニシテ普通ノ取扱ニ於テハ容易ニ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

**第六條** 防毒面ハ寒熱濕乾ニ對シ十分ノ耐久性ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

**第七條** 防毒面ハ其ノ大サ及重量過大ナラズ且形狀適當ニシテ之ヲ裝著シタル場合作業ヲ妨ゲザルモノナルコトヲ要ス

**第八條** 覆面、吸收罐、連結管及其接続部ハ氣密ナルコトヲ要ス

吸收罐ノ氣密度ハ水柱一五〇ミリメートルノ壓力ニ對シ、覆面、連結管及其ノ接続部ノ氣密度ハ水柱一〇〇ミリメートルノ壓力ニ對シ堪フルコトヲ要ス

**第九條** 防毒面ノ吸氣系ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ吸氣ニ對シ水柱三〇ミリメートル以下ナルコトヲ要シ呼氣系ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ呼氣ニ對シ水柱八ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

**第十條** 防毒面ヲ裝著シタル場合覆面ハ顔面ニ適合シ接着良好ニシテ異狀ノ壓迫ヲ感せず且作業ニ依リ其ノ接着ヲ害セラレザルモノナルコトヲ要ス

**第十一條** 眼鏡ノ位置及大サハ裝面シタル場合相當ノ視界

管眞直ノ場合水柱一ミリメートル以下、一八〇度屈曲ノ場合水柱三ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

**第十六條** 吸收罐ハ金屬製トシ堅牢ニ構成シ火災ニ伴フ煙、一酸化炭素其ノ他ノ有害物ヲ吸收スル吸收劑ヲ充填シタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ吸收劑ハ濾層、脫水劑、「ホフカリツト」劑及活性炭炭ト「アルカリ」吸收劑トノ混劑ヲ順次別ノ層ト爲シタルモノ又ハ其ノ他適當ノ配劑ノモノニシテ裝面後連續二時間以上ノ使用ニ堪フルモノナルコトヲ要ス

**第十七條** 吸收罐ノ吸收試驗ニ於テハ通氣毎分三〇リットル、溫度二〇度、濕度五〇％ニ於テ左記各號ノ試驗ヲ各別箇ノ吸收罐ニ付行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス  
一 濃度〇・五％ノ「クロロピクリン」瓦斯チ一〇分間通過セシメタル後漏洩瓦斯ノ濃度〇・〇〇一％ヲ超エザルコト

二 濃度一・〇％ノ一酸化炭素瓦斯チ二時間通過セシメタル後漏洩瓦斯ノ濃度〇・〇五％ヲ超エザルコト  
三 濃度一立方メートルニ付二〇〇ミリグラムノ煙草ノ煙ヲ通過セシメタル後漏洩二五％ヲ超エザルコト  
**第十八條** 吸收罐ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ

ヲ與ヘ又眼鏡ノ透明度ハ良好ニシテ映像ヲ歪曲セシメザルモノナルコトヲ要ス

眼鏡ハ溫度零度ニ於テ一五分連續裝面スルモ曇ヲ生セザルモノナルコトヲ要ス

**第十二條** 覆面材料ハ刺戟性ヲ有セザルモノナルコトヲ要ス

**第十三條** 呼氣瓣ハ内外部壓力平衡ノ場合閉鎖状態ヲ保チ普通ノ呼氣及毎分一リットルノ割合ノ吸氣ニ對シ確實鋭敏ニ開閉スルモノナルコトヲ要ス

呼氣瓣ノ氣密度ハ内部壓力ヲ外部壓力ヨリ水柱二〇〇ミリメートル低下シテ一五秒時放置シタル場合内部壓力ノ上昇水柱一〇ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

呼氣瓣ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱六ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

**第十四條** 吸氣瓣ハ普通ノ吸氣及呼氣ニ對シ確實鋭敏ニ開閉シ其ノ通氣抵抗ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱二ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

**第十五條** 連結管ハ伸縮性及屈撓性十分ニシテ管腔容易ニ變形セザルモノナルコトヲ要ス  
連結管ノ通氣抵抗ハ毎分五〇リットルノ通氣ニ對シ連結

對シ水柱二五ミリメートル以下ナルコトヲ要シ且前條ノ規定ニ依ル各吸收試驗後ニ於ケル抵抗ノ増加ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱五ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

**第十九條** 吸收罐ノ通氣抵抗ハ之ヲ一五分時振盪シタル場合ニ於テ減少セザルコトヲ要シ其ノ増加ハ毎分三〇リットルノ通氣ニ對シ水柱五ミリメートル以下ナルコトヲ要ス

**第二十條** 吸收罐ハ二年以上有効ナルモノナルコトヲ要ス

**第二十一條** 吸收罐ノ外面ハ紅白二色ヲ以テ上下二層ニ塗裝スベシ

**第二十二條** 防毒面ノ覆面及吸收罐ニハ左ノ事項ヲ標示スベシ  
一 型式承認番號(型式承認ヲ受ケタルモノニ限ル)

二 製造番號  
三 製造年月  
四 有効期間(吸收罐ニ限ル)  
五 因ナル記號(吸收罐ニ限ル)  
六 製造者ノ氏名又ハ名稱  
**第二十三條** 防毒面ニハ一組毎ニ使用方法ヲ詳記シタル説



明書ヲ添附スベシ尙吸收罐ニハ其ノ取扱説明書ヲ貼附シ置クベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 艙口覆布試験規程

(昭和八年六月 逓信省令第二十七號)

第一條 艙口覆布ヲ分チテ左ノ二種トス

一 甲種覆布

二 乙種覆布

第二條 覆布用布地ハ良質ノ亞麻絲又ハ綿絲ヲ以テ織リタルモノナルコトヲ要ス

第三條 覆布ノ防水劑ハ適當ナル「タール」、油脂又ハ化學製品ナルコトヲ要ス

第四條 覆布用布地ノ防水加工前ニ於ケル重量ハ一平方メートルニ付甲種覆布ニ在リテハ六五〇グラム以上、乙種覆布ニ在リテハ四九〇グラム以上ナルコトヲ要ス但シ「タール」以外ノ防水劑ヲ使用スル場合ニハ防水劑ノ性質

ニ從ヒ前記ノ限度ヲ八五%迄輕減スルコトヲ得

第五條 覆布用布地ノ防水加工前ニ於ケル強力ハ幅三〇ミリメートルノ試験片ニ付長二〇〇ミリメートルニテ試験シタル結果經緯共甲種覆布ニ在リテハ八〇キログラム以上、乙種覆布ニ在リテハ六〇キログラム以上ナルコトヲ要ス但シ「タール」以外ノ防水劑ヲ使用スル場合ニハ防水劑ノ性質ニ從ヒ前記ノ限度ヲ八五%迄輕減スルコトヲ得

第六條 防水加工ヲ爲シタル覆布ハ當該官吏ノ適當ト認ムル防水度試験ニ合格スルコトヲ要ス

第七條 覆布ニ塗布シタル防水劑ハ當該官吏ノ適當ト認ムル溫度ニ於テ折疊ミタル際防水劑面ニ粘着、裂疵等ノ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第八條 覆布用布地ヲ縫合スル爲メノ累方、縫絲及縫方ハ當該官吏ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第九條 本令ノ規定ニ該當セザル覆布ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 舷窓試験規程

(大正十一年一月 逓信省令第六號)

第一條 舷窓ヲ分チテ左ノ二種トス

一 甲種舷窓

二 乙種舷窓

甲種舷窓ニハ内蓋及外蓋ヲ備ヘ乙種舷窓ニハ内蓋ヲ備フルコトヲ要ス

第二條 舷窓ノ各部ニハ舷窓ノ種別ニ從ヒ左表ニ掲グル種類ノ材料ヲ用フベシ

舷窓各部ノ名稱	材 料	
	甲種舷窓	乙種舷窓
窓 枠	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵
硝 子 枠	黃銅又ハ砲金	黃銅、砲金、鑄鋼又ハ可鍛鑄鐵
内 蓋	黃銅、砲金又ハ鑄鋼	黃銅、砲金、鑄鐵又ハ鑄鐵
外 蓋	鋼 板	鋼板、可鍛鑄鐵又ハ鑄鐵
蝶番軸針及締附螺釘	鍛黃銅	鍛黃銅

第三條 窓枠、硝子枠、甲種舷窓用内蓋、蝶番軸針及締附螺釘ハ左表ニ掲グル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

艙口覆布試験規程・舷窓試験規程



舷窓各部 ノ名 稱	試驗 種別	試 驗 片	試 驗 材 ノ 數	試 驗 規 格
黃銅製又ハ砲金製 ノ窓枠、硝子枠及 甲種舷窓用内蓋	抗張試驗	徑〇・五六四吋標點間ノ 長二吋ノモノ	鎔解毎ニ一箇(同一鎔解ヨ リ造リタル鑄物ノ數五十箇 ヲ超ユルトキハ超エタル數 五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一 箇ヲ加フ)	一平方吋ノ抗張力十四噸以 上、伸長ノ割合百分ノ七・五 以上、但シ乙種舷窓ニ用フ ルモノニ在リテハ抗張力ノ下 限ヲ十二噸ト爲スモ妨ナシ
鑄鋼製ノ窓枠及硝 子枠	屈曲試驗	現品(鑄放シノ儘燒鈍シ タルモノ)	鎔解毎ニ一箇(同一鎔解ヨ リ造リタル鑄物ノ數五十箇 ヲ超ユルトキハ超エタル數 五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一 箇ヲ加フ)	常溫ノ儘鎚打ニテ裂疵ヲ生 セズシテ屈曲シ得ル角度二 十度以上
鑄鐵製甲種舷窓用 内蓋	屈曲試驗	現品(鑄放シノ儘燒鈍シ タルモノ)	鎔解毎ニ一箇(同一鎔解ヨ リ造リタル鑄物ノ數五十箇 ヲ超ユルトキハ超エタル數 五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一 箇ヲ加フ)	常溫ノ儘鎚打ニテ裂疵ヲ生 セズシテ屈曲シ得ル角度三 十度以上
可鍛鑄鐵製ノ窓枠 及硝子枠	屈曲試驗	現品(鑄放シノ儘燒鈍シ タルモノ)	鎔解毎ニ一箇(同一鎔解ヨ リ造リタル鑄物ノ數五十箇 ヲ超ユルトキハ超エタル數 五十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一 箇ヲ加フ)	常溫ノ儘鎚打ニテ裂疵ヲ生 セズシテ屈曲シ得ル角度十 五度以上

鍛黃銅製ノ軸針及 締附螺釘	抗張試驗	徑〇・五六四吋標點間ノ 長二吋ノモノ但シ原徑 〇・五六四吋ヨリ小ナル モノニ在リテハ原徑ノ儘 スルコトヲ要ス	軸針又ハ締附螺釘ノ數各五 十箇又ハ其ノ未滿毎ニ一箇	一平方吋ノ抗張力二十五噸 以上、伸長ノ割合百分ノ二 十以上、但シ乙種舷窓ニ用 フルモノニ在リテハ抗張力ノ下 限ヲ二十二噸ト爲スモ妨ナシ
------------------	------	--	------------------------------	---

窓枠、硝子枠及内蓋ニ於テ周縁又ハ脊稜ノ突出特ニ著シ  
キ爲其ノ他ノ理由ニ依リ當該官吏ニ於テ現品ニ付屈曲試  
驗ヲ適當ニ執行シ難シト認ムルトキハ之ニ代ルベキ試驗  
方法ニ付逋信大臣ノ指揮ヲ受クベシ

**第四條** 舷窓各部ノ構造及寸法ハ其ノ要部ニ在リテハ第五  
條以下ノ規定並舷窓ノ内徑及種別ニ從ヒ別表ニ依リ之ヲ  
定メ其ノ他ノ部分ニ在リテハ當該官吏ノ適當ト認ムルモ  
ノナルコトヲ要ス

**第五條** 硝子枠ハ堅牢ナル蝶番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺  
釘ヲ以テ之ヲ締附ケ得ル装置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設  
ケ之ニ護謨其ノ他適當ノ填材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分  
水密ナラシメ得ルコトヲ要ス

**第六條** 締附螺釘三箇以上ヲ有スル硝子枠ニ在リテハ成ル  
ベク其ノ蝶番ノ壺金孔ヲ階圓形ト爲スベシ但シ此ノ場合  
ニ於テハ壺金ノ外徑ヲ別表ニ掲グルモノヨリ適當ニ増加

舷窓試驗規程

スルコトヲ要ス

**第七條** 内蓋ハ甲種舷窓ニ在リテハ厚八分ノ三吋以上、乙  
種舷窓ニ在リテハ厚四分ノ一吋以上ニシテ適當ノ補強脊  
稜ヲ有シ堅牢ナル蝶番ニ依リ窓枠ニ取附ケ締附螺釘ヲ以  
テ之ヲ締附ケ得ル装置ト爲シ且其ノ周圍ニ溝ヲ設ケ之ニ  
護謨其ノ他適當ノ填材ヲ附シ閉鎖シタルトキ充分水密ナ  
ラシメ得ルモノナルコトヲ要ス

**第八條** 硝子枠及内蓋ノ締附螺釘ハ堅牢ナル蝶番ヲ以テ窓  
枠ニ取附ケルモノナルコトヲ要ス  
甲種舷窓ノ締附螺釘ノ母螺ハ方形、六角形其ノ他螺廻具  
ヲ用ヒサレバ締附ケ及振戻シ得サル形ノモノナルコトヲ  
要ス

**第九條** 硝子枠及内蓋ノ周圍ニ設ケル溝ハ成ルベク表面ノ  
幅ヲ八分ノ三吋、底面ノ幅ヲ二分ノ一吋及深ヲ四分ノ一  
吋ト爲スベシ



第十條 外蓋ハ船内ヨリ取附ケ得ルモノニシテ窓枠ニ附シ

タル小突起其ノ他適當ナル裝置ニ依リ所定ノ位置ニ正確ニ適合シ其ノ外面ハ窓枠ノ外面ヨリ八分ノ一吋以上内方ニ在ルモノナルコトヲ要ス

第十一條 甲種舷窓ノ外蓋ノ厚ハ内徑十吋以上ノ舷窓ニ在リテハ八分ノ五吋以上、内徑十吋未満ノ舷窓ニ在リテハ二分ノ一吋以上ト爲スベシ  
前項ノ外蓋コ設クル把手用環ニ對スル凹部ハ其ノ徑二吋

(別表) 舷窓要部ノ構造及寸法

舷窓要部ノ名稱	舷窓ノ種別		舷窓ノ内徑		附螺釘	硝子枠及内蓋ノ締 番並硝子枠及内蓋ノ締附螺釘ノ蝶番	内蓋締附螺釘數	硝子枠締附螺釘數	螺釘ノ徑(吋)	内蓋締附螺釘數
	甲種	乙種	甲種	乙種						
6	7/8	1/2	7/16	5/16	1/2	8	8	5/8	2	
7	15/16	9/16	1/2	3/8	1/2	9	8	3/4	2	
8	1	5/8	1/2	3/8	9/16	10	8	3/4	3	
9	1 1/16	11/16	9/16	7/16	5/8	10	8	7/8	3	
10	1 1/8	3/4	9/16	7/16	5/8	11	8	1	3	
12	1 1/4	7/8	5/8	1/2	3/4	11	8	1 1/8	3	

二分ノ一以下ニシテ凹部ニ於ケル外蓋ノ厚八分ノ三吋以上ナルコトヲ要ス

第十二條 本令ニ該當セザル材料ニシテ特ニ遞信大臣ノ承認ヲ受ケタルモノ又本令ニ該當セザル構造及寸法ノ舷窓ニシテ當該官吏ニ於テ本令ニ定ムルモノト同等以上ノ效力ヲ有スト認メタルモノハ本令ニ適合スルモノト看做ス

附則 本令ハ大正十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

舷窓要部ノ名稱	硝子板ノ厚(吋)		外板ニ接スル窓枠平縁ノ厚(吋)		窓枠ヲ外板ニ取附クル螺釘		附螺釘	硝子枠締附螺釘數	螺釘ノ徑(吋)
	甲種	乙種	甲種	乙種	甲種	乙種			
6	7/8	1/2	7/16	5/16	1/2	8	8	5/8	2
7	15/16	9/16	1/2	3/8	1/2	9	8	3/4	2
8	1	5/8	1/2	3/8	9/16	10	8	3/4	3
9	1 1/16	11/16	9/16	7/16	5/8	10	8	7/8	3
10	1 1/8	3/4	9/16	7/16	5/8	11	8	1	3
12	1 1/4	7/8	5/8	1/2	3/4	11	8	1 1/8	3



### 錨試驗規程 (昭和十三年七月 逓信省令第五十六號)

- 第一條 本令ニ於テ錨ト稱スルハ船舶ニ使用スル錨ヲ謂フ
- 第二條 本令ノ規定ニ該當セザル錨ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス
- 第三條 錨ハ鍊鐵、鍛鋼又ハ鑄鋼ヲ以テ製造スルコトヲ要ス但シ錨柄、錨腕及錨爪以外ノ部分ニハ鑄鋼ヲ使用スルニトヲ得ズ
- 第四條 錨ノ構造及形狀ハ船舶ノ繫止ニ適スルモノナルコトヲ要ス
- 第五條 有錐錨ノ錨錐ノ重量ハ錨錐ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上ナルコトヲ要ス
- 第六條 錨ヲ組成スル鑄鋼材ハ其ノ大サニ應ジ適當ニ燒鈍スルコトヲ要ス
- 第七條 錨腕ノ長サトハ錨柄ト錨腕トヲ旋回軸ニテ連結スル錨ニ在リテハ該旋回軸ノ中心線ヨリ、其ノ他ノ錨ニ在

リテハ冠頂ヨリ錨爪ノ先端ニ至ル距離ヲ謂フ  
冠頂部凹形ナル錨ニ在リテハ錨腕ノ頂點ニ接スル平面ト錨柄中心線トノ交點ヲ冠頂ト看做ス

- 第八條 錨ノ重量ハ索引試驗ヲ行フ前ニ之ヲ測定ス
- 第九條 錨ハ其ノ構造ニ依リ錨腕毎ニ又ハ同時ニ二箇ノ錨腕毎ニ又ハ表裏轉換セシメ得ル錨腕ニ在リテハ其ノ各位置ニ付錨ノ重量(有錐錨ニ在リテハ錨錐ヲ除キタル重量)ニ應ジ別表ニ掲グル索引試驗荷重ヲ錨爪ノ先端ヨリ錨腕ノ長サノ三分ノ一ノ箇所ニ加ヘ裂疵、變形其ノ他ノ異狀ヲ生セザルコトヲ要ス但シ各試驗毎ニ錨爪及錨柄ノ端部ニ附シタル標點距離ノ變化ガ二〇ミリメートル以下ニシテ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十條 錨ヲ組成スル鑄鋼材ハ前條ノ試驗ヲ行フニ先チ各材ニ付左ノ各號ニ依リ試驗ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス
  - 一 屈曲試驗 幅二五ミリメートル厚サ一九ミリメートル

ルノ断面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五ミリメートルノ丸味ヲ附シタル試験片ヲ用ヒ常溫ノ儘二五ミリメートルノ内側半徑ヲ以テ九〇度屈曲セシムルモ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生セザルコトヲ要ス

- 二 落下試験 鑄鋼材ヲ其ノ重量ニ應ジ左表ニ掲グル高サヨリ硬質ノ地盤上ニ設置セラレタル鋼盤上ニ落下セシムルモ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生セザルコトヲ要ス

鑄鋼材ノ重量(斤)	鑄鋼材ノ下端ヨリ鋼盤上面迄ノ高サ(米)
七五〇未満	四・五
七五〇以上 一、五〇〇未満	四・〇
一、五〇〇以上 五、〇〇〇未満	三・五
五、〇〇〇以上	三・〇

錨柄ト錨腕トナ一體ニ鑄造シタル有錐錨ニ在リテハ最初錨柄及錨腕ヲ水平ニ吊リ規定ノ高サヨリ落下セシメ次ニ冠頂ヲ下向ニ垂直ニ吊リ規定ノ高サヨリ鋼盤上ニ移動セザル様並置シタル二箇ノ鋼枕上ニ冠頂ハ鋼盤ニ觸レズシテ各錨腕ノ中央部ヲ衝擊スル様落下セシムルモノトス

落下試験ニ於テ鋼盤ガ破損シタルトキハ之ヲ取替ヘ更

### 錨試驗規程

ニ試験ヲ行フコトヲ要ス

- 三 錘打試験 前號ノ試驗ニ合格シタル鑄鋼材ハ之ヲ吊リ重量三キログラム以上ノ錘ヲ以テ打チ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコトヲ要ス

- 第十一條 試験及検査ニ合格シタル錨ニハ錨柄中央部ニ重量(有錐錨ニ在リテハ錨錐ヲ除キタル重量)ヲ刻シ之ト同側ニ於テ錨腕ニ錨爪ノ先端ヨリ錨腕ノ長サノ約三分ノ二ノ箇所ニ検印、合格證明書番號及試験番號ヲ刻ス尙錨柄ト錨腕ガ別箇ノモノヨリ成ルトキハ錨柄ノ旋回軸附近ニモ検印、合格證明書番號及試験番號ヲ刻シ又ハ有錐錨ノ錨錐ニハ其ノ重量並ニ検印、合格證明書番號及試験番號ヲ刻ス

- 第十二條 錨ハ試験及検査ヲ行ヒタル後ニ非ザレバ之ニ塗料ヲ施スコトヲ得ズ

附 則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正九年九月逓信省令第七十六號錨鎖索試驗規程ハ之ヲ廢止ス



錨重量 (有錨ニ在リテ ハ錨ヲ除ク (噸))	牽引 試驗 荷重 (噸)	錨重量 (有錨ニ在リテ ハ錨ヲ除ク (噸))	牽引 試驗 荷重 (噸)	錨重量 (有錨ニ在リテ ハ錨ヲ除ク (噸))	牽引 試驗 荷重 (噸)
以上 未滿		以上 未滿		以上 未滿	
25—30	1.48	350—375	9.52	1450—1500	28.3
30—35	1.72	375—400	9.98	1500—1550	29.0
35—40	1.95	400—425	10.5	1550—1600	29.8
40—45	2.16	425—450	10.9	1600—1650	30.5
45—50	2.37	450—475	11.4	1650—1700	31.3
50—55	2.57	475—500	11.8	1700—1750	32.0
55—60	2.76	500—525	12.3	1750—1800	32.7
60—65	2.95	525—550	12.7	1800—1850	33.4
65—70	3.13	550—575	13.2	1850—1900	34.2
70—75	3.30	575—600	13.6	1900—1950	34.9
75—80	3.46	600—650	14.3	1950—2000	35.6
80—90	3.70	650—700	15.2	2000—2050	36.3
90—100	3.99	700—750	16.1	2050—2100	36.9
100—110	4.27	750—800	16.9	2100—2150	37.6
110—120	4.52	800—850	17.8	2150—2200	38.3
120—130	4.77	850—900	18.6	2200—2250	39.0
130—140	5.00	900—950	19.5	2250—2300	39.6
140—150	5.23	950—1000	20.3	2300—2350	40.3
150—165	5.51	1000—1050	21.2	2350—2400	40.9
165—180	5.85	1050—1100	22.0	2400—2450	41.6
180—200	6.25	1100—1150	22.8	2450—2500	42.2
200—225	6.81	1150—1200	23.6	2500—2550	42.8
225—250	7.18	1200—1250	24.4	2550—2600	43.5
250—275	7.64	1250—1300	25.2	2600—2650	44.1
275—300	8.11	1300—1350	26.0	2650—2700	44.7
300—325	8.58	1350—1400	26.7	2700—2750	45.3
25—350	9.05	1400—1450	27.5	2750—2800	45.9

錨重量 (有錨ニ在リテ ハ錨ヲ除ク (噸))	牽引 試驗 荷重 (噸)	錨重量 (有錨ニ在リテ ハ錨ヲ除ク (噸))	牽引 試驗 荷重 (噸)	錨重量 (有錨ニ在リテ ハ錨ヲ除ク (噸))	牽引 試驗 荷重 (噸)
以上 未滿		以上 未滿		以上 未滿	
2800—2850	46.5	4150—4200	60.7	6300—6400	77.5
2850—2900	47.1	4200—4250	61.2	6400—6500	78.2
2900—2950	47.7	4250—4300	61.6	6500—6600	78.8
2950—3000	48.3	4300—4350	62.1	6600—6700	79.4
3000—3050	48.8	4350—4400	62.5	6700—6800	80.1
3050—3100	49.4	4400—4450	63.0	6800—6900	80.7
3100—3150	50.0	4450—4500	63.4	6900—7000	81.3
3150—3200	50.5	4500—4550	63.9	7000—7100	82.0
3200—3250	51.1	4550—4600	64.3	7100—7200	82.6
3250—3300	51.6	4600—4650	64.7	7200—7300	83.2
3300—3350	52.2	4650—4700	65.1	7300—7400	83.8
3350—3400	52.7	4700—4800	65.8	7400—7500	84.4
3400—3450	53.3	4800—4900	66.6	7500—7600	85.0
3450—3500	53.8	4900—5000	67.4	7600—7700	85.6
3500—3550	54.3	5000—5100	68.2	7700—7800	86.1
3550—3600	54.8	5100—5200	69.0	7800—8000	87.0
3600—3650	55.3	5200—5300	69.8	8000—8200	88.1
3650—3700	55.9	5300—5400	70.5	8200—8400	89.2
3700—3750	56.4	5400—5500	71.3	8400—8600	90.3
3750—3800	56.9	5500—5600	72.0	8600—8800	91.4
3800—3850	57.4	5600—5700	72.7	8800—9000	92.4
3850—3900	57.9	5700—5800	73.5	9000—9200	93.4
3900—3950	58.3	5800—5900	74.2	9200—9400	94.4
3950—4000	58.8	5900—6000	74.9	9400—9600	95.3
4000—4050	59.3	6000—6100	75.5	9600—9800	96.2
4050—4100	59.8	6100—6200	76.2	9800—10000	97.1
4100—4150	60.2	6200—6300	76.9	10000—10300	98.2



鎖試験規程 (昭和十三年七月 遞信省令第五十七號)

第一條 本令ニ於テ鎖ト稱スルハ錨鎖及操舵鎖ヲ謂フ

第二條 本令ノ規定ニ該當セザル鎖ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條 鎖ハ其ノ各部分ニ應ジ左表ニ掲グル材料ニ依リ之ヲ製造スルコトヲ要ス

部 分 名	材 料
鎖環(「スタッド」ヲ除ク)、 「シヤツクル」及「スウイヴ ル」	壓延丸鐵又ハ壓延丸鋼
「スタッド」	鑄鐵、可鍛鑄鋼、鑄鋼又 ハ鍛鋼

前項ノ材料ハ當該官吏ノ適當ト認ムル材質ノモノニシテ  
裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第四條 鎖ノ普通鎖環、擴大鎖環、端末鎖環及「シヤツク  
ル」ノ形狀及寸法ハ別圖ニ掲グルモノヲ標準トスベシ  
根附鎖ノ鎖環ニ混用スル「スウイヴル」ノ形狀及寸法ハ

試驗荷重ヲ加ヘ裂疵、切斷其ノ他ノ異狀ヲ生ゼザルコ  
トヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ修理又ハ取替ヲ爲シ  
再試験ヲ行フコトヲ得但シ鎖環ガ鍛接部以外ノ箇所ニ於  
テ切斷シ又ハ鎖環ノ總數ノ百分ノ五以上ニ裂疵、切斷其  
ノ他ノ異狀ヲ生ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 鎖ノ「シヤツクル」ハ同一種類ノモノ二十五箇又  
ハ其ノ未滿毎ニ左ノ各號ニ依リ試験ヲ行ヒ之ニ合格スル  
コトヲ要ス  
一切斷試験 任意ニ採リタル一箇ノ「シヤツクル」ニ之  
ニ對應スル鎖ノ徑ニ應ジ別表ニ掲グル切斷試験荷重ヲ  
加ヘ之ニ堪ユルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ  
更ニ一箇ヲ採リ再試験ヲ行フコトヲ得  
二 牽引試験 前號ノ試験ニ合格シタル「シヤツクル」  
ニ之ニ對應スル鎖ノ徑ニ應ジ別表ニ掲グル牽引試験荷  
重ヲ加ヘ裂疵、切斷其ノ他ノ異狀ヲ生ゼザルコトヲ要  
ス

第十一條 鎖ノ形狀、寸法及重量ハ牽引試験ヲ行ヒタル後  
之ヲ検査ス

第十二條 試験及検査ニ合格シタルトキハ鎖ノ兩端ノ鎖環  
及各端ヨリ各八メートルノ位置ニ於ケル鎖環並ニ各「シ

鎖試験規程

當該客吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第五條 鎖一鏈ノ長サトハ一端ニ於ケル鎖環ノ内側外端ヨ  
リ他端ニ於ケル鎖環ノ内側外端ニ至ル距離ヲ謂フ

第六條 錨鎖(根附鎖用ノモノヲ除ク)ニ在リテハ一鏈ノ  
長サハ二五メートルヲ標準トシ各鏈ニ於ケル鎖環ノ總數  
ハ奇數ト爲スコトヲ要ス

第七條 鎖ノ重量ハ其ノ徑ニ應ジ別表ニ掲グル割合ノ重量  
ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第八條 「シヤツクル」ノ「ボルト」孔ハ壓延丸鐵ヲ以テ製造  
スル「シヤツクル」ニ在リテハ端部ヲ鍛接シテ之ヲ作リ  
壓延丸鋼又ハ鍛鋼ヲ以テ製造スル「シヤツクル」ニ在リ  
テハ鍛接セズシテ之ヲ作ルコトヲ要ス

第九條 鎖ハ一鏈毎ニ左ノ各號ニ依リ試験ヲ行ヒ之ニ合格  
スルコトヲ要ス

一 切斷試験 任意ニ採リタル三箇ノ連續スル鎖環ニ別  
表ニ掲グル切斷試験荷重ヲ加ヘ之ニ堪ユルコトヲ要ス  
若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ他ノ三箇ノ連續セル鎖  
環ヲ採リ再試験ヲ行フコトヲ得

二 牽引試験 前號ノ試験ニ合格シタル鎖ヲ當該官吏ノ  
適當ト認ムル鎖環ヲ以テ連結シ之ニ別表ニ掲グル牽引

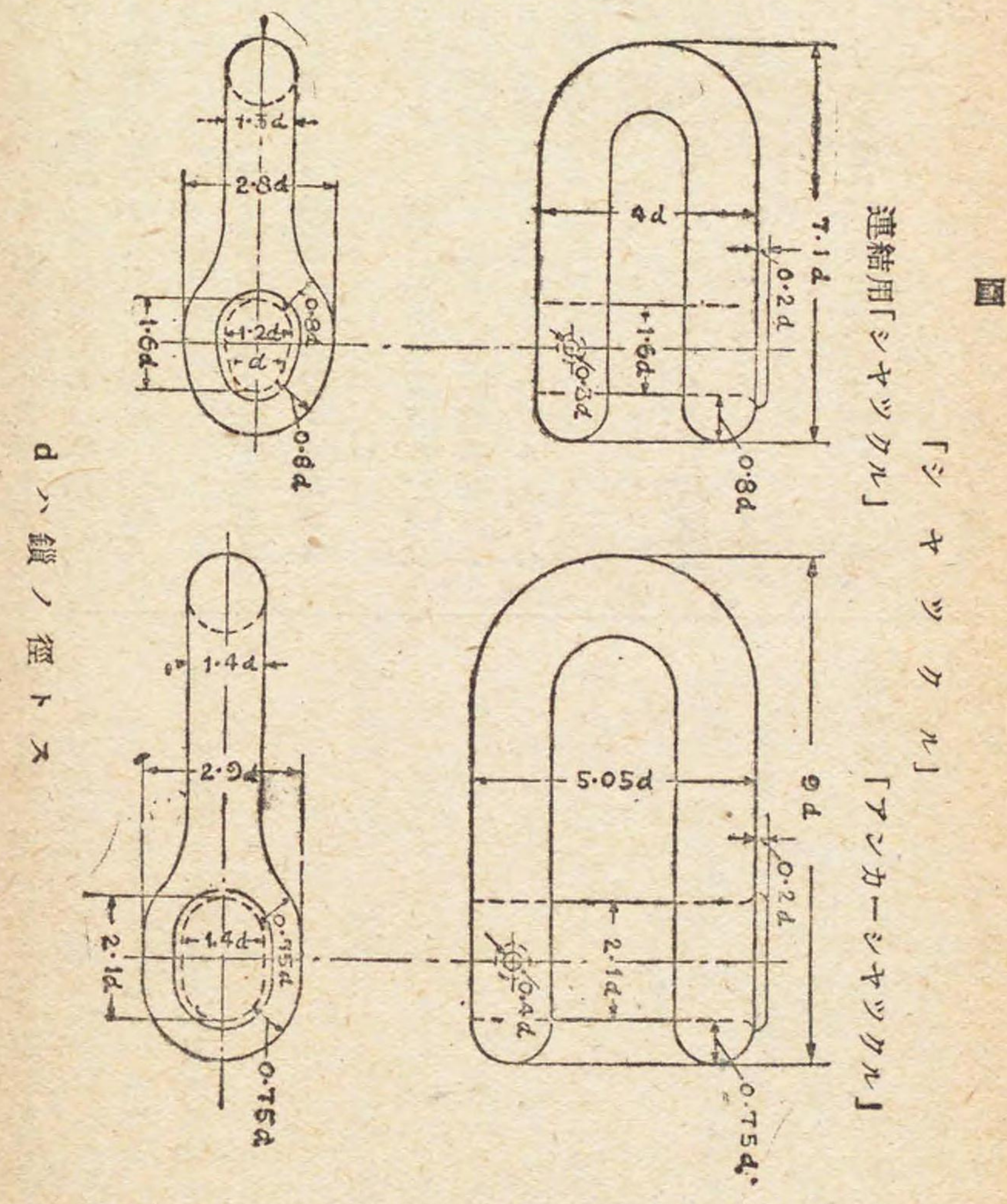
「ヤツクル」ニ檢印、合格證明書番號及試験番號ヲ刻ス

第十三條 鎖ハ試験及検査ヲ行ヒタル後ニ非ザレバ之ニ塗  
料ヲ施スコトヲ得ズ

附 則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

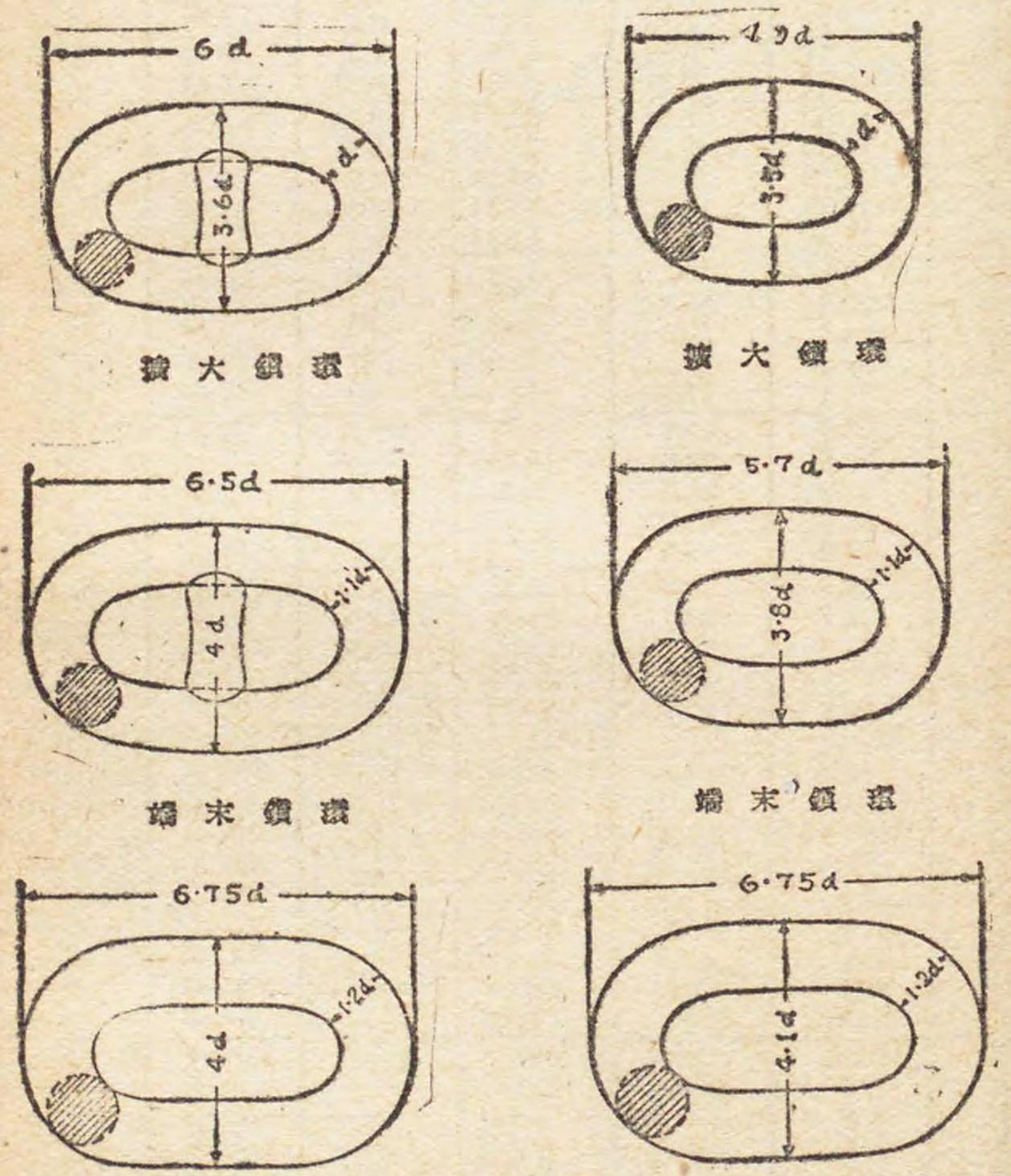




シヤツクル  
「シヤツクル」  
「アンカーシヤツクル」  
連結用「シヤツクル」

dハ鎖ノ徑トス

別  
 「スタツド」ヲ有スル鎖ノ鎖環 普通鎖環  
 「スタツド」ヲ有セザル鎖ノ鎖環 普通鎖環



dハ鎖ノ徑トス



(別表) 鎖ノ切斷及牽引試驗荷重並ニ重量

鎖ノ徑 (寸)	「スタッド」ヲ有スル鎖			「スタッド」ヲ有セザル鎖		
	切斷試驗荷重 (噸)	牽引試驗荷重 (噸)	鎖一米ノ重量 (斤)	切斷試驗荷重 (噸)	牽引試驗荷重 (噸)	鎖一米ノ重量 (斤)
6	—	—	—	1.36	0.68	0.76
7	—	—	—	1.85	0.92	1.08
8	—	—	—	2.41	1.21	1.40
9	—	—	—	3.05	1.53	1.76
10	—	—	—	3.77	1.89	2.16
11	5.13	3.42	2.52	4.56	2.28	2.60
12	6.11	4.08	3.00	5.43	2.71	3.12
13	7.17	4.78	3.42	6.37	3.19	3.64
14	8.31	5.55	4.08	7.39	3.69	4.24
15	9.54	6.37	4.68	8.48	4.24	4.88
16	10.9	7.24	5.32	9.65	4.83	5.56
17	12.3	8.18	6.00	10.9	5.45	6.24
18	13.7	9.17	6.76	12.2	6.11	7.00
19	15.3	10.2	7.52	13.6	6.80	7.80
20	17.0	11.3	8.32	15.1	7.54	8.64
21	18.7	12.5	9.16	16.6	8.31	9.56
22	20.5	13.7	10.08	18.2	9.12	10.48
23	22.4	15.0	11.00	19.9	9.97	11.44
24	24.4	16.3	12.00	21.7	10.9	12.48
25	26.5	17.7	13.00	23.6	11.8	13.52
26	28.7	19.1	14.08	25.5	12.7	14.64
27	30.9	20.6	15.16	—	—	—
28	33.2	22.2	16.32	29.6	14.8	16.96
29	35.7	23.8	17.48	—	—	—
30	38.2	25.5	18.72	33.9	17.0	19.48
32	43.4	29.0	21.32	38.6	19.3	22.16
34	48.7	32.7	24.04	43.6	21.8	25.04
36	54.0	36.7	26.96	48.9	24.4	28.04
38	59.3	40.9	30.04	54.4	27.2	31.28
40	64.6	45.3	33.28	60.3	30.2	34.64
42	70.4	49.9	36.72	66.5	33.3	38.20
44	76.7	54.8	40.38	73.0	36.5	41.92
46	83.8	59.9	44.04	79.8	39.9	45.80
48	91.2	65.2	47.96	86.9	43.4	49.88
50	99.0	70.8	52.04	94.3	47.1	54.12
52	107	76.5	56.28	—	—	—
54	115	82.5	60.68	—	—	—
56	124	88.7	65.24	—	—	—
58	133	95.2	70.00	—	—	—
60	143	102	74.92	—	—	—
62	152	109	80.00	—	—	—
64	162	116	85.24	—	—	—
66	169	121	90.64	—	—	—
68	177	127	96.20	—	—	—
70	185	132	101.96	—	—	—
72	192	137	107.88	—	—	—
74	199	142	113.96	—	—	—
76	207	148	120.20	—	—	—
78	214	153	126.60	—	—	—
80	221	158	133.16	—	—	—
82	228	163	139.92	—	—	—
85	238	171	150.32	—	—	—
88	248	177	161.12	—	—	—
91	257	184	172.32	—	—	—
94	266	190	183.88	—	—	—
97	275	196	195.80	—	—	—
100	282	201	208.08	—	—	—

### 索試験規程

(昭和十三年七月 逓信省令第五十八號)

#### 第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ索ト稱スルハ船舶ニ使用スル鋼索及麻索ヲ謂フ

第二條 本令ノ規定ニ該當セザル索ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第三條 索ノ徑ト稱スルハ索ノ外接圓ノ徑ヲ謂フ

第四條 索ノ撚リ方ハ其ノ子繩ノ撚リ方ト反對ナルコトヲ要ス

第五條 索ハ全長ヲ通ジテ徑、撚リノ度合等均等ナルコトヲ要ス

第六條 索ノ重量ハ其ノ種類及徑ニ應ジ第一表又ハ第二表ニ掲グルモノヲ標準トシ過不足ハ各百分ノ五以内ナルコトヲ要ス

第七條 試験及検査ニ合格シタル索ニハ鉛製封緘ヲ施シ檢印、合格證明書番號及試験番號ヲ附ス

#### 第二章 鋼 索

##### 索試験規程

第八條 鋼索ノ種別及其ノ構成ハ第一表ニ依ル

第九條 鋼索ノ子繩ヲ組成スル素線ニハ亞鉛鍍ヲ施スコトヲ要ス

第十條 素線ハ鋼索ノ全長ヲ通ジテ繼目ナキモノナルコトヲ要ス但シ止ムヲ得ザル場合ニ於テ當該官吏差支ナシト認メタルトキハ各子繩ニ於テ長サ一〇メートルニ付一箇所ヲ限り熔接又ハ撚續ヲ爲スコトヲ得

第十一條 鋼索及子繩ノ麻心ニハ良質ノ麻類ヲ使用シ適度ニ油類ヲ含マシムルコトヲ要ス

第十二條 鋼索ハ一條毎ニ左ノ各號ニ依リ試験ヲ行ヒ之ニ合格スルコトヲ要ス但シ靜索用ノモノニ付テハ第三號ノ試験ヲ行フコトヲ要セズ

一 切斷試験 索ヨリ採リタル試験片ニ付摺ミノ間隔ヲ徑ノ四〇倍以上ト爲シ之ヲ引張りテ切斷シタルトキ其ノ荷重ガ索ノ種別及徑ニ應ジ第一表ニ掲グル切斷荷重ヨリ小ナラザルコトヲ要ス

二 捲解試験 索ノ一部ヨリ七本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ七本、十二本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ十四本、其ノ他ノ鋼索ニ在リテハ二十一本ノ素線ノ試験片ヲ採リ之ト同一ノ徑ヲ有スル鋼線ノ周圍ニ八回密接シテ捲キ付



ケタル後之ヲ解長シ切斷セザル試験片ノ數ガ試験片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ規定數ノ試験片ヲ採リ再試験ヲ行フコトヲ得

再試験ニ於テハ前試験ト通算シ切斷セザル試験片ノ數ガ試験片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス

三 捻回試験 索ノ一部ヨリ七本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ七本、十二本線六ツ撚鋼索ニ在リテハ十四本、其ノ他ノ鋼索ニ在リテハ二十一本ノ素線ノ試験片ヲ採リ其ノ徑一ミリメートル以下ナルトキハ一〇〇ミリメートル、一ミリメートルヲ超ユルトキハ二〇〇ミリメートル

ルノ間隔ニ於テ之ヲ捻回シテ切斷シタルトキ其ノ捻回数ガ左表ニ掲グルモノノ二分ノ一以下ナル試験片ナク且左表ニ掲グルモノ以上ナル試験片ノ數ガ試験片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス若シ之ニ合格セザルトキハ更ニ規定數ノ試験片ヲ採リ再試験ヲ行フコトヲ得但シ左表ニ掲グル捻回数ノ二分ノ一以下ニテ切斷シタル試験片アルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得ズ

再試験ニ於テハ前試験ト通算シ規定ノ捻回数以上ニテ切斷シタル試験片ノ數ガ試験片總數ノ七分ノ六以上ナルコトヲ要ス

素線ノ徑 (耗)	捻回数	
	以下	以上
0.40	52	47
0.45	47	43
0.50	43	40
0.55	40	37
0.60	37	34
0.65	34	31
0.70	31	28
0.80	28	25
0.90	25	22
1.00	22	19
1.20	19	16
1.40	16	14
1.60	14	12
1.80	12	10
2.00	10	
2.30		
2.60		
2.90		
3.20		
3.50		
4.00		

鋼索ヲ數條ニ分割スル場合ニ在リテハ其ノ中ヨリ當該官吏ノ任意ニ採リタル一條ニ付前項ノ試験ヲ行ヒ合格シタ

ルトキハ其ノ他ノモノニ付テハ試験ヲ省略スルコトヲ得

第三章 麻 索

第十三條 麻索ハ總テ三ツ撚トシ其ノ種別及各子繩ニ於ケル「ヤーン」ノ最小數ハ第二表ニ依ル

第十四條 麻索ヲ構成スル「ヤーン」ノ太サ及材質ハ索ノ全長ヲ通ジテ均等ナルコトヲ要ス

第十五條 麻索ハ一條毎ニ試験片ヲ採リ摺ミノ間隔ヲ徑ノ四〇倍以上ト爲シ之ヲ引張りテ切斷シタルトキ其ノ荷重

第一表 鋼 索

第一表 鋼 索

二十四本線六ツ撚鋼索		三十本線六ツ撚鋼索		三十七本線六ツ撚鋼索	
切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)
4.50	0.330	4.10	0.310	4.23	0.360
6.48	0.475	5.90	0.446	6.09	0.518
8.82	0.647	8.04	0.608	8.29	0.706
11.5	0.845	10.5	0.794	10.8	0.922
14.6	1.069	13.3	1.004	13.7	1.166
18.0	1.320	16.4	1.240	16.9	1.440
21.8	1.597	19.8	1.500	20.5	1.742
25.9	1.901	23.6	1.786	24.4	2.074
30.4	2.231	27.7	2.096	28.6	2.434
35.3	2.587	32.1	2.430	33.2	2.822
40.5	2.970	36.9	2.790	38.1	3.240
46.1	3.379	42.0	3.174	43.3	3.686
52.0	3.815	47.4	3.584	48.9	4.162
58.3	4.277	53.1	4.018	54.8	4.666
65.0	4.765	59.2	4.476	61.1	5.198
72.0	5.280	65.6	4.960	67.7	5.760
79.4	5.821	72.3	5.468	74.6	6.350
87.1	6.389	79.4	6.002	81.9	6.970
95.2	6.983	86.8	6.560	89.5	7.618
104	7.603	94.5	7.142	97.5	8.294
113	8.250	103	7.750	106	9.000
122	8.923	111	8.382		
136	9.983	124	9.378		
151	11.101	138	10.428		
162	11.880	148	11.160		
173	12.685	158	11.916		
190	13.943	173	13.098		

ガ索ノ種別及徑ニ應ジ第二表ニ掲グル切斷荷重ヨリ小ナラザルコトヲ要ス但シ索ノ徑ノ四〇倍ガ一八〇〇ミリメートルヲ超ユルトキハ試験片ノ摺ミノ間隔ヲ一八〇〇ミリメートルニ止ムルコトヲ得

第十二條第二項ノ規定ハ麻索ニ之ヲ準用ス

附 則 本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス



索徑 (耗)	子繩ノ ヤーン ノ最小數	マニラ索		白麻索		タール索	
		切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)
20	16	1.73	0.288	2.16	0.318	1.65	0.356
22	19	2.09	0.348	2.61	0.385	1.99	0.431
24	23	2.49	0.415	3.10	0.458	2.36	0.513
26	27	2.92	0.487	3.63	0.537	2.77	0.602
28	31	3.38	0.565	4.20	0.623	3.20	0.698
30	36	3.88	0.648	4.81	0.716	3.67	0.801
32	41	4.41	0.737	5.47	0.814	4.16	0.911
35	50	5.26	0.884	6.52	0.974	4.96	1.090
40	64	6.85	1.152	8.47	1.272	6.45	1.424
45	81	8.65	1.463	10.7	1.610	8.11	1.802
50	100	10.6	1.800	13.1	1.988	9.96	2.225
55	121	12.8	2.178	15.7	2.405	12.0	2.692
60	144	15.2	2.592	18.6	2.862	14.2	3.204
65	169	17.8	3.042	21.7	3.359	16.5	3.760
70	196	20.6	3.528	25.1	3.896	19.1	4.361
75	225	23.6	4.057	28.6	4.472	21.8	5.006
80	256	26.8	4.608	32.4	5.088	24.6	5.696
85	289	30.1	5.218	36.3	5.744	27.7	6.430
90	324	33.7	5.832	40.5	6.440	30.8	7.209
95	361	37.4	6.498	44.9	7.175	34.1	8.032
100	400	41.4	7.200	49.4	7.950	37.6	8.900

索徑 (耗)	七本線六ツ 撚鋼索		十二本線六 ツ撚鋼索		十九本線六 ツ撚鋼索	
	麻心配置...索ノ中心 各子繩ノ 索線數.....7		麻心配置...及 各子繩ノ中心 各子繩ノ 索線數.....12		麻心配置...索ノ中心 各子繩ノ 索線數.....19	
	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)	切斷荷重 (噸)	重量 (噸/米)
10	2.89	0.370	3.15	0.250	2.98	0.365
12	4.16	0.533	4.54	0.360	4.29	0.526
14	5.66	0.725	6.17	0.490	5.83	0.715
16	7.39	0.947	8.06	0.640	7.62	0.934
18	9.35	1.199	10.2	0.810	9.64	1.183
20	11.5	1.480	12.6	1.000	11.9	1.460
22	14.0	1.791	15.3	1.210	14.4	1.767
24	16.6	2.131	18.1	1.440	17.2	2.102
26	19.5	2.501	21.3	1.690	20.1	2.467
28	22.6	2.901	24.7	1.960	23.3	2.862
30	26.0	3.330	28.4	2.250	26.8	3.285
32	—	—	32.3	2.560	30.5	3.738
34	—	—	36.4	2.890	34.4	4.219
36	—	—	40.8	3.240	38.6	4.730
38	—	—	45.5	3.610	43.0	5.271
40	—	—	50.4	4.000	47.6	5.840
42	—	—	—	—	52.5	6.438
44	—	—	—	—	57.6	7.066
46	—	—	—	—	63.0	7.723
48	—	—	—	—	68.6	8.410
50	—	—	—	—	74.4	9.125
52	—	—	—	—	—	—
55	—	—	—	—	—	—
58	—	—	—	—	—	—
60	—	—	—	—	—	—
62	—	—	—	—	—	—
65	—	—	—	—	—	—



### 船用品試験機試験規程

(昭和十二年四月)  
逓信省令第三十一號

#### 第一章 總 則

第一條 船用品試験機(以下試験機ト稱ス)ヲ分チテ左ノ四種トス

- 一 引張試験機
- 二 壓縮試験機
- 三 硬試験機
- 四 衝擊試験機

第二條 試験機ハ左ニ掲グル事項ヲ具備スルモノナルコトヲ要ス

- 一 据附正確ナルコト
- 二 構造堅牢ナルコト
- 三 動作圓滑ナルコト
- 四 精度十分ナルコト

第三條 試験機ノ又、又承、軸、軸承、槓桿、荷重標示、荷重裝置其ノ他各部ハ秤量ニ等シキ指示荷重ヲ以テ全荷重試験ヲ行ヒ異狀ヲ呈セザルモノナルコトヲ要ス

第四條 試験機ノ精度ノ試験ハ前條ノ試験ヲ行ヒタル後之ヲ行フモノトス

第五條 精度ノ試験ニ用フル檢定器、重錘、槓桿裝置、標準試験片其ノ他ノ計測器具ハ當該官吏ノ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス

第六條 特殊ノ構造ヲ有スル試験機ノ試験方法ハ逓信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第七條 試験機ニハ明瞭且耐久ノ文字ヲ以テ左ノ各號ノ標示ヲ爲スベシ

- 一 種類及型式
- 二 製造番號
- 三 秤量
- 四 製造年月
- 五 製造者ノ氏名又ハ名稱

第八條 本令ノ規定ニ該當セザル試験機ハ當該官吏ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

#### 第二章 引張試験機及壓縮試験機

第九條 引張試験機及壓縮試験機ハ指示荷重ヲ秤量ニ達セシメタル後裝置シ六〇秒時經過スルモ其ノ減少ガ秤量ノ

二〇%ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス

第十條 引張試験機及壓縮試験機ノ精度ノ試験ハ秤量ニ應ジ適當ニ定メタル五以上ノ試験荷重(指示荷重ニ依ル以下同シ)ニ付之ヲ行フモノトス但シ同一試験機ニシテ秤量ヲ變更シ得ルモノニ在リテハ最大秤量ニ對スル試験ノ場合ヲ除クノ外各秤量ニ對スル試験荷重ハ之ヲ五未滿ト爲スコトヲ得

前項ノ試験荷重中最大ノ荷重ハ秤量ノ八〇%以上ナルコトヲ要ス但シ秤量三〇〇應以上ノ試験機ニ在リテハ當該官吏ノ見込ニ依リ八〇未滿ト爲スコトヲ得

第十一條 前條ノ試験ハ無荷重狀態ヨリ順次荷重ヲ増加シ最大試験荷重ニ達セシメ更ニ順次荷重ヲ減少シテ其ノ部度各試験荷重ニ付之ヲ行フモノトス

前項ノ試験ハ五回之ヲ反覆スルモノトス

第十二條 本令ニ合格シタル引張試験機及壓縮試験機ノ第一回以後ノ試験ニ於テハ當該官吏ノ見込ニ依リ精度ノ試験ニ於ケル最大試験荷重、試験荷重ノ數及試験反覆回數ヲ減ズルコトヲ得

第十三條 機差ハ荷重ヲ順次増加スル場合及順次減少スル場合夫々各試験荷重ニ付之ニ對スル作用荷重ヲ測定シ其

船用品試験機試験規程

ノ平均ヲ求メ左ノ算式ニ依リ算定スルモノトス

$$\text{機差}\% = \frac{\text{試驗荷重} - \text{平均作用荷重}}{\text{試驗荷重}} \times 100$$

第十四條 引張試験機及壓縮試験機ノ精度ハ機差ガ正負一%ヲ超エズ且同一試験荷重ニ對スル作用荷重ガ著シク不同ナラザルモノナルコトヲ要ス

第十五條 引張試験機及壓縮試験機ノ感量ハ無荷重狀態ニ於テ荷重指示裝置ノ平衡位置ヲ明瞭ニ變化セシムル爲當該試験機ニ加フベキ荷重ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス但シ同一試験機ニシテ秤量ヲ變更シ得ルモノニ在リテハ最大秤量ニ對シ之ヲ定ムルニ止ムルコトヲ得

前項ノ平衡位置ノ變化明瞭ナリト認ムベキ程度ハ試験機ノ種類ニ應ジ當該官吏之ヲ定ム

第十六條 引張試験機及壓縮試験機ノ感量ハ最小目盛ノ表ハス荷重ヲ超エザルコトヲ要ス但シ當該官吏ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

#### 第三章 硬試験機

第十七條 硬試験機ヲ分チテ左ノ二種トス

- 一 押痕式硬試験機
- 二 反撥式硬試験機



第十八條 押痕式硬試驗機ニシテ油壓ニ依リ荷重ヲ加フルモノハ指示荷重ヲ秤量ニ達セシメタル後放置シ三〇秒時經過スルモ其ノ減少ヲ來サザルモノナルコトヲ要ス

第十九條 押痕式硬試驗機ノ壓子及反撥式硬試驗機ノ鏈ハ構造堅牢ニシテ形狀正確ナルモノナルコトヲ要ス

第二十條 押痕式硬試驗機ノ精度ノ試驗ハ秤量ニ應ジ適當ニ定メタル五以上ノ試驗荷重(指示荷重ニ依ル以下同ジ)ニ付之ヲ行ヒ反撥式硬試驗機ノ精度ノ試驗ハ秤量ニ應ジ適當ニ定メタル五以上ノ試驗硬度數ニ付之ヲ行フモノトス

前項ノ試驗ハ五回之ヲ反覆スルモノトス

第二十一條 押痕式硬試驗機ノ荷重裝置ノ機差ノ算定ハ第十三條ノ規定ニ依ル

第二十二條 押痕式硬試驗機ノ荷重裝置ノ各試驗荷重ニ對スル機差ハ正負一%ヲ超エズ且同一試驗荷重ニ對スル作用荷重ガ著シク不同ナラザルモノナルコトヲ要ス

第二十三條 硬試驗機ノ精度ハ試驗機ノ種類ニ應ジ其ノ全機差ガ左表ニ掲グルモノヲ超エザルコトヲ要ス

種	類		全機差
	荷重ノミニ依ルモノ 其ノ他ノモノ	正負一% 正負三%	
押痕式硬試驗機			
反撥式硬試驗機			正負二硬度數

第四章 衝擊試驗機

第二十四條 衝擊試驗機ノ振子系ノ吊心及重心竝ニ衝擊刃線ノ中點ハ一直線上ニ在ルコトヲ要ス

第二十五條 衝擊試驗機ノ衝擊刃線ノ中點ト擊心トハ能フ限り一致セシムルコトヲ要シ其ノ距離ハ一〇ミリメートルヲ超エザルヲ標準トス

第二十六條 衝擊試驗機ノ鏈ノ最大振上り角度ハ持上ゲ角度ハヨリ小ニシテ其ノ差ハ一度ヲ超ユルコトヲ得ズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年七月逡信省令第二十四號船用品試驗機試驗規程ハ之ヲ廢止ス

朝鮮船用品取締規則

(昭和十年二月 府令第二十六號)

船用品ノ取締ニ關シテハ本令ニ規定スルモノノ外昭和九年逡信省令第十七號船用品取締規則ニ依ル但シ第四條、第五條及第三十一條第一項ノ檢印ノ別記難形ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品取締規則中逡信大臣トアルハ朝鮮總督、逡信省管船局船舶試驗所又ハ同支所トアルハ管海官廳、船用品検査試驗規則トアルハ朝鮮船用品検査試驗規則、船用品ノ試驗規程又ハ船燈試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程トス

第一項ニ於テ依ルコトヲ定メタル船用品取締規則第三十一條第一項ノ檢印ハ別記難形ニ依ル

第一項ニ於テ依ルコトヲ定メタル船用品取締規則第一條ニ規定スル船用品ハ朝鮮船用品検査試驗規則若ハ之ニ該當スル逡信大臣、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル命令ニ依ル甲號檢印若ハ之ニ該當スル檢印又ハ本令若ハ之ニ該當スル逡信大臣、臺灣總督、滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル命令ニ依ル檢印ヲ附シタルモノナルコトヲ要ス

朝鮮船用品取締規則・朝鮮船用品検査試驗規則

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記難形)

海 檢

備考 「海檢」ノ上ニハ管海官廳所在地名ノ頭字ヲ冠スルモノトス

朝鮮船用品検査試驗規則

(昭和十年二月 府令第二十七號)

船用品ノ検査及試驗ニ關シテハ大正九年逡信省令第七十五號船用品検査試驗規則ニ依ル但シ同規則第六條第一項及第四項ノ檢印ノ別記難形竝ニ別表第五號表ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ

船用品検査試驗規則中逡信大臣トアルハ朝鮮總督、逡信省トアルハ朝鮮總督府逡信局、逡信省管船局船舶試驗所又ハ其ノ支所トアルハ管海官廳、船用品取締規則トアルハ朝鮮船用品取締規則、造船規程又ハ船舶機關規程トアルハ朝鮮造船規程又ハ朝鮮船舶機關規程、船燈試驗規程、信號器試



驗規程、救命具試驗規程、防毒面試驗規程、消火器試驗規程、火災警報裝置試驗規程、艙口覆布試驗規程、錨鎖索試驗規程又ハ舷窓試驗規程トアルハ朝鮮船用品試驗規程トス

第一項ニ於テ依ルコトヲ定メタル船用品検査試驗規則第六條第一項及第四項ノ檢印ハ別記雜形ニ依ル

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雜形)



朝鮮船用品試驗規程

(昭和十年二月 朝鮮總督府令第二十八號)

船用品ノ規格ニ關シテハ左ノ規程ニ依ル但シ同規程中遞信大臣トアルハ朝鮮總督、電氣工作物規程トアルハ朝鮮電氣工作物規程トス

一 大正九年遞信省令第七十六號錨鎖索試驗規程

- 二 大正十一年遞信省令第六號舷窓試驗規程
- 三 昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程
- 四 昭和九年遞信省令第十九號船燈試驗規程
- 五 昭和九年遞信省令第二十號信號器試驗規程
- 六 昭和九年遞信省令第二十一號救命器具試驗規程
- 七 昭和九年遞信省令第二十二號消火器試驗規程
- 八 昭和九年遞信省令第二十三號火災警報裝置試驗規程
- 九 昭和九年遞信省令第二十四號防毒面試驗規程

附 則

本令ハ昭和十年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

船用品検査試驗ニ關スル

件 (昭和八年五月 臺灣總督府令第六十三號)

改正 昭和九年三月 府令第二十一號

第一條 船用品ノ検査又ハ試驗ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外大正九年遞信省令第七十五號船用品検査試驗規則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ欄下ノ

事項トス

遞信省管船局船舶試驗所又ハ其ノ支所

臺灣總督府交通部

遞信大臣

臺灣總督府

遞信省

臺灣總督府

遞信省令

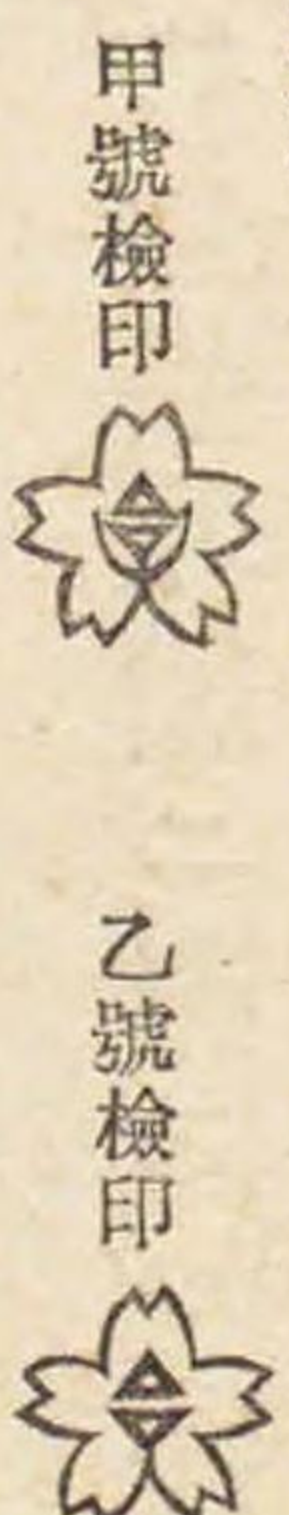
大正九年九月遞信省令第七十五號船用品検査試驗規則  
大正九年九月遞信省令第七十五號船用品検査規則第六條  
昭和八年臺灣總督府令第六十三號船用品検査試驗ニ關スル件

第三條 船用品検査試驗規則第六條ノ甲號及乙號檢印ハ別記雜形ノ通トシ同則別表ハ別表ノ通トス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記雜形)



(別表) 船用品検査試驗細目表

検査試驗品種別		検査試驗種別	適用規格	手定數	單位	料	手數	料	備考	取扱所名
霧中號角	效力試驗	信號器試驗規程	一	管	五、〇〇				試驗品ノ箇數ヲ計上スルニハ試驗ノ爲消耗シタルモノハ之ヲ算入セズ	交通局
榴彈	同	同	一	管	二、〇〇					交通局
火箭	同	同	一	管	二、〇〇					交通局
信號青焰	同	同	一	管	一、〇〇					交通局
信號紅焰	同	同	一	管	一、〇〇					交通局
救命浮環	效力試驗	救命具試驗規程	一	管	三、〇〇					交通局
救命胴衣	同	同	一	管	七、〇〇					交通局
救命焰	同	同	一	管	一、五〇					交通局

朝鮮船用品試驗規程・船用品検査試驗ニ關スル件(臺灣)



### 船舶ニ使用スル錨鎖及索ノ試験ニ關スル件

(昭和十四年二月) 臺灣總督府令第十號

船舶ニ使用スル錨ノ試験ニ關シテハ昭和十三年遞信省令第五十六號錨鎖試驗規定ニ、鎖ノ試験ニ關シテハ同年遞信省令第五十七號鎖鎖試驗規定ニ、索ノ試験ニ關シテハ同年遞信省令第五十八號索試驗規定ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和八年府令第六十八號(錨鎖索試驗ニ關スル件)ハ之ヲ廢止ス

### 舷窓試験ニ關スル件

(昭和八年五月) 臺灣總督府令第六十九號

舷窓試験ニ關シテハ大正十一年遞信省令第六號舷窓試驗規程ニ依ル但シ同省令中遞信大臣トアルハ臺灣總督トス

附 則

本令ハ昭和六年勅令第二百七十三號海事諸法臺灣施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 艙口覆布試験ニ關スル件

(昭和八年十月) 臺灣總督府令第一百三號

艙口覆布ノ試験ニ關シテハ昭和八年遞信省令第二十七號艙口覆布試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 船用品取締ニ關スル件

(昭和九年三月) 臺灣總督府令第二十號

第一條 船用品ノ取締ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外昭和九年遞信省令第十七號船用品取締規則ニ依ル

第二條 前條ノ遞信省令中左記上欄ノ事項ハ各其ノ下欄ノ事項トス

別記雛形

臺灣總督府交通局檢印(臺交檢)

管海官廳檢印 (臺檢)

備考 「臺檢」ノ間ニ管海官廳所在地ノ頭字一字ヲ挿入スルモノトス

別表

品名	製造免許船用品檢定手數料
霧中號角	〇・一〇
榴箭	〇・〇五
火號	〇・〇五
信號	〇・〇五
救命浮環	〇・一〇
救命胴衣	〇・一〇
救命具	〇・一〇

遞信大臣

銃砲火藥類取締法

臺灣總督 臺灣銃砲火藥類取締規則

遞信省管船局船舶試驗所(以下單ニ船舶試驗所ト稱ス)・船舶試驗所支所船舶試驗所

船舶試驗所

臺灣總督府交通局

船舶試驗所支所、船舶試驗所又ハ船舶試驗所支所

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所若ハ管海官廳)

遞信省管船局船舶試驗所(又ハ同支所) 遞信省管船局船舶試驗所、同支所又ハ管海官廳

附 則

第四條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 昭和八年府令第六十七號船燈信號器救命具取締ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

第六條 本令ニ依ル型式承認ハ當分ノ内之ヲ行ハズ

船舶ニ使用スル錨鎖及索ノ試験ニ關スル件(臺灣)・舷窓試験ニ關スル件(臺灣)・船用品取締ニ關スル件(臺灣)



船燈試驗ニ關スル件

(昭和八年五月) 臺灣總督府令第十四號

改正 昭和九年三月 府令第二十二號

船燈ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第十九號船燈試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船用信號器試驗ニ關スル

件 (昭和九年三月) 臺灣總督府令第二十三號

船用燈信號器ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十號信號器試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年府令第六十五號信號器試驗ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

船用救命器具試驗ニ關スル

件 (昭和九年三月) 臺灣總督府令第二十四號

船用救命器具ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十一號救命器具試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年府令第六十六號救命器具試驗ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス

船用消火器試驗ニ關スル

件 (昭和九年三月) 臺灣總督府令第二十五號

船用消火器ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十二號消火器試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船舶火災警報裝置試驗ニ

關スル件 (昭和九年三月) 臺灣總督府令第二十六號

船舶火災警報裝置ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十三號火災警報裝置試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船用防毒面試驗ニ關スル

件 (昭和九年三月) 臺灣總督府令第二十七號

船用防毒面ノ試驗ニ關シテハ昭和九年遞信省令第二十四號防毒面試驗規程ニ依ル

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

船燈試驗ニ關スル件(臺灣)・船用信號器試驗ニ關スル件(臺灣)・船用救命器具試驗ニ關スル件(臺灣)・船用消火器試驗ニ關スル件(臺灣)・船舶火災警報裝置試驗ニ關スル件(臺灣)・船用防毒面試驗ニ關スル件(臺灣)



### 第五章 國際條約

#### 無海岸國ノ船旗ニ關スル 權利ヲ承認スル宣言書

(大正十三年二月  
條約第二號)

正當ノ委任ヲ受ケタル下名ハ其ノ代表スル國ガ海岸ヲ有セザル國ノ船舶ニシテ其ノ版圖内ノ或一定ノ地ニ於テ登録セラレタルモノノ掲揚スル國旗ヲ承認スルコトヲ宣言ス其ノ地ハ之ヲ其ノ船舶ノ船籍港ト看做ス(下名略)

#### 海上ニ於ケル人命ノ安全 ノ爲ノ國際條約 (昭和十年七月 條約第五號)

獨逸國(以下締約國元首名省略)ハ合意ヲ以テ劃一ノ主義及規程ヲ設定スルコトニ依リ海上ニ於ケル人命ノ安全ヲ増進スルコトヲ希望シ  
右目的ハ條約ノ締結ニ依リ最良ク達成セラレ得ルコトヲ思

ヒ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)  
右各全權委員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

#### 第一章 緒言

##### 第一條

締約政府ハ海上ニ於ケル人命ノ安全ヲ増進スル爲本條約ノ規定ヲ實施スルコト及本條約ヲ十分且完全ニ實施スルニ必要ナル一切ノ規程ヲ公布シ其ノ他一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

本條約ノ規定ハ本條約ト同一ノ效力ヲ有シ且同時ニ實施セララル第一附屬書ニ掲ゲラルル規則ニ依リ補充セララル本條約ノ引用ハ同時ニ本條約ニ附屬セル規則ノ引用ヲ包含ス

##### 第二條

#### 適用及定義

一 本條約ノ規定ハ締約政府ヲ政府トスル國ニ屬スル船舶及第六十二條ニ依リ本條約ノ適用セララル地域ニ屬スル船舶ニ對シ左ノ如ク之ヲ適用スベシ

第二章(構造) 國際航海ニ從事スル旅客船(機械ニ依リ推進セララルモノ)

第三章(救命設備) 國際航海ニ從事スル旅客船(機械ニ依リ推進セララルモノ)

第四章(無線電信) 總噸數千六百噸未満ノ貨物船ヲ除クノ外國國際航海ニ從事スル一切ノ船舶

第五章(航行ノ安全) 一切ノ航海ニ從事スル一切ノ船舶

第六章(證書) 第二章、第三章及第四章ノ適用セララル一切ノ船舶

二 各章ノ適用セララル船舶ノ種別ハ各章ニ於テ一層明確ニ之ヲ定義シ又其ノ適用ノ範圍ハ各章ニ於テ之ヲ示ス

三 本條約ニ於テハ別段ノ明文規定ナキ限り

(イ) 一國ノ港ニ登録セラレタル船舶ハ之ヲ其ノ國ニ屬スルモノト看做ス

(ロ) 「主管廳」ナル用語ハ船舶ノ登録セラレタル國ノ政府ヲ意味ス

(ハ) 國際航海ハ本條約ノ適用セララル一國ヨリ其ノ國外ノ港ニ到ル航海又ハ其ノ逆ノ航海トス

此ノ目的ノ爲ニハ各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ之ヲ個個ノ國ト看

無海岸國ノ船旗ニ關スル權利ヲ承認スル宣言書・海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

全ノ爲ノ國際條約

做ス

(ニ) 十二人ヲ超ユル旅客ヲ運送スル船舶ハ旅客船トス

(ホ) 「規則」ナル用語ハ第一附屬書ニ掲ゲラルル規則ヲ意味ス

四 本條約ハ別段ノ明文規定ナキ限り海軍艦船ニハ之ヲ適用セズ

第三條

#### 不可抗力ノ場合

發航ノ際本條約ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ハ荒天又ハ其ノ他ノ不可抗力ノ原因ニ依リ豫定ノ航海ヨリ離路シタルガ爲本條約ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至ルコトナカルベシ

不可抗力ノ理由ニ依リ又ハ難船者若ハ其ノ他ノ者ヲ運送スベキ船長ノ義務ニ基キ船内ニ在ル人員ハ本條約ノ規定ノ船舶ニ對スル適用ノ確認ノ目的ノ爲ニハ計上セラレザルベシ

#### 第二章 構造

##### 第四條

#### 適用

一 本章ハ別段ノ明文規定アル場合ヲ除クノ外國國際航海ニ從事スル新旅客船ニ之ヲ適用ス

二 新旅客船ハ千九百三十一年七月一日以後龍骨ヲ据附ケ

一〇二三



タル旅客船又ハ同日以後旅客用ニ變更シタル船舶トシ他  
ノ一切ノ旅客船ハ之ヲ現存旅客船ト稱ス

三 各主管廳ハ航路及航海狀況ニ依リ本章ノ規定ノ適用ヲ  
不合理又ハ不必要ト認ムルトキハ其ノ國ニ屬スル個個ノ  
船舶又ハ或種類ノ船舶ニシテ其ノ航海中最近ノ陸地ヨリ  
二十海里ヲ超エテ航行スルコトナキモノニ對シ本章ノ規  
定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

四 旅客船ニシテ航海中最近ノ陸地ヨリ二百海里ヲ超エテ  
航行スルコトナキモノニ付テハ該船舶ノ屬スル國ノ主管  
廳ハ第九規則、第十規則、第十五規則及第十九規則ノ規  
定ニシテ其ノ合理的ナラズ又ハ實行可能ナラザルコトガ  
該主管廳ニ十分證明セラレタルモノノ適用ヲ緩和スルコ  
トヲ得

五 國際航海ニ從事スル現存旅客船ニシテ新旅客船ニ關ス  
ル本章ノ規定ニ未ダ適合セザルモノニ付テハ該船舶ノ屬  
スル國ノ主管廳ハ安全増加ノ爲實行可能且合理的ナル改  
善ノ爲サルルコトノ目的ヲ以テ各船ニ於ケル設備ヲ考慮  
スベシ

六 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特殊運送例ヘバ巡禮  
者運送ノ如キ多數ノ無寢床旅客ノ運送ニ使用セラルルモ

三 第一規則乃至第五規則ハ船舶ニ適用スベキ區畫ノ程度  
ヲ決定スル爲ニ遵守スベキ方法ヲ示ス

四 所定ノ區畫ノ程度ヲ保持スル爲承認區畫吃水ニ對應ス  
ル滿載吃水線ヲ指定シ之ヲ船側ニ標示スベシ特ニ旅客ノ  
設備ト貨物ノ運送トニ交替ニ供用スル場所ヲ有スル船舶  
ハ船舶所有者ノ希望アルトキハ右交替使用ノ状態ニ應ジ  
主管廳ニ於テ承認スルコトアルベキ區畫吃水ニ對應スル  
爲指定且標示セラレタル一個又ハ二個以上ノ追加滿載吃  
水線ヲ有スルコトヲ得各承認區畫吃水ニ對應スル乾舷及  
之ヲ承認シタル使用状態ハ明瞭ニ之ヲ安全證書ニ表示ス  
ベシ區畫吃水線ハ第七規則ニ規定シタル方法ニ依リ之ヲ  
標示且記載スベシ

第六條

船首尾及機關客隔壁、軸路等

一切ノ船舶ニハ第六規則ノ規定ニ從ヒ船首及船尾並ニ機關  
室ノ兩端ニ水密隔壁ヲ設ケ尙螺旋推進器船ニ在リテハ水密  
ノ軸路又ハ之ト同一效力ノ區畫ヲ設クベシ

第七條

構造、試験等

第八規則乃至第十三規則及第十五規則乃至第二十一規則ハ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

ノニ付テハ主管廳ハ本章ノ規定ニ適合スルコトヲ強制ス  
ルコト實行不可能ナリト認メタルトキハ其ノ國ニ屬スル  
該船舶ニ對シ左ノ條件ニ從ヒ右規定ノ適用ヲ免除スルコ  
トヲ得

(イ) 構造ニ付テハ運送ノ事情ノ許ス限り十分ナル設備  
ヲ爲スコト

(ロ) 此等運送ノ特殊事情ニ適用セラルベキ一般規則ヲ  
制定スルノ措置ヲ執ルコト 該規則ハ當該旅客ノ運送  
ニ直接利害關係アル他ノ締約政府アルトキハ其ノ政府  
ト協議ノ上之ヲ制定スベシ

七 本章ハ機械ニ依リ推進セラレザル船舶及「ダウ」、ジ  
ンク」等ノ如キ原始的構造ノ木船ニハ之ヲ適用セズ

第五條

船舶ノ水密區畫

一 船舶ハ其ノ目的トスル用途ノ性質ニ從ヒ能フ限り有效  
ニ之ヲ區畫スベシ區畫ニ關スル規定ハ以下諸條及規則ニ  
於テ之ヲ定ム

二 右規定ニ依リ定メラルル區畫ノ程度ハ區畫ノ最高程度  
ガ主トシテ旅客ノ運送ニ從事スル最長ノ船舶ニ對應スル  
如ク船舶ノ長サ及用途ニ從ヒ變化ス

左ノ事項ニ付規定ス

(イ) 區畫隔壁、二重底、水密甲板、圍壁、通風筒、耐火

隔壁等ノ構造及試験

(ロ) 隔壁、船側及露天甲板ニ於ケル開口ヲ律スル條件並  
ニ右開口ヲ閉鎖スル爲用意セラルベキ裝置ノ性質及用法

(ハ) 隔壁及船側ニ於ケル開口ノ閉鎖裝置ノ試験、定期檢  
査及定期操作

(ニ) 水密區畫室ヨリノ出口

(ホ) ポンプ排水裝置

(ヘ) 後退力及補助操舵裝置

第八條

復原性試験

各新旅客船ハ其ノ竣工ノ際之ヲ傾ケ其ノ復原性ノ要素ヲ決  
定スベシ操縦者ハ此ノ問題ニ關シ船舶ノ有效ナル操縦ヲ爲  
シ得ルニ必要ナル報告ヲ供給セラルベキモノトス

第九條

公用航海日誌ノ記入

水密戸等ノ開閉並ニ一切ノ検査及操練ニ關スル記録ハ第十  
四規定ニ規定スル所ニ從ヒ公用航海日誌ニ之ヲ記入スベシ

第十條



船舶ノ最初及爾後ノ検査

新船タルト現存船タルトニ拘ラズ船體、主及副ノ汽罐及機關並ニ機裝品ニ關スル検査ヲ律スベキ一般原則ハ第二十二規則ニ之ヲ示ス各締約政府ハ左ノ事項ヲ行フコトヲ約ス

- (一) 右一般原則ニ從ヒ細目規程ヲ制定シ又ハ右原則ニ一致セシムル爲現行規程ヲ改正スルコト
  - (二) 右規程ノ施行ヲ確保スルコト
- 前項ノ細目規程ハ一切ノ點ニ於テ人命安全ノ見地ヨリ船舶ガ其ノ目的トスル用途ニ適スルコトヲ確保スルモノタルベシ

第三章 救命設備等

第十一條

解釋

本章ニ於テハ

- (イ) 「新船」ナル用語ハ千九百三十一年七月一日以後龍骨ヲ据附ケタル船舶ヲ意味シ他ノ一切ノ船舶ハ之ヲ現存船舶ト稱ス
- (ロ) 「短國際航海」ナル用語ハ船舶ガ航海中最近ノ陸地ヨリ二百海里ヲ超ユルコトナキ國際航海ヲ意味ス
- (ハ) 「救命浮器」ナル用語ハ浮甲板腰掛、浮甲板椅子又ハ

其ノ他ノ救命浮器ニシテ端艇、救命浮環及救命胴衣ニ非ザルモノヲ意味ス

第十二條

適用

- 一 本章ハ別段ノ明文規定アル場合ヲ除クノ外機械ニ依リ推進セラレ且國際航海ニ從事スル新旅客船ニ之ヲ適用ス
- 二 短國際航海ニ從事スル新旅客船ニ付テハ第十三條、第十四條、第十九條及第二十五條ニ特別ノ規定ヲ設ク
- 三 各主管廳ハ航路及航海狀況ニ依リ本章ノ規定ノ全部ノ適用ヲ不合理又ハ不必要ト認ムルトキハ其ノ程度ニ於テ其ノ國ニ屬スル個個ノ船舶又ハ或種類ノ船舶ニシテ其ノ航海中最近ノ陸地ヨリ二十海里ヲ超エテ航行スルコトナキモノニ對シ本章ノ規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得
- 四 機械ニ依リ推進セラレ且國際航海ニ從事スル現存旅客船ニシテ新旅客船ニ關スル本章ノ規定ニ未ダ適合セザルモノニ付テハ該船舶ノ屬スル國ノ主管廳ハ實行可能且合理的ナル限り千九百三十一年七月一日迄ニ第十三條ノ一般原則ニ適合セシメ又本章ノ他ノ規定ニ實質的ニ適合セシムルコトヲ確保スル目的ヲ以テ各船ニ於ケル設備ヲ考慮スベシ

五 機械ニ依リ推進セラレ且國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特殊運送例ヘバ巡禮者運送ノ如キ多數ノ無寢床旅客ノ運送ニ使用セラルルモノニ付テハ主管廳ハ本章ノ規定ニ適合スルコトヲ強制スルコト實行不可能ナリト認メタルトキハ其ノ國ニ屬スル該船舶ニ對シ左ノ條件ニ從ヒ右規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

- (イ) 救命艇其ノ他ノ救命設備及防火設備ニ付運送ノ事情ノ許ス限り十分ナル設備ヲ爲スコト
- (ロ) 右一切ノ端艇及設備ハ第十三條ノ趣旨ニ從ヒ容易迅速ニ使用シ得ルモノナルコト
- (ハ) 救命胴衣ハ船内各人ニ付一個ヲ備フルコト
- (ニ) 此等運送ノ特殊事情ニ適用セラルベキ一般規則ヲ制定スルノ措置ヲ執ルコト該規則ハ當該旅客ノ運送ニ直接利害關係アル他ノ締約政府アルトキハ其ノ政府ト協議ノ上之ヲ制定スベシ

第十三條

救命艇及救命浮器

本章ノ適用セラルル船舶ニ於ケル救命艇及救命浮器ノ備付ヲ律スル一般原則ハ救命艇及救命浮器ガ非常ノ場合ニ容易迅速ニ使用シ得ベキコト及十分ナルベキコトトス

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

一 容易迅速ニ使用シ得ルモノナル爲ニハ救命艇及救命浮器ハ左ノ條件ニ適合スルコトヲ要ス

- (イ) 救命艇及救命浮器ハ船舶ノ横傾斜及縱傾斜ザ不利ノ状態ニ在ル場合ニ於テモ安全且迅速ニ水ニ卸シ得ルコト
- (ロ) 旅客ヲ迅速ニ且秩序善ク端艇ニ乗込マシメ得ルコト
- (ハ) 各端艇及各救命浮器ノ配置ハ他ノ端艇及救命浮器ノ操作ヲ妨ゲザルモノナルコト
- 二 十分ナルモノナル爲ニハ救命艇及救命浮器ノ備附ハ左ノ條件ヲ充スコトヲ要ス
- (イ) 本項(ロ)ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外端艇ニ船内全人員ニ對スル收容力アルコト尙船内全人員ノ百分ノ二十五ニ對スル救命浮器ヲ備フルコト
- (ロ) 短國際航海ニ從事スル旅客船ニ付テハ端艇ハ第三十九規則ノ表ニ示ス所ニ從ヒ之ヲ備附ケ尙又救命浮器ハ之ト端艇トヲ併セタルモノガ第三十八規則ニ示ス通船内全人員ニ對シ收容力アル様之ヲ備フルコト尙又船内全人員ノ百分ノ十二ニ對スル救命浮器ヲ備フルコト
- (ハ) 如何ナル旅客船モ船内全人員ヲ收容スルニ足ルモ



ノナルヨリ多クノ端艇ヲ要求セラルルコトナカルベシ

第十四條

容易迅速ニ使用シ得ルコト及十分ナルコト

第十三條ニ掲グル容易迅速ニ使用シ得ルコト及十分ナルコトノ原則ヲ確保スル爲ノ設備ハ第三十七規則、第三十八規則及第三十九規則ノ規定ニ從フベシ

第十五條

端艇ノ標準型、救命筏、救命浮器

一切ノ救命艇、救命筏及救命浮器ハ本條約及第二十四規則乃至第二十九規則ニ定ムル條件ニ適合スルモノタルベシ

第十六條

端艇ノ構造

一切ノ端艇ハ適當ニ構造セラルルコトヲ要シ又海上ニ於テ十分ナル復原性ヲ有シ且人及艤裝品ヲ満載シタルトキ十分ノ乾舷ヲ有スル形狀及割合ノモノタルベシ  
各端艇ハ人及艤裝品ヲ満載シテ之ヲ安全ニ水面ニ卸シ得ルニ十分ナル強サノモノナルコトヲ要ス

第十七條

旅客ノ乗艇

乘艇甲板ニ於テ旅客ヲ端艇ニ乗込マシムル爲適當ナル設備

四 本條ニ於テ「救命胴衣」ナル用語ハ身體ニ著用シ得ル一切ノ用具ニシテ救命胴衣ト同一浮力ヲ有スルモノヲ含ム

第二十一條

出入装置、非常照明

一 各區畫室、甲板等ニ出入スル爲適當ナル設備ヲ爲スベシ  
二 船舶ノ各部分殊ニ救命艇ノ備附アル甲板ニハ安全上十分ナル電燈其ノ他ノ照明装置ヲ爲スベシ端艇甲板ガ最低航海吃水線上九メートル一五(三十フット)ヨリ高キ船舶ニ在リテハ救命艇ガ船側ニ在ルトキ及救命艇ノ卸作業中又ハ其ノ終了直後ニ於テ船舶ヨリ救命艇ヲ照明スル装置ヲ爲スベシ右安全照明装置ニ必要ニ應ジ供給ヲ爲シ得ル獨立ノ發力装置ヲ備ヘ該装置ヲ隔壁甲板上ニシテ船舶ノ上部ニ設置スベシ  
三 旅客又ハ船員ノ使用スル各主要區畫ヨリノ出口ハ常ニ非常燈ヲ以テ之ヲ照シ置クベシ右非常燈用ノ力ハ主發力装置ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ右非常燈ガ前項ニ示シタル獨立ノ装置ヨリ供給ヲ受クル様之ヲ施設スベシ

第二十二條

證明書ヲ有スル救命艇手、端艇配員

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

ヲ爲スベシ尙各組ノ端艇鈎ニ適當ナル梯子ヲ備ヘ置クベシ

第十八條

端艇及救命筏ノ收容量

標準型端艇又ハ承認ヲ受ケタル救命筏及救命浮器ノ收容シ得ベキ人數並ニ救命筏及救命浮器ノ承認條件ハ第三十規則乃至第三十五規則ノ規定ニ從ヒ之ヲ定ムベシ

第十九條

端艇及救命筏ノ艤裝

第三十六規則ハ端艇及救命筏ノ艤裝ニ付規定ス

第二十條

救命胴衣及救命浮環

一 本章ノ適用セラルル各船舶ハ船内各人ニ付一個ノ主管應承認型救命胴衣ヲ備ヘ尙又該救命胴衣ガ小兒ノ使用ニ適セザルトキハ小兒ニ適スル救命胴衣ノ十分ナル數ヲ備フベシ

二 右ノ各船舶ハ尙第四十規則ニ定ムル數ノ主管應承認型救命浮環ヲ備フベシ

三 救命胴衣又ハ救命浮環ハ救命胴衣及救命浮環ニ夫々適用セラルベキ第四十規則ノ規定ニ適合スルニ非ザシバ主管應ニ於テ之ヲ承認スルコトヲ得ザルベシ

一 本章ノ適用セラルル各船舶ニハ本章ノ規定ニ適合スル爲ニ備附ケタル端艇又ハ救命筏ニ對シ第四十一規則ニ於テ該端艇又ハ該救命筏ニ付規定スル數ノ證明書ヲ有スル救命艇手ヲ乘組マシメ置クコトヲ要ス

二 各端艇及救命筏ニ對スル證明書ヲ有スル救命艇手ノ割當ハ之ヲ事情ニ應ジ船長ノ裁量ニ委ヌ

三 「證明書ヲ有スル救命艇手」トハ前記規則ニ規定スル條件ニ從ヒ主管應ノ權限ノ下ニ發行シタル適任證書ヲ有スル船員ヲ謂フ

四 端艇配員ハ第四十二規則ニ規定スル所ニ依ルベシ

第二十三條

救命索發射器

本章ノ適用セラルル各船舶ハ主管應承認型ノ救命索發射器ヲ備附クベシ

第二十四條

危險物、防火

一 性質、數量又ハ積付方ニ依リ單獨ニテ又ハ集合ニテ旅客ノ生命又ハ船舶ノ安全ヲ害スル虞アル貨物ハ積荷又ハ脚荷トシテ之ヲ運送スルコトヲ禁ズ  
右規定ハ船舶ノ遭難信號用品ニ又ハ主管應ノ承認セル條



件ノ下ニ國ノ公用ノ爲ニスル海陸軍需品ノ運送ニハ之ヲ適用セズ

各主管廳ハ隨時告示ヲ以テ危險物ト認ムベキ品目ヲ決定シ且其ノ包裝及積付ニ關シ爲スベキ注意事項ヲ指示スベシ

二 火災ノ發見及消防ニ付爲スベキ設備ハ第四十三規則ニ規定スル所ニ依ルベシ

第二十五條

召集表及操練

非常ノ出來事ニ對スル特別任務ハ之ヲ各船員ニ割當ツベシ召集表ニハ右一切ノ特別任務ヲ示シ特ニ各員ノ就クベキ部署及其ノ遂行スベキ任務ヲ指示スベシ  
召集表ハ船舶ノ發航前ニ之ヲ作成及發表スベク且當該機關ハ召集表ガ該船舶ノ爲ニ整備セラレタルコトヲ確ムベシ召集表ハ船舶ノ諸所特ニ船員室區域ニ之ヲ揭示スベシ  
第四十四規則及第四十五規則ハ船員ノ召集及操練ヲ行フ場合ノ條件ニ付規定ス

第四章 無線電信

第二十六條

適用及定義

(イ) 個個ノ旅客船又ハ或種類ノ旅客船ニシテ其ノ航海中

海中

(一) 最近ノ陸地ヨリ二十海里ヲ超エテ航行セザルモノ又ハ

(二) 相隣レル二港間ニ於テ外海二百海里ヲ超エテ航行セザルモノ

(ロ) 本條附記ニ掲グル制限區域内ノミノ航海ヲ爲ス旅客船

(一) 貨物船

個個ノ貨物船又ハ或種類ノ貨物船ニシテ其ノ航海中最近ノ陸地ヨリ百五十海里ヲ超エテ航行セザルモノ

二 各主管廳ハ尙其ノ國ニ屬スル船舶ニシテ左ニ掲グル種類ノモノニ對シ免除スルコトヲ得

(一) 被曳船及現存帆船

現存帆船ハ千九百三十一年七月一日前ニ龍骨ヲ据附ケタル帆船トス

(二) 「ダウ」、「ジャンク」等ノ如キ原始的構造ノ船舶ニシテ無線電信設備ヲ備附クルコト實際上不可能ナルモノ

(三) 本來國際航海ニ從事セザル船舶ナルモ例外的事情

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

一 本章ハ總噸數千六百噸未満ノ貨物船ヲ除クノ外國國際航海ニ從事スル一切ノ船舶ニ之ヲ適用ス

二 本章ニ於テ貨物船トハ旅客船ニ非ザル船舶ヲ謂フ

第二十七條

無線電信設備ノ備附

一 本章ノ適用セララルル一切ノ船舶ハ第二十八條ニ依リ免除セラレザル限り左ノ如ク第三十一條ノ規定ニ適合スル無線電信設備ヲ備附クベシ

(イ) 大小ニ拘ラズ一切ノ旅客船

(ロ) 總噸數千六百噸以上ノ一切ノ貨物船

二 各主管廳ハ本條實施ノ日ヨリ五年ヲ超エザル期間其ノ國ニ屬スル總噸數二千噸未満ノ貨物船ニ對シ前項(ロ)ノ規定ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十八條

第二十七條ノ規定ノ適用ノ免除

一 各主管廳ハ航路及航海狀況ニ依リ無線電信設備ノ備附ヲ不合理又ハ不必要ト認ムルトキハ其ノ國ニ屬スル船舶ニ對シ左ノ如ク第二十七條ノ規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

(一) 旅客船

ニ基キ單一ノ國際航海ヲ爲スコトヲ要スルモノ

第二十八條附記

一 北ハ「ウトシレ」(諾成國)ヨリ南ハ「テキセル」(和蘭國)ニ引キタル線ノ東方ニ在リテ「ソウイェト」社會主義共和國聯邦ノ領域外ノ「バルティック」海及其ノ接續海

二 北海道ノ諸港ト日本領樺太ノ諸港トノ間ノ航海ニ要スル韃靼海灣及「オホツク」海ノ部分

三 北ハ川尻岬(ナツング)岬ヨリ釜山ニ引キタル線ト南ハ長崎ヨリ馬羅島(濟洲島)ノ南西角沖合ヲ經テ珍島(アムハースト)島ニ引キタル線トノ間ノ朝鮮海峽

四 北緯三十七度以北ノ黃海

五 北ハ富貴角(シアウキ)角ヨリ福州ニ引キタル線ト南ハ鷺鑾鼻(臺灣ノ南端)ヨリ香港ニ引キタル線トノ間ノ臺灣海峽

六 左ニ掲グル限界内ノ區域

東經九十四度ヨリ「アジア」沿岸ニ至ル北緯十度ノ線、西貢(「テイワン」岬)ニ至ル「アジア」沿岸線、「テイワン」岬ヨリ北緯四度三十分東經百十度、「バラワン」島ノ南端、「パレマス」(「ミアンガス」)島、緯度零度東經百四十度、緯度零度東經百四十八度、南緯十度東經百四十八度ヲ經



- テ「ヨーク」岬ニ引キタル諸直線、「ヨーク」岬ヨリ「ボート、ダーウイン」(チアールズ岬)ニ至ル「オーストラリア」ノ北沿岸線及「チアールズ」岬ヨリ「アシユモア、リーフ」(「イースト」島)、南緯十度東經百九度、「クリスマス」島、北緯二度東經九十四度ヲ經テ北緯十度東經九十四度ニ引キタル諸直線内ニ在リテ「オーストラリア」聯邦及「アメリカ」合衆國ノ領域外ノモノ
- 七 帆船ノミニ航海ニ付「アリメカ」合衆國ノ領域外ノ「カリビヤ」海
- 八 赤道、西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ線及「オーストラリア」ノ沿岸線ニ依リ圍マレタル南太平洋ノ區域ニシテ「オーストラリア」聯邦ノ領域外ノモノ
- 九 「トンキシ」灣及香港ヨリ北緯十七度東經百十度、次テ正南へ北緯十度、次テ西へ西貢ニ引キタル線ノ西ニ在ル支那海ノ部分
- 十 「マダガスカル」、「レユニオン」及「モーリシアス」ノ諸島ニ於ケル諸港間ノ航海ニ要スル印度洋ノ部分
- 十一 「カサブランカ」(「モロッコ」國)、「オラン」(「アルジェリー」)及其ノ中間諸港間ノ航海ニ要スル北大西洋及地中海ノ部分

- 乗組マシムベシ若シ自働緊急機ヲ備附ケザルトキハ資格ヲ有スル通信員又ハ證明書ヲ有スル聽守員ニ依リ左ノ如ク航海中聽守ヲ爲スベシ
- (イ) 總噸數三千噸未滿ノ一切ノ貨物船ニ在リテハ關係主管廳ノ定ムル所ニ依ル
- (ロ) 總噸數三千噸以上五千五百噸以下ノ貨物船ニ在リテハ少クトモ一日八時間ノ聽守トス
- (ハ) 總噸數五千五百噸ヲ超ユル貨物船ニ在リテハ無休聽守トス
- 各主管廳ハ其ノ國ニ屬スル船舶ニシテ右(ハ)ニ該當スルモノニ對シ本條約實施ノ日ヨリ一年ヲ超エザル期間無休聽守ノ規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得但シ該船舶ハ右免除期間中少クトモ一日八時間ノ聽守ヲ維持スベシ
- 各主管廳ハ又其ノ國ニ屬スル船舶ニシテ總噸數五千五百噸ヲ超エ八千噸以下ノモノニ對シ更ニ一年間無休聽守ノ規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得但シ該船舶ハ右免除期間中少クトモ一日十六時間ノ聽守ヲ維持スベシ
- 三 自働緊急機ヲ備附ケタル一切ノ船舶ニ在リテハ該自働緊急機ハ船舶ノ航海中通信員又ハ聽守員ガ聽守ヲ爲シ居ラザル間ハ之ヲ常ニ動作状態ト爲スベシ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

第二十九條

聽守

- 一 旅客船
  - 第二十七條ニ依リ無線電信設備ヲ備附クルコトヲ要スル各旅客船ハ安全ノ目的ノ爲ニ資格ヲ有スル通信員一人ヲ乗組マシムベシ若シ自働緊急機ヲ備附ケザルトキハ資格ヲ有スル通信員又ハ證明書ヲ有スル聽守員ニ依リ左ノ如ク航海中聽守ヲ爲スベシ
  - (イ) 總噸數三千噸未滿ノ一切ノ旅客船ニ在リテハ關係主管廳ノ定ムル所ニ依ル
  - (ロ) 總噸數三千噸以上ノ一切ノ旅客船ニ在リテハ無休聽守トス
- 二 貨物船
  - 第二十七條ニ依リ無線電信設備ヲ備附クルコトヲ要スル各貨物船ハ安全ノ目的ノ爲ニ資格ヲ有スル通信員一人ヲ

- 聽守時間ヲ關係主管廳ニ於テ定ムベキ船舶ニ在リテ其ハノ聽守ハ成ルベク現行國際無線電信條約ニ於テ無線電信業務ニ付規定スル時間ニ於テ之ヲ維持スベシ
- 一日八時間又ハ十六時間ノ聽守ヲ維持スルコトヲ要スル船舶ニ在リテハ其ノ聽守ハ現行國際無線電信條約ニ於テ無線電信業務ニ付規定スル時間ニ於テ之ヲ維持スベシ
- 四 自働緊急機トハ千九百二十七年國際無線電信條約附屬一般規則第十九條第二十一項ノ規定ニ適合スル緊急自働受信機ヲ謂フ
- 五 資格ヲ有スル通信員トハ現行國際無線電信條約附屬一般規則ノ規定ニ適合スル證明書ヲ有スル者ヲ謂フ
- 六 證明書ヲ有スル聽守員トハ主管廳ノ權限ノ下ニ發行シタル聽守員證明書ヲ有スル者ヲ謂フ

第三十條

聽守員

- 一 聽守員證明書ハ其ノ出願者ガ左ノ事項ヲ爲シ得ルコトヲ證明スルニ非ザレバ締約政府ニ於テ之ヲ交付スルコトヲ得ズ
- (イ) 緊急信號、遭難信號、安全信號及緊急信號ガ他ノ信號ノ連續ノ間ニ傳送セラレタル際ニ於ケル此等ノ信



號ノ受信及了解

(ロ) 一分時ニ付十六集合ノ速度ニ於ケル暗語ノ集合  
(文字、數字及句讀點ノ混合)ノ正確ナル音響受信、各  
集合ハ各數字又ハ句讀點ヲ二字ト計算シ五字ヨリ成ル  
モノトス

(ハ) 船舶無線電信設備ニ使用セラルル受信機ノ調整  
二 締約政府ハ證明書ヲ有スル聽守員ガ通信ノ祕密ヲ守ル  
コトヲ確保スルノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

第三十一條

技術規定

第二十七條ニ依リ要求セラルル無線電信設備及第四十七條  
ニ依リ要求セラルル方位測定機ハ左ノ規定ニ適合スルコト  
ヲ要ス

- 一 船舶局ハ該船舶ノ屬スル國ノ政府ノ定ムル細目規程ニ  
從ヒ船舶ノ上部ニシテ能ク限リ最安全ナル位置ニ最高滿  
載吃水線上實行可能ナル限リ高ク之ヲ設クルコトヲ要ス
- 二 船橋ト無線電信室トノ間ニハ送話管若ハ電話又ハ之ト  
同一效力ヲ有スル他ノ方法ニ依ル通信裝置ヲ設クベシ
- 三 無線電信室ニハ秒針附ノ確實ナル時計ヲ備フルニトヲ  
要ス

メートルノ場合「メートルアムペア」ヲ以テ示ス船  
舶送信機ノ電力トノ左ノ關係ヲ指針トシテ使用スル  
コトヲ勸告ス

百海里	六十
八十海里	四十五
五十海里	二十五

Mハ空中線ノ最高點ヨリ滿載吃水線ニ至ルメートル  
ヲ以テ示ス實際ノ高サトス

AハB送信機又ハ全變調Aニ送信機ノ場合ニ於ケル  
空中線底部ニ於ケル「アムペア」ヲ以テ示ス電流ト  
ス

九 船舶局ハ通常ノ狀況ノ下ニ右ノ通達距離ニ於テ主無線  
電信設備ヲ有效ニ操作スル爲十分ナル電力ヲ何時ニテモ  
使用シ得ルコトヲ要ス

十 補助(豫備)設備ノ一切ノ部分ハ船舶ノ上部ニシテ能ク  
限リ最安全ナル位置ニ最高滿載吃水線上實行可能ナル限  
リ高ク之ヲ設クルコトヲ要ス補助(豫備)設備ハ船舶ノ推  
進動方及主電氣系トハ別個ノ電源ヲ備フルコトヲ要シ又  
迅速ニ操作ヲ開始シ且少クトモ連續六時間作用シ得ルモ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

- 四 無線電信室ニハ有效ナル非常燈ヲ備フルコトヲ要ス
- 五 無線電信設備ハ主設備及補助(豫備)設備ヨリ成ルベシ  
但シ主設備ガ補助(豫備)設備ノ一切ノ條件ニ適合スルト  
キハ補助(豫備)設備ハ義務的ナラズ
- 六 主設備及補助(豫備)設備ハ本條約ニ從ヒ無線電信設備  
ヲ義務的ニ備附ケタル船舶ニ對シ遭難及航行ノ安全ノ目  
的ノ爲ニ現行國際無線電信條約ニ依リ割當ラレタル周波  
數(波長)及電波ノ型式ヲ以テ送信及受信ヲ爲シ得ルコト  
ヲ要ス
- 七 主送信機及補助(豫備)送信機ハ少クトモ百回ノ音調周  
波數ヲ有スベシ
- 八 主送信機ハ百海里ノ通常通達距離ヲ有スベシ即チ受信  
機ガ增幅裝置ナキ礦石檢波器ヲ使用スルモノト假定シ畫  
間通常ノ狀況及事情ノ下ニ少クトモ百海里ヲ距テ船舶  
ヨリ船舶ニ明瞭ニ了解シ得ベキ信號ノ傳送ヲ爲シ得ルコ  
トヲ要ス(註)

(註) 送信機ノ通達距離ヲ決定スル爲一層正確ニシテ  
實際的ノ方法ガ使用セラルルニ至ル迄ハ海里ヲ以テ  
示ス通達距離(畫間通常ノ狀況ノ下ニ於テ船舶相互  
間)ト周波數一秒時五百「キロサイクル」(波長六百

ノナルコトヲ要ス

補助(豫備)設備ニ付テハ第八項ニ定メタル通常通達距離  
ハ無休聽守ヲ維持スベキ船舶ニ在リテハ少クトモ八十海  
里、其ノ他ノ一切ノ船舶ニ在リテハ少クトモ五十海里ナ  
ルコトヲ要ス(註)

(註) 第八項ノ註參照

十一 受信設備ハ報時信號及氣象報ノ傳送ニ使用セラルル  
電波ニシテ主管應ニ於テ必要ト認ムルモノヲ受信シ得ル  
コトヲ要ス

十二 受信機ハ礦石檢波器ニ依リ受信ヲ維持シ得ル機裝置  
セラルルコトヲ要ス

十三 警急自動受信機ニ依リ聽守ヲ爲ス船舶ニ於テハ可聽  
警報ヲ發スル裝置ヲ無線電信室、無線電信通信員室及船  
橋ニ備フベシ該裝置ハ受信機ガ警急信號又ハ遭難信號ニ  
依リ作用ヲ始メタル後ハ停止セラルル迄連續的ニ作用ス  
ルモノタルベシ警報ヲ停止スル爲ノ開閉器ハ一個ノミト  
シ之ヲ無線電信室ニ備フベシ

十四 右ノ船舶ニ在リテハ無線電信通信員ハ聽守ヨリ離レ  
ントスルトキ警急自動受信機ヲ空中線ニ接続シテ其ノ效  
力ヲ試験スベシ右通信員ハ右受信機ガ可動狀態ニ在リヤ



否ヤテ船長又ハ船橋ニ於ケル當直職員ニ報告スベシ

十五 船舶航海中ハ補助電源ハ其ノ全能力ヲ維持スベク且  
緊急自動受信機ハ少クとも二十四時間ニ一回之ヲ試験ス  
ベシ右兩要求ヲ充シタル旨ノ記事ハ毎日之ヲ船舶ノ公用  
航海日誌ニ記入スルコトヲ要ス

十六 無線電信送信機ヲ義務的ニ備付ケタル各船舶ニハ無  
線電信日誌ヲ備フベシ該日誌ハ無線電信室ニ備附ケ之ニ  
通信員及聽守員ノ氏名並ニ海上ニ於ケル人命ノ安全ニ重  
大ナル關係ヲ有スト認メラルル無線電信業務ニ關スル一  
切ノ事故及出來事殊ニ一切ノ遭難通報及遭難電報ノ全文  
ヲ記入スベシ

十七 第四十七條ニ依リ要求セララルル方位測定機ハ有效ニ  
シテ又明瞭ニ感知シ得ル信號ヲ受信シ且方位ヲ測定シ之  
ニ依リテ眞方位及方向ヲ決定シ得ルモノタルベシ方位測  
定機ハ現行國際無線電信條約ニ於テ遭難、方位測定及無  
線電信標識ニ付規定スル周波數ヲ以テ信號ヲ受信シ得ル  
モノタルベシ

方位測定機ト船橋トノ間ニハ有效ナル通信裝置ヲ備フベ  
シ

第三十二條

各主管廳ハ前項ニ掲ゲタル何レカノ危險ニ付通信ヲ受ケタ  
ルトキハ之ヲ速ニ關係者ニ知ラシメ且他ノ關係主管廳ニ通  
信スル爲必要ト認ムル一切ノ措置ヲ執ルベシ

第三十五條

氣象業務

締約政府ハ航海中ノ船舶ヨリノ氣象資料ノ蒐集ヲ督勵シ且  
航行ヲ容易ナラシムル爲最適當ナル方式ニ依リ之ガ調査、  
傳播及交換ヲ爲スコトヲ約ス

締約政府ハ特ニ左ノ氣象上ノ措置ヲ能フ限り實行スル爲協  
力スルコトヲ約ス

(イ) 強風、暴風雨及熱帶暴風雨ヲ無線通報ノ傳送ニ依リ  
且沿岸各地ニ於ケル適當ナル信號ノ掲揚ニ依リ船舶ニ警  
告スルコト

(ロ) 天候ノ現況及豫想ノ資料ヲ含ム航行ニ關スル天候報  
告ヲ無線ニ依リ毎日發表スルコト

(ハ) 或選定シタル船舶ガ特定ノ時刻ニ於テ氣象觀測ヲ爲  
シ他ノ船舶及各種ノ公ノ氣象業務ノ爲無線電信ニ依リ該  
觀測ヲ傳送スルノ措置ヲ執ルコト及右傳送セラレタル通  
報ノ受信ノ爲海岸局ヲ用意スルコト

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

管轄

千九百二十七年「ワシントン」國際無線電信條約及其ノ附  
屬規則ニ律セララルル事項ハ左ノ規定ノ適用ヲ受ク

(一) 右條約及其ノ附屬規則並ニ將來之ニ代ルコトアルベ  
キ他ノ條約及規則ノ規定

(二) 本條約ガ前記文書ヲ補足スル一切ノ點ニ關シテ本條  
約ノ規定

第五章 航行ノ安全

第三十三條

適用

本章ノ規定中船舶ニ關スルモノハ別段ノ明文ナキ限り一切  
ノ航海ニ從事スル一切ノ船舶ニ之ヲ適用ス

第三十四條

危險通報

危險ナル氷、危險ナル委棄物、危險ナル熱帶暴風雨又ハ航  
海ニ對スル其ノ他ノ直接ノ危險ニ遭遇シタル各船舶ノ船長  
ハ其ノ用ヒ得ル一切ノ通信方法ニ依リ其ノ附近ニ在ル船舶  
及通信シ得ベキ最初ノ海岸ノ地點ニ於ケル權限アル機關ニ  
其ノ情報ヲ通信スルコトヲ要ス右情報ハ第四十六規則ニ掲  
グル方式ニ依リ之ヲ發スルコト望マシトス

(ニ) 「ボーフォール、スケール」ニ於テ十以上 (三) 「デシマ  
ル、スケール」ニ於テ八以上) ノ風力ヲ感知シタルトキ  
ハ附近船舶ニ之ヲ通報スル様一切ノ船長ヲ督勵スルコト  
本條(イ)及(ロ)ニ規定スル通報ハ千九百二十七年「ワシ  
ントン」國際無線電信條約附屬一般規則第三十一條第一項、  
第三項及第五項並ニ第十九條第二十五項ノ傳送様式ニ從ヒ  
之ヲ爲スベク氣象ノ通報、豫報及警報ヲ「各局宛」ニテ傳  
送中ハ一切ノ船舶局ハ右一般規則第三十一條第二項ノ規定  
ニ從フコトヲ要ス

船舶ヨリ國ノ氣象業務宛ノ天候觀測ハ千九百二十七年「ワ  
シントン」國際無線電信條約追加規則第三條ニ掲グル順位  
ヲ以テ之ヲ傳送スベシ  
船舶ヘノ豫報、警報、概況報其ノ他ノ氣象報告ハ關係國間  
ノ相互取極ニ從ヒ各種ノ帶域及區域ニ對シ最適當ナル位置  
ニ在ル國ノ業務ヲシテ之ヲ發表且傳播セシムベシ  
締約政府ハ本條ニ掲グル國際氣象業務ニ關シ統一ノ方式ヲ  
採用スル爲且實行可能ナル限り國際氣象機關ノ勸告ニ從フ  
爲一切ノ努力ヲ爲スベク締約政府ハ右機關ニ對シ本條約適  
用上起リ得ベキ一切ノ氣象ニ關スル問題ノ研究及助言ヲ求  
ムルコトヲ得



第三十六條

水ノ監視、委棄物

締約政府ハ北大西洋ニ於ケル水ノ監視ノ業務竝ニ水ノ状態ノ研究及觀測ノ業務ヲ繼續スルコトヲ約ス締約政府ハ尙「セーブル」岬ヨリ北緯三十四度西經七十度ノ點ニ引キタル線ノ東ニ在ル大西洋ノ北部ニ於ケル委棄物ノ破壊又ハ除去ヲ必要ト認メタルトキハ其ノ破壊又ハ除去ヲ爲ス爲實行可能ナル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

締約政府ハ右三業務ノ爲ニ三隻以内ノ船舶ヲ用意スルコトヲ約ス右船舶ハ大西洋橫斷船舶其ノ他ノ通航船舶ニ「ニユーファウンドランド」ノ「グレート、バンク」附近ニ於ケル冰山區域ノ南東方、南方及南西方ノ限界ヲ通報スル爲、一般ニ水ノ状態ノ觀測及研究ヲ爲ス爲、委棄物ヲ破壊又ハ除去スル爲竝ニ監視船ノ作業區域内ニ於テ援助ヲ要スル船舶及船員ニ援助ヲ與フル爲水ノ全季節中右危險區域ノ限界ノ監視ニ之ヲ使用スベシ  
其ノ他ノ季節中ハ水ノ状態ノ研究及觀測ハ必要ニ應ジ之ヲ維持スベシ又委棄物ノ搜索、破壊又ハ除去ノ爲ニ一隻ノ船舶ヲ常備スベシ

第三十七條

各締約政府ハ千九百三十二年九月一日後ハ右業務ノ維持及遂行ニ要スル經費ニ對スル其ノ分擔ヲ止ムルノ權利ヲ有ス尤モ此ノ權利ヲ行使スル締約政府ハ其ノ分擔ヲ止ムル意思ヲ通告シタル日ノ後ニ來ル最初ノ九月一日迄ノ作業費ニ付引續キ義務ヲ負フベシ右ノ權利ヲ行使スル爲ニハ締約政府ハ前記九月一日前少クトモ六月ニ他ノ締約政府ニ通告スルコトヲ要ス即チ千九百三十二年九月一日ニ此ノ義務ヲ免ルル爲ニハ遅クトモ千九百三十二年三月一日ニ通告ヲ爲スコトヲ要ス爾後ノ各年ニ付亦同ジ

合衆國政府ガ此等業務ヲ繼續スルコトヲ望マザルニ至ルコトアルトキ又ハ締約政府ノ一ガ前記分擔金ニ對スル責任ヲ免レ若ハ其ノ負擔率ヲ變更スルコトノ希望ヲ表示シタルトキハ締約政府ハ其ノ相互ノ利益ニ從ヒ此ノ問題ヲ解決スベシ  
前記三業務ノ經費ヲ分擔スル締約政府ハ合意ヲ以テ隨時本條及第三十六條ノ規定ニ其ノ望マシトスル變更ヲ加フルノ權利ヲ有スベシ

第三十八條

氷ノ附近ニ於ケル速力

各船舶ノ船長ハ其ノ針路又ハ附近ニ氷アル旨ノ報告ヲ受ケ

上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

水ノ監視、管理及經費

合衆國政府ハ水ノ監視、水ノ状態ノ研究及觀測竝ニ委棄物ノ破壊及除去ノ此等業務ノ管理ヲ繼續スルコトヲ請求セラ  
ル此等業務ニ特ニ關係アル左ニ掲グル締約政府ハ左ノ比率ニ依リ此等業務ノ維持及遂行ニ要スル經費ヲ分擔スルコトヲ約ス

- 白耳義國 二
- 「カナダ」 三
- 丁抹國 二
- 佛蘭西國 六
- 獨逸國 十
- 「グレート、ブリテン」及北部 十
- 「アイルランド」國 六
- 伊太利國 一
- 日本國 一
- 和蘭國 五
- 諾威國 三
- 西班牙國 一
- 瑞典國 二
- 「ソウイエート」社會主義共和國聯邦 一
- 「アメリカ」合衆國 十八

タルトキハ夜間ニ於テハ適度ノ速力ニテ進行シ又ハ危險帶ヲ十分ニ避クル様其ノ針路ヲ變更スルコトヲ要ス

第三十九條

北大西洋航路

北大西洋ヲ各方向ニ橫斷スル承認航路ニ從フコトノ慣行ハ海上ニ於ケル人命ノ安全ニ貢獻シタリト雖モ經驗上必要ト認メラレベキ變更ヲ加フルコトノ目的ヲ以テ此等航路ノ作用ニ付一層調査研究ヲ爲スベシ

航路ノ選擇及該航路ニ關スル措置ノ開始ハ之ヲ關係汽船會社ノ責任ニ委ス締約政府ハ汽船會社ノ請求アルトキハ締約政府ノ有スルコトアルベキ航路ニ關スル情報ヲ該會社ニ提供スルコトニ依リ之ヲ援助スベシ  
締約政府ハ汽船會社ニ對シ其ノ船舶ヲ就航セシメントスル常用航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スノ義務ヲ課スルコトヲ約ス締約政府ハ尙一切ノ大西洋橫斷船舶ノ所有者ガ事情ノ許ス限リ承認航路ニ從フ様之ヲ誘導スル爲及「ニユーファウンドランド」ノ「グレート、バンク」附近ヲ經テ合衆國ノ港ニ到リ又ハ同國ノ港ヨリ來ル一切ノ大西洋橫斷船舶ノ所有者ガ實行可能ナル限リ漁業季節間北緯四十三度以北ノ「ニユーファウンドランド」漁洲ヲ避ケ且氷ノ危險アリト



知ラレ又ハ信セラレ居ル區域外ヲ航行スル様之ヲ誘導スル爲努力スベシ

氷ノ監視業務ヲ管理スル主管廳ハ承認若ハ廣告セラレタル常用航路ニ依ラザルモノト認メラルル船舶、漁業季節間前記漁洲ヲ通航スル船舶又ハ合衆國ノ港ニ到リ若ハ同國ノ港ヨリ來ルニ當リ氷ノ危険アリト知ラレ若ハ信セラレ居ル區域ヲ通航スル船舶ヲ關係主管廳ニ報告スルコトヲ要求セラ

第四十條

衝突豫防規則

締約政府ハ第二附屬書ニ掲グル國際海上衝突豫防規則中ノ變更ヲ望マシトシ且之ヲ爲スベキコトヲ約ス「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ右變更ノ全部ヲ國際海上衝突豫防規則ヲ採用シタル他ノ政府ニ送付シ右變更ヲ採用スルヤ否ヤヲ確メ、本會議ニ代表者ヲ出シタル政府ニ其ノ結果ヲ報告シ且千九百三十一年七月一日ニ於テ改正規則ガ實施セラルル様手配ヲ爲スニ努ムルコトヲ要求セラル

第四十一條

操舵命令

締約政府ハ千九百三十一年六月三十日夜半後操舵命令即チ舵手ヘノ命令ハ一切ノ自國船舶ニ於テ直接ノ意味ニテ與ヘラルベキコト例ヘバ船舶ノ前進中「右舷」若ハ「右」ナル語又ハ「右舷」若ハ「右」ト同意義ノ語ヲ含ム命令ハ現今普通ノ構造及設備ヲ有スル船舶ニ於テハ其ノ操舵輪、舵板及船首ヲ總テ右轉セシメントスル場合ニ限り之ヲ使用スベキコトヲ約ス

第四十二條

遭難信號ノ濫用

國際遭難信號ヲ船舶ガ遭難シ居ルコトヲ表示スル目的以外ニ使用スルコト及國際遭難信號ト混同セラルルコトアルベキ信號ヲ使用スルコトハ各船舶ニ之ヲ禁ズ

第四十三條

緊急信號、遭難信號及緊急信號

緊急信號及遭難信號ハ重大且急迫ノ危険ニ在リテ即時ノ救助ヲ要スル船舶ニ於テノミ之ヲ使用スルコトヲ得其ノ他一切ノ場合ニ於テ救助ヲ要スルトキ又ハ船舶ガ後ニ緊急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ千九百二十七年「ワシントン」國際無線電信條約ニ依リ定メラレタル緊急信號（XXX）ヲ使用ス

ルコトヲ要ス

船舶ガ緊急信號又ハ遭難信號ヲ發シタルモ其ノ後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ現行無線電信條約ニ規定スル所ニ從ヒ一切ノ關係局ニ其ノ旨ヲ通告スベシ

第四十四條

遭難通報ノ速度

遭難、緊急又ハ安全ニ關スル通報ノ傳送ノ速度ハ一分時ニ付十六語ヲ超ユルコトナカルベシ

第四十五條

遭難通報、處置

一 船舶ノ船長ハ其ノ船舶ニ於テ他ノ船舶ヨリ無線遭難信號ヲ受ケタルトキハ能フ限ノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クコトヲ要ス但シ救助ニ赴クコト不可能ナル場合、特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クコト不合理若ハ不必要ト認メタル場合又ハ本條第三項及第四項ノ規定ニ依リ其ノ義務ヲ免除セラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

二 遭難船舶ノ船長ハ其ノ救助呼出ニ答ヘタル船舶ノ船長ト能フ限ニテ協議ヲ遂ゲタル上其等船舶中救助ヲ爲スニ最適當ト認ムル一隻又ハ二隻以上ノ船舶ヲ要請スル權利ヲ有ス要請セラレタル船舶ノ船長ハ遭難者ノ救助ノ爲能

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

フ限ノ速力ヲ以テ航行ヲ繼續シ其ノ要請ニ從フ義務ヲ負フ

三 要請セラレタル船舶ノ船長ヨリ又ハ二隻以上ノ船舶ガ要請セラレタル場合ニ於テ要請セラレタル一切ノ船舶ノ船長ヨリ其ノ要請ニ從ヒツツアル旨ノ通報ヲ受ケタル船長ハ直ニ本條第一項ニ依リ課セラレタル義務ヲ免除セラ

ルベシ

四 遭難者ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ最早救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ受ケタル船長ハ本條第一項ニ依リ課セラレタル義務ヲ又其ノ船舶ガ要請セラレタルモノナルトキハ本條第二項ニ依リ課セラレタル義務ヲ免除セラレベシ

五 船舶ノ船長ハ他ノ船舶ヨリ無線遭難呼出ヲ受ケタル場合ニ於テ該他ノ船舶ノ救助ニ赴クコト不可能ナル場合又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クコト不合理若ハ不必要ト認メタルトキハ該他ノ船舶ノ船長ニ對シ直ニ其ノ旨ヲ通報シ且遭難者ノ救助ニ赴カザリシ理由ヲ航海日誌ニ記入スルコトヲ要ス

一〇四一



セラレタル救助義務ニ影響ヲ及ボサズ

第四十六條

信號燈

總噸數百五十噸ヲ超ユル一切ノ船舶ハ國際航海ニ從事スル場合ニハ有效ナル信號燈ヲ備フベシ

第四十七條

方位測定機

總噸數五千噸以上ノ各旅客船ハ本條約實施ノ日ヨリ二年内ニ本條約第三十一條第十七項ノ規定ニ適合スル承認型方位測定機(無線羅針機)ヲ備フベシ

第四十八條

乗組

締約政府ハ各自國船舶ニ付海上ニ於ケル人命ノ安全ノ見地ヨリ一切ノ船舶ニ十分且有效ニ人員ヲ乗組マシムルコトヲ確保スル爲ノ措置ヲ維持シ又ハ必要ニ應ジ之ヲ採用スルコトヲ約ス

第六章 證書

第四十九條

證書ノ發行

安全證書ト稱スル證書ハ検査ノ後本條約第二章、第三章及

第四章ノ規定ニ十分適合スル各旅客船ニ對シ之ヲ發行スベシ

安全無線電信證書ト稱スル證書ハ検査ノ後本條約第四章ノ規定ニ十分適合スル各船舶ニシテ旅客船以外ノモノニ對シ之ヲ發行スベシ

免除證書ト稱スル證書ハ締約政府ガ本條第二章、第三章及第四章ノ規定ニ依リ免除ヲ爲シタル各船舶ニ對シ之ヲ發行スベシ

船舶ノ検査ハ該船舶ニ適用セララル本條約及附屬規則ノ規定ノ實施並ニ該規定ノ適用ノ免除ニ關スル限り船舶登録國ノ職員之ヲ行フベシ但シ各國政府ハ自國船舶ノ検査ヲ此ノ目的ノ爲ニ指名シタル検査員又ハ右政府ノ承認シタル機關ニ委任スルコトヲ得何レノ場合ニ於テモ關係政府ハ検査ノ完全及有效ナルコトヲ十分ニ保障スルモノトス

安全證書、安全無線電信證書及免除證書ハ船舶登録國ノ政府又ハ右政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタル者若ハ機關ニ於テ之ヲ發行スベシ何レノ場合ニ於テモ當該政府ハ證書ニ付全責任ヲ負フモノトス

第五十條

他ノ政府ニ依ル證書ノ發行

第五十二條

證書ノ有効期間

證書ハ十二月ヲ超ユル期間ニ付發行セラレザルベシ船舶ガ其ノ證書ノ有効期間満了シタル際其ノ登録國ノ港ニ在ラザルトキハ證書ノ有効期間ハ船舶ノ屬スル國ノ正當ノ權限アル職員ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ右延長ハ該船舶ヲシテ自國ヘノ歸航ヲ完了セシムルコトノ爲ニノミ及延長ヲ適當且合理的ト認メタル場合ニ限り許サルベキモノトス

證書ノ有効期間ハ五月ヲ超ユル期間之ヲ延長スルコトヲ得ズ右延長ヲ許サレタル船舶ハ自國ニ歸著シタル上ハ新證書ヲ受クルニ非ザレバ右延長ノ效力ニ依リテハ再ビ其ノ國ヲ離ルルコトヲ得ザルベシ

第五十三條

證書ノ承認

締約政府ノ權限ノ下ニ發行シタル證書ハ本條約ノ定ムル一切ノ目的ニ關シ他ノ締約政府ニ依リ承認セララルベシ右證書ハ他ノ締約政府ニ依リ該政府ガ其ノ船舶ニ對シ發行シタル證書ト同一ノ效力ヲ有スルモノト看做サルベシ

第五十四條

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

締約政府ハ本條約ノ適用セララル船舶ノ登録國政府ノ請求ニ基キ其ノ船舶ヲシテ検査ヲ受ケシメ本條約ノ規定ニ適合スト認メタルトキハ其ノ責任ニ於テ該船舶ニ對シ安全證書又ハ安全無線電信證書ヲ發行スルコトヲ得右ニ依リ發行スル證書ニハ船舶登録國政府ノ請求ニ基キテ之ヲ發行シタル旨ノ記載アルコトヲ要ス右證書ハ本條約第四十九條ニ依リ發行セララル證書ト同一ノ效力ヲ有スベク且同一ノ承認ヲ受クベシ

第五十一條

證書ノ様式

一切ノ證書ハ該證書ヲ發行スル國ノ公用語ヲ以テ作成セララルベシ

證書ノ様式ハ第四十七規則ニ掲グル雖形ニ依ルベシ雖形證書ノ印刷ノ部分ノ配置ハ發行スル證書又ハ其ノ認證謄本ニ於テ正確ニ之ニ倣フベク且手記スル事項ハ發行スル證書又ハ其ノ認證謄本ニ於テ「ローマ」字及「アラビヤ」數字ヲ以テ之ヲ記入スベシ

締約政府ハ其ノ職員ニ知ラシムル爲各證書ノ十分ナル數ノ見本ヲ相互ニ交換スルコトヲ約ス右交換ハ能フ限り千九百三十二年一月一日前ニ之ヲ爲スベシ



監督

第四十九條又ハ第五十條ニ依リ發行シタル證書ヲ有スル各船舶ハ他ノ締約政府ノ港ニ於テ該政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタル職員ノ監督ニ服スルモノトス右監督ハ船内ニ有效ナル證書アリヤ及必要ニ依リ船舶ノ堪航性ノ狀態ガ證書ノ記載事項ニ實質的ニ一致スルヤ即チ該船舶ガ旅客及船員ニ危險ヲ及ボスコトナク發航シ得ルヤヲ確ムル爲之ヲ行フヲ以テ限度トス  
右監督ニ際シ何等カ干渉ノ必要ヲ生ジタルトキハ監督ヲ行フ職員ハ干渉ヲ必要ト認メタル一切ノ事情ヲ直ニ該船舶登錄國ノ領事ニ通知スベシ

第五十五條

特權

本條約ノ特權ハ船舶ガ正當ニシテ有效ナル證書ヲ保持スルニ非ザレバ該船舶ノ爲ニ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第五十六條

證書ノ斟酌

船舶ガ搭載スルコトヲ許可セラレタル最大數ヨリモ少キ數ノ船員及旅客ヲ特定ノ航海ニ於テ搭載シ從テ本條約ノ規定ニ從ヒ證書ニ記載セラレタル數ヨリモ少キ數ノ救命艇其ノ

報シ尙請求アリタルトキハ其ノ委細ヲ試驗報告ト共ニ通報スベシ

第五十八條

法律、規程、報告

締約政府ハ左記ヲ相互ニ通報スルコトヲ約ス

(一) 本條約ノ範圍内ニ屬スル各種ノ事項ニ關シ公布セラレタル法律、命令及規則ノ本文

(二) 本條約ノ規定ノ成績ヲ示ス限ニ於ケル一切ノ利用シ得ル公ノ報告書又ハ公ノ報告書摘錄但シ右報告書又ハ摘錄ハ常ニ機密ニ屬セザルモノニ限ル

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ右一切ノ情報ヲ蒐集シ且之ヲ他ノ締約政府ニ知ラシムルノ仲介者タルコトヲ請求セラレ

第五十九條

協定ノ上執ルベキ措置

本條約ガ締約政府ノ全部又ハ一部ノ協定ヲ經タル上措置ヲ執リ得ルコトヲ規定スル場合ニハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ斯ル措置ヲ遂行スル爲或締約政府ノ爲スコトアルベキ提議ヲ受諾スルヤ否ヤヲ確カムル目的ヲ以テ他ノ締約政府ニ交渉シ且其ノ爲シタ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

他ノ救命設備ヲ備附クルコトヲ得ル場合ニハ前記第四十九條及第五十二條ニ掲ゲタル職員又ハ權限ヲ付與セラレタル他ノ者ニ於テ證書ヲ發行スルコトヲ得  
右證書ニハ現狀ニ於テハ本條約ノ規定ニ違反ナキ旨ヲ記載スベシ覺書ハ證書ニ添附セラレベク且救命設備ノ關スル限ニ於テハ證書ニ代ルベシ右覺書ハ之ヲ發行シタル特定航海ニ付テノミ效力ヲ有ス

第七章 一般規定

第五十七條

同等物

本條約ニ於テ船舶ニ一定ノ裝置、設備若ハ器具又ハ其等ノ型式ヲ取附ケ又ハ備附クベキコト或ハ一定ノ配置ヲ採用スベキコトノ規定アル場合ニ於テ主管廳ハ之ガ代用トシテ他ノ裝置、設備若ハ器具又ハ其等ノ型式或ハ他ノ配置ヲ承認スルコトヲ得但シ右主管廳ニ於テ適當ナル試驗ノ結果代用ノ裝置、設備若ハ器具又ハ其等ノ型式或ハ配置ガ本條約ニ定ムルモノト少クトモ同一ノ實效アリト認メタル場合ニ限ル

右ニ依リ新規ノ裝置、設備若ハ器具又ハ其等ノ型式或ハ新規ノ配置ヲ承認シタル主管廳ハ其ノ事實ヲ他ノ主管廳ニ通

ル照會ノ結果ヲ他ノ締約政府ニ通知スルコトヲ請求セラレ

第六十條

從前ノ條約

一 本條約ハ千九百十四年一月二十日「ロンドン」ニ於テ署名セラレタル海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ條約ニ代リ且該條約ヲ廢止ス

二 海上ニ於ケル人命ノ安全又ハ之ニ關聯スル事項ニ關スル他ノ一切ノ條約及取極ニシテ本條約ノ締約政府間ニ現ニ實施中ノモノハ其ノ有効期間中左ニ掲グル船舶ニ付十分且完全ナル效力ヲ存續スベシ

(イ) 本條約ノ適用セラレザル船舶  
(ロ) 本條約ニ明文規定ナキ事項ニ關シテ本條約ノ適用セラレル船舶  
尤モ右ノ條約又ハ取極ガ本條約ノ規定ニ牴觸スル限り本條約ノ規定ハ優先的效力ヲ有スベシ

三 本條約ニ明文規定ナキ一切ノ事項ハ引續キ締約政府ノ法令ニ委セラレ

第六十一條

變更、將來ノ會議

一 本條約ノ變更ニシテ有益又ハ必要ナル改善ナリト認メ



ラルベキモノハ何時ニテモ或締約政府ヨリ之ヲ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ提議スルコトヲ得「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ右提議ヲ他ノ一切ノ締約政府ニ通報スベシ一切ノ締約政府（未ダ效力ヲ發生スルニ至ラザル批准又ハ加入ヲ寄託シタル政府ヲ含ム）ガ右變更ヲ受諾シタルトキハ本條約ハ之ニ依リ變更セラレベシ

二 本條約ノ改正ヲ目的トスル會議ハ締約政府ニ依リ協定セラレベキ時及場所ニ於テ開催セラレベシ

右目的ノ爲ノ會議ハ本條約ヲ五年間實施シタル後締約政府ノ三分ノ一ガ希望ヲ表示シタルトキハ何時ニテモ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ依リ招集セラレベシ

第八章 最終規定

第六十二條

殖民地等ニ對スル適用

一 締約政府ハ署名、批准若ハ加入ノ際又ハ其ノ後ニ於テ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル宣言書ヲ以テ本條約ヲ其ノ殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ノ

全部又ハ何レカニ適用スルコトノ希望ヲ宣言スルコトヲ得

本條約ハ右宣言受領ノ日ノ後二月ニシテ右宣言ニ指定セラレタル一切ノ地域ニ適用セラレベシ

右宣言ナキ限り本條約ハ右何レノ地域ニモ適用セラレザルベシ

二 締約政府ハ何時ニテモ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル通告書ヲ以テ前項ノ規定ニ依リ少クトモ五年ノ期間本條約ノ適用セラレタル其ノ殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ノ全部又ハ何レカニ本條約ヲ適用スルコトヲ終止スルノ希望ヲ表示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本條約ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ガ右通告ヲ受領シタル日ノ後一年ニシテ右通告ニ掲ゲラレタル一切ノ地域ニ適用セララルコトヲ終止スベシ

三 「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ本條第一項ノ規定ニ依ル殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ニ對スル本條約ノ適用及第二項ノ規定ニ依ル右適用ノ終止ヲ各場合ニ

於テ本條約適用ノ開始又ハ終止ノ日ヲ記述シテ他ノ一切ノ締約政府ニ通知スベシ

第六十三條

正文、批准

本條約ハ英吉利語及佛蘭西語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ本日ノ日附ヲ有スベシ

本條約ハ批准セラレベシ

批准書ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ノ記録ニ寄託セラレベク同政府ハ寄託セラレタル一切ノ批准及其ノ寄託ノ日ヲ他ノ一切ノ署名シ又ハ加入シタル政府ニ通告スベシ

第六十四條

加入

本條約ニ署名セザリシ政府（第六十二條ノ適用ヲ受クル地域ノ政府ヲ除ク）ハ本條約ノ實施後何時ニテモ之ニ加入スルコトヲ得ベシ加入ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル通告書ヲ以テ之ヲ爲シ得ベク右通告書ノ受領後三月ニシテ效力ヲ生ズベシ

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ其ノ受領シタル一切ノ加入及受領ノ日ヲ一切ノ署名シ又

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

ハ加入シタル政府ニ通知スベシ

本條約ニ加入セントスル政府ガ第二十八條附記ニ掲グル區域ニ他ノ區域ヲ加ヘンコトヲ希望スルトキハ他ノ一切ノ締約政府ヘノ通報ノ爲其ノ加入ノ通告ニ先チ其ノ希望ヲ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ通知スベシ一切ノ締約政府ガ之ニ同意ヲ表シタルトキハ右區域ハ右加入セントスル政府ガ其ノ加入ヲ通告スル時ニ於テ前述ノ附記ニ記載セラレタル區域ニ加ヘラルベシ

第六十五條

實施期日

本條約ハ千九百三十一年七月一日ヨリ其ノ日迄ニ批准ノ寄託ヲ爲シタル政府間ニ實施セラレベシ但シ少クトモ五個ノ批准ガ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ寄託セラレタル場合ニ限ル五個ノ批准ガ當日迄ニ寄託セラレザルトキハ本條約ハ第五ノ批准ガ寄託セラレタル日ノ後三月ニシテ實施セラレベシ本條約ノ實施セラレタル日ノ後ニ寄託セラレタル批准ハ其ノ寄託ノ日ノ後三月ニシテ效力ヲ生ズベシ

第六十六條

廢棄



本條約ハ何レカノ締約政府ニ付本條約ガ實施セラレタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後ハ何時ニテモ該政府ノ爲ニ之ヲ廢棄スルコトヲ得廢棄ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル通告書ヲ以テ爲サルベク同政府ハ受領シタル一切ノ廢棄及其ノ受領ノ日ヲ他ノ一切ノ締約政府ニ通告スベシ

廢棄ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ガ其ノ通告ヲ受領シタル日ノ後十二月ニシテ效力ヲ生ズベシ

右證據トシテ各全權委員ハ左ニ署名セリ

千九百二十九年五月三十一日「ロンドン」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右本書ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ノ記錄ニ寄託保存セラレベク同政府ハ其ノ認證謄本ヲ一切ノ署名政府ニ送付スベシ

(署名省略)

### 第一附屬書

#### 規則

- 之ヲ測ルベシ
- 八 機關室ハ龍骨ノ上面ヨリ限界線迄ト又主及補助ノ推進機關、汽罐ヲ備フルトキハ汽罐並ニ一切ノ常設石炭庫ニ充テラルル場所ヲ限レル兩端ノ主横置水密隔壁ノ間トニ擴ガレルモノト爲スベシ
  - 九 旅客室ハ手荷物室、倉庫、食料品庫及郵便物室ヲ除キ旅客ノ居住及使用ニ充テラルル場所トス
  - 第三規則及第四規則ノ目的ノ爲ニハ限界線下ニ於テ船員ノ居住及使用ニ充テラルル場所ハ之ヲ旅客室ト看做スベシ
  - 十 一切ノ場合ニ於テ容積ハ之ヲ肋骨ノ外面ノ線迄計算スベシ
- #### 第二規則
- 可浸長
- 一 船舶ノ長サノ或點ニ於ケル可浸長ハ當該船舶ノ形狀、吃水其ノ他ノ性質ヲ考慮シタル計算方法ニ依リ之ヲ決定スベシ
  - 二 連續セル隔壁甲板ヲ有スル船舶ニ於テ或點ニ於ケル可浸長ハ第三規則ニ示セル一定ノ假定ノ下ニ當該船舶ガ限界線ヲ超工沈下スルコトナクシテ浸水シ得ベキ當該點ヲ
- 海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

#### 構造

##### 第一規則

###### 定義

- 一 區畫滿載吃水線ハ船舶ノ區畫ヲ決定スルニ用フル吃水線トス
  - 最高區畫滿載吃水線ハ最大吃水ニ對應スル區畫滿載吃水線トス
  - 二 船舶ノ長サハ最高區畫滿載吃水線ノ兩端ニ於ケル垂線間ノ長サトス
  - 三 船舶ノ幅ハ最高區畫滿載吃水線以下ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ肋骨ノ外面ニ至ル最廣キ幅トス
  - 四 隔壁甲板ハ横置水密隔壁ノ達スル最上ノ甲板トス
  - 五 限界線ハ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニシテ船側ニ於ケル該甲板ノ上面ノ下方七十六ミリメートル(三インチ)ニ引キタル線トス
  - 六 吃水ハ船舶ノ長サノ中央ニ於ケル龍骨ノ上面ヨリ當該區畫滿載吃水線ニ至ル垂直距離トス
  - 七 或場所ノ浸水率ハ水ニ依リ占メラレ得ル該場所ノ百分率トス
- 限界線ノ上ニ及ベル場所ノ容積ハ限界線ノ高サ迄テ限リ

中心トスル船舶ノ長サノ最大部分トス

- 三 連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ノ場合ニ於テハ或點ニ於ケル可浸長ハ假定シタル連續限界線ヲ基準トシ之ヲ決定スルコトヲ得ベク船側及關係隔壁ハ損傷ヲ受ケタル後ノ沈下及縱傾斜ヲ考慮シ右限界線ニ至ル迄水密ニ爲サルモノトス

##### 第三規則

###### 浸水率

- 一 第二規則ニ掲グル一定ノ假定ハ限界線下ノ場所ノ浸水率ニ關ス
  - 可浸長ヲ決定スルニ當リテハ限界線下ニ於ケル船舶ノ左ノ各部分ノ全長ニ互リ一樣ノ平均浸水率ヲ用フベシ
  - (イ) 第一規則第八項ニ定義スル機關室
  - (ロ) 機關室ヨリ前方ノ部分及
  - (ハ) 機關室ヨリ後方ノ部分
  - (ニイ) 汽船ニ在リテハ機關室ノ全長ニ互ル一樣ノ平均浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ決定スベシ
- $$80 + 19.5 \left( \frac{a-c}{d} \right)$$
- a ハ第一規則第九項ニ定義スル旅客室ニシテ機關室



ノ区域内ニ於テ限界線下ニ在ルモノノ容積  
 Cハ機關室ノ区域内ニ於テ限界線下ニ在ル甲板間ノ場所ニシテ貨物、石炭又ハ貯藏品ニ充テラルルモノノ容積

Vハ限界線下ニ在ル機關室ノ全容積

(ロ) 内燃機關ニ依リ推進セラルル船舶ニ在リテハ右ノ一様ノ平均浸水率ハ前記ノ算式ニ依リ得タルモノニ五ヲ加ヘタルモノト爲スベシ

(ハ) 精密ナル計算ニ依リ決定シタル機關室ノ平均浸水率ガ右算式ニ依リ得タルモノヨリ少キコトガ主管廳ノ十分ト認ムル程度ニ證明セラレタルトキハ精密ナル計算ニ依リ決定シタル値ヲ代用スルコトヲ得精密ナル計算ノ目的ノ爲ニハ第一規則第九項ニ定義スル旅客室ノ浸水率ハ九十五、貨物艙、石炭庫及倉庫ノ浸水率ハ六十、又二重底、燃料油槽其ノ他ノ艙ノ浸水率ハ各場合ニ應ジ主管廳ニ依リ承認セラルル値ト爲スベシ  
 三 機關室ヨリ前方(又ハ後方)ノ船舶ノ部分ニ互ル一様ノ平均浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ決定スベシ

$$63 + 35 \left( \frac{2}{V} \right)$$

ル係數Aヨリ主トシテ旅客ノ運送ニ從事スル船舶ニ適用セラルル係數B迄

規則的且連續的ニ減少スベシ  
 係數A及Bノ變化ハ左ノ算式1及2ニ依リ示サルベシ算式中Lハ第一規則第二項ニ定義スル船舶ノ長サトス

1ガメートルナルトキ

$$A = \frac{58.2}{L-60} + 1.8 (L=131以上) \dots\dots\dots(1)$$

$$B = \frac{30.3}{L-42} + 1.8 (L=79以上) \dots\dots\dots(2)$$

1ガフットナルトキ

$$A = \frac{190}{L-198} + 1.8 (L=430以上) \dots\dots\dots(1)$$

$$B = \frac{100}{L-138} + 1.8 (L=260以上) \dots\dots\dots(2)$$

11 用途ノ標準 或長サノ船舶ニ對シテハ適應ノ區畫係數ハ左ノ算式(3)及(4)ニ依リ求メタル用途ノ標準數(以下標準數ト稱ス)ニ依リ決定セラルベシ算式中

Csハ標準數

Lハ第一規則第二項ニ定義スル船舶ノ長サ

Mハ第一規則第八項ニ定義スル機關室ノ容積(機關室

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

aハ第一規則第九項ニ定義スル旅客室ニシテ機關室ヨリ前方(又ハ後方)ニ於テ限界線下ニ在ルモノノ容積  
 vハ機關室ノ前方(又ハ後方)ニ於テ限界線下ニ在ル船舶ノ部分ノ全容積  
 四 二個ノ横置水密隔壁ノ間ニ在ル甲板間ノ區畫室ガ旅客室又ハ船員室ヲ含ム場合ニ於テハ常設鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ圍繞セラレ且他ノ目的ニ充テラルル場所ヲ除キ該區畫室ノ全部ヲ旅客室ト看做スベシ尤モ當該旅客室又ハ船員室ガ常設鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ圍繞セラレタルトキハ其ノ圍繞セラレタル場所ノミヲ旅客室ト看做スベシ

第四規則

區畫室ノ可許長

一 區畫係數 船舶ノ長サノ或點ニ中心ヲ有スル區畫室ノ最大ノ可許長ハ可浸長ニ區畫係數ト稱スル適應ノ係數ヲ乘ズルコトニ依リ可浸長ヨリ之ヲ求ム  
 區畫係數ハ船舶ノ長サニ依リ變化シ又一定ノ長サニ對シテハ船舶ノ目的トスル用途ノ性質ニ依リ變化スベシ此ノ係數ハ

(イ) 船舶ノ長サガ増加スルニ從ヒ又  
 (ロ) 主トシテ貨物ノ運送ニ從事スル船舶ニ適用セラル

ヨリ前方又ハ後方ニ於テ内底ノ上方ニ常設燃料油槽在ルトキハ其ノ容積ヲ加算ス)

Pハ第一規則第九項ニ定義スル旅客室ノ限界線下ノ全容積

Vハ限界線下ノ船舶ノ全容積

P1ハKトNトノ相乘積

Nハ船舶ガ搭載ヲ許サルベキ旅客ノ數

Kハ左ノ値ヲ有ス Kノ値

長サガメートル、容積ガ  
 立方メートルナルトキ .....0.56L

長サガフット、容積ガ立  
 方フットナルトキ ......6L

KトNトノ相乘積ノ値ガPト限界線ノ上方ノ實際ノ旅客室ノ全容積トノ和ヨリ大ナルトキハ二者ノ中小ナル數字ヲP1トシテ用フルコトヲ得但シP1トシテ用フル値ハKトNトノ相乘積ノ三分ノ二ヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$P_1 \text{ガPヨリ大ナルトキ } C_s = 72 \frac{M+2P}{V+P_1-P} \dots\dots(3)$$

$$\text{其ノ他ノ場合 } C_s = 72 \frac{M+2P}{V} \dots\dots(4)$$



連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ對シテハ容積ハ可浸長ヲ決定スルニ用ヒタル實際ノ限界線迄之ヲ測ルベシ

三 區畫規定

(イ) 長サ百三十一メートル(四百三十フット)以上ノ船舶ノ船首艙ヨリ後方ノ部分ノ區畫ハ標準數ガ二十三以下ナルトキハ算式(1)ニ依リ求メタル係數Aニ係リ、標準數ガ百二十三以上ナルトキハ算式(2)ニ依リ求メタル係數Bニ依リ又標準數ガ二十三ヲ超エ百二十三未満ナルトキハ左ノ算式ヲ用ヒテ係數Aト係數Bトノ間ノ插間法ニ依リ求メタル係數Fニ依リ之ヲ律スベシ

$$F = A - \frac{(A-B)(C_a - 23)}{100} \dots\dots\dots(5)$$

係數Fガ〇・四〇ヨリ小ナル場合ニ於テ船舶ノ機關室ニ付該係數Fニ依ルコト實行不可能ナルコトヲ主管廳ノ十分ト認ムル程度ニ證明シタルトキハ該室ノ區畫ハ〇・四〇ヲ超エザル限ニ於テ増大セラレタル係數ニ依リ之ヲ律スルコトヲ得

(ロ) 長サ百三十一メートル(四百三十フット)未満七十九メートル(二百六十フット)以上ノ船舶ノ船首艙ヨリ後方ノ部分ノ區畫ハ標準數ガ左ノ算式ニ依リ求メタル

$$\left( \frac{L^2}{7000} \right) \text{ (Lガフットナルトキ) } \text{ 又 } \\ \text{ハ五十ノ内何レカ小ナルモノヲ超エザル旅客數ヲ搭載スルコトヲ許サルベキ總テノ長サノ船舶ニ之ヲ適用スベシ}$$

第五規則

區畫ニ關スル特別規定

一 區畫室ハ該區畫室ト之ニ隣接セル一區畫室トノ合計長ガ可浸長ト可許長ノ二倍トノ内何レカ小ナルモノヲ超エザル限リ第四規則ノ規定ニ依リ決定シタル可許長ヲ超ユルコトヲ得

相隣レル二個ノ區畫室ノ一ハ機關室内ニ在リ他ハ機關室外ニ在リテ後者ノ在ル船舶ノ部分ノ平均浸水率ガ機關室ノ平均浸水率ト異ル場合ニ於テハ二區畫室ノ合計長ハ該區畫室ノ在ル船舶ノ二ツノ部分ノ平均浸水率ヲ基礎トシテ之ヲ調整スベシ

二 長サ百三十一メートル(四百三十フット)以上ノ船舶ニ在リテハ船首艙ノ後方ニ在ル主横置隔壁ノ一ハ前部垂線

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

Sニ等シキトキハ

$$S = \frac{3574 - 26L}{13} \text{ (Lガメートルナルトキ) } \\ = \frac{9322 - 20L}{34} \text{ (Lガフットナルトキ) }$$

係數一・〇〇ニ依リ、標準數ガ百二十三以上ナルトキハ算式(2)ニ依リ求メタル係數Bニ依リ又標準數ガSヲ超エ百二十三未満ナルトキハ左ノ算式ヲ用ヒテ一・〇〇ト係數Bトノ間ノ插間法ニ依リ求メタル係數Fニ依リ之ヲ律スベシ

$$F = 1 - \frac{(1-B)(C_a - S)}{123 - S} \dots\dots\dots(6)$$

(イ) 長サ百三十一メートル(四百三十フット)未満七十九メートル(二百六十フット)以上ニシテ標準數ガSヨリ小ナル船舶及長サ七十九メートル(二百六十フット)未満ノ一切ノ船舶ノ船首艙ヨリ後方ノ部分ノ區畫ハ係數一・〇〇ニ依リ之ヲ律スベシ但シ船舶ノ或部分ニ付右ノ係數ニ依ルコト實行不可能ナルコトヲ主管廳ノ十分ト認ムル程度ニ證明シタルトキハ主管廳ハ一切ノ事情ヲ考慮シ正當ト認ムル程度迄緩和スルコトヲ得

(ニ) (ハ)號ノ規定ハ十二ヲ超ユルモ  $\frac{L^2}{600}$  (Lガメー

ヨリ可許長ヲ超エザル距離ニ之ヲ設クベシ

三 主横置隔壁ハ之ヲ屈折セシムルコトヲ得但シ屈折部ノ一切ノ部分ハ第一規則第三項ニ定義スル船舶ノ幅ノ五分ノ一ニ等シキ外板ヨリノ距離ニ在リ且最高區畫滿載吃水線ノ水平面ニテ中心線ニ直角ニ測リタル船舶ノ兩側ニ於ケル垂直面ノ内方ニ在ルコトヲ要ス

隔壁ノ屈折部ニシテ右ノ限界外ニ在ル部分ハ之ヲ次項ニ從ヒ階段部トシテ取扱フベシ

四 主横置隔壁ハ左ノ各號ヲ條件トシ階段アルモノト爲スルコトヲ得

(イ) 當該隔壁ニ依リ仕切ラレタル二區畫室ノ合計長ガ可浸長ノ百分ノ九十ヲ超エザルコト又ハ

(ロ) 平面隔壁ニ依リ確保セラルル安全ト同一程度ノ安全ヲ保ツ爲階段ノアル個所ニ區畫ヲ増設スルコト

五 主横置隔壁ニ屈折又ハ階段アル場合ニ於テハ區畫ヲ決定スルニハ同一效力ノ平面隔壁ヲ用フベシ

六 相隣レル二個ノ主横置隔壁若ハ之ト同一效力ノ平面隔壁又ハ隔壁ノ最近キ階段部ヲ通ル横置平面間ノ距離ガ三メートル〇五(十フット)ニ船舶ノ長サノ百分ノ二ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルトキハ此等ノ隔壁中ノ一個ノミガ



第四規則ノ規定ニ依ル船舶ノ區畫ノ一部ヲ形成スルモノト看做サルベシ

七 主横置水密區畫室ガ局部的ノ區畫ヲ有スル場合ニ於テ三メートル〇五(十フット)ニ船舶ノ長サノ百分ノ二ヲ加ヘタル長サニ互ル假定ノ船側損傷ヲ受クルモ主區畫室ノ全容積ニ浸水セザルコトガ主管廳ノ十分ト認ムル程度ニ證明セラレタルトキハ然ラザル場合ニ斯ル區畫ニ對シ要求セラルル可許長ヲ比例的ニ増大スルコトヲ得  
斯ル場合ニ於テ損傷ヲ受ケザル船側ニ付假定スル實效的浮力ノ容積ハ損傷ヲ受ケタル船側ニ付假定スルモノヨリ大ナルベカラズ

八 水密甲板又ハ水密ナル若ハ水密ナラザル内側外板若ハ縦通隔壁ヲ設クル計畫アル場合ニ於テハ主管廳ハ斯ル構造ヲ有スル個所ノ浸水ニ依リテ生ズルコトアルベキ傾斜ノ影響ヲ特ニ考慮シ何等船舶ノ安全ヲ減ゼザルコトヲ確ムベシ

第六規則

船首尾及機關室隔壁、軸路等

一 各船舶ニハ隔壁甲板迄水密ナル船首隔壁即チ衝突隔壁ヲ備フベシ此ノ隔壁ハ前部垂線ヨリ船舶ノ長サノ百分ノ

五以上ニシテ、三メートル〇五(十フット)ニ船舶ノ長サノ百分ノ五ヲ加ヘタルモノ以下ノ距離ニ之ヲ設クベシ船舶ガ長キ前部船樓ヲ有スル場合ニ於テハ船首隔壁ハ之ヲ隔壁甲板ノ直上ノ甲板迄風雨密トシテ延長スベシ該延長部ハ前部垂線ヨリ少クトモ船舶ノ長サノ百分ノ五ノ個所ニ在リ且階段ヲ形成スル隔壁甲板ノ部分ガ實效アル風雨密ナル限り下方ノ隔壁ノ直上ニ之ヲ設ケザルモ妨ナシ  
二 又船尾隔壁及第一規則第八項ニ定義スル機關室ト其ノ前後ニ於ケル貨物用及旅客用ノ場所トヲ區畫スル隔壁ヲ設ケ之ヲ隔壁甲板迄水密ト爲スベシ但シ區畫ニ關スル船舶ノ安全程度ヲ減少スルコトナキ限り船尾隔壁ハ之ヲ隔壁甲板ノ下方ニ止ムルコトヲ得  
三 一切ノ場合ニ於テ船尾管ハ水密ナル場所ニ圍マルベシ船尾管衛帶ハ水密ナル軸路其ノ他ノ場所ニシテ船尾管衛帶ヨリノ漏洩ノ爲浸水スルモ限界線ガ没入スルコトナキ程度ノ容積ヲ有スルモノノ内ニ在ルベシ

第七規則

區畫滿載吃水線ノ指定、標示及記載

一 條約第五條ノ規定ニ依リ指定シ且標示スル區畫滿載吃水線ハ之ヲ安全證書ニ記載シ且主ナル旅客搭載狀態ニ付

テハ記號C.1ニ依リ、交替使用狀態ニ付テハ記號C.2, C.3等ニ依リ之ヲ區別スベシ

二 安全證書ニ記入セラルル右各滿載吃水線ニ對應スル乾舷ハ承認セラレタル國內乾舷規程ニ依リ決定セラルル乾舷ノ場合ト同一ノ位置ニ於テ同一ノ甲板線ヨリ之ヲ測ルベシ

三 如何ナル場合ト雖モ區畫滿載吃水線ノ標示ハ船舶ノ強サニ依リ又ハ承認セラレタル國內乾舷規程ニ依リ決定セラルル海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ上方ニ之ヲ置クベカラズ

四 船舶ハ區畫滿載吃水線ノ標示ノ如何ニ拘ラズ季節及地方ニ適應スル滿載吃水線ノ標示ニシテ承認セラレタル國內乾舷規程ニ依リ決定セラルルモノヲ没入セシムル程度ニ積載スルコトヲ得ズ

第八規則

水密隔壁等ノ構造及最初ノ試驗

一 水密區畫隔壁ハ横置、縦通ノ何レヲ問ハズ各隔壁ノ個所ニ於ケル限界線迄ノ水高壓力ニ對シ適當ナル餘裕ヲ以テ抵抗シ得ル様之ヲ構造スベシ此等ノ隔壁ノ構造ハ主管廳ノ十分ト認ムルモノタルベシ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

二 隔壁ノ階段部及屈折部ハ水密ニシテ其ノ在ル場所ニ於ケル隔壁ト同一ノ強サヲ有スベシ

肋骨又ハ梁ガ水密ノ甲板又ハ隔壁ヲ貫通スルトキハ斯ル甲板又ハ隔壁ハ木材又ハセメントヲ用ヒズシテ之ヲ構造上水密ト爲スベシ

三 主區畫室ヲ水ヲ滿シテ試驗スルコトハ義務的ナラズ隔壁ノ完全ナル検査ハ検査員之ヲ行フベク且一切ノ場合ニ於テ蛇管ニ依リ試驗ヲ爲スベシ

四 船首艙ハ最高區畫滿載吃水線迄ノ高サノ水ヲ以テ之ヲ試驗スベシ

五 二重底(溝形龍骨ヲ含ム)及内側外板ハ限界線迄ノ水高壓力ニテ之ヲ試驗スベシ

六 液體ヲ容ルルコトヲ目的トシ且船舶ノ區畫ノ一部ヲ成ス槽ハ最高區畫滿載吃水線迄ノ高サ又ハ龍骨ノ上面ヨリ槽ノ個所ニ於ケル限界線迄ノ高サノ三分ノ二ノ内何レカ大ナルモノニ相當スル高サノ水ヲ以テ水密ニ付之ヲ試驗スベシ但シ試驗水高ハ如何ナル場合ト雖モ槽ノ頂板上〇メートル九二(三フット)ヨリ小ナルベカラズ

第九規則

水密隔壁ニ於ケル開口



一 水密隔壁ニ於ケル開口ノ數ハ船舶ノ設計及適當ナル利用ト兩立シ得ル限り之ヲ最小ナラシムベシ此等ノ開口ヲ閉ヅル爲十分ナル裝置ヲ設クベシ

二(イ) 管、排水孔、電燈線等ガ水密區畫隔壁ヲ貫通スル場合ニ於テハ該隔壁ノ水密ノ完全ヲ確保スル爲裝置ヲ爲スベシ

(ロ) 支水瓣ハ水密區畫隔壁ニ之ヲ設クルコトヲ許サズ  
三(イ) 戸、人孔又ハ出入口ハ左ノ隔壁ニ之ヲ設クルコトヲ許サズ

1 限界線下ノ衝突隔壁

2 第七項ニ規定スル場合ヲ除クノ外貨物艙ト之ニ隣接スル貨物艙又ハ常設若ハ豫備ノ石炭庫トノ區畫スル水密橫置隔壁

(ロ) 衝突隔壁ニハ船首槽ノ液體ヲ處理スル爲限界線下ニ於テ一個ヨリ外カラザル管ヲ貫通セシムルコトヲ得但シ該管ニハ隔壁甲板ノ上方ヨリ之ヲ操作シ得ル螺止瓣ヲ設ケ瓣箱ハ船首艙内ニ於テ衝突隔壁ニ之ヲ定著スベシ

四(イ) 常設及豫備ノ石炭庫間ニ取附クル水密戸ハ甲板間ノ石炭庫ノ戸ニ付第九項(ロ)ニ規定スル場合ヲ除クノ

甲板ノ上方ノ近寄り得ル位置ノ雙方ニ於テ放動セラレ得ルモノタルベシ尙手動裝置ヲ備ヘ戸ノ個所及隔壁甲板ノ上方ニ於テ之ヲ操作スル様爲シ且戸ノ落下ノ爲裝置ヲ外シタル後ニ於テ上下ノ位置ノ何レモヨリ迅速ニ再ビ之ヲ仕掛ケ得ル様爲スベシ

(ホ) 戸ガ中央操作場ヨリ動力ニ依リ操作セラルベキモノナルトキハ其ノ機構ハ戸ガ戸ノ個所ニ於テモ動力ニ依リ操作セラレ得ルモノタルベシ此ノ裝置ハ戸ガ中央操作場ヨリ閉ヂラレタル後局部操作場ニ於テ之ヲ開クトキハ自動的ニ閉ヅベク又或戸ガ中央操作場ヨリ開カレルコトヲ防ギ得ル局部裝置ニ依リ之ヲ閉ヂタル儘ト爲シ置クコトヲ得ルモノタルベシ斯ル動力操作ノ戸ハ戸ノ個所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル位置ノ雙方ニ於テ操作シ得ル手動裝置ヲ備フベシ

(ハ) 一切ノ種類ノ水密戸ニハ戸ノ開閉ヲ示ス表示器ヲ戸ノ個所ヲ除キタル一切ノ操作場ニ取附クベシ

七(イ) 旅客室、船員室及作業場所ニ於ケル蝶番水密戸ハ船側ニ於ケル最低點ノ下面ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方少クトモニメートル一三(七フット)ノ個所ニ在ル甲板ノ上方ニ於テノミ之ヲ許ス斯ル甲板ノ下方ニ於ケ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

外常ニ近寄り得ルモノタルベシ

(ロ) 石炭ガ石炭庫ノ水密戸ノ閉鎖ヲ妨グルコトヲ防止スル爲障板其ノ他ノ方法ニ依ル十分ナル裝置ヲ爲スベシ

五 機關室内ニ於テハ石炭庫及軸路ノ戸ヲ除キ交通用トシテ各主橫置隔壁ニ一個ヨリ多カラザル戸ヲ取附クルコトヲ得此等ノ戸ハ實行可能ナル限り高キ敷居ヲ有スル様之ヲ設置スベシ

六(イ) 許シ得ベキ水密戸ノ型ハ蝶番戸、戸其ノ他ノ同一效力ノ型ノ戸ニ限ル單ニ螺釘ヲ以テ定著スル板戸ハ之ヲ除ク

(ロ) 蝶番戸ニハ隔壁ノ各側ヨリ操作シ得ル掛金ヲ取附クベシ

(ハ) 戸ハ水平又ハ垂直ニ動クモノナルコトヲ得手動ニ限ラレルモノナルトキハ其ノ機構ハ戸ノ個所ニ於テ及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル位置ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノタルベシ

(ニ) 戸ガ落下ニ依リ又ハ落下重量物ノ作用ニ依リ閉ヂラルベキモノナルトキハ閉鎖運動ヲ調節スル爲適當ナル裝置ヲ之ニ設クベク其ノ機構ハ戸ガ戸ノ個所及隔壁

ル場所ニハ之ヲ許サズ

(ロ) 十分ナル構造ノ蝶番水密戸ヲ甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル隔壁ニ於テ第十規則第十一項ノ規定ニ依リ載貨門ヲ設クルコトヲ許サルベキ高サニ取附クルコトヲ得此ノ戸ハ航海ノ開始ニ先チテ之ヲ閉ヂ航海中閉ヂタル儘ト爲シ置クベシ又港ニ於ケル斯ル戸ノ開放ノ日時及船舶ガ港ヲ發航スル前ニ於ケル其ノ閉鎖ノ日時ハ之ヲ公用航海日誌ニ記入スベシ斯ル戸ヲ取附クル計畫アル場合ニ於テハ其ノ數及配置ニ付主管廳ノ特別ノ考慮ヲ受クベク且船舶所有者ハ斯ル戸ノ絶對ニ必要ナルコトヲ證明スル文書ヲ要求セラルベシ

八 他ノ一切ノ水密戸ハ之ヲ戸ト爲スベシ  
九(イ) 軸路ノ入口ニ於ケルモノヲ除キ航海中時トシテ開クコトアルベキ水密戸ヲ其ノ敷居ガ最高區畫滿載吃水線ノ下方ニ在ルガ如キ高サニ於テ主橫置水密隔壁ニ取附クルトキハ左ノ規定ヲ適用スベシ

(二) 斯ル戸ノ數ガ五個ヲ超ユル場合ニ於テハ一切ノ水密戸ハ動力操作ノモノニシテ且船橋上ニ在ル操作場ヨリ同時ニ之ヲ閉ヂ得ルモノタルベシ此等ノ戸ノ同時ノ閉鎖ニ先チ警戒音響信號ヲ爲スモノトス



(二) スル戸ノ數ガ五個ヲ超エザル場合ニ於テハ

- 1 標準數ガ三十ヲ超エザルトキハ一切ノ水密戸ハ手ノミニ依リテ操作セラルルモノナルコトヲ得
- 2 標準數ガ三十ヲ超エ六十ヲ超エザルトキハ一切ノ水密戸ハ戸ノ個所ニ於テ及隔壁甲板ノ上方ヨリ操作セラルル放動及手動ノ裝置ヲ備フル落下戸ナルカ又ハ動力ニ依リテ操作セラルル戸ナルコトヲ得
- 3 標準數ガ六十ヲ超ユルトキハ一切ノ水密戸ハ動力ニ依リテ操作セラルベシ

(ロ) 石炭線ノ目的ヲ以テ航海中時トシテ開クコトヲ要スル水密戸ガ隔壁甲板下ノ甲板間ニ於ケル石炭庫ノ間ニ取附ケラレアルトキハ此等ノ戸ハ動力ニ依リテ操作セラルモノタルベシ此等ノ戸ノ開閉ハ之ヲ公用航海日誌ニ記録スベシ

(ハ) 冷蔵貨物ニ連絡スル圍壁通路ガ一個ヨリ多クノ主横置水密隔壁ヲ貫通シ且其ノ開口ノ數居ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方二メートル一三(七フット)未滿ノ個所ニ在ルトキハスル開口ニ於ケル水密戸ハ動力ニ依リテ操作セラルベシ

強壓通風ノ爲主横置水密隔壁ヲ貫通スル隧道又ハ圍壁通路ヲ設クル計畫アル場合ニ於テハ右隧道又ハ圍壁通路ハ主管廳ノ特別ノ考慮ヲ受クベシ

第十規則

限界線下ノ船側ニ於ケル開口

- 一 船側ニ於ケル開口ノ閉鎖手段ノ裝置及效力ハ其ノ企圖セラレタル目的ト其ノ取附ケラレタル位置トニ適應シ且全般ニ互リ主管廳ノ十分ト認ムルモノタルベシ
- 二(イ) 甲板間ニ於テ何レカノ舷窓ノ下縁ガ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キ且最低點ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方船舶ノ幅ノ千分ノ二十五ノ個所ニ在ル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ニ於ケル一切ノ舷窓ハ開キ得ザル型ノモノタルベシ

(ロ) (イ)ニ依リ開キ得ザル型ナルコトヲ要スルモノヲ除キ甲板間ニ於テ何レカノ舷窓ノ下縁ガ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キ且最低點ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方三メートル六六(十二フット)ニ船舶ノ幅ノ千分ノ二十五ヲ加ヘタル高サニ在ル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ニ於ケル一切ノ舷窓ハ船長ノ同意ヲ得ザル者ガ之ヲ開クコトヲ有效ニ防止シ得ル構造ノモノタルベシ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

十 隔壁ニ於ケル取外シ得ル板戸ハ機關室ニ於テノ外之ヲ許サズスル板戸ハ船舶ガ港ヲ發航スルニ先チ常ニ其ノ位置ニ在ルベク航海中ハ緊急ノ必要アル場合ノ外之ヲ取外スベカラズ此等ノ板戸ヲ再ビ取附クルニ當リテハ其ノ接合部ガ水密ナルベキコトヲ確保スル爲必要ナル注意ヲ爲スベシ

十一 一切ノ水密戸ハ航行中ノ閉チ置クベシ但シ船舶ノ利用ノ爲必要ニ開カルル場合ハ此ノ限ニ在ラザルモ斯ル場合ニ於テハ直ニ之ヲ閉チ得ル様常ニ準備スベシ

十二 船員室ヨリ焚火場ヘノ通行ノ爲、管ヲ通ス爲又ハ其ノ他ノ目的ノ爲ノ圍壁通路又ハ隧道ガ主横置水密隔壁ヲ貫通スルトキハ該圍壁通路又ハ隧道ハ水密ニシテ且第十二規則ノ規定ニ適合スルモノタルベシ斯ル隧道又ハ圍壁通路ガ航海中通路トシテ使用セラルルトキハ少クトモ各其ノ一端ヘノ通行ハ限界線ノ上方ヘ通行シ得ル二十分ナル高サ迄水密状態ニテ延長セル圍壁ニ依ルベシ該圍壁通路又ハ隧道ノ他端ヘノ通行ハ船舶ニ於ケル當該個所ニ付規定セラルル型ノ水密戸ニ依ルコトヲ得斯ル圍壁通路又ハ隧道ハ衝突隔壁ノ後方ニ於ケル最初ノ區畫隔壁ヲ貫通スベカラズ

(ハ) 其ノ他ノ舷窓ハ普通ノ開キ得ル型ノモノナルコトヲ得

(ニ) 甲板間ニ於テ(ロ)ニ掲ゲタル舷窓ノ何レカノ下縁ガ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キ且最低點ガ或港ヨリ發航ノ際船舶ノ現ニ浮ベル吃水線ノ上方一メートル三七(四フット六インチ)ニ船舶ノ幅ノ千分ノ二十五ヲ加ヘタル個所ニ在ル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ニ於ケル一切ノ舷窓ハ船舶ガ該港ヲ發航スルニ先チ之ヲ水密ニ閉チ且之ニ錠ヲ下スベシ尙航行中ハ之ヲ開クベカラズ

港ニ於テ斯ル舷窓ヲ開キタル日時及船舶ガ港ヲ發航スルニ先チ舷窓ヲ閉チ且之ニ錠ヲ下シタル日時ハ之ヲ公用航海日誌ニ記入スベシ

主管廳ハ極限平均吃水ニシテ其ノ吃水ニ於テハ此等ノ舷窓ガ其ノ下縁ヲ本項ニ定メタル線ノ上方ニ有シ從テ該舷窓ヲ航海中船長ノ責任ニ於テ開キ得ベキモノヲ指示スルコトヲ得平穩ナル天候ニ於ケル熱帶ノ海上ニ於テハ此ノ極限吃水ハ零メートル三〇五(一フット)迄増加スルコトヲ得



三 容易且有效ニ閉テ水密ニ定著シ得ル様装置シタル有效ナル蝶番附内蓋ヲ左ノ一切ノ舷窓ニ備フベシ  
 (イ) 開キ得ザル型ナルコトヲ要スル舷窓  
 (ロ) 前部垂線ヨリ船舶ノ長サノ八分ノ一以内ノ個所ニ取附クベキ舷窓

(ハ) 第二項(ロ)ニ定メタル位置ニ取附クベキ舷窓  
 (ニ) 航行中近寄り得ザルベキ舷窓  
 (ホ) 水夫及火夫ノ居住ニ充ツル場所ニ取附クベキ舷窓  
 (ヘ) 下級旅客ノ居住ニ充ツル場所ニ取附クベキ舷窓  
 四 前項ニ掲グルモノヲ除キ隔壁甲板下ニ取附クル舷窓ニハ有效ナル内蓋ヲ備フベシ此ノ内蓋ハ之ヲ取外シ得ベク且舷窓ニ接近シテ備ヘ置クコトヲ得

五 航行中近寄り得ザルベキ舷窓及其ノ蓋ハ船舶ノ發航前之ヲ閉テ且定著スベシ  
 六 貨物又ハ石炭ノ搭載ニ專用スル場所ニハ舷窓ヲ取附クベカラズ

七 自動通風用舷窓ハ主管廳ノ特別ノ許可ナクシテ限界線下ノ船側ニ之ヲ取附クベカラズ  
 八 船側ニ於ケル一切ノ機關用其ノ他ノ吸入孔及排出孔ハ船内ヘノ不慮ノ浸水ヲ防止シ得ル様之ヲ裝置スベシ

載吃水線下ニ取附ケラルベキモノハ主管廳ノ特別ノ考慮ヲ受クベシ

十二 各灰棄筒、芥棄筒等ノ船内開口ニハ有效ナル蓋ヲ備フベシ  
 船内開口ガ限界線下ニ在ルトキハ其ノ蓋ハ水密ナルベク尙最高區畫滿載吃水線ノ上方ノ容易ニ近寄り得ル位置ニ於テ筒ニ自動不還瓣ヲ取附クベシ筒ガ使用中ニ非ザルトキハ蓋及瓣ハ雙方トモ之ヲ閉テ且定著シタル儘ト爲シ置クベシ

第十一規則

水密戸、舷窓等ノ構造及最初ノ試験

一 本規則ニ掲グル一切ノ水密戸、舷窓、舷門、載貨門、載炭門、瓣、管、灰棄筒及芥棄筒ノ設計、材料及構造ハ主管廳ノ十分ト認ムルモノタルベシ  
 二 各水密戸ハ限界線迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ試験ハ船ノ就役前ニ於テ戸ノ取附前又ハ取附後ニ之ヲ行フベシ

第十二規則

水密ナル甲板、圍壁等ノ構造及最初ノ試験

一 水密ナル甲板、圍壁、隧道、溝形龍骨及通風筒ハ之ニ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

九 船側ニ於ケル排水孔、衛生排出孔其ノ他類似ノ開口ノ數ハ各排出孔ヲ能フ限リ多數ノ衛生管其ノ他ノ管ノ用ニ供スルカ又ハ他ノ十分ナル方法ニ依リ之ヲ最少ニ減ズベシ

十 限界線下ノ場所ヨリ船側ヲ貫通スル排水孔ニハ船内ヘノ浸水ヲ防止スル爲有效ニシテ且近寄り得ル装置ヲ備フベシ各別ノ排水孔ニ對シテハ一個ノ自動不還瓣ニシテ隔壁甲板ノ上方ヨリ之ヲ閉テ得ル積極裝置ヲ有スルモノ又ハ其ノ代リニ斯ル裝置ナキ二個ノ自動不還瓣ニシテ其ノ上部ノ瓣ガ船舶ノ就役状態ニ於テ檢査ノ爲常ニ近寄り得ル様最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ在ルモノヲ備フルコトヲ許シ得ベシ

積極操作ノ瓣ヲ取附クル場合ニ於テハ隔壁甲板ノ上方ノ操作位置ハ常ニ容易迅速ニ近寄り得ベク又瓣ノ開閉ヲ表示スル爲ノ裝置ヲ備フベシ

十一 限界線下ニ取附クル舷門、載貨門及載炭門ハ十分ナル強サノモノタルベシ此等ノモノハ船舶ガ港ヲ發航スルニ先チ之ヲ有效ニ閉テ且水密ニ定著スベク尙航行中ノ閉テタル儘ト爲シ置クベシ  
 載貨門又ハ載炭門ニシテ其ノ一部又ハ全部ガ最高區畫滿

相當スル高サニ於ケル水密隔壁ト同一ノ強サノモノタルベシ此等ノモノヲ水密ナラシムル爲ニ用フル方法及此等ノモノニ於ケル開口ヲ閉ヅル爲ニ採用スル裝置ハ主管廳ノ十分ト認ムルモノタルベシ水密ナル通風筒及圍壁ハ少クトモ之ヲ限界線迄達セシムベシ

二 完成後水密甲板ニハ蛇管又ハ漲水ニ依ル試験ヲ爲シ又水密ナル圍壁、隧道及通風筒ニハ蛇管ニ依ル試験ヲ爲スベシ

第十三規則

水密戸等ノ定期ノ操作及檢査

一切ノ新造及現存船ニ於テ水密戸、舷窓、瓣並ニ排水孔、灰棄筒及芥棄筒ノ閉鎖機構ノ操作ノ操練ハ毎週之ヲ行フベシ航海期間ガ一週間ヲ超ユル船舶ニ在リテハ全部ノ操練ハ港ヲ發航スルニ先チ之ヲ行ヒ爾後ノ他ノ操練ハ航海中少クトモ一週一回之ヲ行フベシ但シ主橫置隔壁ニ於ケル一切ノ水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航行中使用セララルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル一切ノ機構及表示器並ニ區畫室ヲ水密ト爲ス爲閉鎖ヲ必要トスル一切ノ瓣ハ航海中少クトモ一週一回定期ニ之ヲ檢査スベシ



第十四規則

公用航海日誌ノ記入

一切ノ新船及現存船ニ於テ蝶番戸、取外シ得ル板戸、舷窓、舷門、載貨門、載炭門其ノ他ノ開口ニシテ本規則ニ依リ航行中閉テタル儘ト爲シ置クコトヲ要スルモノハ船舶ガ港ヲ發航スルニ先チ之ヲ閉ヅベシ右閉鎖ノ日時及開放(本規則ニ依リ許サル場合)ノ日時ハ之ヲ公用航海日誌ニ記録スベシ

第十三規則ニ規定スル一切ノ操練及検査ノ記録ハ發見セラレルコトアルベキ缺陷ノ明瞭ナル記録ト共ニ之ヲ公用航海日誌ニ記入スベシ

第十五規則

二重底

一 長サ六十一メートル(二百フット)以上七十六メートル(二百四十九フット)未滿ノ船舶ニ在リテハ少クトモ機關室ヨリ船首隔壁迄又ハ實行可能ナル限り其ノ近ク迄

二重底ヲ取附クベシ

二 長サ七十六メートル(二百四十九フット)以上百メートル(三百三十フット)未滿ノ船舶ニ在リテハ少クトモ機關室外ニハ二重底ヲ取附ケ之ヲ船首尾隔壁迄又ハ實行

可能ナル限り其ノ近ク迄達セシムベシ

三 長サ百メートル(三百三十フット)以上ノ船舶ニ在リテハ其ノ長サノ中央部ニ二重底ヲ取附ケ之ヲ船首尾隔壁迄又ハ實行可能ナル限り其ノ近ク迄達セシムベシ

四 二重底ヲ取附クルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ内底板ハ彎曲部迄船底ヲ保護スル様之ヲ船側迄延長スベシ此ノ保護ハ縁板ノ外縁ト彎曲外板トノ交線ガ何レノ部分ニ於テモ船舶ノ長サノ中央部ニ於ケル肋骨線ト基線ニ對シ二十五度ニ傾斜シ且中心線ヨリ船舶ノ型幅ノ二分ノ一ノ點ニ於テ基線ヲ切ル横斜線トノ交點ヲ通ル水平面ヨリ下方ニ在ラザルトキ之ヲ十分ナルモノト認ムベシ

五 二重底ニ設クル塗水溜ニシテ排水裝置ニ聯結スルモノハ必要以上之ヲ下方ニ達セシムベカラズ又右塗水溜ハ外底板ヨリ又ハ縁板ノ内縁ヨリ四百五十七ミリメートル(十八インチ)未滿ナルベカラズ但シ螺旋推進器船ノ軸路ノ後端ニ於テハ外底板迄達スル塗水溜ヲ許ス

第十六規則

耐火隔壁

船舶ニハ隔壁甲板ヨリ上部ニ耐火隔壁ヲ備フベシ此等ノ隔壁ハ船側ヨリ船側迄連續シ且主官廳ノ十分ト認ムル様配置

セラレベシ

此等ノ隔壁ハ船舶ニ於テ隔壁ガ取附ケラルベキ状態ノ下ニ隔壁ノ個所ニ於テ攝氏八百十五度(華氏千五百度)ノ溫度ヲ生ズル火ノ蔓延ヲ一時間阻止スルニ有效ナル金屬其ノ他ノ耐火材料ヲ以テ之ヲ構造スベシ

此等ノ隔壁ニ於ケル階段部、屈折部及一切ノ開口ノ閉鎖裝置ハ耐火性ニシテ且焰密タルベシ

船樓内ニ於ケル相隣レル二個ノ耐火隔壁ノ平均距離ハ通常四十メートル(百三十一フット)ヲ超ユベカラズ

第十七規則

限界線ノ上方ノ船側口其ノ他ノ開口等

一 限界線ノ上方ノ舷窓、舷門、載貨門、載炭門其ノ他船側ニ於ケル開口ノ閉鎖裝置ハ之ヲ取附クル場所及最高區畫滿載吃水線ニ對スル其ノ位置ヲ考慮シ有效ナル設計及構造ノモノニシテ且十分ナル強サノモノタルベシ

二 隔壁甲板又ハ其ノ上方ノ甲板ハ通常ノ海洋ノ状態ニ於テハ水ガ下方ニ浸透セザルコトノ意義ニ於ケル風雨密タルベシ暴露セル露天甲板ニ設クル一切ノ開口ニハ十分ナル高サ及強サノ縁材ヲ設ケ且之ヲ迅速ニ風雨密ニ閉ヅル爲ノ有效ナル裝置ヲ備フベシ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

三 一切ノ天候状態ニ於テ露天甲板ヨリ水ヲ迅速ニ排除スル爲必要ナル吃水口及(又ハ)排水孔ヲ備フベシ

第十八規則

水密區畫室ヨリノ出口

一 旅客室及船員室ニハ其ノ居住者ノ爲各水密區畫室ヨリ開放セル甲板ヘノ實行可能ナル退去裝置ヲ備フベシ

二 船員ノ爲各機械室、軸路、焚火場其ノ他ノ作業場所ヨリノ實行可能ナル退去裝置ヲ水密戸ト別個ニ備フベシ

第十九規則

ポンプ排水裝置

汽船

一 船舶ニハ其ノ遭難後船舶ガ直立セルト傾斜セルトニ拘ラズ實行可能ナル一切ノ状態ニ於テ何レノ水密區畫室ヨリモ吸水シ且排水シ得ル有效ナルポンプ裝置ヲ備フベシ此ノ目的ノ爲ニハ船舶ノ兩端ノ狭キ區畫室ニ於テノ外ハ通常側部吸水管ヲ必要トスベシ船底彎曲部ニ互リ密接セル内張板ヲ取附クル場合ニハ區畫室内ノ水ガ吸水管ニ達シ得ル裝置ヲ爲スベシ防熱裝置ヲ施シタル艙内ヨリ排水スル爲有效ナル裝置ヲ備フベシ

二 主機關ニ依リ動作スル通常ノ塗水ポンプ又ハ之ト同一



效力ノ機關室ポンプニ加フルニ二個ノ獨立動力海水ポンプヲ備フベシ但シ長サ九十一メートル五(三百フット)未滿ニシテ三十未滿ノ標準數ヲ有スル船舶ニ在リテハ一個ヲ前部ニ一個ヲ後部ニ取附ケタル二個ノ有效ナル「クランク」型手動ポンプ又ハ一箇ノ移動式動力ポンプヲ以テ右追加ノ獨立動力海水ポンプ中ノ一個ニ代用スルコトヲ得

一切ノ場合ニ於テ標準數ガ三十ヲ超ユルトキハ更ニ獨立動力ポンプ一個ヲ備フベシ

衛生、脚荷及雜用ポンプガ海水吸出系トノ必要ナル連結管ヲ備フルトキハ之ヲ獨立動力海水ポンプトシテ承認スルコトヲ得

三 二個以上ノ獨立動力ポンプヲ要スル場合ニ於テハ其ノ配置ハ少クトモ一個ノ動力ポンプハ船舶ガ海上ニ於テ浸水スルコトアルベキ一切ノ通常ノ狀況ニ於テ之ヲ利用シ得ルモノタルベシ從テ動力ポンプノ内一個ハ有效ナル潛水型ノ非常ポンプタルベシ隔壁甲板ノ上方ニ設置シタル力源設備ハ非常ノ際右ポンプノ爲ニ利用シ得ルモノタルベシ

四 實行可能ナルトキハ動力海水ポンプハ同一ノ損傷ニ依

環水排出管ニ達スル支管ヲ取附クベシ

八(イ) 貨物艙又ハ機關室ノ排水ニ要スルポンプヨリノ一切ノ管ハ水又ハ油ヲ搭載スル場所ヲ滿シ又ハ空ニスル爲使用スルコトアルベキ管トハ全ク之ヲ區別スベシ

(ロ) 鉛管ハ石炭庫若ハ燃料油庫ノ下部又ハ汽罐室若ハ機關室(沈澱油槽若ハ燃料油ポンプ装置ヲ備フル發動機室ヲ含ム)内ニ於テハ之ヲ使用スベカラズ

九 主管廳ハ海水ノ主管及支管ノ徑ニ關スル規程ヲ設クベシ右管ノ徑ハ夫々船舶ノ大小及排水スベキ區畫室ノ大小ニ比例スルモノタルベシ

十 海水及脚荷水ノ吸出系ノ裝置ハ水ガ海及脚荷水槽ヨリ貨物艙及機關室ニ又ハ一區畫室ヨリ他ノ區畫室ニ流入スルノ可能性ヲ防止スル様爲スベシ海水及脚荷水用ノ連結管ヲ有スル深水槽ニ貨物ヲ積載セル場合ニ不意ニ海水流入スルコト又脚荷水ヲ積載セル場合ニ海水管ヲ通ジテ吸出サルルコトヲ防止スル爲特別ノ設備ヲ爲スベシ

十一 海水吸出管ヲ備フル區畫室ガ衝突又ハ乗揚ニ依リ他ノ區畫室内ニ於テ該管ニ切斷又ハ其ノ他ノ損傷ヲ受ケタル場合ニ浸水スルコトヲ防止スル爲設備ヲ爲スベシ此ノ目的ノ爲ニハ管ノ何レカノ部分ガ船側附近又ハ溝形龍骨

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

リ容易ニ浸水セザル如キ配置又ハ位置ヲ有スル別別ノ水密區畫室ニ之ヲ設置スベシ機械及汽罐ガ二個以上ノ水密區畫室内ニ在ルトキハ海水用ニ利用シ得ルポンプハ能フ限リ此等ノ區畫室ニ之ヲ分布スベシ

五 船首尾艙ノミニ對シ備フルコトアルベキポンプヲ除キ各海水ポンプハ手動ノモノナルト動力操作ノモノナルトニ拘ラズ當該船舶ノ何レノ船艙又ハ機關室ヨリモ排水スル様之ヲ配置スベシ

六 各獨立動力海水ポンプハ海水主管ヲ通ル水ニ一分間百二十二メートル(四百フット)以上ノ速度ヲ與ヘ得ルモノタルベク且之ヲ備フル區畫室ニ對シ海水主管ノ徑ヨリ小ナラザル徑ノ別個ノ直接吸水管ヲ有スベシ各獨立動力ポンプヨリノ直接吸水管ハ船舶ノ各側ヨリ吸水シ得ル様之ヲ配置スベシ

七 主循環ポンプニハ不環辦附ニシテ機關室内ニ於ケル最低排水位置迄達シ且少クトモ主海水吸入口ノ徑ノ三分ノ二ノ徑ヲ有スル直接吸水管ヲ設クベシ燃料ガ石炭ナル場合又ハ石炭ナルコトアルベキ場合ニ於テ機械ト汽罐トノ間ニ水密隔壁ナキトキハ少クトモ一個ノ循環ポンプヨリ船外ヘノ直探排水管ヲ取附クルカ又ハ其ノ代リニ循

内ニ在ルトキハ管ノ開放端ヲ有スル區畫室ニ於テ之ニ不還辦ヲ取附クルカ又ハ隔壁甲板ノ上方ノ位置ヨリ操作シ得ル螺止辦ヲ取附クベシ

十二 海水吸出裝置ニ連結セル一切ノ分配箱、嘴子及辦ハ通常ノ狀況ニ於テ常ニ近寄り得ル位置ニ在ルトコトヲ要ス此等ハ船舶浸水ノ場合ニ非常海水ポンプガ何レノ區畫室ニ對シテモ動作シ得ル様配置セラルベシ一切ノポンプニ共通ナル一ノ管系ノミヲ備フルトキハ海水吸出管ノ制御ニ必要ナル嘴子又ハ辦ハ隔壁甲板ノ上方ヨリ之ヲ操作シ得ルモノタルベシ主海水吸出系ニ加フルニ非常海水吸出系ヲ備フルトキハ之ヲ主系ヨリ獨立セシメ且非常ポンプガ浸水状態ニ在ル何レノ區畫室ニ對シテモ動作シ得ル様裝置スベシ

發動機船

十三 發動機船ニ於ケル海水吸出裝置ハ主循環ポンプニ關スルモノヲ除キ實行可能ナル限リ同大ノ汽船ニ對シ要求セラルルモノト同一效力ノモノタルベシ

第二十規則

後退力

船舶ハ一切ノ狀況ニ於テ船舶ノ適當ナル操縱ヲ確保スル爲



十分ナル後退力ヲ有スベシ

第二十一規則

補助操舵裝置

船舶ニハ補助操舵裝置ヲ備フベシ但シ該裝置ハ主裝置ヨリ少キ力ノモノナルコトヲ得ベク且手動ノ爲ノ適當ナル裝置ヲ爲シ得ルトキハ蒸氣又ハ其ノ他ノ機械力ニ依リ操作セラ

第二十二規則

船舶ノ最初及爾後ノ検査

- 一 各新船又ハ現存船ハ左ニ掲グル検査ヲ受クベシ
(イ) 船舶ノ就役前ノ検査
(ロ) 十二月毎ニ一回ノ定期検査
(ハ) 臨時ノ追加検査
二 右ニ掲グル検査ハ左ノ如ク之ヲ行フベシ
(イ) 船舶ノ就役前ノ検査ハ船底ノ外部及汽罐ノ内外部ヲ含メル船體、機關及艤裝品ノ完全ナル検査ヲ含ムベシ此ノ検査ハ船體、汽罐及其ノ附屬品、主及補助ノ機關、救命設備並ニ他ノ艤裝品ノ配置、材料及構造寸法ガ本條約ノ規定及本條約ニ基キ船舶ノ屬スル國ノ政府

ノ公布シタル細目規程ノ規定ニシテ該船舶ノ目的トスル用途ノ船舶ニ對スルモノニ完全ニ適合スルコトヲ確

- (ロ) 定期検査ハ船底ノ外部ヲ含メル船體、汽罐、機關及艤裝品ノ全般ノ検査ヲ含ムベシ此ノ検査ハ船舶ガ船體、汽罐及其ノ附屬品、主及補助ノ機關、救命設備並ニ他ノ艤裝品ニ關シ十分ナル状態ニ在リテ其ノ目的トスル用途ニ適シ且本條約ノ規定及本條約ニ基キ船舶ノ屬スル國ノ政府ノ公布シタル細目規程ノ規定ニ適合スルコトヲ確ムルモノタルベシ
(ハ) 船舶ノ安全ニ又ハ其ノ救命設備其ノ他ノ艤裝品ノ效力若ハ完備ニ影響スル事故發生シ又ハ缺陷發見セラレタルトキ或ハ重大ナル修繕又ハ新換ガ爲サレタルトキハ其ノ都度事情ニ應ジ全般又ハ部分ノ検査ヲ行フベシ此ノ検査ハ必要ナル修繕又ハ新換ガ有效ニ爲サレタルコト、斯ル修繕又ハ新換ノ材料及工作ガ一切ノ點ニ於テ十分ナルコト及船舶ガ一切ノ點ニ於テ本條約ノ規定及本條約ニ基キ船舶ノ屬スル國ノ政府ノ公布シタル

細目規程ノ規定ニ適合スルコトヲ確ムルモノタルベシ

- 三 第二項ニ掲グル細目規程ニハ主及補助ノ汽罐、連結管、汽管、高壓溜及石油發動機ノ燃料油槽ノ受クベキ最初及爾後ノ水壓試験ニ關シ遵守スベキ規定ヲ設クベシ右規定ニハ適用スベキ試験壓力及相次グニ試験ノ間隔ヲ定ムベシ
主及補助ノ汽罐、連結管、槽及溜竝ニ内徑七十六ミリメートル(三インチ)ヲ超ユル汽管ハ新規ノトキ十分ナル水壓試験ヲ受クベシ内徑七十六ミリメートル(三インチ)ヲ超ユル汽管ハ定期ニ水壓試験ヲ受クベシ

第二十三規則

検査後ニ於ケル状態ノ維持

第二十二規則ニ規定スル船舶ノ検査ヲ完了シタル後ハ検査ノ範圍ニ屬スル構造上ノ配置、機關、艤裝品等ニ主管廳ノ許可ナクシテ變更ヲ爲スベカラズ

第二十四規則

端艇ノ標準型

端艇ノ標準型ハ之ヲ左ノ如ク區分ス
第一級 固定舷側ヲ有シ(イ)内部浮體ノミ又ハ(ロ)内部及海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

外部ノ浮體ヲ有スル無甲板艇

- 第二級 (イ)内部及外部ノ浮體ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板艇並ニ(ロ)固定又ハ疊込ノ水密舷牆ヲ有スル有甲板艇
浮力ガ艇體ノ主要部分ノ一ノ豫メノ調節ニ係ル端艇又ハ三立方メートル五(百二十五立方フットニ當ル)未滿ノ容積ヲ有スル端艇ハ之ヲ承認スルコトヲ得ズ
人及艤裝品ヲ滿載シタル場合ノ重量二萬三百キログラム(二十トンニ當ル)ヲ超ユル端艇ハ之ヲ承認スルコトヲ得ズ

第二十五規則

第一級救命艇

第一級救命艇ハ少クトモ其ノ長サノ百分ノ四ニ等シキ平均舷弧高ヲ有スルコトヲ要ス
第一級救命艇ノ空氣箱ハ荒天状態ノ下ニ滿載ノ場合ノ復原性ヲ確保シ得ル様之ヲ配置スベシ
百人以上ノ人員ヲ搭載スルコトヲ許サル端艇ニ在リテハ浮體ノ容積ヲ主管廳ノ十分ト認ムル程度迄増加スベシ
第一級救命艇ハ尙左ノ條件ヲ充スコトヲ要ス
(イ) 内部浮體ノミヲ有スル救命艇
此ノ型ノ木製艇ノ浮力ハ少クトモ端艇ノ容積ノ十分ノ一ニ



等シキ總容積ノ水密空氣箱ニテ之ヲ調フベシ

此ノ型ノ金屬製艇ノ浮力ハ之ト同一容積ノ木製艇ニ付右ニ規定シタル浮力ヨリ少カラザルベク從テ水密空氣箱ノ容積ヲ適當ニ増加スベシ

(ロ) 内部及外部ノ浮體ヲ有スル救命艇

此ノ型ノ木製艇ノ内部浮體ノ浮力ハ少クトモ端艇ノ容積ノ千分ノ七十五ニ等シキ總容積ノ水密空氣箱ニテ之ヲ調フベシ

外部浮體ハ「コルク」製又ハ他ノ同一效力ノ材料製ナルコトヲ得但シ斯ル浮體ノ浮力ハ「コルク」屑、散粒狀「コルク」若ハ他ノ散粒狀物質ノ使用ニ依リ又ハ空氣ニ依ル膨脹ノ方法ニ依リ之ヲ調フベカラズ

浮體ガ「コルク」製ナルトキハ其ノ容積ハ木製艇ニ在リテハ端艇ノ容積ノ千分ノ三十三ヨリ少カラザルベク「コルク」以外ノ材料製ナルトキハ其ノ容積及配置ハ端艇ノ浮力及復原性ガ「コルク」製ノ浮體ヲ備フル同様ノ端艇ノ浮力及復原性ヨリ少カラザルモノタルベシ

金屬製艇ノ浮力ハ之ト同一容積ノ木製艇ニ付右ニ規定シタル浮力ヨリ少カラザルベク從テ水密空氣箱ノ容積及外部浮體ノ容積ヲ適當ニ増加スベシ

第二十六規則

第二級救命艇

第二級救命艇ハ左ノ條件ヲ充スコトヲ要ス

(イ) 内部及外部ノ浮體ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板艇

此ノ型ノ端艇ハ水密空氣箱及外部浮體ノ兩者ヲ備ヘ其ノ總容積ハ該端艇ガ收容シ得ル各人ニ付少クトモ左ニ掲グルモノト等シカラシムベシ

立方デシメートル 立方フット  
空氣箱 四三 一・五  
外部浮體(コルク製ナルトキ) 六 〇・二

外部浮體ハ「コルク」製又ハ他ノ同一效力ノ材料製ナルコトヲ得但シ斯ル浮體ノ浮力ハ「コルク」屑、散粒狀「コルク」若ハ他ノ散粒狀物質ノ使用ニ依リ又ハ空氣ニ依ル膨脹ノ方法ニ依リ之ヲ調フベカラズ

浮體ガ「コルク」以外ノ材料製ナルトキハ其ノ容積及配置ハ端艇ノ浮力及復原性ヨリ少カラザルモノタルベシ

此ノ型ノ金屬製艇ニハ其ノ浮力ガ少クトモ木製艇ノ浮力ニ等シキコトヲ確保スベキ内部及外部ノ浮體ヲ備フベシ

此ノ型ノ端艇ノ最少乾舷ハ端艇ノ長サニ從ヒ之ヲ定ムベシ  
乾舷ハ端艇ガ満載セラレタルトキ水面ヨリ端艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル固定艇體ノ上面迄垂直ニ之ヲ測ルベシ  
淡水ニ於ケル乾舷ハ左ニ掲グルモノヨリ小ナルベカラズ

救命艇ノ長サ

最小乾舷

メートル	フット	ミリメートル	インチ
七・九〇	二六	二〇〇	八
八・五〇	二八	二二五	九
九・一五	三〇	二五〇	一〇

中間ノ長サノ端艇ノ乾舷ハ挿間法ニ依リ之ヲ求ムベシ  
疊込舷側ハ水密ナルコトヲ要ス

(ロ) 固定又ハ疊込ノ水密舷壁ヲ有スル有甲板艇

(1) 凹甲板ヲ有スル有甲板艇 此ノ型ノ端艇ノ凹甲板ノ面積ハ少クトモ甲板ノ全面積ノ百分ノ三十ト爲スベシ  
凹甲板ノ水面上ノ高サハ一切ノ點ニ於テ少クトモ端艇ノ長サノ千分ノ五ニ等シクシ凹甲板ノ兩端ニ於テ少クトモ端艇ノ長サノ千分ノ十五トナル様之ヲ増スベシ  
此ノ型ノ端艇ノ乾舷ハ少クトモ百分ノ三十五ノ豫備浮力ヲ供スルモノタルベシ

(2) 平甲板ヲ有スル有甲板艇 此ノ型ノ端艇ノ最小乾舷

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

ハ端艇ノ長サニ拘ラズ其ノ深サノミニ依リ之ヲ定ム端艇ノ深サハ龍骨翼板ノ下面ヨリ端艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル甲板ノ上面迄垂直ニ之ヲ測リ又乾舷ハ端艇ガ満載セラレタルトキ端艇ノ長サノ中央ノ舷側ニ於ケル甲板ノ上面ヨリ水面迄之ヲ測ルベシ

淡水ニ於ケル乾舷ハ左ニ掲グル高サヨリ小ナルベカラズ此ノ高サハ端艇ノ長サノ百分ノ三ニ等シキ平均舷高ヲ有スル端艇ニ對シ無修正ニテ適用セラル

救命艇ノ深サ

最小乾舷

メートル	インチ	ミリメートル	インチ
三一〇	一二	七〇	二¾
四六〇	一八	九五	三¾
六一〇	二四	一三〇	五½
七六〇	三〇	一六五	六½

中間ノ深サニ付テハ乾舷ハ挿間法ニ依リ之ヲ求ム  
舷弧高ガ右ニ定ムル標準舷弧高ヨリ小ナルトキハ最小乾舷ハ表ニ掲グル數ニ標準舷弧高ト船首材及船尾材ニ於テ測リタル實際ノ平均舷弧高トノ差ノ七分ノ一ヲ加ヘテ之ヲ求ム舷弧高ガ標準舷弧高ヨリ大ナルニ依リ又ハ甲板ノ梁矢アルニ依リ乾舷ヲ減少スルコトヲ得ズ



(3) 一切ノ有甲板救命艇ニハ甲板上ヨリ水ヲ排除スル爲  
ノ有效ナル装置ヲ備フベシ

第二十七規則

發動機艇

船舶ノ救命設備ノ一部トシテ搭載スル發動機艇ハ第三十六  
規則第二項ニ依リ要求セラルルモノナルト否トニ拘ラズ左  
ノ條件ニ適合スベシ

(イ) 發動機艇ハ第一級救命艇ニ對スル規定ニ適合スベシ  
尙之ヲ迅速ニ水上ニ卸ス爲ノ適當ナル装置ヲ備附クベシ  
(ロ) 發動機艇ハ燃料ヲ十分ニ備へ且何時ニテモ直ニ使用  
シ得ル様爲シ置カルベシ

(ハ) 發動機及其ノ附屬物ハ荒天狀態ノ下ニ操作ヲ確保ス  
ル爲適當ニ之ヲ蔽圍スベシ又後退ノ爲ノ装置ヲ備フベシ  
(ニ) 速力ハ満載セラレタルトキ平水ニ於テ少クトモ六ノ  
ツトタルベシ

内部浮體ノ容積及外部浮體ヲ備フルトキハ該外部浮體ノ容  
積ハ發動機、探照燈、無線電信設備及此等ノモノノ附屬物  
ノ重量ト發動機、探照燈、無線電信設備及此等ノモノノ附  
屬物ヲ取除クトセバ端艇ガ收容シ得ベキ追加人員ノ重量ト  
ノ差ヲ補フニ十分ナル割合ヲ以テ之ヲ増加スベシ

シ得ルモノタルベシ

(チ) 空氣箱又ハ同一效力ノ浮體ハ救命筏ノ側面ニ能フ限  
リ近ク之ヲ設置スベシ尙斯ル浮體ノ浮力ハ空氣ニ依ル膨  
脹ノ方法ニ依ルコトヲ得ズ

第二十九規則

救命浮器

救命浮器ハ救命甲板腰掛、救命甲板椅子又ハ他ノ救命浮器  
タルヲ間ハズ浮力ニ關スル限ニ於テハ救命浮器ガ淡水ニ於  
テ支ヘ得ル鐵片ノキログラム數ヲ十四・五ニテ除シテ得タ  
ル數(ポンド數ヲ三十二ニテ除シテ得タル數ニ當ル)ノ人  
員ニ對シ之ヲ十分ナリト認ムベシ若シ救命浮器ニシテ其ノ  
浮力ガ空氣ニ依ルモノナルトキハ該浮器ハ危急ニ際シ使用  
前ニ膨脹セシムルヲ要スルモノナルコトヲ得ズ  
救命浮器ガ適當ナリト認メラルル人員ハ前記ニ依リ得タル  
數ト周邊ノ長サ三十センチメートル五(一フットニ當ル)ニ  
付一ノ割合ニ依リ得タル數トノ内何レカ小ナルモノニ依リ  
之ヲ決定スベシ

右承認救命浮器ハ左ノ條件ニ適合スベシ  
(1) 救命浮器ハ適當ナル工作及材料ニ依リ構造セララル  
ベシ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

第二十八規則

救命筏

如何ナル型ノ救命筏モ左ノ條件ヲ充スニ非ザレバ承認セラ  
ルコトヲ得ズ

(イ) 救命筏ハ承認セラレタル材料及構造ノモノタルベシ  
(ロ) 救命筏ハ何レノ面ヲ上ニシテ浮ベル場合ニ於テモ有  
效且安定ナルベシ

(ハ) 救命筏ハ木材、帆布又ハ他ノ適當ナル材料ニテ造リ  
タル固定又ハ疊込ノ舷牆ヲ兩面ニ備フベシ

(ニ) 救命筏ハ外周ニ強固ニ取附ケタル把索ヲ有スベシ  
(ホ) 救命筏ハ破損ヲ生ズルコトナクシテ之ヲ船舶ノ甲板  
ヨリ進水セシメ又ハ投下シ得ル程度ノ強サノモノタルベ  
シ投下スベキモノナルトキハ救命筏ハ容易ニ取扱ヒ得ル  
程度ノ大サ及重量ノモノタルベシ

(ヘ) 救命筏ハ之ニ搭載セラレベキ各人ニ付八十五立方デシ  
メートル(三立方フットニ當ル)ヨリ少カラザル空氣箱  
又ハ之ト同一效力ノ浮體ヲ有スベシ

(ト) 救命筏ハ之ニ搭載セラレベキ各人ニ付三千七百二十  
平方センチメートル(四平方フットニ當ル)ヨリ少カラ  
ザル甲板面積ヲ有シ且搭乘者ヲ水ヨリ離レテ有效ニ支持

(一) 救命浮器ハ何レノ面チ上ニシテ浮ベル場合ニ於テモ  
有效且安定ナルベシ

(三) 救命浮器ハ機械的裝置ナクシテ之ヲ取扱ヒ得且必要  
ニ應ジ搭載甲板ヨリ破損ヲ生ズルコトナクシテ之ヲ投下  
シ得ル程度ノ大サ、強サ及重量ノモノタルベシ

(四) 空氣箱又ハ同一效力ノ浮體ハ救命浮器ノ側面ニ能フ  
限り近ク之ヲ設置スベシ

(五) 救命浮器ハ其ノ外周ニ強固ニ取附ケタル把索ヲ有ス  
ベシ

第三十規則

第一級救命艇ノ容積

一 第一級救命艇ノ容積ハ「スターリング」(シムプソン)ノ  
法則ニ依リ又ハ之ト同一ノ精密度ヲ得ベキ他ノ方法ニ依  
リ之ヲ決定スベシ方形船尾ノ端艇ノ容積ハ恰モ該端艇ガ  
尖形船尾ヲ有スルモノトシテ之ヲ計算スベシ

二 例ヘバ端艇ノ立方メートル(又ハ立方フット)ニ依ル容  
積ハ「スターリング」法則ニ依リ計算セラルルトキハ左ノ  
算式ニ依リ得ラルルモノト看做サルベシ

$$\text{容積} = \frac{1}{12} (4A + 2B + 4C)$$



1 船首材ニ於ケル外板ノ内面ヨリ船尾材ニ於ケル該當  
點迄ノメートル(又ハフット)ニ依ル端艇ノ長サトス方形  
船尾ノ端艇ノ場合ニ在リテハ長サハ船尾横板ノ内面迄之  
ヲ測ル

A、B、Cハ夫々船首ヨリ長サノ四分ノ一、長サノ中央  
及船尾ヨリ長サノ四分ノ一ニ於ケル横截面ニシテ1/4  
等分シテ得タル三點ニ該當スルモノノ面積ヲ表ス(短艇  
ノ兩端ニ該當スル面積ハ之ヲ無視シ得ルモノト看做ス)  
面積A、B、Cハ三個ノ横截面ノ各ニ付左ノ算式ヲ順次  
ニ適用スルコトニ依リ平方メートル(又ハ平方フット)  
ニテ得ラルルモノト看做サルベシ

$$\text{面積} = \frac{1}{12} (a + 4b + 2c + 4d + e)$$

hハ外板ノ内面ニ於テ龍骨ヨリ舷端迄又ハ特別ノ場合後  
ニ規定スル如ク艇端ヨリ低キ個所迄ヲメートルニテ(又  
ハフットニテ)測リタル深サトス

a、b、c、d、eハ深サノ最上點及最下點並ニhヲ四  
等分シテ得タル三點ニ於テメートルニテ(又ハフットニ  
テ)測リタル端艇ノ水平ノ幅ヲ表ス(a及eハhノ端末  
點ニ於ケル幅又cハ中央點ニ於ケル幅トス)

七

主各管艙ハ長サ、幅及深サノ相乘積ニ〇・六ヲ乘シタ  
ルモノカ前記ノ方法ニ依リ得タル容積ヨリ大ナル容積ト  
ナラザルコト明ナルトキハ右相乘積ニ〇・六ヲ乘シタル  
モノニ等シキ容積ヲ端艇ニ指定スルノ權利ヲ留保ス此ノ  
場合端艇ノ寸法ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ測ルベシ  
長サ 外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾材ニ於ケル  
該當點迄又方形船尾ノ端艇ノ場合ニハ船尾横板ノ後面  
迄

幅 端艇ノ幅最大ナル點ニ於テ外板ノ外面ヨリ外面迄  
深サ 長サノ中央ニ於テ外板ノ内面ニテ龍骨ヨリ舷端迄  
但シ容積ノ計算ニ用フル深サハ如何ナル場合ニ於テモ  
幅ノ百分ノ四十五ヲ超ユルコトヲ得ズ

八

一切ノ場合ニ於テ船舶所有者ハ端艇ノ容積ヲ正確ナル測  
定ニ依リ決定スベキコトヲ請求スルノ權利ヲ有ス  
八 發動機艇ノ容積ハ總容積ヨリ發動機及其ノ附屬物並ニ  
無線電信設備及探照燈ヲ備フル場合ニハ此等ノモノ及其  
ノ附屬物ノ占ムル容積ニ等シキ容積ヲ控除シテ之ヲ求ム

第三十一規則

第二級救命艇ノ甲板面積

一 有甲板艇ノ甲板ノ面積ハ次ニ示ス方法ニ依リ又ハ之ト

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

三 兩端ヨリ端艇ノ長サノ四分ノ一ニ在ル二點ニ於テ測リ  
タル舷端ノ舷弧高ガ端艇ノ長サノ百分ノ一ヲ超ユルトキ  
ハ横截面積A又ハCノ計算ニ用フル深サハ端艇ノ長サノ  
中央ニ於ケル深サニ端艇ノ長サノ百分ノ一ヲ加ヘタルモ  
ノトスベシ

四 端艇ノ長サノ中央ニ於ケル端艇ノ深サガ幅ノ百分ノ四  
十五ヲ超ユルトキハ中央横截面積Bノ計算ニ用フル深サ  
ハ幅ノ百分ノ四十五ニ等シキモノトスベシ又長サノ四分  
ノ一ニ於ケル横截面積A及Cノ計算ニ用フル深サハ右ノ  
深サニ端艇ノ長サノ百分ノ一ヲ加ヘテ之ヲ求ム但シ如何  
ナル場合ニ於テモ右ノ計算ニ用フル深サハ當該點ニ於ケ  
ル實際ノ深サヲ超ユベカラズ

五 端艇ノ深サガ百二十二センチメートル(四フットニ當  
ル)ヨリ大ナルトキハ總テ救命胴衣ヲ着用シタル人員ヲ  
搭載シ端艇ヲ浮ベテ試験シ満足ナル結果ヲ得ル迄ハ本規  
則ノ適用ニ依リ得タル人員ヲ百二十二センチメートルト  
端艇ノ實際ノ深サトノ割合ニ依リ減少スベシ

六 各主各管艙ハ甚ダ鋭尖ナル兩端ヲ有スル端艇及形狀甚ダ  
肥滿セル端艇ニ許スベキ人員ニ付テハ適當ナル算式ニ依  
リ制限ヲ爲スベシ

同一ノ精密度ヲ得ベキ他ノ方法ニ依リ之ヲ決定スベシ該  
法則ハ第二級(イ)型艇ノ固定舷側内ノ面積ノ決定ニ之ヲ  
適用スベシ

二 例ヘバ端艇ノ平方メートル(又ハ平方フット)ニ依ル  
面積ハ左ノ算式ニ依リ得ラルルモノト看做サルベシ

$$\text{面積} = \frac{1}{12} (2a + 1.5b + 4c + 1.5d + 2e)$$

1 外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾材ニ於ケル該  
當點迄ノメートル(又ハフット)ニ依ル長サトス  
a、b、c、d、eハ1/4等分シ且最前方及最後方ノ  
部分ヲ更ニ二等分シタル各分長點ニ於ケル外板ノ外面ヨ  
リ外面迄ノメートル(又ハフット)ニ依ル水平ノ幅ヲ表  
ス(a及eハ兩端ニ於ケル副分長點、cハ長サノ中央點  
又b及dハ中間分長點ニ於ケル幅トス)

第三十二規則

端艇、救命筏及救命浮器ノ標示

端艇ニハ其ノ寸法及搭載スルコトヲ許可セラレタル人員ヲ  
明瞭且耐久ナル文字ヲ以テ標示スベシ此等ノ標示ハ船舶  
ヲ検査スル爲ニ任命セラレタル職員ニ依リ特ニ承認セラル  
ベシ



救命筏及救命浮器ニハ右ト同様ノ方法ニ依リ人員ヲ標示ス  
ベシ

第三十三規則

端艇ノ搭載能力

- 一 標準型ノ一ニ屬スル端艇ニ收容シ得ル人員ハ該端艇ノ  
立方メートル(又ハ立方フット)ニ依ル容積又ハ平方メ  
ートル(又ハ平方フット)ニ依ル面積ヲ各型ニ付次ニ規  
定スル標準單位容積又ハ標準單位面積(各場合ニ應ジ)  
ヲ以テ除シテ得タル最大整数ニ等シ
- 二 人員決定ノ爲ノ標準單位容積及標準單位面積ハ左ノ如  
シ

單位容積

第一級(イ)型無甲板艇	立方メートル	立方フット
第一級(ロ)型無甲板艇	〇・二八三	一〇
單位面積	〇・二五五	九

第二級艇

平方メートル	平方フット
〇・三二五	三½

三 主管廳ハ實驗ノ上當該有甲板艇ニ於ケル座席設備ニ相  
當スル人員ガ前記ノ除數ヲ適用シテ得タル數ヨリ大ナル  
シテ數フベシ

第三十五規則

人ノ換算及重量

端艇又ハ救命筏ニ收容シ得ル人員ヲ決定スル爲ノ試驗ニ於  
テハ各人ハ救命胴衣ヲ著用シタル大人ナリト假定スベシ  
乾舷ノ検査ニ當リテハ有甲板艇ニハ該端艇ガ搭載ヲ許サル  
ル各大人ニ付少クトモ七十五キログラム(百六十五ポンド)  
ノ割合ノ重量ヲ積載スベシ  
一切ノ場合ニ於テ十二歳未満ノ小兒二人ハ之ヲ大人一人ト  
シテ數フベシ

第三十六規則

端艇及救命筏ノ艤裝品

- 一 各端艇ノ標準艤裝品ハ左ニ掲グルモノヨリ成ルコトヲ  
要ス
- (イ) 櫂各腰掛ニ付一挺、豫備櫂二挺、操舵櫂一挺、櫂  
栓又ハ櫂架一組半、鈎竿一本
- (ロ) 各栓孔ニ對シ栓二個(適當ナル自動瓣ヲ取附クル  
トキハ栓ヲ要セズ)、滄波一個及亞鉛鍍鐵製バケツ一個
- (ハ) 舵一個及舵柄又ハ索附橫舵柄一個
- (ニ) 手斧二個
- (ホ) 油ヲ滿シ心ヲ整ヘタル燈一個

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

コトヲ認メタルトキハ各場合ニ應ジ〇・三二五又ハ三½  
ノ代リニ一層小ナル除數ヲ承認スルコトヲ得但シ各場合  
ニ應ジ〇・三二五又ハ三½ノ代リニ採用スル除數ハ常ニ  
各場合ニ應ジ〇・二八〇又ハ三ヨリ小ナルコトヲ得ズ  
右ノ如ク一層小ナル除數ヲ承認スル主管廳ハ當該有甲板  
艇ノ實驗ノ詳細及圖面ヲ他ノ主管廳ニ送付スベシ

第三十四規則

搭載能力ノ制限

- 端艇ニハ本規則ニ規定スル方法ニ依リ得タル人員ヨリモ多  
キ人員ヲ標示スベカラズ
- 右人員ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ減少スベシ
- (一) 人員ガ適當ナル座席設備ニ相當スル人員ヨリ多キト  
キ 座席ニ相當スル人員ハ一同ガ著席シタルトキ櫂ノ使  
用ヲ毫モ妨ゲザル様ニ之ヲ決定スベシ
- (二) 第一級艇ニ非ザル端艇ノ場合ニ於テハ端艇ニ滿載シ  
タルトキノ乾舷ガ夫々各型ニ付規定スル乾舷ヨリ小ナル  
トキ 人員ハ端艇ガ滿載セラレタルトキノ乾舷ガ少クト  
モ右ニ規定スル標準乾舷ニ等シクナル迄之ヲ減少スベシ
- 第二級(ロ)型艇ニ在リテハ側部ニ於ケル甲板ノ高マリタ  
ル部分ハ座席設備ニ充テ得ルモノト認メラルベシ

(ハ) 良好ナル帆少クトモ一枚ヲ備フル櫂一本以上及各  
櫂ニ對スル適當ナル裝具

- (ト) 有效ナル羅針儀一個
- (チ) 外周ニ取附ケタル把索一筋
- (リ) 海錨一個
- (ヌ) 繫索一筋
- (ル) 植物性又ハ動物性ノ油四リットル半(一ガロンニ  
當ル)ヲ容レクル容器一個 該容器ハ水面ニ容易ニ油  
ヲ撒布シ得ル様構造シ且海錨ニ取附ケ得ル様裝置シタ  
ルモノタルベシ
- (ヲ) 各人ニ付一キログラム(二ポンドニ當ル)ノ割合  
ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一個
- (ワ) 各人ニ付一リットル(一「クオート」ニ當ル)ノ割  
合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一個
- (カ) 水密容器ニ容レタル自己點火式信號紅焰少クトモ  
一打及水密容器ニ容レタル燐寸一箱
- (コ) 各人ニ付半キログラム(一ポンドニ當ル)ノ割合  
ノ煉乳
- (タ) 艤裝品中ノ小形雜品ヲ格納スル爲ノ適當ナル格納  
箱一個



(レ) 百人以上ヲ搭載スルコトヲ許サルル端艇ハ發動機ヲ備ヘ第二十七規則ノ規定ニ適合スベシ  
 發動機附救命艇ニハ櫓及帆柱ニ腰掛ノ數ノ二分ノ一ヨリ多クノ櫓ヲ備フルコトヲ要セズ然レドモ二本ノ鈎竿ヲ備フベシ

有甲板救命艇ニハ栓孔ヲ設クルコトヲ得ズ然レドモ少クトモ二個ノ塗水ポンプヲ備フベシ  
 北緯三十五度以北ノ北大西洋ニ於テ旅客ヲ運送スル船舶ノ場合ニ在リテハ主管廳ノ定ムル數ノ端艇ノミガ櫓及帆ヲ備フルヲ以テ足り且煉乳ハ前記ノ分量ノ二分ノ一ヲ備フルヲ以テ足ル

二 船舶ニ備フル救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ其ノ内一隻ハ發動機艇タルベク又十九隻ヲ超ユルトキハ其ノ内二隻ハ發動機艇タルベシ此等ノ發動機附救命艇ニハ無線電信設備及探照燈ヲ備フベシ

無線電信設備ハ各主管廳ノ定ムル通達距離及效力ニ關スル條件ニ適合スベシ

探照燈ハ少クトモ八十ワツトノ燈、有效ナル反射鏡及光源ニシテ明キ色ノ物體ヲ百八十メートル(二百ヤード)ノ距離ニ於テ約十八メートル(六十フット)ノ幅ニ互リ

個

(リ) 水密容器ニ容レタル自己點火式信號紅焰少クトモ

一 打及水密容器ニ容レタル燐寸一箱

四 短國際航海ニ從事スル船舶ノ場合ニ在リテハ主管廳ハ端艇ニ對シテハ第一項(ハ)、(ヲ)及(ヨ)ニ掲グル艤裝品ノ備附及第二項ノ規定ノ適用ヲ免除シ又救命筏ニ對シテハ第三項(ト)ニ掲グル艤裝品ノ備附ヲ免除スルコトヲ得

第三十七規則

端艇及救命筏ノ積付及取扱

一 救命筏ハ第三十八規則ノ條件ニ從ヒ其ノ一ヲ他ノ端艇ノ上ニ積付ケ又ハ主管廳ノ課スルコトアルベキ條件ニ從ヒ其ノ一ヲ他ノ端艇内ニ重ネテ積付クルコトヲ得但シ斯ク積付ケタル端艇ヲ進水セシムルニ先チ吊揚グルコトヲ要スル場合ニハ此等ノ端艇ハ吊揚グル爲ノ機械力裝置アル場合ニ限り許サルベシ

二 端艇鈎ニ取附ケタル端艇ノ下ニ積付ケタル端艇ニ追加シテ備フル救命艇及救命筏ハ甲板、船橋樓又ハ船尾樓ヲ横切リテ之ヲ積付ケ且之ヲ進水セシムル暇ナキトキ船舶ヨリ離レテ自由ニ浮ブ好機會ヲ有スル様据附ケ置クコト

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

合計六時間有效ニ照明シ得ルモノヲ包含シ且該探照燈ハ三時間連續シテ作用シ得ルモノタルベシ  
 無線電信設備及探照燈ニ要スル力ガ同一力源ヨリ供給セララルトキハ該力源ハ兩設備ノ適當ナル操作ニ對シ十分タルベシ

三 各承認救命筏ノ標準艤裝品ハ左ニ掲グルモノヨリ成ルベシ

(イ) 櫓四挺

(ロ) 櫓架五個

(ハ) 自己點火式救命焰一個

(ニ) 海錨一個

(ホ) 繫索一筋

(ヘ) 植物性又ハ動物性ノ油四リツトル半(一ガロンニ當ル)ヲ容レタル容器一個 該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル様構造シ且海錨ニ取附ケ得ル様裝置シタルモノタルベシ

(ト) 各人ニ付一キログラム(二ポンドニ當ル)ノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一個

(チ) 各人ニ付一リットル(「クオート」ニ當ル)宛ノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一

ヲ得

三 第二項ニ掲グル追加端艇ノ能フ限りノ多數ハ甲板ノ一側ヨリ他側ニ移動セシムル爲ノ承認裝置ニ依リ何レノ船側ニ於テモ之ヲ進水セシメ得ルモノタルベシ

四 端艇ハ下層ノ甲板ニ於ケル端艇ガ上層ノ甲板ニ積付ケタルモノニ依リ妨ゲラルルコトヲ防グ爲ノ適當ナル方法ヲ講ズルコトヲ條件トシテノミ之ヲ二層以上ノ甲板ニ積付クルコトヲ得

五 端艇ハ船舶ノ前端部ニ又ハ進水ノトキ推進器ノ危險區域ニ來ル虞アル位置ニ之ヲ置クベカラズ

六 端艇鈎ハ承認セラレタル形狀ノモノニシテ其ノ下ニ置カレタル端艇ガ他ノ端艇鈎ノ操作ニ依リ妨ゲラルルコトナク安全ニ卸サレ得ル様一層又ハ二層以上ノ甲板ニ之ヲ配置スベシ

七 端艇鈎、滑車、吊索及一切ノ他ノ裝具ハ船舶ガ何レノ側ニ十五度傾キタル場合ニ於テモ端艇ニ人及艤裝品ヲ滿載シテ之ヲ安全ニ卸シ得ル程度ノ強サノモノタルベシ吊索ハ船舶ガ最小航海吃水ニ於テ且十五度傾斜ノ際水面ニ達スル様十分長カルベシ

八 端艇鈎ニハ旅客ヲ除クノ外艤裝品及艇手ノ全部ヲ搭載



シタル端艇ヲ其ノ吊卸ノ可能ナル最大傾斜ニ逆ヒ振出し得ルニ十分ナル力ヲ有スル装置ヲ備フベシ

九 端艇鈎ニ取附ケタル端艇ニハ何時ニテモ使用シ得ル様準備セラレタル吊索ヲ備フベシ又必ズシモ同時ナルコトヲ要セザルモ迅速ニ端艇ヲ吊索ヨリ取外ス爲ノ装置ヲ設クベシ

十 二隻以上ノ端艇ガ同一組ノ端艇鈎ニ依リ扱ハルル場合ニ於テハ吊索ガ普通ノ索ヨリ成ルトキハ各端艇ヲ扱フ爲別別ノ吊索ヲ備フベシ但シ捲返ス爲ノ機械装置ヲ備ヘテ鋼吊索ヲ使用スル場合ニ於テハ別別ノ吊索ヲ備フルコトヲ要セズ右ノ装置ハ順次ニ且迅速ニ端艇ヲ卸スコトヲ確保スルモノナルコトヲ要ス

吊索ノ捲返ノ爲機械装置ヲ備フル場合ニ於テハ有效ナル手動器具ヲ併セ備フベシ  
十一 短國際航海ニ於テ船舶ガ其ノ最小航海吃水ニ在ルトキ端艇甲板ノ水線上ノ高サガ四メートル五〇(十五フー)トキ超エザルトキハ第七項、第八項及第十項ニ掲グル端艇鈎ノ強サ及振出装置ニ關スル規定ハ之ヲ適用セズ

第三十八規則

端艇、救命筏等ノ數及容積並ニ端艇鈎

ケル端艇ノ總容積ハ少クトモ(ハ)欄ニ要求スル最小容積ニ達スルコトヲ要ス

二 短國際航海ニ従事スル船舶ニハ其ノ長サニ應ジ第三十九規則ノ表中(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ端艇鈎ノ各組ニハ之ニ取附ケタル一隻ノ第一級艇ヲ備フベシ若シ端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ガ第三十九規則ノ表中(ニ)欄ニ定メタル最小容積ヲ有セザルカ又ハ船内全人員ニ對スル收容能力ヲ有セザルトキハ標準型ノ一ノ追加救命艇、承認救命筏又ハ他ノ承認救命浮器ヲ備ヘ斯シシテ具備セル收容能力ガ船内全人員ニ對シ十分タルベシ  
主管廳ニ於テ短國際航海ニ従事スル船舶ニ第三十九規則ノ表中(イ)欄ニ要求スル組數ノ端艇鈎ヲ備付クルコトガ實行可能ナラズ又ハ合理的ナラズト認メタルトキハ主管廳ハ例外的狀況ノ下ニ一層少キ組數ノ端艇鈎ヲ許スコトヲ得但シ此ノ組數ハ右表中(ロ)欄ニ定メタル最小組數ヨリ少カラズ且該船舶ニ於ケル端艇ノ總容積ハ少クトモ(ニ)欄ニ要求スル最小容積ニ達スルコトヲ要ス

第三十九規則

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

一 船舶ニハ其ノ長サニ應ジ第三十九規則ノ表中(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇鈎ヲ備フベシ但シ船内全人員ノ收容ノ爲ニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キ組數ノ端艇鈎ヲ要求セズ端艇鈎ノ各組ニハ之ニ取附ケタル一隻ノ第一級艇ヲ備フベシ若シ端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ガ船内全人員ニ對スル十分ノ收容能力ヲ有セザルトキハ標準型ノ一ノ追加救命艇ヲ備付クベシ先ヅ一隻宛ノ追加救命艇ヲ端艇鈎ニ取附ケタル各端艇ノ下ニ積付クベシ此等追加救命艇ヲ備ヘタル後殘餘ノ端艇ハ之ヲ内側ニ搭載スベシ但シ主管廳ニ於テ救命筏ガ危急ノ際此等内側ニ搭載シタル救命艇ヨリモ一層迅速ニ利用セラレ其ノ他ノ點ニ於テモ一層満足ナルモノト認メタルトキハ當該船舶ニ於ケル端艇ノ總容積ガ少クトモ第三十九規則ノ表中(ハ)欄ニ要求スル最小容積ニ達スルコトヲ條件トシ艇救艇ヲ搭載スルコトヲ許スコトヲ得

主管廳ニ於テ船舶ニ第三十九規則ノ表中(イ)欄ニ要求スル組數ノ端艇鈎ヲ備付クルコトガ實行可能ナラズ又ハ合理的ナラズト認メタルトキハ主管廳ハ例外的狀況ノ下ニ一層少キ組數ノ端艇鈎ヲ許スコトヲ得但シ此ノ組數ハ右表中(ロ)欄ニ定ムル最小組數ヨリ少カラズ且該船舶ニ於

端艇鈎及救命艇容積ニ關スル表

左表ハ船舶ノ長サニ應ジ左ノ事項ヲ定ム

- (イ) 第三十八規則ニ依リ第一級艇ヲ取附クルコトヲ要スル端艇鈎ノ最小組數
- (ロ) 第三十八規則ニ依リ例外的ニ許シ得ル端艇鈎ノ一層少キ組數
- (ハ) 第三十八規則ニ依リ要求スル救命艇(端艇鈎ニ取附ケタル救命艇及追加端艇ヲ含ム)ノ最小容積
- (ニ) 短國際航海ニ従事スル船舶ニ對シ要求スル救命艇ノ最小容積



船舶ノ登簿長	端艇鉤ノ最		例外的ニ許シ得ル端艇ノ一層少ナキ組數		救命艇ノ最小容積		救命艇ノ最小容積		
	メートル	フート	小組數	ナキ組數	立方メートル	立方フート	立方メートル	立方フート	
以上	未滿	以上	未滿						
三七	四三	一〇〇	一一〇	二	二六	九二〇	一一	五〇〇	
四九	四三	一一〇	一四〇	二	三五	一、二二〇	一七	六〇〇	
五三	五三	一六〇	一七五	三	四四	一、五五〇	二四	七五〇	
五八	五八	一九〇	一九〇	三	五三	一、八八〇	三三	一、一五〇	
六三	六三	二〇五	二〇五	四	六六	二、三九〇	三七	一、四〇〇	
六七	六七	二二〇	二二〇	四	七六	二、七四〇	四一	一、四五〇	
七〇	七〇	二三〇	二三〇	四	八六	三、三三〇	四四	一、六〇〇	
七五	七五	二四〇	二四〇	五	九四	三、九〇〇	四八	一、六〇〇	
七八	七八	二五五	二五五	五	一一〇	四、五〇〇	五三	一、六〇〇	
八二	八二	二七〇	二七〇	五	一二九	五、一〇〇	六〇	一、七〇〇	
八七	八七	二八五	二八五	五	一四四	五、七〇〇	六六	一、七〇〇	
九一	九一	三〇〇	三〇〇	六	一六〇	六、三〇〇	七六	一、七〇〇	
九六	九六	三一五	三一五	六	一七五	六、九〇〇	八五	一、七〇〇	
一〇一	一〇一	三三〇	三三〇	七	一九六	七、五〇〇	九五	一、七〇〇	
一〇七	一〇七	三四〇	三四〇	七	二一四	八、一〇〇	一〇五	一、七〇〇	
一一三	一一三	三五〇	三五〇	七	二三三	八、七〇〇	一一六	一、七〇〇	
一二三	一二三	三九〇	三九〇	七	二五五	九、三〇〇	一二七	一、七〇〇	
一三三	一三三	四一〇	四一〇	七	二七七	九、九〇〇	一三七	一、七〇〇	
一四三	一四三	四三〇	四三〇	七	二九〇	一〇、五〇〇	一四四	一、七〇〇	
一五三	一五三	四四〇	四四〇	七	三〇二	一一、一〇〇	一五六	一、七〇〇	
一六三	一六三	四五〇	四五〇	七	三一〇	一一、七〇〇	一七〇	一、七〇〇	
一七三	一七三	四六〇	四六〇	七	三一七	一二、三〇〇	一八五	一、七〇〇	
一八三	一八三	四七〇	四七〇	七	三二七	一二、九〇〇	二〇一	一、七〇〇	
一九三	一九三	四八〇	四八〇	七	三三〇	一三、五〇〇	二一七	一、七〇〇	
二〇三	二〇三	四九〇	四九〇	七	三三〇	一四、一〇〇			
二一三	二一三	五〇〇	五〇〇	七	三三〇	一四、七〇〇			
二二三	二二三	五一〇	五一〇	七	三三〇	一五、三〇〇			
二三三	二三三	五二〇	五二〇	七	三三〇	一五、九〇〇			
二四三	二四三	五三〇	五三〇	七	三三〇	一六、五〇〇			
二五三	二五三	五四〇	五四〇	七	三三〇	一七、一〇〇			
二六三	二六三	五五〇	五五〇	七	三三〇	一七、七〇〇			
二七三	二七三	五六〇	五六〇	七	三三〇	一八、三〇〇			
二八三	二八三	五七〇	五七〇	七	三三〇	一九、九〇〇			
二九三	二九三	五八〇	五八〇	七	三三〇	二〇、五〇〇			
三〇三	三〇三	五九〇	五九〇	七	三三〇	二一、一〇〇			
三一三	三一三	六〇〇	六〇〇	七	三三〇	二一、七〇〇			
三二三	三二三	六一〇	六一〇	七	三三〇	二二、三〇〇			
三四三	三四三	六二〇	六二〇	七	三三〇	二二、九〇〇			
三五三	三五三	六三〇	六三〇	七	三三〇	二三、五〇〇			
三六三	三六三	六四〇	六四〇	七	三三〇	二四、一〇〇			
三七三	三七三	六五〇	六五〇	七	三三〇	二四、七〇〇			
三八三	三八三	六六〇	六六〇	七	三三〇	二五、三〇〇			
三九三	三九三	六七〇	六七〇	七	三三〇	二五、九〇〇			
四〇三	四〇三	六八〇	六八〇	七	三三〇	二六、五〇〇			
四一三	四一三	六九〇	六九〇	七	三三〇	二七、一〇〇			
四二三	四二三	七〇〇	七〇〇	七	三三〇	二七、七〇〇			
四三三	四三三	七一〇	七一〇	七	三三〇	二八、三〇〇			
四四三	四四三	七二〇	七二〇	七	三三〇	二八、九〇〇			
四五三	四五三	七三〇	七三〇	七	三三〇	二九、五〇〇			
四六三	四六三	七四〇	七四〇	七	三三〇	三〇、一〇〇			
四七三	四七三	七五〇	七五〇	七	三三〇	三〇、七〇〇			
四八三	四八三	七六〇	七六〇	七	三三〇	三一、三〇〇			
四九三	四九三	七七〇	七七〇	七	三三〇	三一、九〇〇			
五〇三	五〇三	七八〇	七八〇	七	三三〇	三二、五〇〇			
五一三	五一三	七九〇	七九〇	七	三三〇	三三、一〇〇			
五二三	五二三	八〇〇	八〇〇	七	三三〇	三三、七〇〇			
五四三	五四三	八一〇	八一〇	七	三三〇	三四、三〇〇			
五五三	五五三	八二〇	八二〇	七	三三〇	三四、九〇〇			
五六三	五六三	八三〇	八三〇	七	三三〇	三五、五〇〇			
五七三	五七三	八四〇	八四〇	七	三三〇	三六、一〇〇			
五八三	五八三	八五〇	八五〇	七	三三〇	三六、七〇〇			
五九三	五九三	八六〇	八六〇	七	三三〇	三七、三〇〇			
六〇三	六〇三	八七〇	八七〇	七	三三〇	三七、九〇〇			
六一三	六一三	八八〇	八八〇	七	三三〇	三八、五〇〇			
六二三	六二三	八九〇	八九〇	七	三三〇	三九、一〇〇			
六四三	六四三	九〇〇	九〇〇	七	三三〇	三九、七〇〇			
六五三	六五三	九一〇	九一〇	七	三三〇	四〇、三〇〇			
六六三	六六三	九二〇	九二〇	七	三三〇	四〇、九〇〇			
六七三	六七三	九三〇	九三〇	七	三三〇	四一、五〇〇			
六八三	六八三	九四〇	九四〇	七	三三〇	四二、一〇〇			
六九三	六九三	九五〇	九五〇	七	三三〇	四二、七〇〇			
七〇三	七〇三	九六〇	九六〇	七	三三〇	四三、三〇〇			
七一三	七一三	九七〇	九七〇	七	三三〇	四三、九〇〇			
七二三	七二三	九八〇	九八〇	七	三三〇	四四、五〇〇			
七四三	七四三	九九〇	九九〇	七	三三〇	四五、一〇〇			
七五三	七五三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七	三三〇	四五、七〇〇			
七六三	七六三	一、〇一〇	一、〇一〇	七	三三〇	四六、三〇〇			
七七三	七七三	一、〇二〇	一、〇二〇	七	三三〇	四六、九〇〇			
七八三	七八三	一、〇三〇	一、〇三〇	七	三三〇	四七、五〇〇			
七九三	七九三	一、〇四〇	一、〇四〇	七	三三〇	四八、一〇〇			
八〇三	八〇三	一、〇五〇	一、〇五〇	七	三三〇	四八、七〇〇			
八一三	八一三	一、〇六〇	一、〇六〇	七	三三〇	四九、三〇〇			
八二三	八二三	一、〇七〇	一、〇七〇	七	三三〇	四九、九〇〇			
八四三	八四三	一、〇八〇	一、〇八〇	七	三三〇	五〇、五〇〇			
八五三	八五三	一、〇九〇	一、〇九〇	七	三三〇	五一、一〇〇			
八六三	八六三	一、一〇〇	一、一〇〇	七	三三〇	五一、七〇〇			
八七三	八七三	一、一一〇	一、一一〇	七	三三〇	五二、三〇〇			
八八三	八八三	一、一二〇	一、一二〇	七	三三〇	五二、九〇〇			
八九三	八九三	一、一三〇	一、一三〇	七	三三〇	五三、五〇〇			
九〇三	九〇三	一、一四〇	一、一四〇	七	三三〇	五四、一〇〇			
九一三	九一三	一、一五〇	一、一五〇	七	三三〇	五四、七〇〇			
九二三	九二三	一、一六〇	一、一六〇	七	三三〇	五五、三〇〇			
九四三	九四三	一、一七〇	一、一七〇	七	三三〇	五五、九〇〇			
九五三	九五三	一、一八〇	一、一八〇	七	三三〇	五六、五〇〇			
九六三	九六三	一、一九〇	一、一九〇	七	三三〇	五七、一〇〇			
九七三	九七三	一、二〇〇	一、二〇〇	七	三三〇	五七、七〇〇			
九八三	九八三	一、二一〇	一、二一〇	七	三三〇	五八、三〇〇			
九九三	九九三	一、二二〇	一、二二〇	七	三三〇	五八、九〇〇			
一〇〇三	一〇〇三	一、二三〇	一、二三〇	七	三三〇	五九、五〇〇			
一〇一三	一〇一三	一、二四〇	一、二四〇	七	三三〇	六〇、一〇〇			
一〇二三	一〇二三	一、二五〇	一、二五〇	七	三三〇	六〇、七〇〇			
一〇四三	一〇四三	一、二六〇	一、二六〇	七	三三〇	六一、三〇〇			
一〇五三	一〇五三	一、二七〇	一、二七〇	七	三三〇	六一、九〇〇			
一〇六三	一〇六三	一、二八〇	一、二八〇	七	三三〇	六二、五〇〇			
一〇七三	一〇七三	一、二九〇	一、二九〇	七	三三〇	六三、一〇〇			
一〇八三	一〇八三	一、三〇〇	一、三〇〇	七	三三〇	六三、七〇〇			
一〇九三	一〇九三	一、三一〇	一、三一〇	七	三三〇	六四、三〇〇			
一一〇三	一一〇三	一、三二〇	一、三二〇	七	三三〇	六四、九〇〇			
一一一三	一一一三	一、三三〇	一、三三〇	七	三三〇	六五、五〇〇			
一一二三	一一二三	一、三四〇	一、三四〇	七	三三〇	六六、一〇〇			
一一四三	一一四三	一、三五〇	一、三五〇	七	三三〇	六六、七〇〇			
一一五三	一一五三	一、三六〇	一、三六〇	七	三三〇	六七、三〇〇			
一一六三	一一六三	一、三七〇	一、三七〇	七	三三〇	六七、九〇〇			
一一七三	一一七三	一、三八〇	一、三八〇	七	三三〇	六八、五〇〇			
一一八三	一一八三	一、三九〇	一、三九〇	七	三三〇	六九、一〇〇			
一一九三	一一九三	一、四〇〇	一、四〇〇	七	三三〇	六九、七〇〇			

船舶ノ登簿長	端艇鉤ノ最	例外的ニ許シ得ル端艇ノ一層少ナキ組數	救命艇ノ最小容積	救命艇ノ最小容積
メートル	フート	小組數	立方メートル	立方フート
以上	未滿	以上	未滿	
三七	四三	一〇	二六	九二〇
四九	四三	二	三五	一、二二〇
五三	五三	二	四四	一、五五〇
五八	五三	三	五三	一、八八〇
六三	六三	三	六六	二、三九〇
六七	六七	四	七六	二、七四〇
七〇	七〇	四	八六	三、三三〇
七五	七五	五	九九	三、九〇〇
七八	七八	五	一一〇	四、五〇〇
八二	八二	五	一二九	五、一〇〇
八七	八二	五	一四四	五、七〇〇
九一	九一	六	一六〇	六、三〇〇
九六	九六	六	一七五	六、九〇〇
一〇一	一〇一	七	一九六	七、五〇〇
一〇七	一〇七	七	二一四	八、一〇〇
一一三	一一三	七	二三三	八、七〇〇
一二三	一二三	七	二五五	九、三〇〇
一三三	一二三	七	二七七	九、九〇〇
一四三	一四三	七	二九〇	一〇、五〇〇
一五三	一四三	七	三一〇	一一、一〇〇
一六三	一六三	七	三一七	一二、三〇〇
一七三	一六三	七	三二七	一二、九〇〇
一八三	一八三	七	三三〇	一三、五〇〇
一九三	一九三	七	三三〇	一四、一〇〇
二〇三	二〇三	七	三三〇	一四、七〇〇
二一三	二一三	七	三三〇	一五、三〇〇
二二三	二二三	七	三三〇	一五、九〇〇
二四三	二四三	七	三三〇	一六、五〇〇
二五三	二五三	七		



(イ) 及 (ロ) ニ對スル註 船舶ノ長サガ三百十四メートル (千三十フットニ當ル) ヲ超ユルトキハ主管廳ハ該船舶ニ對スル端艇鈎ノ最小組數ヲ定ムベシ其ノ決定ノ全詳細事項ハ之ヲ他ノ主管廳ニ通告スベシ

(ハ) 及 (ニ) ニ對スル註 本表ノ目的ノ爲ニハ第二級艇ノ容積ハ該端艇ニ對シ許サレタル人員ニ立方メートルニ依ル容積ヲ求ムル場合ニハ〇・二八三ヲ又立方フットニ依ル容積ヲ求ムル場合ニハ十ヲ乘ジテ之ヲ求ム

(ニ) ニ對スル註 船舶ノ長サガ三十一メートル (百フットニ當ル) 未滿ナルカ又ハ百六十八メートル (五百五十フットニ當ル) ヲ超ユルトキハ救命艇ノ容積ハ主管廳ニ於テ之ヲ決定スベシ

第四十規則

救命胴衣及救命浮環

- 一 救命胴衣ハ左ノ要件ヲ充スベシ
  - (イ) 救命胴衣ハ適當ナル工作及材料ニ依リ構造セラレベシ
  - (ロ) 救命胴衣ハ淡水ニ於テ七キログラム五 (十六ポンド五ニ當ル) ノ鐵片ヲ二十四時間支ヘ得ルモノタルベシ
  - (ハ) 救命胴衣ハ前後表裏ニ轉用シ得ルモノタルベシ  
浮力ガ空氣室ニ依ル救命胴衣ハ之ヲ禁ズ
  - 二 救命浮環ハ左ノ要件ヲ充スベシ
    - (イ) 救命浮環ハ實體「コルク」製又ハ之ト同一效力ノ他ノ材料製ノモノタルベシ
    - (ロ) 救命浮環ハ淡水ニ於テ少クトモ十四キログラム五

(二十二ポンドニ當ル) ノ鐵片ヲ二十四時間支ヘ得ルモノタルベシ

蘭、「コルク」屑、粒狀「コルク」若ハ他ノ散粒狀物質ヲ填充シタル救命浮環又ハ浮力ガ膨脹セシムルコトヲ要スル空氣室ニ依ル救命浮環ハ之ヲ禁ズ

三 船舶ニ備フベキ救命浮環ノ最小數ハ左表ニ依リ之ヲ定ム

船舶ノ長サ	浮環ノ最小數
メートル	フット
六未滿	二〇未滿
六以上 一三未滿	二〇以上 四〇未滿
一三以上 一八未滿	四〇以上 六〇未滿
一八以上 二四未滿	六〇以上 八〇未滿
二四以上	八〇以上

四 一切ノ浮環ニハ強固ニ取附ケタル把索ヲ備フベシ少ク

トモ各舷一個ノ浮環ニハ長サ少クトモ二十七メートル五 (十五尋) ノ救命索ヲ取附クベシ全數ノ二分ノ一ヨリ少カラズ且如何ナル場合ニ於テモ六個ヨリ少カラザル救命浮環ニハ水中ニ於テ消火セザル有效ノ自己點火式救命焰ヲ備フベシ此ノ救命焰ニハ必要ナル取附具ヲ附シテ其ノ屬スル浮環ノ附近ニ之ヲ備置クベシ

五 一切ノ救命浮環及救命胴衣ハ船内ノ人が容易迅速ニ近寄り得ル様之ヲ備置クベシ其ノ位置ハ關係者ニ知ラルル様明瞭ニ之ヲ表示スベシ

救命浮環ハ何時ニテモ速ニ取外シテ投ゲ得ベク決シテ永久的ニ之ヲ固著シ置クベカラズ

第四十一規則

證明書ヲ有スル救命艇手

本條約第二十二條ニ規定スル特別ノ救命艇手證書ヲ受ケル爲ニハ申請者ハ救命艇ノ進水ニ關聯スル一切ノ作業及權ノ使用ニ付テノ訓練ヲ經タルコト、端艇自體ノ實際上ノ取扱ヲ熟知セルコト並ニ救命艇作業ニ關スル命令ヲ了解シ且之ニ應答シ得ルコトヲ立證スベシ

各端艇又ハ救命筏ニ付少クトモ左表ニ示ス數ノ救命艇手ヲ

ルベシ

定員

證明書ヲ有スル救命艇手ノ最小數
四一人未滿
四一人以上六一人以下
六二人以上八五人以下
八五人ヲ超ユルトキ

第四十二規則

端艇配員

甲板部職員又ハ證明書ヲ有スル救命艇手一人ヲ各端艇又ハ救命筏ノ擔當ノ爲配シ且第二ノ指揮者ヲモ一人指名シ置クベシ擔當者ハ其ノ乗組員ノ名簿ヲ所持シ且部下ノ者ガ各自ノ任務ヲ熟知セルコトヲ確メ置クベシ

發動機ヲ操作シ得ル者一人ヲ各發動機艇ニ割當テ置クベシ無線電信及探照燈ノ設備ヲ操作シ得ル者一人ヲ此等ノ設備ヲ有スル端艇ニ割當テ置クベシ

端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ直ニ使用シ得ルコトヲ確ムルノ義務ハ之ヲ一人又ハ二人以上ノ職員ニ割當テ置クベシ

第四十三規則

火災ノ發見及消防



一 火災ノ發生ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ維持スベシ尙巡視制度ニ依リ近寄り得ザル船内ノ何レノ部分ニ於ケル火災ノ存在又ハ徵候ヲモ職員及船員ガ最速ニ認メ得ベキ一個又ハ數個ノ位置又ハ詰所ニ於テ自動的ニ表示シ又ハ記録スル火災警報又ハ火災發見ノ裝置ヲ設クベシ

二 各船舶ニハ蒸氣又ハ他ノ方法ニ依リ動作スル強力ナルポンプヲ備フベシ其ノ數ハ總噸數四千噸未満ノ船舶ニ在リテハ二個又總噸數四千噸以上ノ船舶ニ在リテハ三個ト爲スベシ各ポンプハ船内ノ何レノ部分ニモ十分ナル水量ヲ二個ノ強力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得ベク且船舶ガ港ヲ發航スル前即時ノ使用ニ適セシメ置クベシ

三 送水管ハ本密戸及防火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ旅客及船員ノ占ムル甲板ノ何レノ部分ニモ二個ノ強力ナル射水ヲ同時ニ向ケ得ルモノタルベシ送水管及蛇管ハ十分ナル大サヲ有シ適當ノ材料ヲ以テ造ルベシ送水管ハ之ニ消防蛇管ヲ容易ニ連絡シ得ル様各甲板上ニ之ヲ配置スベシ

四 貨物ヲ積載セル何レノ場所ニモ少クトモ二個ノ強力ナル射水ヲ迅速ニ且同時ニ向ケ得ル設備ヲ爲スベシ尙遊離瓦斯トシテ當該船舶ニ於ケル最大艙ノ總容積ノ少クトモ

火ノ消止ニ適スル泡又ハ他ノ承認媒劑ヲ放出スル承認移動消火器二個

(ニ) 汽罐室ノ下部ノ全體ニ、汽罐室ガ二室以上ナルトキハ何レノ汽罐室ノ下部ノ全體ニモ又燃料油設備若ハ沈澱油庫ノ在ル各機關室ノ下部ノ全體ニ泡ヲ急速ニ放出撒布シ得ル裝置、放出シ得ル泡ノ量ハ何レノ一區畫室ニ於テモ船舶ノ内底板ニ依リ若シ二重底ナキトキハ船舶ノ外板ニ依リ形成セラルル板面ノ全面積ヲ十五センチメートル二四(六インチ)ノ厚サヲ以テ蔽フニ十分タルベシ機械室ト汽罐室トガ完全ニ仕切ラレズシテ燃料油ガ汽罐室ノ滲水道ヨリ機械室ニ流レ得ル場合ニ於テハ汽罐室ト機械室トヲ併セタルモノヲ一區畫室ト看做スベシ此ノ裝置ハ火災ノ起リ得ル區畫室ノ外側ヨリ操作セラレ且調節セラルベシ

(ホ) 前掲ノ裝置ノ容量少クトモ百三十六リットル(二十ガロン)ノ泡消火器ヲ汽罐室ガ一室ナル汽船ニ在リテハ一個又汽罐室ガ二室以上ナル汽船ニ在リテハ二個、此等ノ消火器ニハ汽罐室ノ及燃料油ポンプ設備ヲ有スル場所ノ何レノ部分ニモ達シ得ル蛇管ヲ捲車ニ卷附ケタルモノヲ備フベシ百三十六リットル(三十ガロ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

百分ノ三十二等シキ容積ヲ占ムルニ十分ナル鎮火性瓦斯ヲ常設ノ管系ニ依リ貨物積載ノ各區畫室ニ速ニ送込ミ得ル設備ヲ爲スベシ蒸氣力ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ鎮火性瓦斯ノ代リニ十分同一效力アル量ノ蒸氣ヲ承認スルコトヲ得鎮火性瓦斯又ハ蒸氣ヲ供給スル爲ノ裝置ハ總噸數一千噸未満ノ船舶ニハ之ヲ要セズ

五 携帶用液體消火器ノ十分ナル數ヲ備フベシ各機關室ニハ少クトモ二個ヲ配置スルモノトス

六 防煙兜又ハ呼吸具一個及安全燈一個ヨリ成ル裝具二組ヲ船内ニ備ヘ遠ク相隔タリタル二個所ニ之ヲ保管スベシ

七 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテハ機關室ノ何レノ部分ニモ二個ノ強力ナル射水ヲ迅速ニ且同時ニ向ケ得ル設備ニ加フルニ左ノ設備ヲ爲スベシ

(イ) 油ノ表面ヲ甚シク攪亂スルコトナシニ油上ニ撒水スル爲ノ適當ナル導管

(ロ) 各焚火場ニ砂、曹達ヲ飽和シタル鐵屑又ハ他ノ承認乾燥物質二百八十三立方デシメートル(十立方フィート)ヲ容レタル容器一個及右物質ヲ撒布スル爲ノ杓若干

(ハ) 各汽罐室及燃料油設備ノ一部ノ在ル各機關室ニ油ノ消火器ノ代リニ同一效力ノ裝置ヲ承認スルコトヲ得

(ニ) 一切ノ容器及之ヲ操作スル爲ノ瓣ハ近寄り易キコトヲ要シ且火災ノ發生ニ依リ使用ヲ容易ニ遮ラレザル場所ニ之ヲ置クコトヲ要ス

八 内燃機關ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ二個ノ強力ナル射水ヲ機關室ノ何レノ部分ニモ急速ニ且同時ニ向ケ得ル裝置及適當ナル撒水用導管ノ外ニ左ノ如ク泡把火器ヲ各機關室ニ備フベシ

(イ) 四十五リットル(十ガロン)ノ承認消火器少クトモ一個及機關制動馬力千毎ニ九リットル(二ガロン)ノ承認消火器一個但シ右九リットル(二ガロン)ノ消火器ノ總數ハ二個ヨリ少カルベカラズ又六個ヲ超ユルコトヲ要セズ

(ロ) 機關室内ニ副汽罐在ル場合ニ於テハ右ニ掲ゲル四十五リットル(十ガロン)ノ消火器ノ代リニ適當ナル管裝置又ハ泡ヲ撒布スル爲ノ他ノ承認裝置ヲ備フル量百三十六リットル(三十ガロン)ノ消火器一個ヲ設クベシ

九 燃料油ヲ使用スル汽船ニ在リテハ機械室ト汽罐室トガ



鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ仕切ラレズシテ燃料油ガ汽罐室ノ  
滲水道ヨリ機械室ニ流レ得ル場合ニ於テハ消防ポンプノ  
内一個ハ軸路ニ又ハ機關室外ノ他ノ場所ニ之ヲ置クベシ  
二個ヲ超ユルポンプヲ要スル場合ニ於テハ全部ヲ同一室  
ニ備フベカラズ

十一 一定ノ型式ノ装置、一定ノ消火劑又ハ一定ノ配置ヲ規  
定シタル場合ニ於テ之ト同等以上ノ效力ヲ有スル限り他  
ノ型式ノ装置等ヲ許スコトヲ得例ヘバ二酸化炭素式裝置  
ヲ泡裝置(第七項(ニ)及(ホ號)ノ代リニ承認スルコトヲ  
得但シ備フベキ二酸化炭素ノ量ハ略汽罐ノ頂部迄ノ焚火  
場ノ總容積ニ約百分ノ二十五ノ瓦斯ノ混和ヲ與フルニ十  
分ナルコトヲ要ス

十一 一切ノ消火裝置ハ主管廳ノ任命シタル検査員ニ依リ  
少クトモ毎年一回完全ニ検査セララルコトヲ要ス

第四十四規則

召集表

召集表ニハ左ノ事項ニ關シ各種ノ船員ニ任務ヲ指定スベシ

- (イ) 水密戸、瓣等ノ閉鎖
- (ロ) 端艇、救命筏及救命浮器ノ積裝ノ全般
- (ハ) 端艇鈎ニ取附ケタル端艇ノ進水

航海ガ一週間ヲ超ユル船舶ニ在リテハ各航海ノ初期ニ於テ  
旅客ノ召集實習ヲ行フベシ

逐次ノ端艇操練ニ於テハ異リタル端艇群ヲ順次ニ使用スベ  
シ操練及檢閲ハ船員ガ其ノ遂行スベキ任務ヲ完全ニ了解シ  
且習熟スル様又一切ノ救命設備ガ其ノ附屬ノ裝具ト共ニ常  
ニ即時ノ使用ノ爲準備セララル様之ヲ行フベシ  
旅客ヲ召集所ニ呼出ス爲ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ  
短聲六發以上ノ連發ニ長聲一發ヲ添ヘタルモノタルベシ此  
ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外一切ノ船舶  
ニ於テ船橋ヨリ操作セラレ船内ニ普及スル他ノ電動信號ヲ  
以テ補足セララルベシ旅客ニ關係アル一切ノ信號ノ意味ハ種  
種ノ語ヲ以テ明瞭ニ札ニ記載シ之ヲ旅客ノ船室其ノ他ノ旅  
客區域ニ揭示スベシ

航行ノ安全

第四十六規則

通報ノ傳送

氷、委棄物、熱帶暴風雨又ハ其ノ他ノ航海ニ對スル直接ノ  
危険ニ關スル通報ノ傳送ハ義務的ナリトス通報ヲ送信スル  
様式ハ義務的ノモノニ非ズ通報ハ普通語(成ルベク英語)  
ニテ又ハ國際信號書(無線電信編)ニ依リ之ヲ傳送スルコ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

- (ニ) 其ノ他ノ端艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備
- (ホ) 旅客ノ召集
- (ヘ) 消火

召集表ニハ司厨部員ニ對シ非常時ニ於ケル旅客ニ關スル各  
自ノ任務ヲ指定スベシ此等ノ任務ハ左ノ事項ヲ含ムベシ

- (イ) 旅客ニ警報スルコト
- (ロ) 旅客ガ著衣シ且救命胴衣ヲ適當ニ着用スルコトニ注  
意スルコト
- (ハ) 旅客ヲ召集所ニ集合セシムルコト
- (ニ) 通路及階段ニ於テ秩序ヲ維持スルコト並ニ一般ニ旅  
客ノ行動ヲ統制スルコト

召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ端艇及消防持場ニ呼出ス爲  
ノ一定ノ信號ヲ示シ此等ノ信號ニ付テノ詳細ヲ記入スベシ

第四十五規則

召集及操練

端艇操練ノ爲ノ船員ノ召集ハ實行可能ナルトキハ每週之ヲ  
行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユル船舶ニ在リテハ港ヲ發航  
スルニ先チ之ヲ行フベシ召集ヲ行ヒタル日ハ之ヲ公用航海  
日誌ニ記録スベシ若シ召集ヲ行ハザル週アルトキハ召集ヲ  
實行シ得ザリシ理由ヲ記入スベシ

トヲ得通報ハ一切ノ船舶ニ對シCQヲ前置シテ之ヲ發シ且  
通信ヲ爲シ得ル最初ノ海岸ノ地點ニ送信シテ之ヲ當該機關  
ヘ傳送スルコトヲ要請スベシ  
本條約第三十四條ニ依リ發スル一切ノ通報ニハ安全信號T  
Tニ危險ノ性質ノ指示ヲ附シタルモノヲ前置スベシ例ヘ  
バTTT水、TTT委棄物、TTT暴風雨、TTT航行ノ  
如シ

所要ノ通報

- 左ノ通報ヲ爲スコト望マシトス時刻ハ一切ノ場合ニ於テ  
「グリニツチ」平時トス
- (イ) 氷、委棄物其ノ他ノ航行ニ對スル直接ノ危險
- (ニ) 觀測シタル氷、委棄物又ハ危險ノ種類
- (三) 最近觀測シタル時ニ於ケル氷、委棄物又ハ危險ノ  
位置
- (四) 親測ヲ爲シタル日及時刻
- (ロ) 熱帶暴風雨(西印度諸島ニ於ケル「ハリケーン」、支  
那海ニ於ケル「タイフーン」、印度洋ニ於ケル「サイクロ  
ーン」及他ノ區域ニ於ケル同様ノ性質ヲ有スル暴風雨)
- (一) 熱帶暴風雨ニ遭遇シタルコトノ通報、此ノ義務ハ  
之ヲ廣義ニ解釋シ船長ニ於テ熱帶暴風雨ガ附近ニ存在



スト信ズル十分ノ理由アルトキハ其ノ都度右通報ヲ傳送スベシ

(二) 氣象通報 正確ナル氣象資料ハ暴風雨ノ中心ノ位置及移動ヲ決定スル爲大ナル補助ト爲ルニ依リ各船長ハ其ノ發スル警報ニ左ノ氣象通報ヲ實行可能ナル限り多ク附加スベシ

(イ) 氣壓 (ミリバル、インチ又ハミリメートル)

(ロ) 氣壓ノ變化 (前二時間乃至四時間内ノ變化)

(ハ) 風位 (磁針方位トセズシテ眞方位トス)

(ニ) 風力 (「ボーフォール、スケール」又ハ「デシマル、スケール」)

(ホ) 海面ノ狀況 (「スモース」、「モデレート」、「ラフ」、「ハイ」)

(ヘ) ウネリ (「スライト」、「ミイデアム」、「ヘヴイ」及其ノ來ル方位)

氣壓ヲ示ストキハ各場合ニ應ジ「ミリバル」、「インチ」又ハ「ミリメートル」ノ語ヲ示數ニ附加シ且示數ガ修正セラレタルモノナルカ否カヲ必ず表示スベシ  
晴雨計ノ變化ヲ報告スルトキニハ船舶ノ針路及速力ヲ併セ示スベシ

熱帶暴風雨

TTT暴風雨 熱帶暴風雨ニ遭遇シツツアリ 晴雨計修正九四「ミリバル」ニシテ急速ニ降下シツツアリ 風北西風力「ボーフォール」九烈シキ「スコール」ウネリ東 針路東北東五ノット 北二二〇四東一一三五四 八月十八日「グリニツチ」平時〇〇三〇

TTT暴風雨 「ハリケーン」接近ノ模様ナリ 晴雨計修正二九・六四インチニシテ降下シツツアリ 風北東風力「ボーフォール」八 ウネリ「ミイデアム」ニシテ北東ヨリ雨ヲ伴フ頻繁ナル「スコール」アリ 針路三十五度九ノット 北二二〇〇西七二三六 九月十四日「グリニツチ」平時一三〇〇

TTT暴風 激烈ナル「サイクロン」發生シタル徵候アリ 風南西風力「ボーフォール」五 晴雨計無修正 七五三ミリメートルニシテ前三時間ニ五ミリメートル降下セリ 針路北六〇西八ノット 北一六二〇東九三〇 五月四日「グリニツチ」平時〇二〇〇

TTT暴風 南東ヘノ「タイフーン」風ハ北ヨリ加ハリツツアリ晴雨計ハ急速ニ降下シツツアリ 位置北一八一 二東一二六〇五 六月十二日「グリニツチ」平時〇三〇〇

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

一切ノ方位ハ磁針方位トセズシテ眞方位トスベシ  
(三) 日及時刻並ニ船舶ノ位置 此等ハ報告スル氣象觀測ヲ爲シタルトキノ時刻及位置トシ通報ヲ準備又ハ發信シタルトキノ時刻及位置タルベカラズ一切ノ場合ニ於テ使用スル時刻ハ「グリニツチ」平時タルベシ  
(四) 爾後ノ觀測 船長ガ熱帶暴風雨ニ付報告シタルトキハ船舶ガ該暴風雨圈内ニ在ル間ハ三時間毎ニ爾後ノ觀測ヲ爲シ之ヲ傳送スルコト望マシトスルモ義務的ニハ非ズ

例

氷

TTT氷 北四六〇五西四四一〇ニ於テ大ナル冰山ヲ見タリ 五月十五日「グリニツチ」平時〇八〇〇

委棄物

TTT委棄物 北四〇〇六西一二四三ニ於テ殆ト沈メル委棄物ヲ見タリ 四月二十一日「グリニツチ」平時一六三〇

航行ニ對スル危險

TTT航行 甲燈臺船ハ正常ノ位置ニ在ラズ 一月三日「グリニツチ」平時一八〇〇

證書

第四十七規則

旅客船ニ對スル安全證書ノ樣式  
安全證書

(公ノ印章)

(國名)

國際航海  
短國際航海

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號又ハ信號符字	船籍港	總噸數

(國名)政府ハ左ノ事項ヲ證明ス  
署名者(氏名)

一 前掲船舶ガ前記國際條約ノ規定ニ從ヒ正當ニ検査セラレタルコト

二 検査ノ結果右船舶ガ左ノ事項ニ關シ前記條約ノ規定ニ適合セルコト

- (一) 船體、主及補助ノ汽罐並ニ機關
- (二) 水密區畫ノ配置及其ノ細目



(三) 左ノ區畫滿載吃水線

指定シ且船舶ノ長サノ中央コ於テ船側ニ標示シタル區畫滿載吃水線 (條約第五條)	乾舷	實際旅客ヲ搭載スル場所ガ他ノ用途ニ供用スルトアルベキ左ノ場所ヲ含ム場合ニ適用ス
C.3	...	...
C.2	...	...
C.1	...	...

(四) 全人員(船員及旅客).....人分ノ端艇、救命筏其ノ他ノ救命設備即チ

端艇	.....隻	.....人分
救命筏	.....個	.....人分
救命浮器	.....個	.....人分
救命浮環	.....個	.....人分
救命胴衣	.....個	.....人分
證明書ヲ有スル救命艇手.....人	.....	.....

(五) 無線電信設備

安全無線電信證書ノ様式

(公ノ印章)

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號又ハ信號符字	船籍港	總噸數
----	------------	-----	-----

(國名)

(國名)政府  
署名者(氏名)ハ前掲船舶ガ無線電信ニ關シ前記國際條約ノ規定ニ適合セルコトヲ證明ス

聽守時間	承認自動緊急機備付ノ有無	別個ノ補助設備ノ有無	通信員ノ最小數	追加通信員又ハ聽守員	方位測定機備付ノ有無
.....	.....	.....	.....	.....	.....
前記條約第...條ノ規定	實際ノ施設				

本證書ハ.....國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

前記條約第...條ノ規定

聽守時間	承認自動緊急機備付ノ有無	別個ノ補助設備ノ有無	通信員ノ最小數	追加通信員又ハ聽守員	方位測定機備付ノ有無
.....	.....	.....	.....	.....	.....
前記條約第...條ノ規定	實際ノ施設				

三 右船舶ガ他ノ一切ノ事項ニ付テモ前記條約ノ規定中右船舶ニ適用アル規定ニ適合セルコト

本證書ハ.....國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス  
本證書ハ.....年.....月.....日迄效力ヲ有ス  
.....年.....月.....日.....ニ於テ發行ス  
(左ニ本證書ヲ發行スル權限ヲ付與セラレタル機關ノ印章又ハ署名ヲ附ス)

(捺印)

(署名スル場合ニハ左ノ項ヲ加フ)  
署名者ハ本證書ヲ發行ニ付前記政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタルコトヲ宣言ス

(署名)

本證書ハ.....年.....月.....日迄效力ヲ有ス

.....年.....月.....日.....ニ於テ發行ス

(左ニ本證書ヲ發行スル權限ヲ付與セラレタル機關ノ印章又ハ署名ヲ附ス)

(捺印)

(署名スル場合ニハ左ノ項ヲ加フ)

署名者ハ本證書發行ニ付前記政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタルコトヲ宣言ス

(署名)

免除證書ノ様式

(公ノ印章)

千九百二十九年海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約ノ規定ニ依リ發行ス

船名	船舶番號又ハ信號符字	船籍港	總噸數
----	------------	-----	-----

(國名)

(國名)政府  
署名者(氏名)ハ前記國際條約第...條ニ依リ付與セラレタル權限ニ基キ前掲船舶ニ對シ.....



ニ至ル航海ニ於テ※

右條約+

ノ規定ノ適用ヲ免除シタルコトヲ證明ス

本證書ハ……國政府ノ權限ノ下ニ之ヲ發行ス

本證書ハ……年……月……日迄效力ヲ有ス

……年……月……日……ニ於テ發行ス

(左ニ本證書ヲ發行スル權限ヲ付與セラレタル機關ノ

印章又ハ署名ヲ附ス)

(捺印)

(署名スル場合ニ於テハ左ノ項ヲ加フ)

署名者ハ本證書ノ發行ニ付前記政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタルコトヲ宣言ス

(署名)

※條件ヲ附シテ本免除證書ヲ發行スルトキハ該條件ヲ此所ニ挿入スベシ

十引用スル條文及規則ヲ項目ヲ明示シテ此所ニ挿入スベシ

### 第二附屬書

### 國際海上衝突豫防規則

#### 總則

本規則ハ公海面及之ト接續スル一切ノ水面ニシテ航海船ノ航行シ得ベキモノニ於ケル一切ノ船舶ニ依リ遵守セラルベシ

左記規則ニ於テハ帆ヲ用ヒ汽力ヲ用ヒ居ラザル各汽船ハ之ヲ帆船ト看做シ帆ヲ用フルト否トヲ問ハズ汽力ヲ用ヒ居ル各船舶ハ之ヲ汽船ト看做ス

「汽船」ナル語ハ機械ニ依リ推進セラルル一切ノ船舶ヲ包含ス

「汽力ヲ用ヒ居ル」ナル語ハ一切ノ機械力ヲ用ヒ居ルコトヲ意味ス

船舶ガ碇泊中、陸岸ニ繫留中又ハ乗揚中ニ非ザルトキハ該船舶ハ本規則ノ意義ニ於テハ「航行中」ナリトス

船舶ノ長サハ該船舶ノ登録證書ニ掲ゲラルル長サナリトス  
燈火等ニ關スル規則

本規則ニ於テ「見得ル」ナル語ハ燈火ニ適用セラルルトキハ大氣清澄ナル暗夜ニ於テ見得ルコトヲ意味ス

#### 第一條

燈火ニ關スル規則ハ如何ナル天候ニ於テモ日没ヨリ日出迄遵守セラルベク右時間中ハ所定ノ燈火ト誤認セラレ又ハ所

定ノ燈火ノ見得ルコトヲ妨グベキ他ノ燈火ヲ表示スルコトヲ得ズ

#### 第二條

汽船ハ航行中左ノ燈火ヲ掲ゲベシ

(イ) 前橋若ハ其ノ前方ニ又前橋ナキトキハ船舶ノ前部ニ  
亮明ノ白燈一個、此ノ燈火ハ羅針儀ノ二十點ノ水平ノ弧  
ニ互リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ニシテ其ノ射光  
ヲ船舶ノ各舷ヘ十點即チ正船首ヨリ各舷ノ正横後二點迄  
及ボス様据附ケラレ且少クトモ五海里ノ距離ニ於テ見得  
ル性質ノモノタルベシ

(ロ) (イ)ニ規定セララルル白燈ノ前方又ハ後方ニ之ト同様  
ノ構造及性質ノ第二白燈一個  
長サ四十五メートル七五未滿ノ船舶ハ此ノ第二白燈ヲ掲  
ゲルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲルモ妨ナシ

(ハ) 此等二個ノ白燈ハ龍骨線上ニ於テ一ハ他ヨリ少クト  
モ四メートル五七高ク低キ燈火ハ高キ燈火ノ前方ニ在リ  
且第二條(ニ)及(ホ)ニ規定セララルル燈火ヨリモ高キ位置  
ニ掲ゲラルベシ此等二個ノ白燈間ノ垂直距離ハ水平距離  
ヨリ小ナルベシ此等二個ノ白燈中低キ燈火ハ又單一一個  
ノミ掲ゲラルトキハ其ノ燈火ハ船體上六メートル一〇

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

ヨリ少カラザル高サニ若シ船幅六メートル一〇ヲ超ユル  
トキハ船體上其ノ船幅ヨリ少カラザル高サニ掲ゲラルベ  
シ尤モ該燈火ハ船體上十二メートル一九ヲ超ユル高サニ  
掲ゲラルルコトヲ要セズ

(ニ) 右舷ニ綠燈一個 此ノ燈火ハ羅針儀ノ十點ノ水平ノ  
弧ニ互リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ニシテ其ノ射  
光ヲ正船首ヨリ右舷ノ正横後二點迄及ボス様据附ケラレ  
且少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベ  
シ

(ホ) 左舷ニ紅燈一個 此ノ燈火ハ羅針儀ノ十點ノ水平ノ  
弧ニ互リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ニシテ其ノ射  
光ヲ正船首ヨリ左舷ノ正横後二點迄及ボス様据附ケラレ  
且少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベ  
シ

(ヘ) 前記綠及紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前方ヘ少クトモ零メ  
ートル九一突出セル内側隔板ヲ裝置シ以テ紅光ヲ右舷前  
方ヨリ綠光ヲ左舷前方ヨリ見得ザラシムベシ  
燈火ノ位置又ハ之ヲ見得ル距離ニ關シ本條ノ規定ヲ完全ニ  
遵守スルコト能ハザル特殊構造ノ海軍艦船ニ在リテハ右規  
定ハ事情ノ許ス限り正確ニ遵守セラルベシ又海軍艦船ニシ



テ本條(ロ)ニ規定セラルル第二白燈ヲ掲グルコト實行不可能ナルモノニ在リテハ之ヲ掲グルコトヲ要セズ

第三條

汽船ハ他ノ船舶ヲ曳キテ航行スルトキハ舷燈ノ外亮明ノ白燈二個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ二個以上ノ船舶ヲ曳キテ航行シ曳船ノ船尾ヨリ最後ノ被曳船ノ船尾ニ至ル距離ガ百八十三メートルヲ超ユルトキハ右燈火ノ上方又ハ下方一メートル八三ノ所ニ亮明ノ白燈一個ヲ更ニ掲グベシ此等ノ燈火ハ何レモ第二條(イ)ノ白燈ト同一ノ構造及性質ノモノタルベク其ノ中一個ハ第二條(イ)ノ白燈ト同一ノ場所ニ掲ゲ最低ノ燈火ハ船體上四メートル五七ヨリ少カラザル高さニ掲ゲラルベシ航行中ノ曳船及被曳船ハ最後ノ被曳船ヲ除キ第十條ニ規定セラルル燈火ニ代ヘ操舵目標トシテ煙突又ハ後橋ノ後方ニ小形ノ白燈一個ヲ掲グルコトヲ得但シ該燈火ハ本船正横ノ前方ヨリ見得ザラシムベシ

第四條

(イ) 運轉ノ自由ヲ得ザル船舶ハ最見易キ場所ニ、汽船ナルトキハ第二條(イ)及(ロ)ニ規定セラルル燈火ニ代ヘ、紅燈二個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ

グル船舶ガ運轉ノ自由ヲ得ズ從テ他船ヲ避ケ能ハザルノ信號ナリト他船ニ依リ認メラルベキモノトス  
前記ノ信號ハ遭難シテ救助ヲ求ムル船舶ノ信號ニ非ズ此等ノ信號ハ第三十一條ニ之ヲ掲グ

第五條

航行中ノ帆船及航行中ノ被曳船ハ航行中ノ汽船ニ付第二條ニ規定セラルルモノト同様ノ燈火ヲ掲グベシ但シ同條ニ規定セラルル白燈ハ之ヲ掲グルコトヲ得ズ

第六條

荒天ノ際ニ航行中ノ小形船舶ノ場合ニ於ケルガ如ク綠及紅ノ舷燈ヲ据附クルコト能ハザルトキハ此等ノ燈火ハ何時ニテモ使用シ得ル様點火シテ手近ニ備置キ他ノ船舶ガ近寄り來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄り行クトキ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ最見易キ様之ヲ各舷ニ表示スベシ但シ綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ザル様且實行可能ナルトキハ各舷ノ正横後二點ヨリ後方ニ於テ見得ザル様爲スベシ  
此等ノ攜帶用燈火ノ使用ヲ一層正確且容易ナラシムル爲携帶用燈火ヲ容ルル燈籠ハ夫々其ノ容ルル燈光ノ色ヲ以テ外面ヲ塗り且適當ナル隔板ヲ備フベシ

第七條

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

隔テ垂直線上ニ掲グベシ下方ノ燈火ハ船體上四メートル五七ヨリ低カラザルベク且此等ノ燈火ハ周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ又晝間ニ在リテハ最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ノ黑球又ハ黑色ノ形象二個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ

(ロ) 海底電線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ第二條(イ)及(ロ)ニ規定セラルル燈火ニ代ヘ三個ノ燈火ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ最低ノ燈火ハ船體上少クトモ四メートル五七ヨリ低カラザルベク且此等ノ燈火ノ中最高及最低ノモノハ紅、中央ノモノハ白ニシテ何レモ周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ晝間ニ在リテハ該船舶ハ最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ヨリ少カラザル形象三個ヲ上下ニ一メートル八三ヨリ少カラザル距離ヲ隔テ垂直線上ニ掲グベシ其ノ中最高及最低ノモノハ球形紅色ニシテ中央ノモノハ堅菱形白色タルベシ

(ハ) 本條ニ規定セラルル船舶ハ行脚ヲ有セザルトキハ舷燈ヲ掲グルコトヲ得ズ行脚ヲ有スルトキハ之ヲ掲グベシ  
(ニ) 本條ニ依リ掲グルコトヲ要スル燈火及形象ハ之ヲ掲

總噸數四十噸未満ノ汽船、總噸數二十噸未満ノ櫓艦又ハ帆ヲ用ヒ居ル船舶及櫓艦船ハ航行中ハ第二條ニ規定セラルル燈火ヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲザルトキハ必ず左ノ燈火ヲ備フベシ

一 四十噸未満ノ汽船ハ左ノ燈火ヲ掲グベシ

(イ) 船舶ノ前部ニシテ煙突又ハ其ノ前方ノ最見易キ場所ニ舷線上ニ二メートル七五ヨリ少カラザル高さニ於テ第二條(イ)ニ規定セラルル構造及据附ノモノニシテ少クトモ三海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノ亮明ノ白燈一個

(ロ) 第二條(ニ)及(ホ)ニ規定セラルル構造及据附ノモノニシテ少クトモ一海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノ綠及紅ノ舷燈各一個又ハ右舷ハ綠光、左舷ハ紅光ヲ正船首ヨリ各舷ノ正横後二點迄放ツ兩色燈籠一個、右燈籠ハ白燈ノ下方零メートル九一ヨリ少カラザル所ニ掲ゲラルベシ

二 航海船ニ搭載セラルルガ如キ小形汽艇ハ白燈ヲ舷線上ニ二メートル七四ヨリ少キ高さニ掲グルコトヲ得尤モ該白燈ハ第一號(ロ)ニ規定セラルル舷燈又ハ兩色燈籠ノ上方ニ掲ゲラルベシ



三 二十噸未満ノ櫓權又ハ帆ヲ用ヒ居ル船舶ハ舷燈ヲ掲ゲザルトキハ最見易キ場所ニ一面ハ綠光、他面ハ紅光ヲ放チ少クトモ一海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノ燈籠一個ヲ綠光ハ左舷ヨリ、紅光ハ右舷ヨリ見得ザル様ニ掲グベシ此ノ燈火ハ若シ之ヲ据附クルコト能ハザルトキハ何時ニテモ使用シ得ル様之ヲ點火シテ備置キ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ之ヲ表示スベシ

四 小形ノ櫓權船ハ櫓權ヲ用ヒ居ルト帆ヲ用ヒ居ルトノ間ハズ點火シタル燈籠ニシテ白光ヲ放ツモノヲ何時ニテモ使用シ得ル様手近ニ備置クヲ要スルヲ以テ足り衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ臨時之ヲ表示スベシ

本條ニ規定セラルル船舶ハ第四條(イ)及第十一條末項ニ規定セラルル燈火ヲ掲グルコトヲ要セズ

第八條

水先帆船ハ其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ碇泊シ居ラザルトキハ他ノ船舶ニ付規定セラルル燈火ヲ表示スルコトヲ得ザルモ周圍少クトモ三海里ノ距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ橋頭ニ掲ゲ且十分時ヲ超エザル短時ノ間隙ヲ以テ一個又ハ數個ノ焰火ヲ表示スベシ

水先帆船ハ他ノ船舶ガ近寄り來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄り

第九條 (註一註二)

漁船ハ航行中ニシテ且本條ニ依リ左ニ規定セラルル燈火ヲ掲ゲ又ハ表示スルコトヲ要求セラザルトキハ同一噸數ノ航行中ノ船舶ニ付規定セラルル燈火ヲ掲ゲ又ハ表示スベシ

(イ) 無甲板船(全部張詰メタル甲板ニ依リ海水ノ浸入ヲ防グコトナキ船舶ヲ意味ス)ハ該船ヨリ海面ニ向ヒ水平四十五メートル七二超エザル距離ニ延出シタル漁具ニ依リ夜間漁撈スルトキハ周圍ヲ照ス白燈一個ヲ掲グベク又他ノ船舶ニ近寄り行クトキ又ハ他ノ船舶ガ近寄り來ルトキハ更ニ第一燈火ヨリ少クトモ〇メートル九一下方ニ且結附ケラレタル漁具ノ方向ニ於テ該燈火ヨリ少クトモ一メートル五〇ノ水平距離ニ第二白燈一個ヲ表示スベシ

前記燈火ハ少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ

(ロ) (註三) (イ)ニ規定セラルル無甲板船ヲ除キ船舶ハ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

行クトキハ其ノ舷燈ニ點火シ何時ニテモ使用シ得ル様用意シ船首ノ方向ヲ示ス爲短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ閃カシ又ハ表示スベシ但シ綠光ハ左舷へ紅光ハ右舷へ表示セラルルコトヲ得ズ

水先人ヲ他ノ船舶ニ乗船セシムル爲之ニ横附ケスルコトヲ要スルガ如キ種類ノ水先帆船ハ白燈ヲ橋頭ニ掲グル代リニ之ヲ表示スルコトヲ得又前記舷燈ノ代リニ一面ハ綠、他面ハ紅ノ硝子ノ燈籠一個ヲ何時ニテモ使用シ得ル様手近ニ備置クコトヲ得該燈籠ハ前記ノ規定ニ依リ使用セラルベキモノトス

水先汽船ハ其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ碇泊シ居ラザルトキハ水先帆船ニ付規定セラルル燈火及焰火ノ外其ノ橋頭ノ白燈ノ下方ニメートル四〇ノ所ニ周圍少クトモ三海里ノ距離ニ於テ見得ル紅燈一個ヲ掲ゲ且航行中ノ船舶ニ依リ掲ゲラルルコトヲ要スル舷燈ヲ掲グベシ

一切ノ水先船其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ碇泊シ居ルトキハ前記ノ規定ニ依リ燈火ヲ掲ゲ且焰火ヲ表示スベシ但シ舷燈ヲ表示スルコトヲ得ズ

水先船ハ其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事シ居ラザルトキハ其ノ種類及噸數ノ他ノ船舶ト同一ノ燈火ヲ掲グベシ

ル間最見易キ場所ニ白燈二個ヲ掲グベシ右燈火ハ其ノ垂直距離一メートル八〇ヨリ少カラズ四メートル五〇ヲ超エズ且龍骨線上ニ於テ測リタル其ノ水平距離一メートル五〇ヨリ少カラズ三メートルヲ超エザル様之ヲ掲グベシ此等二個ノ燈火中低キモノハ網ノ方向ニ掲ゲラルベク且兩燈トモ周圍ヲ照シ三海里ヨリ少カラザル距離ニ於テ見得ルモノタルベシ

地中海内及日本國ノ沿海ニ於テハ並ニ「ソウイェト」社會主義共和國聯邦ノ沿海(「バルティック」海ヲ除ク)ニ於ケル「ソウイェト」社會主義共和國聯邦ノ船舶ニ關シテハ總噸數二十噸未満ノ帆走漁船ハ右兩燈中低キモノヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲザルトキハ他ノ船舶ガ近寄り來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄り行クトキハ海里ヨリ少カラザル距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ同一ノ場所(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スベシ

(ハ) (イ)ニ規定セラルル無甲板船ヲ除キ船舶ハ延繩ヲ延べ之ヲ結附ケテ延繩漁撈スルトキ又ハ延繩ヲ曳入ルルトキニシテ碇泊中又ハ(チ)ノ意義ニ於ケル停止中ニ非ザル場合ニ於テハ流網ヲ以テ漁撈スル船舶ト同一ノ燈火ヲ掲グベシ延繩ヲ延ブルトキ又ハ曳繩ヲ以テ漁撈スルトキハ



航行中ノ汽船又ハ帆船ニ付夫々規定セララルル燈火ヲ掲グベシ

地中海内及日本國ノ沿海ニ於テハ竝ニ「ソウイェト」社會主義共和國聯邦ノ沿海（「バルテイック」海ヲ除ク）ニ於ケル「ソウイェト」社會主義共和國聯邦ノ船舶ニ關シテハ總噸數二十噸未満ノ帆走漁船ハ右兩燈中低キモノヲ掲グルコトヲ要セズ尤モ之ヲ掲ゲザルトキハ他ノ船舶ガ近寄り來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄り行クトキハ海里ヨリ少カラザル距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ同一ノ場所（延繩又ハ曳繩ノ方向ニ於テ）ニ表示スベシ

(一) 汽船ナルトキハ第二條(イ)ニ規定セララルル白燈ト同一ノ場所ニ三色燈籠ニシテ正船首ヨリ各舷二點迄白光ヲ、各舷二點ヨリ各舷ノ正横後ノ二點迄水平ノ弧ニ互

リ右舷ハ綠光左舷ハ紅光ヲ放ツベキ構造及据附ノモノ一個ヲ掲ゲ及該三色燈籠ノ下方一メートル八〇ヨリ少カラズ三メートル六〇ヲ超エザル場所ニ周圍ニ明瞭一様ニシテ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ノ白色燈籠一個ヲ掲グベシ

漁船ガ網其ノ他ノ漁具ヲ結附ケ居ル場合ニ於テ他船ガ近寄り來ルトキハ碇泊燈ヨリ少クトモ零メートル九一下方

ニ且網又ハ漁具ノ方向ニ於テ右燈火ヨリ少クトモ一メートル五〇ノ水平距離ニ白燈一個ヲ更ニ表示スベシ

(チ) 船舶ハ漁撈中其ノ漁具ガ岩礁其ノ他ノ障碍物ニ纏著シタル爲停止スルトキハ晝間ハ(又)ニ規定セララルル晝間信號ヲ引下シ夜間ハ碇泊中ノ船舶ニ付規定セララルル燈火ヲ表示スベシ又霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中ハ碇泊中ノ船舶ニ付規定セララルル信號ヲ爲スベシ(第十五條(ニ)及末項參照)

(リ) 霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中ハ網ヲ結附ケタル流網漁船、底曳網、桁網又ハ各種ノ曳網ヲ以テ漁撈中ノ船舶及延繩ヲ延ベテ漁撈中ノ船舶ハ總噸數二十噸以上ナルトキハ汽船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角、帆船ニ在リテハ霧中號角ニ依リ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラヌベシ總噸數二十噸未満ノ漁船ハ前記ノ信號ヲ爲スコトヲ要セズ尤モ之ヲ爲サザルトキハ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スベシ(又) 網、繩又ハ底曳網ヲ以テ漁撈スル一切ノ船舶ハ航行中晝間ハ最見易キ場所ニ籃一個ヲ掲グ其ノ漁撈中ナルコ

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

二 帆船ナルトキハ周圍ニ明瞭一様ニシテ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造ノ白色燈籠一個ヲ掲グ且他ノ船舶ガ近寄り來ルカ又ハ他ノ船舶ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ最見易キ場所ニ白焰火又ハ炬火一個ヲ表示スベシ

(ニ) ノ一及ニニ掲ゲラルル一切ノ燈火ハ少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ルモノタルベシ  
(ホ) 桁網ヲ以テ漁撈スル牡蠣採取船其ノ他ノ船舶ハ底曳網漁船ト同一ノ燈火ヲ掲ゲ及表示スベシ  
(ハ) 漁船ハ本條ニ依リ掲ゲ及表示スルコトヲ要求セララル燈火ノ外何時ニテモ焰火ヲ使用スルコトヲ得ベク且漁業用ノ燈火ヲ用フルコトヲ得

(ト) 長サ四十五メートル七二未満ノ一切ノ漁船ハ碇泊中周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル白燈一個ヲ表示スベク且第十一條ニ依リ同一ノ長サノ船舶ニ付規定セララルガ如キ第二燈火一個ヲ表示スベシ  
長サ四十五メートル七二未満ナルト以上ナルトヲ問ハズ

トヲ示スベシ右船舶ガ碇泊中其ノ漁具ヲ延出シタルトキハ他ノ船舶ガ近寄り來ルトキ右ト同一ノ信號ヲ他ノ船舶ガ通過シ得ル側ニ表示スベシ

本條ニ依リ前記諸燈火ヲ掲ゲ又ハ表示スルコトヲ要求セララル船舶ハ第四條(イ)及第十一條末項ニ規定セララルル燈火ヲ掲グルコトヲ要セズ

註一 本條ハ中華民國及タイ國ノ船舶ニハ之ヲ適用セズ  
註二 本條(ロ)及(ハ)中「地中海」ナル語ハ黑海及之ト接續スル他ノ内海ヲ包含ス

註三 和蘭國船舶ハ「コル」漁撈即チ手釣漁撈ニ従事スルトキハ流網ヲ以テ漁撈スル船舶ニ付規定セララルル燈火ヲ掲グ

第十條

船舶ハ航行中船尾ニ白燈一個ヲ掲グベシ此ノ燈火ハ羅針儀ノ十二點即チ正船尾ヨリ各舷六點宛ノ水平ノ弧ニ互リ切斷セラレザル光ヲ放ツベキ構造及据附ニシテ隔板ヲ備ヘ且少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル性質ノモノタルベシ右燈火ハ實行可能ナル限り舷燈ト同一ノ高サニ之ヲ掲グベシ小形船ニ於テ荒天又ハ他ノ十分ナル事由ニ因リ右燈火ヲ据附ケ得ザルトキハ一個ノ燈火ヲ何時ニテモ使用シ得ル様點火



シテ手近ニ備置キ追越船ガ近寄り來ルトキ衝突ヲ防グニ十分ナル時間ヲ以テ之ヲ表示スベシ  
燈火ノ位置又ハ之ヲ見得ル距離ニ關シ本條ノ規定ヲ完全ニ遵守スルコト能ハザル特殊構造ノ海軍艦船ニ在リテハ右規定ハ事情ノ許ス限り正確ニ遵守セララルベシ  
曳船被曳船ニ付テハ第三條末項ヲ參照スベシ

第十一條

長サ四十五メートル七二未満ノ船舶ハ碇泊中前方最見易キ場所ニシテ船體上六メートル一〇ヲ超エザル高サニ周圍少クトモ二海里ノ距離ニ於テ見得ル明瞭一様ニシテ切斷セラレザル光ヲ放ツ構造ノ白色燈籠一個ヲ掲グベシ  
長サ四十五メートル七二以上ノ船舶ハ碇泊中船舶ノ前部ニ於テ船體上六メートル一〇ヨリ少カラザル高サニ前記ノ燈火一個ヲ掲グ尙船尾又ハ其ノ附近ニ於テ前方ノ燈火ヨリ少クトモ四メートル五七下方ノ高サニ同種ノ燈火一個ヲ掲グベシ  
日出ヨリ日没迄一切ノ船舶ハ航路筋又ハ其ノ附近ニ碇泊中前方最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ノ黒球一個ヲ掲グベシ

航路筋又ハ其ノ附近ニ於テ乗揚ゲタル船舶ハ夜間ハ前記燈

航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定セララル一切ノ信號ハ左ノモノニ依リ爲サルベシ

- 一 「汽船」ニ在リテハ汽笛又ハ汽角
  - 二 「帆船及被曳船」ニ在リテハ霧中號角
- 本條ニ於テ使用セララル「長聲」ナル語ハ四秒乃至六秒間ノ一吹聲ヲ意味ス

汽船ハ汽力又ハ汽力ニ代用スルモノニ依リ發聲スル有效ナル汽笛又ハ汽角ニシテ其ノ音響ガ障碍物ニ依リ遮斷セラレザル様装置セラレタルモノ一個、機械的方法ニ依リ發聲スル有效ナル霧中號角一個及有效ナル號鐘一個(註一)ヲ備附クベシ總噸數二十噸以上ノ帆船ハ右ト同様ノ霧中號角及號鐘各一個ヲ備附クベシ  
霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中ハ晝夜ヲ問ハズ本條ニ掲ゲラルル信號ハ左ノ如ク使用セララルベシ

- (イ) 行脚ヲ有スル汽船ハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ一長聲ヲ發スベシ
- (ロ) 航行中ノ汽船ハ運轉ヲ止メ且行脚ヲ有セザルトキハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ二長聲ヲ發スベシ二聲ノ間隙ハ約一秒時タルベシ

- (ハ) 航行中ノ帆船ハ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ右舷開

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

火及第四條(イ)ニ規定セララル紅燈二個ヲ掲グ晝間ハ最見易キ場所ニ直徑零メートル六一ノ黒球三個ヲ上下ニ垂直線ニ掲グベシ

第十二條

各船舶ハ本規則ニ依リ掲グルコトヲ要求セララル燈火ノ外注意ヲ喚起スル爲必要ニ應ジ焰火ヲ表示シ又ハ所定ノ遭難信號若ハ霧中信號ト誤認セララルコトナキ爆裂信號若ハ他ノ有效ナル音響信號ヲ使用スルコトヲ得

第十三條

本規則ノ規定ハ二隻以上ノ海軍艦船若ハ護送ノ下ニ航行スル船舶ニ増掲スル位置燈及信號燈ニ關シ各國政府ノ定ムル特別規則ノ施行又ハ船舶所有者ノ採用スル識別信號ニシテ其ノ政府ニ依リ許可セラレ適法ニ登録及公示セラレタルモノノ表示ヲ妨グルコトナシ

第十四條

帆ヲ用ヒテ航行スル船舶ハ汽力又ハ他ノ機械力ヲ併用スルトキハ晝間前方最見易キ場所ニ底ノ直徑零メートル六一ノ黒色ノ圓錐形象一個ヲ尖端ヲ上方ニ向ケ掲グベシ

霧等ニ對スル音響信號

第十五條

ナルトキハ一聲ヲ、左舷開ナルトキハ連續二聲ヲ、正横後ニ風ヲ受クルトキハ連續三聲ヲ發スベシ

- (ニ) 船舶ハ碇泊中一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ約五秒間號鐘ヲ急速ニ鳴ラスベシ

長サ百六メートル七五ヲ超ユル船舶ニ於テハ右號鐘ハ船舶ノ前部ニテ之ヲ鳴ラシ尙船舶ノ後部ニテ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ號鐘ノ音ト混同セララルコトナキ音調ノ銅羅又ハ他ノ器具ニ依リ音響ヲ發スベシ

- (ホ) 曳行中ノ船舶、海底電線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶及近寄り來ル他船ヲ運轉自由ヲ得ザル爲避クルコト能ハザルカ又ハ本規則ニ依リ運轉スルコト能ハザル航行中ノ船舶ハ本條(イ)、(ロ)及(ハ)ニ規定セララル信號ノ代リニ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ連續三聲即チ一長聲ニ續キ二短聲ヲ發スベシ

被曳船ハ又被曳船二隻以上ナルトキハ最後ノ被曳船ハ二分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ連續四聲即チ一長聲ニ續キ三短聲ヲ發スベシ但シ被曳船ニ乗組員ヲ乗組マシメ置クコト能ハザルトキハ右信號ハ要求セララルコトナシ  
實行可能ナルトキハ被曳船ハ曳船ニ依リ爲サル信號ノ直後右信號ヲ爲スベシ



(一) 航路筋又ハ其ノ附近ニ於テ乗揚ゲタル船舶ハ本條  
(二)ニ規定セラルル信號ヲ爲スベク尙右各信號ノ直前及  
直後ニ於テ號鐘ヲ區切り明確ニ三回鳴ラスベシ

總噸數二十噸未満ノ帆船及櫓權船ハ前記信號ヲ爲スコトヲ  
要セズ尤モ之ヲ爲サザルトキハ一分時ヲ超エザル間隙ヲ以  
テ他ノ有效ナル音響信號ヲ爲スベシ(註二)

註一 本規則ニ於テ號鐘ヲ使用スルコトヲ要求スル一切  
ノ場合ニ「トルコ」國船舶ニ於テハ大鼓ヲ以テ又小形航  
海船舶ニテ銅羅又ハ銅羅ノ如キ器具ヲ使用スルトキハ  
之ヲ以テ號鐘ニ代フルコトヲ得

註二 白耳義國及和蘭國水先汽船ハ霧、濛氣、降雪又ハ  
暴雨中其ノ停留所ニ於テ水先業務ニ從事スルトキハ二  
分時ヲ超エザル間隙ヲ以テ汽角ニ依リ一長聲ヲ、引續  
キ一秒時ノ後汽笛ニ依リ一長聲ヲ、更ニ一秒時ノ後汽  
角ニ依リ一長聲ヲ發スルコトヲ要ス其ノ停留所ニ於テ  
水先業務ニ從事セザルトキハ他ノ汽船ト同一ノ信號ヲ  
爲スモノトス

第十六條

船舶ノ速力ハ霧中等ニ於テ適度タルベキコト  
霧、濛氣、降雪又ハ暴雨中一切ノ船舶ハ其ノ時ノ事情及條

(ニ) 一杯ニ開カザル二隻ノ船舶ガ風ヲ受クル舷同ジキト  
キハ風上ノ船舶ハ風下ノ船舶ヲ避クベシ

(ホ) 船尾ヨリ風ヲ受クル船舶ハ他船ヲ避クベシ

第十八條

二隻ノ汽船眞向又ハ殆ド眞向ニ行逢ヒ衝突ノ虞アルトキハ  
各船互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ通過シ得ル様針路ヲ右舷ニ轉ズ  
ベシ

本條ハ船舶ガ眞向又ハ殆ド眞向ニ行逢ヒ衝突ノ虞アル場  
合ニノミ之ヲ適用シ各自其ノ針路ヲ保ツトキハ確實ニ替  
リ行クベキ二船ニハ之ヲ適用セズ

本條ヲ適用スル場合ハ二船舶ノ各ガ他方ニ眞向又ハ殆ド  
眞向ニ行逢ヒタルトキ換言スレバ晝間ニ在リテハ各船ガ  
其ノ橋ト他方ノ橋トヲ直線又ハ殆ド一直線ニ見ル場合又  
夜間ニ在リテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルガ如キ位置ニ在  
ル場合ニ限ル

本條ハ晝間ニ在リテハ船舶ガ其ノ針路ヲ横切ル他船ヲ船  
首ニ見ル場合及夜間ニ在リテハ一船ノ紅燈ガ他船ノ紅燈  
ニ對スル場合、一船ノ綠燈ガ他船ノ綠燈ニ對スル場合、  
船首ニ綠燈ヲ見ズシテ紅燈ヲ見若ハ紅燈ヲ見ズシテ綠燈  
ヲ見ル場合又ハ綠及紅ノ二燈ヲ船首以外ノ位置ニ見ル場

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

件ニ慎重ナル注意ヲ爲シ適度ノ速力ヲ以テ進行スベシ  
汽船ハ其ノ正横ヨリ前方ナリト推測セラルル方向ニ當リ船  
船ノ霧中信號ヲ聞キ其ノ所在ヲ確メ得ザルトキハ其ノ場合  
ニ於ケル事情ノ許ス限リ機關ノ運轉ヲ止メ衝突ノ危険ナキ  
ニ至ル迄注意シテ航行スベシ

操舵及航行規則

總則 衝突ノ虞

衝突ノ虞ハ事情ノ許ス場合ニ於テハ近寄ル船舶ノ羅針方位  
ヲ慎重ニ看守スルコトニ依リ之ヲ確ムルコトヲ得方位ガ識  
別シ得ル程度ニ變更セザルトキハ衝突ノ虞アリト看做サル  
ベシ

條十七條

二隻ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ左ノ如ク其ノ  
一船ハ他船ヲ避クベシ

(イ) 一杯ニ開カザル船舶ハ一杯ニ開キタル船舶ヲ避クベ  
シ

(ロ) 左舷ニ一杯ニ開キタル船舶ハ右舷ニ一杯ニ開キタル  
船舶ヲ避クベシ

(ハ) 一杯ニ開カザル二隻ノ船舶ガ風ヲ受クル舷同ジカラ  
ザルトキハ左舷ニ風ヲ受クル船舶ハ他船ヲ避クベシ

合ニハ之ヲ適用セズ

第十九條

二隻ノ汽船互ニ針路ヲ横切り衝突ノ虞アルトキハ右舷ニ他  
船ヲ見ル汽船ハ他船ヲ避クベシ

第二十條

汽船ト帆船トガ衝突ノ虞アル方向ニ進行スルトキハ汽船ハ  
帆船ヲ避クベシ

第二十一條

本規則ノ規定ニ依リ二船ノ内一方ガ他方ヲ避クベキ場合ニ  
於テハ他方ハ其ノ針路及速力ヲ保ツベシ

備考 濃密ナル天氣又ハ他ノ事由ニ因リ針路及速力ヲ保  
ツベキ船舶ガ避讓船ノミノ措置ニ依リテハ衝突ヲ避ク  
ルコト能ハザル程度ニ接近シ居ルトキハ針路及速力ヲ  
保ツベキ船舶モ亦衝突ヲ避クル爲最善ノ措置ヲ執ルベ  
シ(第二十七條及第二十九條參照)

第二十二條

本規則ニ依リ他船ヲ避クルコトヲ要スル一切ノ船舶ハ事情  
ノ許ス場合ニ於テハ他船ノ船首ヲ横切ルコトヲ避クベシ

第二十三條

本規則ニ依リ他船ヲ避クルコトヲ要スル一切ノ汽船ハ他船



ニ近寄ルトキ必要ニ應ジ其ノ速力ヲ緩メ、運轉ヲ止メ又ハ後退スベシ

第二十四條

本規則ニ包含セラルル規定ノ如何ニ拘ラズ他ノ船舶ヲ追越ス一切ノ船舶ハ被追越船ヲ避クベシ

他ノ船舶ノ正横後二點ヲ超ユル方向即チ追越サルル船舶トノ關係ニ於テ夜間其ノ舷燈ノ何レヲモ見ルコト能ハザル位置ヨリ之ニ接近スル一切ノ船舶ハ追越船ト看做サルベシ兩船間ニ於ケル方位ノ爾後ノ變更ハ何等追越船ヲシテ本規則ノ意義ニ於ケル横切船タラシムルコトナク又該追越船ガ確實ニ追越シ終ル迄ハ之ニ對シ被追越船ヲ避クルノ義務ヲ免除スルコトナシ

晝間ニ在リテハ追越船ハ他船ヨリノ前記方向ノ前方又ハ後方ノ何レニ在ルカヲ常ニ確知シ能ハザルモノナルヲ以テ該追越船ハ疑アルトキハ自己ヲ追越船ト看做シテ他船ヲ避クベシ

第二十五條

狹隘ノ水道ニ於テハ一切ノ汽船ハ安全ニシテ且實行可能ナルトキハ航路筋又ハ中流ノ該船ノ右舷ニ當ル側ヲ通航スベシ

船舶ハ如何ナル事情ノ下ニ於テモ適當ノ警戒ヲ怠ルベカラザルコト

第二十九條

本規則ノ規定ハ燈火若ハ信號ヲ掲グルコトノ懈怠、適當ナル見張ヲ爲スコトノ懈怠又ハ海員ノ通常ノ經驗若ハ特殊ノ事情ニ依リ要求セラルル警戒ノ懈怠ノ結果ニ付船舶又ハ其ノ所有者、船長若ハ海員ヲシテ何等其ノ責ヲ免レシメザルモノトス

港灣及内水ノ航行ニ關スル規則ノ留保

第三十條

本規則ノ規定ハ港灣、河川又ハ内水ノ航行ニ關シ地方官憲ニ依リ正當ニ規定セラルル特別規則ノ施行ヲ何等妨グルコトナシ

遭難信號

第三十一條

船舶ガ遭難シ他ノ船舶又ハ陸岸ヨリノ救助ヲ要求スルトキハ左ノ信號ヲ全部又ハ個個ニ使用又ハ表示スベシ  
晝間ハ

- 一 約一分時ノ間隙ヲ以テスル一發ノ砲又ハ他ノ爆發信

海上ニ於ケル人命ノ安全ノ爲ノ國際條約

第二十六條

航行中ノ帆船ハ網、繩又ハ底曳網ヲ以テ漁撈中ノ帆船及櫓權船ヲ避クベシ本規定ハ漁撈ニ從事スル船舶ニ對シ漁船以外ノ船舶ニ依リ使用セラルル航路筋ヲ妨害スルノ權利ヲ與フルモノニ非ズ

第二十七條

本規則ヲ遵守シ且解釋スルニ當リテハ航行及衝突ノ一切ノ危険ニ付及切迫シタル危険ヲ避クル爲右規則ノ違反ヲ必要ナラシムベキ一切ノ特殊事情ニ付十分ノ注意ヲ爲スベシ

五ニ相見ル船舶ニ對スル音響信號

第二十八條

本條ニ使用セラルル「短聲」ナル語ハ約一秒間ノ一吹聲ヲ意味ス  
船舶ガ互ニ相見ルトキハ航行中ノ汽船ハ本規則ニ依リ容認セラレ又ハ要求セラルル針路ヲ取ルニ際シ汽笛又ハ汽角ヲ以テスル左ノ信號ニ依リ該針路ヲ示スベシ即チ

- 一 短聲ハ「我ハ針路ヲ右舷ニ向ケツツアリ」ヲ意味ス
- 二 短聲ハ「我ハ針路ヲ左舷ニ向ケツツアリ」ヲ意味ス
- 三 短聲ハ「我が機關ハ全速力ヲ以テ後退シツツアリ」ヲ意味ス

號

二 國際遭難信號

- 三 上又ハ下ニ球又ハ球ニ類似ノモノ一個ヲ附シタル方形旗ヨリ成ル遠隔信號
- 四 霧中信號器ヲ以テスル連續音響
- 五 無線電信若ハ無線電話又ハ他ノ遠隔信號方法ニ依リ爲サルル國際遭難信號

號

一 約一分時ノ間隙ヲ以テスル一發ノ砲又ハ他ノ爆發信

- 二 船上ノ發焰（タール樽、油樽等ノ燃燒ニ依リ生ズルガ如キモノ）
- 三 短時ノ間隙ヲ以テスル一時ニ一發ノ榴彈又ハ火箭ニシテ色又ハ性質ノ如何ヲ問ハズ星火ヲ發スルモノ
- 四 霧中信號器ヲ以テスル連續音響
- 五 無線電信若ハ無線電話又ハ他ノ遠隔信號方法ニ依リ爲サルル國際遭難信號

船舶ガ遭難中ナルコトヲ表示スル目的以外ニ前記信號ヲ使用スルコト及前記信號ト混同セラルルコトアルベキ信號ヲ使用スルコトハ之ヲ禁止ス



### 國際滿載吃水線規約

(昭和十年七月一日) 條約第六號

獨逸國・以下締約國元首名省略) 合意ヲ以テ國際航海ヲ爲ス船舶ガ積載シ得ル限度ニ關シ劃一ノ主義及規程ヲ設クルコトニ依リ海上ニ於ケル人命及財産ノ安全ヲ増進スルコトヲ希望シ之ガ爲條約ヲ締結スルコトニ決シ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ(委員氏名省略)  
右各全權委員ハ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ如ク協定セリ

#### 第一章 緒言

##### 第一條

條約ノ一般的義務

本條約ノ定ムル滿載吃水線ガ遵守セララルル爲締約政府ハ本條約ノ規定ヲ實施スルコト及本條約ヲ十分且完全ニ實施スルニ必要ナル一切ノ規程ヲ公布シ其ノ他一切ノ措置ヲ執ルコトヲ約ス

本條約ノ規定ハ本條約ト同一ノ效力ヲ有シ且同時ニ實施セララルル附屬書ニ依リ補充セララル本條約ノ引用ハ同時ニ本條約ニ附屬セル規則ノ引用ヲ包含ス

##### 第二條

條約ノ範圍

一 本條約ハ國際航海ニ從事スル一切ノ船舶ニシテ締約政府ヲ政府トスル國又ハ第二十一條ニ依リ本條約ノ適用セララルル地域ニ屬スルモノニ對シ之ヲ適用ス但シ左ニ掲グルモノヲ除ク

(イ) 海軍艦船、専ラ漁撈ニ從事スル船舶、快遊船及貨物又ハ旅室ヲ搭載スルコトナキ船舶

(ロ) 總噸數百五十噸未滿ノ船舶

二 船舶ガ二以上ノ國ノ近隣諸港間ノ國際航海ニ從事スル場合ニ於テ右諸港ノ所在國ノ政府ガ右諸港間ノ航海ノ庇護性及狀況ニ依リ斯ル業務ニ從事スル船舶ニ本條約ノ規定ヲ適用スルコトヲ不合理又ハ實行不可能ト認メタルトキハ右船舶ノ屬スル主管廳ハ船舶ガ斯ル業務ヲ繼續スル限リ之ニ對シ本條約ノ規定ノ適用ヲ免除スルコトヲ得

三 滿載吃水線又ハ之ニ關聯スル事項ニ關スル一切ノ協定及取極ニシテ締約政府間ニ現ニ實施中ノモノハ其ノ有效期間中左ニ掲グル船舶ニ付十分且完全ナル效力ヲ存續スベシ

(イ) 本條約ノ適用セラレザル船舶

(ロ) 本條約ニ明文規定ナキ事項ニ關シテ本條約ノ適用セララル船舶

尤モ右ノ協定又ハ取極ガ本條約ノ規定ニ牴觸スル限リ本條約ノ規定ハ優先的效力ヲ有スベシ

右ノ協定又ハ取極ヲ留保シ

(イ) 本條約ノ適用セラレザル一切ノ船舶及

(ロ) 本條約ニ明文規定ナキ一切ノ事項

ハ恰モ本條約ナカリシトキト同一ノ程度ニ於テ引續キ各締約政府ノ法令ニ委セララルベシ

##### 第三條

定義

本條約ニ於テハ別段ノ明文規定ナキ限り

(イ) 一國ノ政府ニ依リ登録セラレタル船舶ハ之ヲ其ノ國ニ屬スルモノト看做ス

(ロ) 「主管廳」ナル用語ハ船舶ノ屬スル國ノ政府ヲ意味ス

(ハ) 「國際航海」ハ本條約ノ適用セララル一國ヨリ其ノ國外ノ港ニ到ル航海又ハ其ノ逆ノ航海トス

此ノ目的ノ爲ニハ各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ之ヲ個個ノ國ト看做ス

(二) 「規則」ナル用語ハ第一、第二及第三ノ附屬書ニ掲グ

### 國際滿載吃水線規約

ラレル規則ヲ意味ス

(ホ) 「新船」ハ千九百三十二年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶トシ他ノ一切ノ船舶ハ之ヲ現存船ト看做ス

(ハ) 「汽船」ナル用語ハ機械ニ依リ推進セララル一切ノ船舶ヲ包含ス

##### 第四條

不可抗力ノ場合

發航ノ際本條約ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ハ荒天又ハ其ノ他ノ不可抗力ノ原因ニ依リ豫定ノ航海ヨリ離路シタルガ爲本條約ノ規定ノ適用ヲ受クルニ至ルコトナカルベシ  
本條約ノ規定ヲ適用スルニ當リ主管廳ハ荒天又ハ其ノ他ノ不可抗力ノ原因ニ依リ生ジタル船舶ノ離路又ハ遲延ニ對シ相當ノ考慮ヲ拂フベシ

第二專 滿載吃水線(検査及標示)

##### 第五條

一般規定

本條約適用セララル船舶ハ左ニ掲グルモノニ非ザレバ本條約實施ノ日以後國際航海ノ爲海洋ニ進出スルコトヲ得ザルベシ

甲 新船ニシテ



- (イ) 第一附屬書ノ規定ニ從ヒ検査セラレ
- (ロ) 第一附屬書第二編ノ規定ニ適合シ且
- (ハ) 本條約ノ規定ニ從ヒ標示セラレタルモノ
- 乙 現存船ニシテ

(イ) 本條甲ニ定ムル條件又ハ第四附屬書ニ列擧シタル滿載吃水線指定ニ關スル法規ノ一ニ定ムル條件ニ從ヒ  
 (本條約實施前又ハ實施以後ニ)検査及標示セラレ且  
 (ロ) 船舶ニ現存スル配置、裝置及設備ニ依リ爲サルル  
 (一)開口ノ保護、(二)保護欄干、(三)放水口及(四)船員室區域ヘノ通路裝置ノ實效ニ付考慮シ原則トシテ又合理的且實行可能ナル限り細目ニ於テモ第一附屬書第二編ノ規定ニ適合スルモノ

第六條

甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ニ關スル規定  
 一 第五條ニ依リ検査及標示セラレタル汽船ニシテ左ニ掲グルモノハ第一附屬書第五編ニ依リ検査セラレ及木材滿載吃水線ヲ標示セラルルノ資材ヲ有スベシ  
 甲 新船ニシテ第一附屬書第五編ニ定ムル條件及規定ニ適合スルモノ  
 乙 現存船ニシテ第八十規則ヲ除クノ外第一附屬書第五

編ノ條件及規定ニ又合理的且實行可能ナル限り原則トシテ第八十規則ニ定ムル條件及規定ニモ適合スルモノ  
 但シ現存船ニ對シ木材滿載吃水線ヲ指定スルニ當リ主管廳ハ右船舶ガ第八十規則ニ定ムル條件及規定ニ完全ニ適合スルコトニ缺クルノ程度ヲ考慮シ乾舷ニ合理的增加ヲ爲スベシ  
 二 汽船ハ木材滿載吃水線ヲ使用スル場合ニ於テハ第八十規則、第八十五規則、第八十六規則、第八十八規則及第八十九規則ニ適合スベシ

第七條

槽船ニ關スル規定  
 第五條ニ依リ検査セラレタル汽船ニシテ左ニ掲グルモノハ第一附屬書第六編ニ依リ槽船トシテ検査及標示セラルルノ資格ヲ有スベシ  
 甲 新船ニシテ第一附屬書第六編ニ定ムル條件及規定ニ適合スルモノ  
 乙 現存船ニシテ第九十三規則、第九十六規則、第九十七規則、第九十八規則及第九十九規則ノ條件及規定ニ又合理的且實行可能ナル限り原則トシテ第九十四規則、第九十五規則及第一百規則ニモ適合スルモノ但シ現存船ニ對シ槽

船滿載吃水線ヲ指定スルニ當リ主管廳ハ右船舶ガ第九十四規則、第九十五規則及第一百規則ニ定ムル條件及規定ニ完全ニ適合スルコトニ缺クルノ程度ヲ考慮シ乾舷ニ合理的增加ヲ爲スベシ

第八條

特殊型式ノ船舶ニ關スル規定  
 海洋ニ對シ特別ノ抵抗力ヲ有スル槽船ノ構造上ノ特徴ト類似ノ特徴ヲ有スル長サ九十一メートル四四ヲ超ユル汽船ニ對シテハ乾舷ノ減少ヲ許スコトヲ得  
 右減少ノ程度ハ槽船ニ關シ規定シタル指定ノ條件ニ適合スル程度及設ケラレタル區畫ノ程度ヲ考慮シ槽船ニ對シ指定スル乾舷ト相關シテ主管廳之ヲ決定スベシ  
 右船舶ニ對シ指定スル乾舷ハ如何ナル場合ニ於テモ槽船トシテ該船舶ニ對シ指定スベキモノヨリ小ナルコトヲ得ザルベシ

第九條

検査  
 本條約ノ目的ノ爲ニスル船舶ノ検査及標示ハ船舶ノ屬スル國ノ職員之ヲ行フベシ但シ各國政府ハ自國船舶ノ検査及標示ヲ此ノ目的ノ爲ニ指名シタル検査員又ハ右政府ノ承認シ

國際滿載吃水線條約

タル機關ニ委任スルコトヲ得何レノ場合ニ於テモ關係政府ハ検査及標示ノ完全且有效ナルコトヲ十分ニ保障スルモノトス

第十條

帶域及季節區域  
 本條約ノ適用セラルル船舶ハ本條約第二附屬書ニ記載スル帶域及季節區域ニ適用セラルル條件ニ從フベシ  
 二個ノ帶域ノ境界線上ニ在ル港ハ船舶ガ經來リタル又ハ進入セントスル帶域ノ内ニ在ルモノト看做サルベシ

第十一章

證書ノ發行  
 「國際滿載吃水線證書」ト稱スル證書ハ本條約ニ從ヒ検査及標示セラレタル各船舶ニ對シテノミ之ヲ發行スベシ  
 國際滿載吃水線證書ハ船舶ノ屬スル國ノ政府又ハ右政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタル者若ハ機關ニ於テ之ヲ發行スベシ何レノ場合ニ於テモ當該政府ハ證書ニ付全責任ヲ負フモノトス

第十二條

他ノ政府ニ依ル證書ノ發行



本條約ノ適用セラルル國ノ政府ハ本條約ノ適用セラルル他國ノ政府ノ請求ニ基キ右他國ニ屬スル船舶又ハ(登録セラレザル船舶ノ場合ニ於テハ)右他國ノ政府ニ依リ登録セラレベキ船舶ヲシテ検査及標示ヲ受ケシメ本條約ノ規定ニ適合スト認メタルトキハ其ノ責任ニ於テ該船舶ニ對シ國際滿載吃水線證書ヲ發行スルコトヲ得右ニ依リ發行スル證書ニハ各場合ニ應ジ船舶ノ屬スル國ノ政府又ハ船舶ヲ登録スベキ政府ノ請求ニ基キテ之ヲ發行シタル旨ノ記載アルコトヲ要ス右證書ハ本條約第十一條ニ依リ發行セラルル證書ト同一ノ效力ヲ有スベク且同一ノ承認ヲ受クベシ

第十三條

證書ノ様式

國際滿載吃水線證書ハ之ヲ發行スル國ノ公用語ヲ以テ作成セラヘシ

證書ノ様式ハ第三附屬書ニ掲グル雛形ニ依ルベシ但シ甲板積木材貨物ヲ運送スル船舶ノ場合ニ於テハ第七十八規則ニ從ヒ變更ヲ爲スコトヲ得

第十四條

證書ノ有効期間

一 國際滿載吃水線證書ハ本條第二項ノ規定ニ從ヒ更新セ

船ガ定期的ニ検査セラレ居ラザルトキ

第十五條

證書ノ承認

締約政府ノ權限ノ下ニ發行シタル國際滿載吃水線證書ハ他國ノ締約政府ニ依リ該政府ガ各自國ニ屬スル船舶ニ對シ發行シタル證書ト同一ノ效力ヲ有スルモノトシテ承認セラルベシ

第十六條

監督

一 本條約ノ適用セラルル船舶ハ其ノ屬セザル國ノ港ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ次ノ如キ滿載吃水線ニ關スル監督ニ服スルモノトス即チ該國ノ政府ニ依リ正當ニ權限ヲ付與セラレタル職員ハ有效ナル國際滿載吃水線證書ガ船内ニ在ルコトヲ確ムル爲必要ナル措置ヲ執ルコトヲ得若シ右證書ガ船内ニ在ルトキハ右監督ハ左記ヲ確ムルヲ以テ限度トズベシ

(イ) 船舶ガ證書ニ依リ許サレタル限度ヲ超エテ積載シ居ラザルコト

(ロ) 船舶ニ於ケル滿載吃水線ノ位置ガ證書ニ符合シ居ルコト及

國際滿載吃水線條約

ラルルニ非ザレバ之ヲ發行スル主管廳ニ依リ證書ニ明示セラルル期間ノ終ニ有テ其ノ效力ヲ失フベシ但シ右明示期間ハ發行ノ日ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ザルベシ

二 國際滿載吃水線證書ハ之ヲ發行シタル主管廳ニ依リ證書發行前ニ於テ本條約ノ要求セル検査ト少クトモ同一ノ效力アル検査ノ後主管廳ノ適當ト認ムル期間(如何ナル場合ニ於テモ五年ヲ超エザルモノトス)ニ付隨時更新セラルルコトヲ得右ノ各更新ハ證書ニ裏書セラレベシ

三 左ノ場合ニ於テハ主管廳ハ其ノ國ニ屬スル船舶ニ對シ發行セラレタル國際滿載吃水線證書ヲ無効ニスベシ

甲 船舶及船樓ニ於テ乾舷ノ算定ニ影響スル實質的變更ヲ生ジタルトキ

乙 (一)開口ノ保護、(二)保護欄干、(三)放水口及(四)船員室區域ヘノ通路裝置ノ爲ノ裝置及設備ガ證書發行當時ニ於ケルガ如キ實效アル状態ニ維持セラレ居ラザルトキ

丙 證書ノ有効期間ヲ通ジ條件甲ニ掲グル船體及船樓ガ變更セラレ居ラザルコト並ニ條件乙ニ掲グル裝置及設備ガ之ニ規定スルガ如ク維持セラレ居ルコトヲ確ムル爲ニ主管廳ノ必要ト認ムル時ニ於テ及條件ノ下ニ船

(ハ) 船舶ガ第十四條第三項ノ條件甲及乙ニ掲ゲラルル事項ニ關シ、人命ニ危険ナクシテ海洋ニ進出スルニ明ニ不適當ナル程度迄實質的ニ變更ヲ受ケ居ラザルコト

二 必要ナル技術的資格ヲ有スル職員ニ限り前掲ノ監督ヲ行フノ權限ヲ付與セラレベシ若シ右監督ガ前掲(ハ)ニ依リ行ハルトキハ該監督ハ船舶ガ人命ニ危険ナクシテ海洋ニ進出スルニ適當ナルベキコトヲ確ムルニ必要ナル範圍内ニ於テノミ行ハルベシ

三 本條ニ依リ監督ガ船舶ニ對シ法律上ノ手續ヲ執リ又ハ船舶ヲ抑留スルコトト爲ルノ虞アルトキハ其ノ船舶ノ屬スル國ノ領事ハ事件ノ情況ニ付能フ限り速ニ通知ヲ受クベキモノトス

第十七條

特權

本條約ノ特權ハ船舶ガ有效ナル國際滿載吃水線證書ヲ保持スルニ非ザレバ該船舶ノ爲ニ之ヲ主張スルコトヲ得ズ

第十八條

同等物

第四章 一般規定



本條約ニ於テ船舶ニ一定ノ裝置若ハ設備又ハ其等ノ型式ヲ取附ケ又ハ備付クベキコト或ハ一定ノ配置ヲ採用スベキコトノ規定アル場合ニ於テ主管廳ハ之ガ代用トシテ他ノ裝置若ハ設備又ハ其等ノ型式或ハ他ノ配置ヲ承認スルコトヲ得但シ該主管廳ニ於テ代用ノ裝置若ハ設備又ハ其等ノ型式或ハ配置ガ實情ニ於テ本條約ニ定メラルモノト少クトモ同一ノ實效アリト認メタル場合ニ限ル

右ニ依リ新規ノ裝置若ハ設備又ハ其等ノ型式或ハ新規ノ配置ヲ承認シタル主管廳ハ其ノ事實ヲ他ノ主管廳ニ通報シ尙請求アリタルトキハ其ノ委細ヲ通報スベシ

第十九條

法律、規程、報告

締約政府ハ左記ヲ相互ニ通報スルコトヲ約ス

(一) 本條約ノ範圍内ニ在ル各種ノ事項ニ關シ公布セラレタル法律、命令、規程及一般適用ノ決定ノ本文

(二) 本條約ノ規定ノ成績ヲ示ス限ニ於ケル一切ノ利用シ得ル公ノ報告書又ハ公ノ報告書摘錄但シ該報告書又ハ摘錄ハ機密ニ屬セザルモノニ限ル

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ右ノ一切ノ情報ヲ蒐集シ且之ヲ他ノ締約政府ニ知ラシ

ムルノ仲介者タルコトヲ請求セラル

第二十條

變更、將來ノ會議

一 本條約ノ變更ニシテ有益又ハ必要ナル改善ナリト認メラルベキモノハ何時ニテモ或締約政府ヨリ之ヲ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ提議スルコトヲ得「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ右提議ヲ他ノ一切ノ締約政府ニ通報スベシ一切ノ締約政府(未ダ效力ヲ發生スルニ至ラザル批准又ハ加入ヲ寄託シタル政府ヲ含ム)ガ右變更ヲ受諾シタルトキハ本條約ハ之ニ依リ變更セララルベシ

二 本條約ノ改正ヲ目的トスル會議ハ締約政府ニ依リ協定セララルベキ時及場所ニ於テ開催セララルベシ

右目的ノ爲ノ會議ハ本條約ヲ五中間實施シタル後締約政府ノ三分ノ一ガ希望ヲ表示シタルトキハ何時ニテモ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ依リ招集セララルベシ

第五章 最終規定

第二十一條

殖民地ニ對スル適用

一 締約政府ハ署名、批准若ハ加入ノ際又ハ其ノ後ニ於テ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル通告書ヲ以テ本條約ヲ其ノ殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ノ全部又ハ何レカニ適用スルコトノ希望ヲ宣言スルコトヲ得本條約ハ右通告受領ノ日ノ後二月ニシテ右通告ニ指定セラレタル一切ノ地域ニ適用セララルベシ右通告ナキ限り本條約ハ右何レノ地域ニモ適用セラレザルベシ

第二十二條

正文、批准

本條約ハ英吉利語及佛蘭西語ノ本文ヲ以テ共ニ正文トシ批准セララルベシ

批准書ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ノ記録ニ寄託セララルベク同政府ハ寄託セラレタル一切ノ批准及其ノ寄託ノ日ヲ他ノ一切ノ署名シ又ハ加入シタル政府ニ通告スベシ

第二十三條

加入

本條約ニ署名セザリシ政府(第二十一條ノ適用セララル地域ノ政府ヲ除ク)ハ本條約ノ實施後何時ニテモ之ニ加入スルコトヲ得ベシ加入ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル通告書ヲ以テ爲サルベク右通告書ノ受領後三月ニシテ效力ヲ生ズベシ

三 「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ本條第一項ノ規定ニ依ル殖民地、海外領土、保

國際滿載吃水線條約



ハ其ノ受領シタル一切ノ加入及受領ノ日ヲ一切ノ署名シ又ハ加入シタル政府ニ通知スベシ

第二十四條

實施期日

本條約ハ千九百三十二年七月一日ニ於テ其ノ日迄ニ批准ノ寄託ヲ爲シタル政府間ニ實施セラルベシ但シ少クとも五個ノ批准ガ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ寄託セラレタル場合ニ限ル五個ノ批准ガ當日迄ニ寄託セラレザルトキハ本條約ハ第五ノ批准ガ寄託セラレタル日ノ後三月ニシテ實施セラルベシ本條約ノ實施セラレタル日ノ後ニ寄託セラレタル批准ハ其ノ寄託ノ日ノ後三月ニシテ效力ヲ生ズベシ

第二十五條

廢棄

本條約ハ何レカノ締約政府ニ付本條約ガ實施セラレタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後ハ何時ニテモ該政府ノ爲ニ之ヲ廢棄スルコトヲ得廢棄ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ニ宛テタル通告書ヲ以テ爲サルベク同政府ハ受領シタル一切ノ廢棄及其ノ受領ノ日ヲ他ノ一切ノ締約政府ニ通告スベシ

ミニ依リ推進セララル「ランバー、スクーナー」型ノ「アメリカ」合衆國及佛蘭西國ノ現存船ニハ之ヲ適用セズ

三

「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ハ「アメリカ」合衆國ノ請求アリタルトキハ第二十條ニ掲グル五年ノ期間内何時ニテモ槽船ノ乾舷ニ關スル事項ヲ討議スル爲槽船ノ屬スル國ノ締約政府ノ會議ヲ召集スベシ  
右會議ニ於テ到達シタル決定ガ遲滯ナク本條約ノ署名政府ニ通報セラレ且右通報ノ發送後六月以内ニ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ガ何等ノ異議ヲモ受領セザル限り締約政府ハ槽船滿載吃水線ニ關シ本條約ニ掲グル規定ガ右ノ會議ニ於テ決定セラレタル如ク變更セララルコトニ對シ何等ノ異議ヲモ唱ヘザルベシ  
右證據トシテ各全權委員ハ本最終議定書ヲ作成セリ本議定書ハ恰モ其ノ條項ガ本議定書ノ屬スル條約本文中ニ挿入セラレタルト同一ノ效力ヲ有スベシ

千九百三十年七月五日「ロンドン」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右本書ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ノ記錄ニ寄託セララルベク同政府ハ其ノ認

國際滿載吃水線條約

廢棄ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ガ其ノ通告ヲ受領シタル日ノ後十二月ニシテ效力ヲ生ズベシ  
右證據トシテ各全權委員ハ左ニ署名セリ  
千九百三十年七月五日「ロンドン」ニ於テ本書一通ヲ作成ス右本書ハ「グレート、ブリテン」及北部「アイルランド」聯合王國政府ノ記錄ニ寄託保存セララルベク同政府ハ其ノ認證本ヲ一切ノ署名政府ニ送付スベシ  
(署名省略)

最終議定書

本日締結セラレタル國際滿載吃水線條約ニ署名スルニ當リ下名全權委員ハ左記ヲ協定セリ

一 北「アメリカ」大湖ノ航行ニ專ラ從事スル船舶及他ノ内水ノ航行ニ從事スル船舶ハ之ヲ本條約ノ範圍外ニ在ルモノト看做ス

二 本條約ハ帆ノ有無ニ拘ラズ動力ニ依リ推進セラレ又ハ帆ノ

證本ヲ一切ノ署名政府ニ送付スベシ  
(署名省略)

第一附屬書

商船ノ滿載吃水線ノ決定ニ關スル規則

第一編 總則

本規則ハ必然的ニ貨物、脚荷等ノ性質及積付ガ船舶ニ對シ十分ナル復原性ヲ確保スルガ如キモノタルコトヲ前提トス

第一規則 定義

汽船「汽船」ナル用語ハ帆ノミニ依ル航行ノ爲十分ナル帆面積ヲ備フルモノヲ除クノ外機械的推進ノ爲十分ナル裝置ヲ有スル一切ノ船舶ヲ包含ス  
機械的推進裝置ヲ備ヘ且帆ノミニ依ル航行ノ爲十分ナル帆面積ヲ備フル船舶ニハ本規則第三編ニ依リ滿載吃水線ヲ指定スルコトヲ得

解、荷解又ハ獨立ノ推進裝置ヲ有セザル其ノ他ノ船舶ハ曳カレテ航行スルトキハ本規則第三編ニ依リ之ニ滿載吃水線



ヲ指定スベシ

帆船「帆船」ナル用語ハ機械的推進装置ヲ備フルト否トテ問ハズ帆ノミニ依ル航行ノ爲十分ナル帆面積ヲ備フル一切ヲ船舶ヲ包含ス

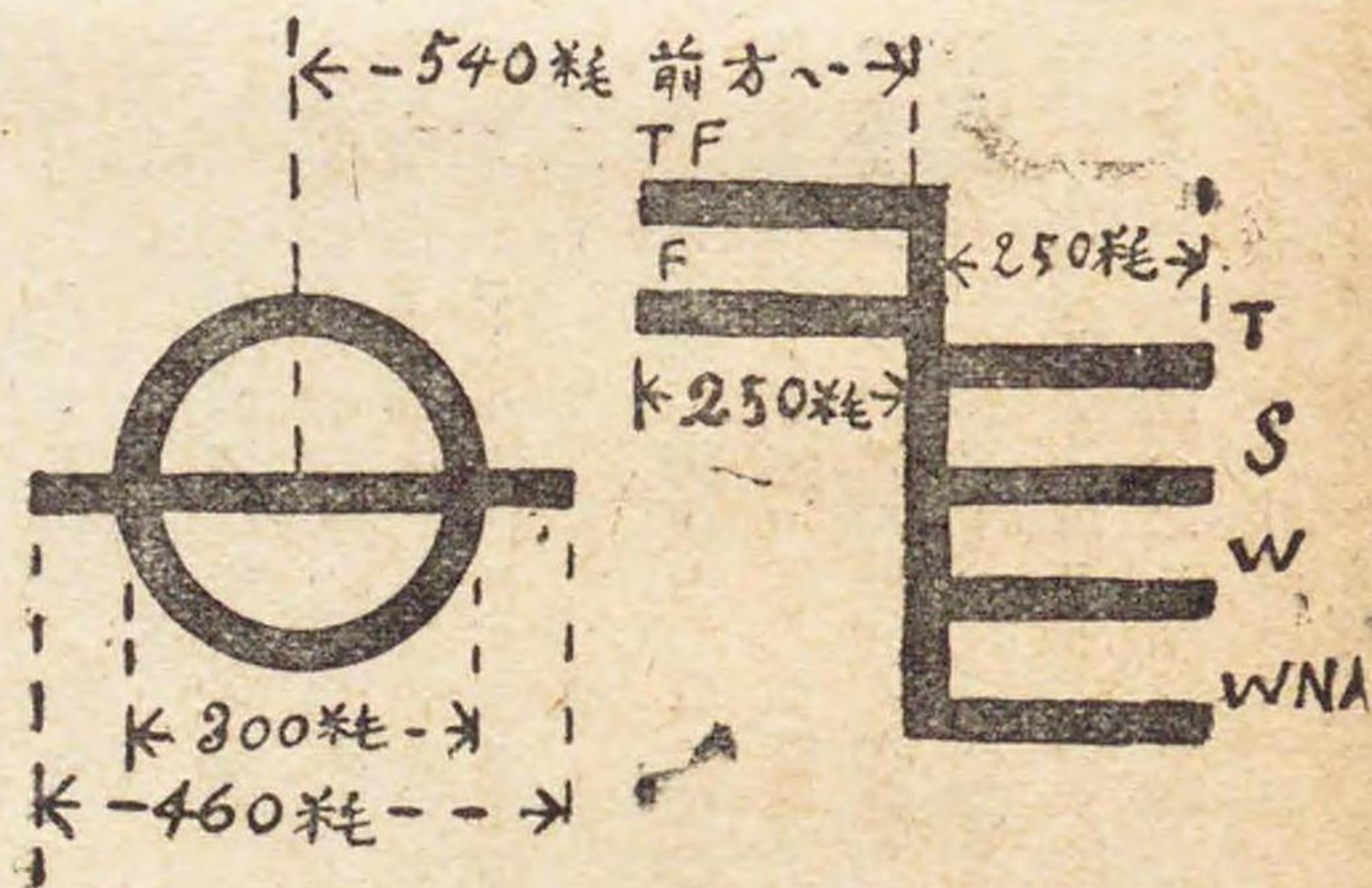
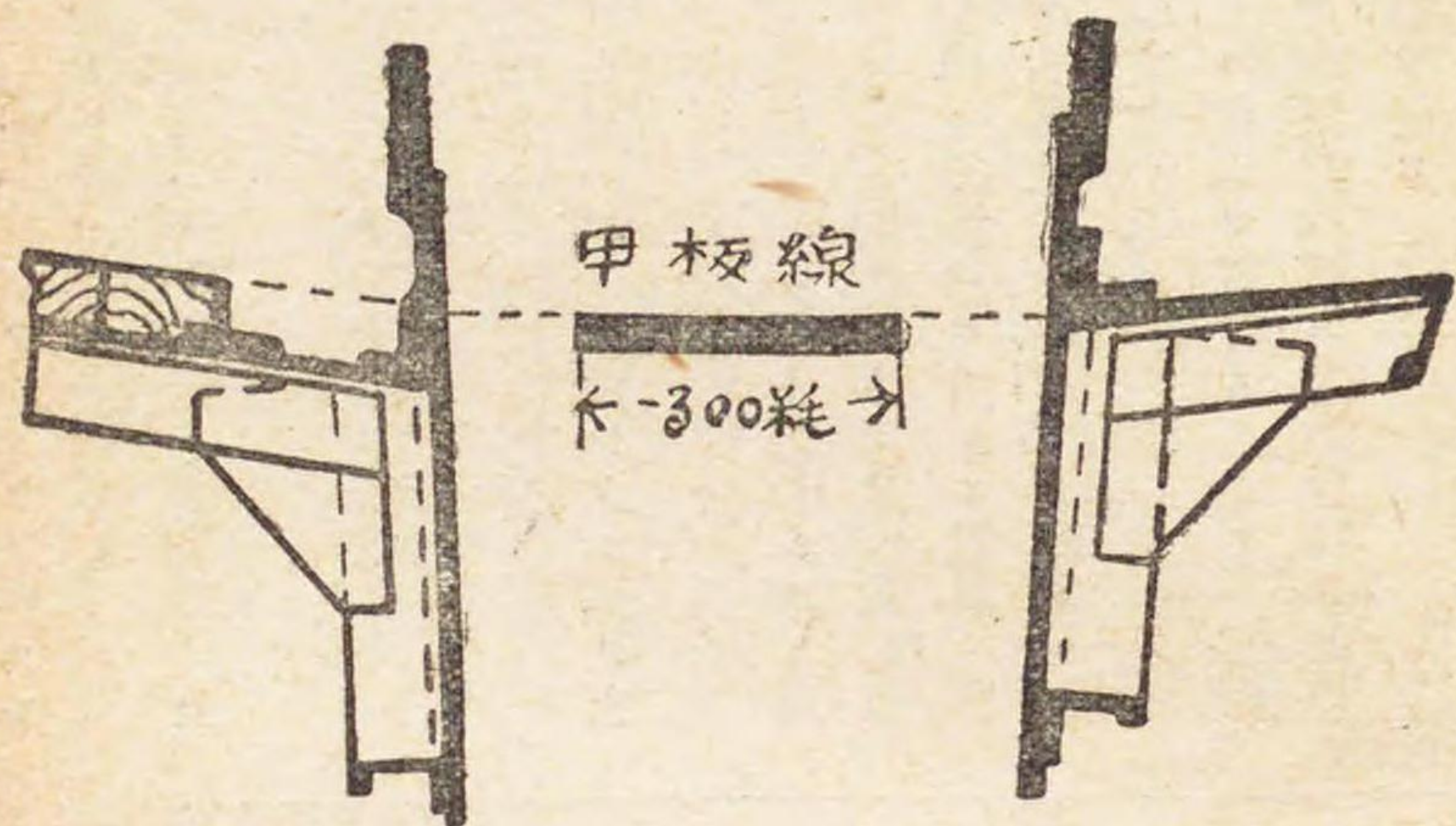
平甲板船 平甲板船ハ乾舷甲板ニ船樓ヲ有セザル船舶トス船樓 船樓ハ乾舷甲板ニ於ケル甲板ヲ有スル建築物ニシテ舷ヨリ舷ニ互ルモノトス低船尾樓ハ之ヲ船樓ト看做ス  
乾舷 指定セラルル乾舷ハ船舶ノ中央ノ舷ニ於テ甲板線ノ上縁ヨリ滿載吃水線ヲ示ス線ノ上縁迄垂直ニ下方ニ測リタル距離トス

乾舷甲板 乾舷甲板ハ乾舷ヲ測ル基準ト爲ル甲板ニシテ甲板ノ露天部ニ於ケル一切ノ開口ヲ第八規則乃至第十六規則ニ從ヒ閉鎖スル常設装置ヲ有スル最上層ノ全通甲板トス乾舷甲板ハ平甲板船及分立船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ上甲板トス

閉鎖セラレザル船樓又ハ第一級閉鎖設備ヲ備ヘザル船樓内ニ於テ連續セザル乾舷甲板ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓甲板下ノ甲板ノ最下線ヲ乾舷甲板トス

船舶ノ中央 船舶ノ中央ハ第三十二規則ニ定ムル夏季滿載吃水線ノ長サノ中央トス

# 第一圖



國際滿載吃水線條約

一一一七

## 第二規則 甲板線

甲板線ハ長サ三百ミリメートル幅二十五ミリメートルノ水線トス甲板船ハ各舷ニ於テ船舶ノ中央ニ標示セラルベク且其上縁ハ乾舷甲板ノ上面ノ外方ヘノ延長ガ外板ノ外面ト交叉スル點ヲ通過スベシ(第一圖參照) 乾舷甲板ガ船舶ノ中央ニ於テ部分的ニ被覆セララルトキハ甲板線ノ上縁ハ船舶ノ中央ニ於ケル實際ノ被覆物ノ上面ノ外方ヘノ延長ガ外板ノ外面ト交叉スル點ヲ通過スベシ

## 第三規則 滿載吃水線圓標

滿載吃水線圓標ハ直徑三百ミリメートルニシテ上縁ガ圓標ノ中心ヲ通過スル長サ四百六十ミリメートル幅二十五ミリメートルノ水平線ニ依リ交叉セラル圓標ハ甲板線ノ下方ニ於テ船舶ノ中央ニ標示セラルベシ

## 第四規則 圓標ニ關聯シテ用フベキ線

各種ノ情況及各種ノ季節(第二附屬書參照)ニ於ケル滿載吃水線ヲ示ス線ハ圓標ノ中心ノ五百四十ミリメートル前方ニ標示シタル垂直線ヨリ之ニ直角ニ引キタル長サ二百五十ミリメートル幅二十五ミリメートルノ水平線タルベシ(第一圖參照) 右ニ用フベキ線ハ左ノ如シ



夏期滿載吃水線 夏期滿載吃水線ハ圓標ノ中心ヲ通過スル線ノ上縁及Sト標示シタル線ノ上縁ニ依リ之ヲ示ス  
冬期滿載吃水線 冬期滿載吃水線ハWト標示シタル線ノ上縁ニ依リ之ヲ示ス

冬期北大西洋滿載吃水線 冬期北大西洋滿載吃水線ハWNAト標示シタル線ノ上縁ニ依リ之ヲ示ス  
熱帶滿載吃水線 熱帶滿載吃水線ハTト標示シタル線ノ上縁ニ依リ之ヲ示ス

淡水滿載吃水線 夏期淡水滿載吃水線ハFト標示シタル線ノ上縁ニ依リ之ヲ示ス 夏期淡水滿載吃水線ト夏期滿載吃水線トノ間ノ差ハ他ノ滿載吃水線ニ付淡水ニ於ケル積載ニ對シ許サルベキ餘裕トス 熱帶淡水滿載吃水線ハFTト標示シタル線ノ上縁ニ依リ之ヲ示ス (註)

(註) 航海汽船ガ河川又ハ内水ヲ航行スルトキハ發航點ト外海トノ間ニ於ケル消費ニ要スル燃料等ノ重量ニ相當スル餘分ノ積載ヲ許ス

第五規則 指定機關ノ標示

滿載吃水線ヲ指定スル機關ハ圓標ノ側方ニ於テ中心線ノ上方ニ標示シタル高サ約百十五ミリメートル幅七十五ミリメ

物艙口及他ノ艙口

乾舷甲板及船樓甲板ノ暴露部ニ於ケル貨物艙口及他ノ艙口ノ構造及裝置ハ第九規則乃至第十六規則ニ規定スル標準ト少クトモ同等ノモノタルベシ

第九規則 艙口縁材

乾舷甲板ニ於ケル艙口縁材ノ高サハ甲板ノ上方少クトモ六百十ミリメートルタルベシ 船樓甲板ニ於ケル縁材ノ高サハ船首材ヨリ船舶ノ長サノ四分ノ一以內ニ在ルトキハ甲板ノ上方少クトモ六百十ミリメートル又其ノ以外ニ在ルトキハ少クトモ四百五十七ミリメートルタルベシ  
縁材ハ鋼製トスベク、堅牢ニ構造スベク且高サ六百十ミリメートルナルコトヲ要スルトキハ其ノ上縁ノ下方二百五十ミリメートルヨリ低カラザル個所ニ實效アル橫防撓材ヲ取附ケ且三メートル〇五ヲ超エザル間隔ニテ防撓材ヨリ甲板ニ達スル實效アル肘板又ハ支柱ヲ取附ケベシ 端縁材ガ保護セラルトキハ右ノ要件ハ之ヲ變更スルコトヲ得

第十規則 艙口蓋

暴露セル艙口ノ蓋ハ實效アルモノタルベク且木製ナルトキハ其ノ仕上ノ厚サハ一メートル五二ヲ超エザル支點間隔ニ對シ少クトモ六十ミリメートルタルベシ 此等ノ艙口蓋ニ對

國際滿載吃水線條約

一ルノ大サノ文字ヲ以テ之ヲ示スコトヲ得

第六規則 標示ノ細目

圓標、線及文字ハ暗色ノ地ニハ白色又ハ黃色ニテ又明色ノ地ニハ黑色ニテ之ヲ畫クベシ 尙此等ハ鐵鋼船ノ舷ニ入念ニ之ヲ切込ミ又ハ點刻シ又木船ニ在リテハ此等ハ外板ニ少クトモ三ミリメートル之ヲ切込ムベシ 標示ハ明ニ認メ得ラルルモノタルベク且必要ノ場合ニ於テハ之ガ爲特別ノ措置ヲ執ルベシ

第七規則 標示ノ檢證

國際滿載吃水線證書ハ指定機關ノ檢査員(本條約第九條ノ規定ニ依リ行動ス)ニ於テ標示ガ正確ニ且永續的ニ舷ニ示サレアルコトヲ證明スル迄ハ船舶ニ對シ之ヲ交付スベカラズ

第二編 滿載吃水線ノ指定ノ條件

滿載吃水線ノ指定ハ船舶ガ構造上十分ナルコト竝ニ船舶及船員ニ對シ實效アル保護ノ設備アルコトヲ條件トス  
第八規則乃至第三十一規則ハ最小乾舷ガ指定セラルル船舶ニ之ヲ適用ス 最小限ヨリ大ナル乾舷ガ指定セラルル船舶ニ在リテハ右保護ハ之ニ應ジ相對的ニ實效アルコトヲ要ス

乾舷甲板及船樓甲板ニ於ケル開口

第八規則 船樓ニ依リ保護セラレザル貨

スル各支面ノ幅ハ少クトモ六十三ミリメートルタルベシ

第十一規則 艙口梁及縱材

木製ノ艙口蓋ヲ備フル場合ニ於テ艙口梁及縱材ハ高サ六百十ミリメートルノ縁材ヲ要スルトキハ第一表ニ掲グル寸法及心距ノモノタルベク又高サ四百五十七ミリメートルノ縁材ヲ要スルトキハ第二表ニ掲グル寸法及心距ノモノタルベシ  
上縁ニ於ケル山形材ハ連續シテ各梁ノ全長ニ及ブベシ 木製縱材ハ一切ノ支面ニ於テ鋼板ニテ包マルベシ



第一表

(高サ六百十ミリメートルノ縁材)

長サ六十一メートル以上ノ船舶ニ對スル船口梁及縦材 (註)

船 口 梁

船口ノ幅	取 附 材	縦 材				縦 材 ナ キ ト キ ノ 梁					
		心		距		心		距			
		メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル		
メー トル 3.05 3.66 4.27 4.88 5.49 6.10 6.71 7.32 7.93 8.54 9.14	ミリメートル 75×75×10A 75×75×10A 75×75×10.5A 90×75×10.5A 100×75×11A 100×75×11A 115×75×11.5A 130×90×11.5A 140×90×12A 150×90×12.5A 150×90×13A	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	
		280×7.5P	305×8P	356×8.5P	432×9P	508×9.5P	599×9.5P	635×10P	711×10.5P	762×11P	813×11P
		305×8P	356×8.5P	432×9P	508×9.5P	599×9.5P	635×10P	711×10.5P	762×11P	813×11P	864×11.5P
		406×9P	483×9.5P	533×9.5P	610×10P	660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P
		457×9P	508×9.5P	559×9.5P	610×10P	660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P
		508×9.5P	559×9.5P	610×10P	660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P
		559×9.5P	610×10P	660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P
		610×10.5P	660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P
		660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P
		660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P
		660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P
		660×10.5P	711×10.5P	736×10.5P	787×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P	813×11P

縦 材

縦材ノ長 サ	取 附 材	球 中 央 縦 板 材				球 側 山 形 材			
		心		距		心		距	
		メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル
メー トル 1.83 2.44 3.05	ミリメートル 65×65×9 65×65×9.5 65×65×10	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル	ミリメートル
		150×9	165×9.5	180×9.5	150×7.5×9.5	165×90×9.5	180×90×9.5	150×75×9.5	165×90×9.5
		180×10.5	200×11	230×11	180×9.5	180×90×10.5	200×75×11	230×90×11	180×90×9.5
		200×12.5	240×12.5	280×12.5	200×9.5	200×90×12.5	240×90×12.5	280×90×12.5	230×90×11
		240×12.5	280×12.5	320×12.5	240×9.5	240×90×12.5	280×90×12.5	320×90×12.5	280×90×12.5
		280×12.5	320×12.5	360×12.5	280×9.5	280×90×12.5	320×90×12.5	360×90×12.5	320×90×12.5
縦材ノ 長サ	木 製 中 央 縦 材	心 距				木 製 側 縦 材			
		メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル	メー トル
1.83 2.44 3.05	D B	D	B	D	B	D	B	D	B
		140 165 200	180 180 180	150 190 215	180 200 230	140 165 200	140 165 180	150 190 215	150 180 200



A = 通常山形材、B P = 球板、P = 平板、D = 深サ、B = 幅

船口梁ノ深サハ長サノ中央ニ於ケルモノニシテ上部取附材ヨリ梁ノ下縁迄之ヲ測ル縦材ノ深サハ船口板ノ下面ヨリ縦材ノ下縁迄之ヲ測ル中間ノ長サ及心距ニ對スル寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ求ム平板ト定メラタルトキハ取附材ニ關シテ掲グル寸法ノ二個ノ山形材ヲ梁ノ上部及下部ニ取附クベシ球板ト定メラタルトキハ取附材ニ關シテ掲グル寸法ノ二個ノ山形材ヲ梁又ハ縦材ノ上部ニ取附クベシ球山形材ト定メラタルトキハ取附材ニ關シテ掲グル寸法ノ一個ノ山形材ヲ右形材ノ上部ニ取附クベシ山形材ノ定メララル兩邊ガ異レル寸法ノモノナル場合ニ於テハ廣邊ハ水平タルベシ

(註) 長サ三十メートル五〇ヲ超エザル船舶ニ在リテハ平板及山形材ヨリ成ル梁ノ深サハ前記ノ深サノ六十「パーセント」タルコトヲ得平板、球山形材及球板ノ厚サハ七ミリメートル五ヲ最小限ノ厚サトシ減少セラレタル深サニ對シテ表ニ示ス厚サニ相當スベシ木製縦材ノ深サ及幅ハ側縦材ニ關シテ表ニ掲グルモノノ八十「パーセント」タルコトヲ得但シ中央縦材ハ幅百六十五ミリメートル未滿タルコトヲ得ズ長サ三十メートル五〇ト六十一メートルトノ中間ノ船舶ニ在リテハ梁及縦材ノ寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ決定スベシ

第 二 表

(高サ四百五十七ミリメートルノ縁材)  
長サ六十一メートル以上ノ船舶ニ對スル船口梁及縦材 (註)

船口ノ幅	取 附 材	船 口 梁			船 口 梁		
		心 距		縦 材 ナ キ ト キ ノ 梁 距	心 距		
		メ ー ト ル	メ ー ト ル		メ ー ト ル	メ ー ト ル	
メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル	ミ リ メ ー ト ル
3.05	75×75×10A	241×11.5B P	267×12.5B P	292×13B P	203×10B P	230×11B P	230×11B P
3.66	75×75×10A	280×12.5B P	280×7.5P	330×8.5P	230×11B P	230×11B P	254×12.5B P
4.27	75×75×10.5A	280×7.5P	330×8P	381×8.5P	254×12.5B P	254×12.5B P	292×12.5B P
4.88	90×75×10.5A	305×8P	381×8.5P	432×9P	280×7.5P	280×7.5P	280×7.5P
5.49	100×75×11A	356×8.5P	432×9P	483×9.5P	280×7.5P	305×8P	805×8P
6.10	100×75×11A	406×9P	483×9.5P	533×9.5P	305×8P	305×8P	330×8.5P
6.71	115×75×11.5A	432×9P	508×9.5P	584×10P	318×8P	318×8P	356×8.5P
7.32	130×90×11.5A	457×9P	533×9.5P	635×10P	330×8.5P	330×8.5P	368×8.5P
7.93	140×90×12A	483×9.5P	559×9.5P	660×10.5P	344×8.5P	344×8.5P	381×8.5P
8.54	150×90×12.5A	508×9.5P	584×10P	686×10.5P	356×8.5P	356×8.5P	406×9P
9.14	150×90×13A	533×9.5P	610×10P	711×10.5P	381×8.5P	381×8.5P	432×9P



縦材

縦材ノ長さ	取附材	球中央縦材				球側山縦材			
		× 1.22	× 1.52	× 1.83	× 2.14	× 1.22	× 1.52	× 1.83	× 2.14
1.83	65×65×9	130×8.5	140×8.5	150×9	130×7.5×8.5	140×7.5×8.5	150×7.5×9	160×7.5×9	170×7.5×9
2.44	65×65×9.5	150×9.5	180×10	190×10.5	150×7.5×9.5	180×7.5×10	190×7.5×10.5	200×7.5×10.5	210×7.5×10.5
3.05	65×65×10	180×11	200×11.5	230×12.5	180×7.5×11	200×9.0×11.5	230×9.0×12.5	260×9.0×13.5	290×9.0×14.5

縦材ノ長さ	木製中央縦材				木製側縦材			
	× 0.91	× 1.22	× 1.52	× 1.83	× 0.91	× 1.22	× 1.52	× 1.83
1.83	130	140	150	180	130	140	150	180
2.44	150	165	180	180	150	165	180	180
3.05	180	190	200	180	180	190	200	180

A = 通常山形材、B P = 球板、P = 平板、D = 深サ、B = 幅

船口梁ノ深サハ長サノ中央ニ於ケケルモノニシテ上部取附材ヨリ梁ノ下縁迄之ヲ測ル縦材ノ深サハ船口板ノ下面ヨリ縦材ノ下縁迄之ヲ測ル中間ノ長サ及心距ニ對スル寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ求ム平板ト定メラレタルトキハ取附材ニ關シテ掲グル寸法ノ二個ノ山形材ヲ梁ノ上部及下部ニ取附クベシ球板ト定メラレタルトキハ取附材ニ關シテ掲グル寸法ノ一個ノ山形材ヲ右形材ノ上部ニ取附クベシ山形材ノ定メラレタル兩邊ガ異レル寸法ノモノナル場合ニ於テハ廣邊ハ水平タルベシ

(註) 長サ三メートル五〇ヲ超エザル船舶ニ在リテハ平板及山形材ヨリ成ル梁ノ深サハ前記ノ深サノ六十「パーセント」タルコトヲ得平板、球山形材及球板ノ厚サハ七ミリメートル五ヲ最小限ノ厚サトシ減少セラレタル深サニ對シ表ニ示ス厚サニ相當スベシ木製縦材ノ深サ及幅ハ側縦材ニ關シ表ニ掲グルモノノ八十「パーセント」タルコトヲ得但シ中央縦材ハ幅百六十五ミリメートル未満タルコトヲ得ズ長サ三メートル五〇ト六メートルトノ中間ノ船舶ニ在リテハ梁及縦材ノ寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ決定スベシ



第十二規則 承金又ハ壺金

艙口梁及縱材ニ對スル承金又ハ壺金ハ少クトモ十二ミリメートル五ノ厚サノ鋼製ノモノタルベク且少クトモ七十五ミリメートルノ支面幅ヲ有スベシ

第十三規則 帶金承

少クトモ六十三ミリメートルノ幅ヲ有スル堅牢ナル帶金承ヲ中心ヨリ中心迄零メートル六一ヲ超エザル間隔ニ於テ取附クベシ端末ノ帶金承ハ艙口ノ各隅ヨリ百五十ミリメートルヲ超エザル個所ニ之ヲ置クベシ

第十四規則 帶金及樑

帶金及樑ハ實效アリ且良好ナル狀態ニ在ルベシ

第十五規則 覆布

乾舷甲板及船樓甲板ノ暴露部ニ於ケル各艙口ニハ良好ナル狀態ニ在リ、完全ニ防水セラレ及十分ナル強サヲ有スル覆布ヲ少クトモ二枚備フベシ其ノ材料ハ黃麻ヲ交ヘザルコトガ保障セラレ且各主管應ニ依リ定メラレタル標準ノ重量及性質ノモノタルベシ

第十六規則 艙口蓋ノ定著

乾舷甲板及船樓甲板ノ暴露部ニ於ケル一切ノ艙口ニハ締附ノ爲ノ鎖附螺釘又ハ其ノ他ノ裝置ヲ備フベシ

艙口ノ幅ガ該艙口ノ所在個所ニ於ケル甲板ノ幅ノ「六十パーセント」ヲ超エ且緣材ガ高サ六百十ミリメートルタルコトヲ要スルトキハ覆布ヲ帶金ニ依リ締附ケタル後艙口蓋ヲ定著スル爲特別ノ締附裝置ヲ備フベシ

第十七規則

第一級閉鎖設備ヨリ實效少キ閉鎖設備ヲ備フル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル貨物艙口及他ノ艙口

本艙口ノ構造及裝置ハ第十八規則ニ規定スル標準ト少クトモ同等ノモノタルベシ

第十八規則

艙口緣材及閉鎖設備 第二級閉鎖設備ヲ備フル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル貨物艙口、載炭艙口及他ノ艙口ハ高サ少クトモ二百二十九ミリメートルノ緣材ヲ備ヘ且緣材ノ高サ四百五十七ミリメートルノ暴露セル貨物艙口ニ要スルモノト同一ノ實效アル閉鎖設備ヲ備フベシ

閉鎖設備ガ第二級閉鎖設備ヨリ實效少キトキハ右艙口ハ高サ少クトモ四百五十七ミリメートルノ緣材ヲ備ヘ且暴露セル貨物艙口ニ要スルモノト同一ノ實效アル裝置及閉鎖設備ヲ備フベシ

第十九規則

乾舷甲板及低船尾樓甲板ノ暴露部ニ於ケル機關室口

第二十一規則

第一級閉鎖設備ヨリ實效少キ閉鎖設備ヲ備フル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル機關室口

本開口ハ之ヲ適當ニ組立テ且鋼製圍壁ニ依リ實效的ニ蔽圍スベシ右圍壁ニ於ケル戸ハ壁牢ニ構造セラレ、常設的ニ取附ケラレ且定著的ニ閉鎖セラレ得ルモノタルベシ開口ノ數居ハ船樓ガ第二級閉鎖設備ニ依リ閉鎖セラルトキハ甲板ノ上方少クトモ二百二十九ミリメートル又閉鎖設備ガ第二級閉鎖設備ヨリ實效少キトキハ甲板ノ上方少クトモ三百八十ミリメートルタルベシ

第二十二規則

平載炭 平載炭孔ハ之ヲ船樓甲板ニ設クルコトヲ得ベク之ヲ設ケタルトキハ鐵製又ハ鋼製ニシテ且螺込ノ又ハ挿込ノ接合ヲ有スル堅牢ナル構造ノモノタルベシ蓋ガ蝶番ニ依リ定著セラレザルモノナルトキハ常設的ノ取附鎖ヲ備フベシ特殊ノ業務ニ從事スル小形船ニ於ケル平載炭孔ノ位置ハ各指定機關ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二十三規則

昇降口 乾舷甲板及蔽圍セラレタル船樓ノ甲板ノ暴露部ニ於ケル昇降口ハ堅牢ナル構造ノモノタルベシ戸口ノ數居ハ艙口緣材

國際滿載吃水線條約

本開口ハ之ヲ適當ニ組立テ且堅牢ナル鋼製圍壁ニ依リ實效的ニ蔽圍スベシ右圍壁ニ於ケル戸ハ壁牢ニ構造セラレ、常設的ニ取附ケラレ且兩側ヨリ閉鎖定著セラレ得ルモノタルベシ開口ノ數居ハ船樓甲板ノ上方少クトモ三百八十ミリメートルタルベシ



ニ關シ定メラレタル高サノモノタルベシ(第九規則及第十  
八規則參照)戸ハ堅牢ニ構造セラレ且兩側ヨリ閉鎖定著セ  
ラレ得ルモノタルベシ昇降口ハ船首材ヨリ船舶ノ長サノ四  
分ノ一以内ニ在ルトキハ鋼製ニシテ且鋼甲板ニ銹著セラル  
ベシ

第二十四規則 乾舷甲板及船樓甲板ノ暴露部ニ於  
ケル通風筒

本通風筒ニシテ乾舷甲板ノ下方ノ場所又ハ閉鎖セラルルカ  
若ハ第一級閉鎖設備ヲ備フル船樓ノ甲板ノ下方ノ場所ニ通  
ズルモノハ堅牢ニ構造セラレ且徑ノ四倍ノ心距ニ配置セラ  
レタル銹ニ依リ又ハ之ト同等ノ實效アル裝置ニ依リ甲板ニ  
實效的ニ取附ケラレタル鋼製ノ緣材ヲ備フベシ緣材ノ底部  
ノ鋼甲板ハ甲板梁ノ間ニ於テ實效的ニ防撓セラルベシ通風  
筒ノ開口ニハ實效アル閉鎖設備ヲ備フベシ

本通風筒ガ乾舷甲板ニ又ハ船首材ヨリ船舶ノ長サノ四分ノ  
一以内ニ於ケル船樓甲板ニ在リテ其ノ閉鎖設備ガ一時的性  
質ノモノナルトキハ緣材ノ高サハ少クトモ九百十五ミリメ  
ートルタルベシ船樓甲板ノ他ノ暴露部ニ於テハ緣材ノ高サ  
ハ少クトモ七百六十ミリメートルタルベシ通風筒ノ緣材ハ  
高サ九百十五ミリメートルヲ超ユルトキハ特別ニ支持定著

シ後ノ場合ニ於テハ上方ノ瓣ヲ就役狀態ニ於テ檢査ノ爲常  
ニ近寄り得ル位置ニ置クコトヲ要ス積極操作ノ瓣ハ容易ニ  
近寄り得ルモノタルベク且瓣ノ開閉ヲ示ス裝置ヲ備フベシ  
右瓣ニ對シテハ之ガ舷ニ取附ケラルルトキハ鑄鐵ハ許サレ  
ザルベシ

指定機關ハ右開口ノ型式及其ノ船内ニ於ケル端ノ位置ニ應  
ジ蔽圍セラレタル船樓内ノ場所ヨリノ排出管ニ關シ類似ノ  
規定ヲ設クルコトヲ得

排水管ガ第一級閉鎖設備ナキ船樓内ニ設ケラレアルトキハ  
右排水管ハ乾舷甲板ノ下方ニ不時ニ水ノ浸入スルコトヲ防  
グ爲實效アル裝置ヲ備フベシ

第二十八規則 舷窓

乾舷甲板ノ下方ニ在ル場所又ハ第一級若ハ第二級閉鎖設備  
ニ依リ閉鎖セラルル船樓ノ船樓甲板ノ下方ニ在ル場所ノ舷  
窓ニハ實效的ニ閉鎖セラレ且水密ニ定著セラレ得ル樣適當  
ノ位置ニ常設的ニ取附ケラレタル實效アル内蓋ヲ備フベシ  
尤モ船樓内ニ於ケル右場所ガ下級旅客以外ノ旅客又ハ船員  
ニ充テラレタルトキハ舷窓ハ船舶就役中何時ニテモ容易ニ  
近寄り得ルモノナル限リ之ニ接近シテ配備セル取外シ得ル  
蓋ヲ備フルコトヲ得

國際滿載吃水線條約

セラルベシ

第二十五規則 空氣管

脚荷水槽及他ノ槽ニ通ズル空氣管ガ乾舷甲板又ハ船樓甲板  
ノ上方ニ及ブトキハ管ノ暴露部ハ堅牢ナル構造ノモノタル  
ベシ甲板ヨリ管ノ開口ニ至ル高サハ乾舷甲板ノ「ウエル」ニ  
在リテハ少クトモ九百十五ミリメートル、低船尾樓甲板ニ在  
リテハ七百六十ミリメートル又他ノ船樓甲板ニ在リテハ四  
百五十七ミリメートルタルベシ空氣管ノ開口ヲ閉鎖スル爲  
十分ナル裝置ヲ備フベシ

舷ニ於ケル開口

第二十六規則 舷門、載貨門、載炭門等

乾舷甲板ノ下方ニ在ル舷ニ於ケル開口ニハ水密ナル戸又ハ  
蓋ヲ取附クベシ右ノ戸又ハ蓋ハ定著設備ヲ有シ十分ナル強  
サノモノタルベシ

第二十七規則 排水管及衛生排出管

乾舷甲板ノ下方ニ在ル場所ヨリ舷ヲ貫通スル排出管ニハ船  
内ニ水ノ浸入スルコトヲ防グ爲實效アリ且近寄り得ル裝置  
ヲ備フベシ各個ノ排出管ニハ乾舷甲板ノ上方ニ在ル位置ヨ  
リ之ヲ閉鎖シ得ル積極裝置ヲ有スル自動不還瓣一個ヲ備フ  
ルカ又ハ積極閉鎖裝置ヲ有セザル自動不還瓣二個ヲ備フベ

舷窓及蓋ハ堅牢ニシテ承認ヲ受ケタル構造ノモノタルベシ

第二十九規則 保護欄干

乾舷甲板及船樓甲板ノ一切ノ暴露部ニハ實效アル保護欄干  
又ハ舷壁ヲ備フベシ

第三十規則 放水口

乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ露天部ニ於ケル舷壁ガ「ウエル」ヲ  
形成スルトキハ甲板ヨリ迅速ニ放水シ且排水スル爲十分ナ  
ル設備ヲ爲スベシ乾舷甲板及低船尾樓甲板ノ各「ウエル」ニ  
對スル船舶ノ各舷ニ於ケル最小放水口面積ハ左ノ表ニ掲ゲ  
ラルル通トシ其ノ他ノ船樓甲板ノ各「ウエル」ニ對スル最  
小面積ハ此ノ表ニ掲ゲラルル面積ノ二分ノ一タルベシ「ウ  
エル」ノ長サガLノ十分ノ七ヲ超ユルトキハ右表ハ之ヲ變  
更スルコトヲ得

放水口面積ノ表

「ウエル」ニ於ケル舷壁 ノメートルニ依ル長サ	各舷ニ於ケル平方デシメ メートルニ依ル放水口面積
4.57	74.3
6.10	79.0
7.62	83.6
9.14	88.3



「ウエル」ニ於ケル舷壁ノメートルニ依ル長さ	各舷ニ於ケル平方メートルニ依ル放水口面積
10.67	92.9
12.19	97.5
13.72	102.2
15.24	106.8
16.76	111.5
18.29	116.1
19.81	120.8
19.81ヲ超ユルトキ	舷壁ノ長さ1.52メートルヲ超ス毎ニ9.3平方メートルヲ増ス

放水口ノ下縁ハ實行可能ナル限り甲板ニ近ク且成ルベクハ舷縁材ノ上縁ヨリ高カラザルベシ要求セラレタル放水口面積ノ三分ノ二ハ船舶ノ中央寄りノ「ウエル」ノ半部ニ之ヲ設クベシ標準ヨリモ小ナル舷弧高ヲ有スル船舶ニ在リテハ放水口面積ハ之ヲ適當ニ増加スベシ

舷壁ニ於ケル右ノ一切ノ開口ハ約二十三センチメートルノ間隔ニ配置セラレタル柵又ハ棒ニ依リ之ヲ保護スベシ扉ガ放水口ニ取附ケラルトキハ閉塞ヲ防グ爲十分ナル間隔ヲ設クベシ蝶番ハ黃銅製ノ軸針ヲ備フベシ

ノ中央ニ於テ測リタルメートルニ依ル垂直距離トス木船及木鐵交造船ニ在リテハ右距離ハ龍骨ノ溝ノ下縁ヨリ之ヲ測ル船體中央横截面ノ下部ノ形狀ガ凹形ノモノナルトキ又ハ厚キ龍骨翼板ガ取附ケラレタルトキハ型深ハ底面ノ扁平部ノ内方ヘノ延長線ガ龍骨ノ側面ニ交叉スル點ヨリ之ヲ測ル

**第三十五規則 乾舷ニ關スル深サ(D)**

乾舷表ニ用フル深サハ型深ニ梁上側板ノ厚サヲ加ヘタルモノトシ又  $\frac{F(L-S)}{L}$  ノ方ガ大ナルトキハ之ヲ加ヘタルモノトス

Tハ甲板口以外ノ暴露甲板ノ平均ノ厚サトス

Sハ第四十規則ニ定ムル船樓ノ全長トス

上部舷ガ特殊ノ形狀ノモノナルトキハDハ垂直ナル上部舷、標準ノ梁矢及實際ノ船體中央横截面ノ上部面積ニ等シキ上部面積ヲ備フル船體中央横截面ノ深サトス上部舷ニ階段又ハ屈折アルトキ(例ヘバ「ダレット」甲板船ニ於ケルガ如キ)ハ階段又ハ屈折ヨリ上方ノ面積ノ七十「パーセント」ハ之ヲ同値横截面ノ決定ニ用フル面積ニ算入ス

船舶ノ中央ニ於テ少クトモLノ十分ノ六ニ互ル蔽圍セラレタル船樓ヲ有セザル船舶、全通「トランク」ヲ有セザル船舶又ハ閉鎖セラルル部分船樓ト「トランク」トノ連續ガ船

國際滿載吃水線條約

**第三十一規則 船員ノ保護**

船員室區域ニ出入スル際船員ヲ保護スル爲通路、救命索又ハ其ノ他ノ十分ナル裝置ヲ備フベシ平甲板汽船ニ於ケル船員室用甲板室ノ強サハ船樓隔壁ニ關シ要求セラルルモノト同等タルベシ

**第三十二規則 長サ(L)**

汽船ニ對スル滿載吃水線

規則及乾舷表ニ用フル長サハ船首材ノ前面ヨリ舵柱ノ後面迄ノ夏期滿載吃水線ニ於ケルメートルニ依ル長サトス舵柱ナキトキハ長サハ船首材ノ前面ヨリ舵頭ノ中心線迄之ヲ測ル巡洋艦型船尾ヲ有スル船舶ニ關シテハ長サハ夏期滿載吃水線ニ於ケル全長ノ九十六「パーセント」ヲ採ルベク又船首材ノ前面ヨリ舵頭ノ中心線迄ノ長サノ方ガ大ナルトキハ之ヲ採ルベシ

**第三十三規則 幅(B)**

幅ハ鐵船又ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ヨリ外面迄又木船又ハ木鐵交造船ニ在リテハ外板ノ外面ヨリ外面迄船舶ノ中央ニ於テ測リタルメートルニ依ル最大幅トス

**第三十四規則 型深**

型深ハ龍骨ノ上面ヨリ舷ニ於ケル乾舷甲板梁ノ上面迄船舶

首尾ニ全通セザル船舶ニ在リテDガLノ十五分ノ一ヨリ小ナルトキハ乾舷表ニ用フル深サハLノ十五分ノ一ヨリ小ナルモノヲ採ルベカラズ

**第三十六規則 肥瘠係數(C)**

乾舷表ニ用フル肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ求ム

$$C = \frac{1.025 L \cdot B \cdot d_1}{\Delta}$$

△ハ型深ノ八十五「パーセント」ニ相當スル平均型吃水d1ニ於ケル船舶ノトンニ依ル型排水量(船尾管膨出部ヲ除外ス)トス

**第三十七規則 強サ**

指定機關ハ乾舷ノ指定ヲ受クル船舶ノ構造上ノ強サノ十分ナルコトヲ確ムベシ

主管廳ニ依リ承認セラレタル船級協會ノ規則ノ最高標準ニ適合スル船舶ハ規則ニ依リ許サルル最小乾舷ニ對シ十分ナル強サヲ有スルモノト看做サルベシ

主管廳ニ依リ承認セラレタル船級協會ノ規則ノ最高標準ニ適合セザル船舶ハ指定機關ニ依リ決定セラルベキ増加乾舷ノ指定ヲ受クベク且指針トシテ左ノ強力抵抗率ヲ定ム



材料 強力抵抗率ハ建設物ガ平爐法(酸性又ハ礬基性)ニ依リ製造セラレ且毎平方ミリメートル四十一キログラム乃至五十キログラムノ抗張力及二百三ミリメートルノ長サニ於テ少クトモ十六「パーセント」ノ伸長ヲ有スル軟鋼ヲ以テ構造セララルモノトノ前提ヲ基礎トス

強力甲板 強力甲板ハ船舶ノ中央ニ於テ長サノ二分ノ一ニ互リ縦通桁ト一體ヲ爲ス最上層甲板トス  
強力甲板迄ノ深サ(Ds) 強力甲板迄ノ深サハ龍骨ノ上面ヨリ舷ニ於ケル強力甲板梁ノ上面迄ノ船舶ノ中央ニ於ケルメートルニ依ル垂直距離トス  
吃水(d) 吃水ハ龍骨ノ上面ヨリ圓標ノ中心迄ノ船舶ノ中央ニ於ケルメートルニ依ル垂直距離トス

縦抵抗率 縦抵抗率ハ中性軸ニ對スル船體中央横截面ノ惰率Iヲ甲板口ノ所在個所ニ於テ鉸孔ニ對スル控除ヲ爲スコトナク計算シ之ヲ中性軸ヨリ舷ニ於ケル強力甲板梁ノ上面迄測リタル距離Yニテ除シタルモノトス面積ハ平方ミリメートルニ依リ又距離ハメートルニ依リ測ル

強力甲板ノ下方ニ於テハ甲板下ノ桁中專ラ支持ノ爲ニ要スル部分以外ノ一切ノ連續縦通材ヲ算入ス強力甲板ノ上方ニ於テハ舷緣山形材及舷側厚板ノ延長部ノミヲ算入スベキ縦通材トス  
實效アル材料ニ對スル所要ノ縦抵抗率ハ  $f \cdot D \cdot B$  ニ依リ之ヲ表ハス  $f$  ハ左ノ表ヨリ求メララル係數トス

L	f	L	f
30.48	3810	109.73	19896
36.58	4233	115.82	21801
42.67	4974	121.92	23705
48.77	5715	128.02	25717
54.86	6667	134.11	27728
60.96	7620	140.21	29951
67.06	8890	146.30	32067
73.15	10160	152.40	34396
79.25	11535	158.50	36725
85.34	13123	164.59	39053
91.44	14710	170.69	41487
97.54	16298	176.78	44027
103.63	18097	182.88	46567

中間ノ長サニ對シテハ  $f$  ノ値ハ挿間法ニ依リ之ヲ決定ス

右ノ算式ハ  $L$  ガ百八十二メートル八八ヲ超エズ、 $B$  ガ  $\frac{L}{10}$  以上  $1.5B$  若  $\frac{L}{10} + 6.10$  又ハ其ノ中間ニ在リ且  $\frac{L}{D_s}$  ガ  $1.0$

若ハ一三・五又ハ其ノ中間ニ在ルトキニ適用セララル

肋骨 肋骨抵抗率ニ付テハ肋骨ハ各相等シキ大サ及厚サノ正肋材及副肋材ヲ以テ構成セラレタルモノト看做ス

肋骨抵抗率 最下層梁ノ下方ニ於テ船體中央部肋骨ノ抵抗率  $I$  ハ中性軸ニ對スル肋骨横截面ノ惰率  $I$  ヲ鉸孔及螺釘孔ニ對スル控除ヲ爲スコトナク計算シ之ヲ中性軸ヨリ肋骨横截面ノ端迄測リタル距離  $Y$  ニテ除シタルモノトス抵抗率ハセンチメートル單位ニ依リ之ヲ測ル

所要ノ肋骨抵抗率ハ  $\frac{s(D-t)(f_1+f_2)}{1000}$  ニ依リ之ヲ表ハス

$s$  ハメートルニ依ル肋骨心距トス

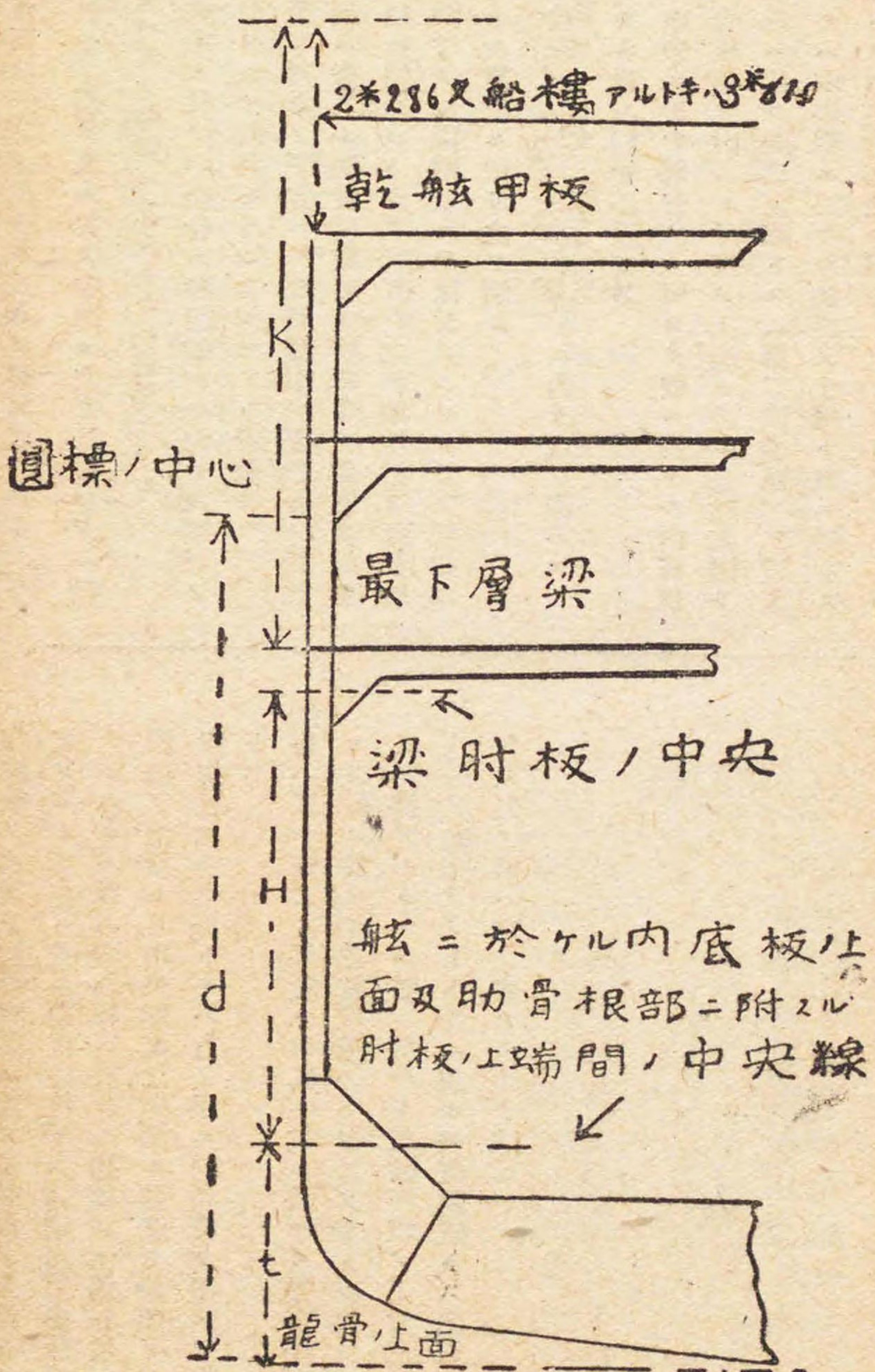
$t$  ハ船舶ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷ニ於ケル内底板ノ上面ト肋骨根部ニ附スル肘板ノ上端トノ中央點迄測リタルメートルニ依ル垂直距離トス(第二圖參照) 二重底ナキトキハ  $t$  ハ中心線ニ於ケル肋板ノ上端ト舷ニ於ケル肋板ノ上端トノ中央點迄之ヲ測ル

$f_1$  ハ  $H$  ニ應ズル係數トシ  $H$  ハ二重底ヲ備フル船舶ニ在リ

テハ舷ニ於ケル最下層梁ノ梁肘板ノ中央ヨリ舷ニ於ケル内底板ノ上面ト肋骨根部ニ附スル肘板ノ上端トノ中央點迄ノメートルニ依ル垂直距離トス(第二圖參照) 二重底ナキトキハ  $H$  ハ中心線ニ於ケル肋板ノ上端ト舷ニ於ケル肋板ノ上端トノ中央點迄之ヲ測ル肋骨ガ船舶ノ形狀ヨリ附加強力ヲ得ルトキハ  $f_1$  ノ値ニ付相當ノ斟酌ヲ爲スモノトス  
 $f_2$  ハ  $K$  ニ應ズル係數トシ  $K$  ハ舷ニ於ケル最下層梁ノ上面ヨリ舷ニ於ケル乾舷甲板ノ上方ニメートル二八六ノ點迄又船樓アルトキハ舷ニ於ケル乾舷甲板ノ上方三メートル八一ノ點迄ノメートルニ依ル垂直距離トス(第二圖參照)  
 $f_1$  及  $f_2$  ノ値ハ左ノ表ヨリ之ヲ求ム



第二圖



メートル 依ル H	0	2.133	2.743	3.353	3.962	4.572	5.182	5.791	6.401	7.01	7.62
f <sub>1</sub>	19050	23283	26458	31750	40217	50800	62442	76200	91017	107950	124883
メートル 依ル K	0	1.524	3.048	4.572	6.096	7.62	9.144	10.668	12.192		
f <sub>2</sub>	0	1058	2117	423	6350	9525	13758	19050	25400		

中間ノ値ハ挿入法ニ依リテ求ム

右ノ算式ハDガ四メートル五七若ハ十八メートル二九又ハ其ノ中間、Bガ  $\frac{L}{10} + 1.52$  若ハ  $\frac{L}{10} + 6.10$  又ハ其ノ中間、 $\frac{L}{D_s}$  ガ一〇若ハ一三・五又ハ其ノ中間ニ在リ且肋骨ノ外面ヨリ第一梁柱列ノ中心迄ノ水平距離ガ六メートル一〇ヲ超エザルトキニ適用セラル  
普通ノ形状ノ一層甲板船ニ在リテHガ五メートル四九ヲ超エザルトキハ前記方法ニ依リ決定セラレタル肋骨抵抗率ニハ係數 f<sub>s</sub> ヲ乗ズ

$$f_s = 0.50 + 0.05 \left( \frac{H}{0.305} - 8 \right)$$

國際滿載吃水線條約

肋骨ノ外面ヨリ第一梁柱列ノ中心點迄ノ水平距離ガ六メートル一〇ヲ超ユルトキハ指定機關ハ十分ナル附加強力ガ與ヘラレアルコトヲ確ムベシ

船樓

第三十八規則 船樓ノ高さ

船樓ノ高さハ船樓甲板ノ上面ヨリ乾舷甲板梁ノ上面迄測リタル最小垂直高ヨリDト型深(第三十四規則及第三十五規則参照)トノ差ヲ減ジタルモノトス

第三十九規則 船樓ノ標準ノ高さ

低船尾樓ノ標準ノ高さハ長サ三十メートル五〇以下ノ船舶



ニ對シテハ零メートル九一、長サ七十六メートル二〇ノ船舶ニ對シテハ一メートル二二又長サ百二十二メートル以上ノ船舶ニ對シテハ一メートル八三トス他ノ船舶ノ標準ノ高サハ長サ七十六メートル二〇以下ノ船舶ニ對シテハ一メートル八三トシ長サ百二十二メートル以上ノ船舶ニ對シテハ二メートル二九トス中間ノ長サニ於ケル標準ノ高サハ挿間法ニ依リ之ヲ求ム

第四十規則 船樓ノ長サ(S)

船樓ノ長サハ船樓ノ部分ニシテ兩舷ニ互リ且第三十二規則ニ定ムル夏期滿載吃水線ノ兩端ニ於テ之ニ垂直ニ引キタル線ノ間ニ在ルモノノ蔽ハレタル平均ノ長サトス

第四十一規則 蔽圍セラレタル船樓

分立船樓ハ左ノ場合ニ限り蔽圍セラレタルモノト看做ス

(イ) 蔽圍スル隔壁ガ實效アル構造ヲ有シ(第四十二規則參照)

(ロ) 右隔壁ニ於ケル通路口ガ第一級又ハ第二級閉鎖設備ヲ有シ(第四十三規則及第四十四規則參照)

(ハ) 船樓側又ハ船樓端ニ於ケル他ノ一切ノ開口ガ實效アル風雨密ノ閉鎖裝置ヲ備ヘ且

(ニ) 船橋樓及船尾樓内ニ於ケル船員室、機關室、燃料庫

及他ノ作業場所ヘノ獨立通路裝置ガ隔壁ノ開口ノ閉鎖セラレタル場合ニ於テ何時ニテモ利用シ得ルトキ

第四十二規則 船樓隔壁

船尾樓、船橋樓及船首樓ノ暴露セル端ニ於ケル隔壁ハ實情ニ於テ最小乾舷ヲ有スル船舶ニ對スル左ノ標準ト同等ノモノト指定機關ガ認メタルトキハ實效アル構造ノモノト看做サル此ノ標準ニ於テハ防撓材及板ハ第三表ニ掲グル寸法ヲ有シ、防撓材ハ零メートル七六ノ間隔ニ配置セラレ、船尾樓及船橋樓ノ前端隔壁ニケ於ル防撓材ハ實效アル端部連結ヲ有シ且船橋樓及船首樓ノ後端隔壁ニ於ケル防撓材ハ隔壁ノ緣山形材間ノ全距離ニ互ルモノトス

第三表

標準ノ高サヲ有スル船樓ノ暴露隔壁

船橋樓前端隔壁 上ノ十分ノ四以上 船尾樓ノ保護セラレサル隔壁	球山形防撓材	船舶ノ長サ メートル	部分的ニ保護セラレタル船尾樓隔壁 又ハ上ノ十分ノ四未滿ノ長サヲ有スル船尾樓隔壁	通常山形防撓材	船舶ノ長サ メートル	船橋樓及船首樓ノ後端隔壁
48.75未満	140×75×7.5	45.70未満	75×65×7.5	45.70未満	65×65×6.5	
48.75	150×75×8	45.70	90×65×8	45.70	75×65×7	
61.00	165×75×8.5	61.00	100×75×8.5	76.20	90×75×7.5	
73.20	180×75×9	76.20	115×75×9	106.20	100×75×8	
85.35	190×75×9.5	91.45	130×75×9.5			
97.55	205×75×10	106.70	140×75×10.5			
109.75	215×75×10.5	121.90	150×75×11			
121.90	230×75×11	137.15	165×90×11.5			
134.10	240×90×11.5	152.40	180×90×12			
146.30	255×90×12	167.65	1809×90×12.5			
158.50	265×90×12.5					
170.70	280×90×13					